史跡松ヶ岡開墾場貯桑土蔵保存修理工事
実 施 設 計 図

設計年月日：令和7年3月

設計：株式会社　伝統建築研究所

図面リスト

No.	図面名称	SCALE(A3)
01	特記仕様書1	non
02	特記仕様書2	non
03	特記仕様書3	non
04	案内図・位置図	non, 1/200
05	仕上表（現況・改修）	1/200
06	半解体前　平面図	1/100
07	半解体前　立面図	1/100
08	半解体前　断面図	1/100
09	半解体前　天井伏図	1/30
10	半解体前　展開図１　冷蔵庫１．２．３	1/30
11	半解体前　展開図２　冷蔵庫４．５．廊下	1/100
12	半解体前　展開図３　部屋１．２．３	1/100
13	半解体前　展開図４　東西下屋	1/100
14	軸組図	1/100
15	伏図１　土台・梁・桁	1/100
16	伏図２　貫	1/100
17	伏図３　小屋梁・叉首・母屋・棟木・垂木（下層）	1/100
18	伏図４　枕木・梁・叉首（上層）	1/100
19	伏図５　小屋梁・母屋・棟木・垂木（上層）	1/100
20	伏図６　下屋１	1/100
21	伏図７　下屋２	1/100
22	建具キープラン	1/100
23	建具表	1/50
24	半解体後　平面図	1/100
25	半解体後　立面図	1/100
26	半解体後　断面図	1/100
27	半解体後　天井伏図	1/100
28	改修工事概要図	non
29	改修　平面図	1/100
30	改修　立面図	1/100

No.	図面名称	SCALE(A3)
31	改修　断面図	1/100
32	改修　天井伏図	1/100
33	改修　矩計図	1/40
34	改修　平面詳細図	1/40
35	改修　展開図１　展示①．②	1/50
36	改修　展開図２　展示③．用具室	1/50
37	改修　展開図３　展示室④．体験室１	1/50
38	改修　展開図４　体験室２	1/50
39	改修　展開図５　東西下屋１階	1/50
40	改修　展開図６　東西下屋地下	1/50
41	（参考）仮設計画図　配置	1/200
42	（参考）仮設計画図　素屋根	1/100
43	（参考）揚家工事図	1/50
44	基礎工事図１　基礎改修範囲図	1/100
45	基礎工事図２　詳細図	1/100
46	木工事図１	1/100
47	木工事図２	1/100
48	木工事図３	1/100
49	木工事図４	1/100
50	木工事図５	1/100
51	木工事図６	1/100
52	屋根工事図	1/100
53	左官工事図１　内部範囲図	1/100
54	左官工事図２　外部範囲図	1/100
55	板金工事図	1/100
56	塗装工事図	1/100
57	建具工事図１　キープラン・建具仕様	1/100
58	建具工事図２　建具表	1/50
59	外構工事	1/100

No.	図面名称	SCALE(A3)
E-01	工事仕様書(電気)	non
E-02	空調・換気設備平面図	non
E-03	照明器具姿図	non
E-04	電灯設備　平面図	1/100
E-05	コンセント設備　平面図	1/100
E-06	火災報知設備　凡例表・系統図	non
E-07	電話・火災報知設備　平面図	1/100
M-01	特記仕様書（１）	non
M-02	特記仕様書（２）	non
M-03	給排水設備図	1/100
M-04	空調設備図	1/100
M-05	換気設備図	1/100

特　記　仕　様　書

Ⅰ　工　事　概　要　　史跡松ケ岡開墾場貯桑土蔵保存修理工事

1　工　事　場　所　　山形県鶴岡市羽黒町松ケ岡25
2　用途地域等
　都市計画区域（⊙ 内　・　外）　用途地域（　　）
　防火地域等（・　防火　　・　準防火　⊙　指定なし　　・　２２条　）
　その他の地域・地区（　　）
3　主　要　用　途　　国指定史跡内建造物
4　敷　地　面　積　　23,950　㎡
5　工 事 の 概 要
・木造平１階、一部地下有　1階　187.07㎡　地階　22.59㎡
・保存修理を前提とした半解体修理工事後の工事である。修理工事においては可能な限り建設と修理の経緯を明らかにするため、慎重な作業と記録を行う事。
・修理工事は可能な限り既存材を再利用する事。
・当該地が史跡であるため、施工にあたっては鶴岡市教育委員会と十分に協議を行う事。

Ⅰ．解体工事：下屋１階部分全解体
Ⅱ．建築工事：仮設、基礎、木、屋根、左官、板金、塗装、建具、その他工事
Ⅲ．電気設備工事：照明器具、コンセント、消防設備、その他工事
Ⅳ．機械設備工事：空調、換気、給排水設備工事
Ⅴ．外構工事：犬走、雨落ち工事

6　工期と参考工程
・着手：契約締結日の翌日
　完了：令和９年３月　日
（参考工程）
・令和７年６月～令和８年３月
　　：仮設・素屋根・揚屋、基礎、木（土台ほか）、屋根
・令和８年４月～令和９年３月：木、屋根、左官、板金、建具、内装、電気、機械
・別紙参照。

7　特記仕様書の範囲
特記仕様書は、本特記仕様書のほか以下の〇印もので構成する。
・　構造特記仕様書　　⊙　外構工事特記仕様書　　・　植栽工事特記仕様書
・　解体工事特記仕様書　　⊙　電気設備工事特記仕様書　　⊙　機械設備工事特記仕様書

Ⅱ　建　築　工　事　仕　様　　・

1．共通仕様
図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「公共建築改修工事標準仕様書(平成28年版）（以下、「改修標準仕様書」という。）による。
ただし，「改修標準仕様書」に記載されていない事項は，「公共建築工事標準仕様書（平成28年版）（以下「標準仕様書」という。）及び「建築物解体工事共通仕様書(平成24年版）」（以下「解体共通仕様書」という。）による。
なお、施工条件明示書は特記仕様書に含める。
2．特記仕様
1）項目は、番号に〇印のついたものを適用する。
2）特記事項は、⊙印のついたものを適用する。⊙印のつかない場合は※印のついたものを適用する。⊙印と※印のついた場合は、共に適用する。
3）特記事項に記載の＜　＞、（　）及び［　］内の表示番号は、それぞれ「改修標準仕様書」、「標準仕様書」及び「解体共通仕様書」の当該項目、当該図又は当該表を示す。

章	項　目	特　記　事　項
1 一般共通事項	① 一般事項	⊙　工事施工中に予期せぬ事態や疑義が生じた場合には、監督職員に報告の上、指示に従うこと。 ⊙　請負業者は、監督職員と随時打合せを行い、工程の確認・調整及び工事の円滑な進捗をはかること。 ・　施工体系図を現場に掲示すること。 ・　工事着手前及び完成時に，以下に示す調査範囲の近隣家屋等の内外の状況（地盤，擁壁，内外壁，床，建具等）を調査・記録し，報告書を監督職員に提出すること。 調査範囲　　※　図示
	② 工事実績情報(CORINS)の登録	※　適用する　　〈1.1.4〉 ・　適用しない
	③ 工事写真	分類／規格／撮影箇所／提出部数 着工前／サービス版／指定する／データ 工事中／サービス版／指定する／データ 完成時／サービス版 キャビネ版／監督員の指示による／〈1.1.2〉部 原議添付用／サービス版／着工前・完成時のダイジェスト版／1　部
	④ 概成工期	工事工期より　　日前
	⑤ 電気保安	・　適用する　　※　適用しない　　〈1.3.3〉
	⑥ 発生材の処理等	発生材の処理　　〈1.3.8〉 ・　引渡しを要するもの（　　） ・　特別管理産業廃棄物（　　） 　受入れ施設名・所在地(km) ・　現場において再利用を図るもの（　　）

⊙　再生資源化を図るもの

種　類	受入施設名	所在地(Km)	備　考
・　コンクリート塊			
・　アスファルトコンクリート塊			
⊙　建設発生木材			
・　コンクリートから成る建設資材			

・その他の廃棄物（安定型）

種　類	受入施設名	所在地(Km)	備　考

・その他の廃棄物（管理型）

種　類	受入施設名	所在地(Km)	備　考

上記の処理、処分は設計積算上の条件明示であり、処理施設を指定するものではない。なお、上記によらない場合は、監督職員と協議すること。
また、処理、処分に先立ち処分場等の受入の可否を確認すること

PCB（ポリ塩化ビフェニール）含有機器　・有（数量は図示）　[5.4.3]
　・無
PCB含有シーリング材　・有（施工範囲は図示）　[5.4.4]
　・無

PCBを含有する機器等については、飛散、流出がないように適切な容器に納め、適切な場所に保管し、工事完了後、監督職員に引き渡す。

アスベストの処理
吹き付けアスベスト除去工事　・有(図示　　)　・無
　受け入れ施設名・所在地(km)
アスベスト含有保温材除去工事　・有(図示　　)　・無
　受け入れ施設名・所在地(km)
アスベスト成形板除去工事　・有(図示　　)　・無
　受け入れ施設名・所在地(km)

ヒ素又はカドミウム含有石膏ボードの処理
ヒ素又はカドミウムボード　・有(図示　　)　・無
次に該当する場合は、指定する場所に処分すること。
＜対象となる石膏ボード＞
小名浜吉野石膏（株）　いわき工場　昭和48年10月～平成9年4月の間に製造されたもの
日東石膏ボード（株）　八戸工場　平成4年10月～平成9年4月の間に製造されたもの
指定する処分場
【名称：　　所在地(km)　　】

⑦ 交通安全管理
関係機関との協議　・必要（関係機関：　　）　⊙必要なし　(1.3.9)
交通誘導員　⊙配置する（　・警備業法第18条に規定する特定の種別の警備業務　⊙任意　）
　・配置しない
特定の種別の警備業務は、警備員等の検定等に関する規則（平成17年国家公安委員会規則第20号）及び秋田県公安委員会告示第 144号（平成18年10月６日）による。

⑧ 事故報告
工事の施工中に事故が発生した場合は，直ちに監督職員に通報するとともに，別に指示する「事故報告書」を指示する期日までに監督職員に提出する。　〈1.3.10〉

⑨ 建築材料等
材料の品質等　〈1.4.2〉
※　本工事に使用する材料は，設計図書に定める品質及び性能を有するものとし、その材料にJIS又はJASのマークの表示のある場合を除いて監督職員の承諾を受ける。
特定のものが特記された場合は，設計図書に規定するもの又は，これらと同等のものとする。ただし，同等のものとする場合は，監督職員の承諾を受ける。

環境への配慮　〈1.4.1〉
※　本工事に使用する材料の選定及び施工に当たっては，「県有施設のシックハウスマニュアル」に留意し，揮発性有機化合物の放散による健康への影響に配慮する。

※　ホルムアルデヒド仕様
使用する材料のホルムアルデヒド仕様は以下のとおりとする。
ホルムアルデヒド放散量　規制対象外　の場合

該当する建築材料
1）ＪＩＳ及びＪＡＳのＦ☆☆☆☆品
2）建築基準法施行令第２０条の７第４項による国土交通大臣認定品
3）次の表示のあるＪＡＳ適合品
ａ．非ホルムアルデヒド系接着剤使用
ｂ．接着剤等不使用
ｃ．非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散させない材料使用
ｄ．ホルムアルデヒドを放散させない塗料等使用
ｅ．非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散させない塗料使用

⑩ 特別な材料の工法
「改修標準仕様書」及び「標準仕様書」に記載されていない特別な材料の工法は、当該製品の指定工法とする。

章	項　目	特　記　事　項
1 一般共通事項	⑪ 設計ＧＬ	※　図　示　　・　現状平均地盤高
	⑫ 技　能　士	※適用する　・適用しない　(1.6.2) 鉄筋工事（・鉄筋施工　）コンクリート工事（・型枠施工　）鉄骨工事（⊙鉄工・とび　）ブロック他工事（・ブロック建築　・ＡＬＣパネル施工　）防水工事（・防水施工　）タイル工事（・タイル張り　）　木工事（⊙建築大工　） 屋根およびとい工事（⊙建築板金　・かわらぶき　・スレート施工　） 左官工事（⊙左官　）金属工事（・カーテンウォール施工　・内装仕上施工（鋼製下地））建具工事（・サッシ施工　・ガラス施工　）塗装工事（・塗装　）内装工事（・表装　・内装仕上施工（床、天井仕上等））石工事（・石材施工　）造園工事（・造園　）
	⑬ 見本施工	仕上りの程度の判断ができる見本施工の実施　(1.6.5) ⊙実施する　（実施する部位：漆喰塗、土壁上塗）・実施しない
	⑭ 完成図等	※　完成原図　１部 ※　青焼２つ折製本　０部 ※　青焼Ａ４版折製本（黒表紙金文字入）　１部 ※　青焼縮小（Ａ３版）２つ折製本　４部 ※　完成図面電子データJWW形式又はDXF形式 　若しくはTIFF形式（解像度300DPI程度）　CD1枚
	15. 設備工事との取合い	施工範囲　各工事の区分表による。 施 工 図　設備機器の位置，取り合い等が検討できる施工図を提出して監督職員の承諾を受ける。
	⑯ かし点検	※適用する。　・適用しない。 契約事項によるかし担保期間満了前にかし点検を行うので請負者は立ち会うこと。
	⑰ 火災保険等	工事目的物及び工事材料等について，次により保険に付す。 保険の種類　※　火災保険　　※　建設工事保険　・ 保険期間　※　工事着手から工事目的物引き渡しまで　・
2 共通仮設工事	① 仮囲い	※　設ける　　・　設けない 仮囲いの位置及び延長は図示による。仮囲い一式は存置されている設備を引き継ぐこと。 ⊙万能鋼板（H=2.0m）　・波形鉄板（H=1.8m　）　・単管シート（H=　） ・シートゲート（H=　，W=　）　・グリーンシート一部(H2000) 〇既存板塀及びコンクリートブロック塀を仮囲いとして使用し、外構工事の際に既存塀は撤去する。
	２.揚重機械器具	・　トラッククレーン（　25ｔ吊り）×　　日 ・　（　　ｔ吊り）×　　日
	③ 工事表示板	監督員等が指定する位置に工事表示板を1箇所設置する。 表示時期は工事着工時から完成時までとする。 表示板の形式　表示板の大きさは１号(横180ｃｍ×縦90ｃｍ)程度とする。
	④ 監督職員事務所	※　設けない　但し、現場事務所に机、イス、棚を専用に設けること
	５．現場事務所	・敷地が狭いため、近隣に賃貸の事務所スペースを確保すること。
	⑥ 部材保管庫	・既に存置されている保存庫を引き継ぐこと。
3 仮設工事	① 足場その他	内部足場　※　脚立、足場板等　・　〈2.2.1〉 外部足場　※　Ａ種　・Ｂ種　・Ｃ種　〈表2.2.1〉 ・Ｄ種　・Ｅ種 防護シート　※　設ける　・設けない 材料の運搬　・Ａ種　・Ｂ種　・Ｃ種　〈表2.2.2〉 ・Ｄ種　※　Ｅ種 足場を設ける場合は、「手すり先行工法等に関するガイドライン（厚生労働省平成21年4月策定）」によるものとし、設置については「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」及び「働きやすい安心感のある足場に関する基準」によること。
	② 養生	家具の移動　・行う(図示)　⊙行わない　〈2.3.1〉 既存ブラインド・カーテン等の養生及び保管　・行う　⊙行わない 養生の方法 保管場所
	③ 素屋根	足場を利用して、素屋根を設ける。(素屋根参考図を参照の事。) 屋根材は波板鉄板葺とし、その1/3～1/4は透光性の材とする事。 又、冬季間の積雪時に対応した補強材を適宜設置の事。
	④ 工事用水	構内既存の施設　⊙　利用できる（※有償　・無償）　※　利用できない （使用の際は協議のこと）
	⑤ 工事用電力	構内既存の施設　⊙　利用できる（※有償　・無償）　※　利用できない ※ 溶接などの消費電力の大きな機器を除く
	⑥ 工事用通路	※　指定しない　・　指定する（図示）
	⑦ その他の仮設	・　目張り壁の養生：揚家時等で破損が進むため、ベニヤ等で養生する事。
4 解体工事	① 概要・解体範囲	【下屋部】解体 屋根葺材、床組はすべてを解体する。 １.半解体工事の際に設置した外壁の養生に用いた合板はすべて解体する。 ２.東西下屋の地上部を全解体する。（解体に当たっては詳細な調査を行い、当初の形式や後世の改変内容とその変遷を究明する必要がある。 実施に当たっては、監督員等の指示に従う。

4 解体工事

② 準　備

解体前に部材毎の伏図(壁板等は展開図)を作成し、解体するすべての部材(屋根葺材を除く)に、部材名、位置等を記した番号札(シナベニヤ、約３cm×６～10cm内外)を養生釘で取り付ける。また、記録写真撮影を行なう。

③ 養　生

建具類、雑作材、その他運搬に際して破損の生じ易い部材は布、紙、合成綿、コモまたは添板等で養生を施す。

④ 解体および調査

・木部解体(軸部、造作共)
木部は、準備完了後，組立と逆の手順で順序よく丁寧に解体する。解体にあたり各部材は丁寧に扱い、解体作業中の仕口の損傷、板材の割れ、工具による損傷などが生じないよう注意する(止釘を抜く際などは材面に傷をつけないよう添板を使用する等)。楔、栓類は保管し、解体中、現状の止釘穴には白チョークで、使われていない止釘穴や仕口等が発見された場合には黄色チョークで、それぞれマーキングを施す。また、墨書等を発見した場合は位置等を記録した上、取り外す前に監督員等の指示を受ける。諸調査を終了した部材は、特に保存する指示がない限りすべての釘を抜き、埃等の清掃を行う。

・壁解体
壁は、各室の展開図に仕様等を記録した後、上塗から順々に解体する。ハンマー等で一気に解体してはならない。なお、仕様の記録のため、数箇所で塗重ねの状況が判るよう階段状に解体を行う。中塗土及び荒壁土は再利用するので、上塗や小舞等を除いて土嚢袋等に入れ、雨水がかからないよう養生して保管する。

⑤ 運搬および古材整理

解体した部材は再使用、繕い、取替予定等に区分し、同種材毎に整理して損傷の生じないよう養生を施し、小屋に運搬・格納する。

⑥ 特記事項

解体にあたり各部材は丁寧に扱い、解体作業中にホゾの折れ、板材の割れ等の生じないよう注意する。解体材のうち撤去・処分する材については、監督員等の指示を受ける。また、解体中や解体後には、監督員等によって各種調査(部材の採寸、各部仕様、破損程度等の記録、写真撮影等)が行なわれる。その際の調査に対する協力として、監督員等の指示に従い作業の一時休止や部材の小運搬などを行なう。

5 揚家

⑦ 揚　家

揚家に際し、必要ヶ所の土壁を撤去し、ジャッキアップ用の鋼材を挿入できるようにする。(揚家参考図を参照の事。)全体を１m程度ジャッキアップする。
基礎（礎石の手直し他）、柱根継、土台入れ替え、が終了後ジャッキダウンを行う。

6 基礎工事

① 概　要

1.本舎の基礎は既存礎石を利用し、ズレ防止の為の補強を行う。
又、下屋部については上部構造の解体後の詳細調整によるが既存部の補修を行う。
庇部は、既存土間コンクリートの状況が良好とは言えず、一旦解体して新設とする。
犬走り、雨落ちは補修を行う。

2.原則として礎石は動かさず、ズレや傾きの大きい部分に関しては監理者と協議の上施工する。

3.既存の遺構を保存する為、透水シート（厚0.2mmポリエステル不織布）を敷き込む。
協議の上施工する。

② 礎石

取り外す各石材は表面を水洗いし、位置番付・方位・柱真を水性塗料で記入した後、丁寧に掘り起こす。取外した石材は、監督員等の指示する場所に集積し保管する。

③ 遺構面の養生

透水シート（厚0.2mmポリエステル不織布）を敷き込む。

④ 設計基準強度

普通コンクリート（N/mm2）

設計基準強度	適　用　箇　所
※　２１	

⑤ コンクリートの強度試験の総則

構造体コンクリート強度の推定試験(材齢28日、現場養生または標準養生)
・第３者機関　　・生コンクリートの製造所

⑥ レディーミクストコンクリート

類別　　※　Ⅰ類　　・　Ⅱ類

⑦ 打放し仕上げの種別

種　別	適　用　箇　所
・　Ａ種	
※　Ｂ種	
・　Ｃ種	

⑧ セメントの種類

※　普通ポルトランドセメント又は混合セメントのＡ種

⑨ 骨　材

細骨材の塩分含有量（NaCl換算）　　※　0.04　%wt 以下

⑩ 混和材料

混和剤　　※ AE剤又はAE減水剤標準形Ⅰ種

11. 軽量コンクリート

種　別	適　用　箇　所	気乾単位容積質量(t/m3)

12. 無筋コンクリート

適用箇所は(6.14.1)によるほか、下記による。

適　用　箇　所

⑬ グラウト材

無収縮グラウト材は、製造所で調合された材料を使用する。
圧縮強度(N/mm2)　：３０以上
コンシステンシー J_{14}：ロート値(秒)　６～１０
乾燥収縮(×１０$^{-4}$)：０

⑭ 柱底等の均しモルタル

無収縮モルタル材　　・　使用する　　・　使用しない

⑮ 型　枠

せき板の種類　　※　12mm合板　　・
せき板の塗料　　※　無　　・　有

⑯ コンクリートの打込み工法

※　流込み工法　　・　圧入工法

⑰ 既存部分の撤去

既存仕上げの撤去範囲　　※ 図示　　・
既存躯体の撤去範囲　　※ 図示　　・

7 木工事

① 概　要

解体調査の結果に基づき、破損箇所の補修・取替を行い、不陸調整を行ったうえ、在来の工法通り組み立てる。

② 木　材

化粧材

土台	：栗赤身、一等材
柱	：栗赤身、一等材
鴨居・敷居	：栗、小節材
貫	：杉、一等材
下　見　板	：杉、小節材
その他造作材	：杉、小節材

構造材

大　引	：松、一等材
根　太	：杉、一等材
梁	：松、一等材
垂　木	：杉、一等材
野地板	：松、一等材

使用する木材は、　木目の詰まった良質な乾燥材を用い、特に板類は十分乾燥したものとする。納入後、保管の際にはマクラ等を入れ、よく乾燥するような処置を施す。また、木口割れ防止のためボンド・紙等で養生を行う。

③ 鉄　材

在来品に倣うことを原則とする。ただし見え隠れに使用する釘･金物はJIS規格認定品（監督員等が指示する一部を除き、すべてステンレス製）を使用する。和釘は鉄製とする。補強金物については、監督員等の指示を受ける。

④ 繕　い

不用の穴および仕口の見え掛り部、腐朽部などは埋木、矧木により繕いを行う。材料は主に不用古材の適材を用いる。接着剤は合成樹脂を用い、構造的強度を要する箇所はエポキシ系とし、水濡れしない場所の埋木・矧木は酢酸ビニル系を用いる。この場合、必要に応じて見え隠れに忍釘止めの補強を行う。

⑤ 新材加工

継手・仕口・曲線は在来どおりに加工する。また復原整備に伴う新規補足材は復原年代の残存資料により加工する。柱など軸部の化粧部分は従来の表面加工を調査のうえ、補足材も同様の加工とする。

⑥ 古色塗

取替または新規補足材は、協議の上古色塗を施すかどうか決定する。施す場合は、古色材を用いて、周囲と調和よく古色を施す。古色材は
、松煙墨などを焼酎で溶いて調色したものをて布など
でよく摺り込むように整える。又、外壁材等は防腐塗料塗りを施す。

⑦ 焼印押し

取替および新補材には見え隠れに修理年号を刻した焼印を押す。焼印を押すことが困難な小部材には、修理年号を墨書きする。

⑧ 木部防腐防蟻処理

イ　概　要
防蟻を兼ねた防腐剤を使用して木部を保護する。
ロ　薬　剤
財団法人文化財虫害研究所認定品(キシラモン３W同等品)
ハ　施工範囲
柱根、土台を含む床組材全面、野地板全面、軒先、その他見え隠れの仕口面と監督員等の特に指示する箇所。
ニ　工　法
浸漬・塗布・吹付・防蟻処理併用の箇所などそれぞれの要求度に応じて行う。
塗布・吹付は２回以上とする。塗布・吹付は１回の量１㎡(木材面積)あたり200ミリリットル以上を刷毛により処理する。

⑨ 補　強

原則として、耐震補強以外の金物補強は行わないが、建物の構造上不完全と認められる部分や、材の状況等に応じ、補強が必要と考えられる部分については、監督員等の指示により、添木、金物の補強の処置を講じる。

8 屋根工事

① セメント瓦葺

セメント瓦
イ　解体
・既存セメント瓦は全て取り外す。
・材の状態が良い物は、再利用をする為取り置きする。(監督職員に確認を行う。)
再生利用材と展示用材以外は廃棄する。
・下地材は２０１０年の改修時に一部野地板から交換されているが、昭和１６年のセメント瓦への葺き替え時の下地が残っている可能性がある為、丁寧に解体し状況を写真、図に取ると共に、監督職員に報告する事。
ロ　セメント瓦
・既存セメント瓦と同等の外形寸法であることが望ましいが生産状況により若干の変更が必要な場合がある為、監督職員と協議を行うこと。
・原則として、瓦の割付け、棟の形状等は既存と同様とする。
・再利用する際は再利用できる瓦の枚数を確認し、庇や下屋を中心に使用範囲を検討する。再利用材は、銅線で下地と緊結のこと。
・鬼瓦の修繕：水洗いをして表面の汚れを取り、プライマーにて下塗りを行いウレタン系の塗料を２回以上行う。鬼瓦を修繕する前に解体した瓦にて試作品を作り確認すること。
ハ　下地
・既存屋根下地状況によるが、杉皮が残っている場合は原則として存置する。
その上に、新規野地板を葺き、アスファルトルーフィング下地を設ける。
・西側下屋は解体時に既存杉皮下地を取り置きし、再利用する。不足分は補充する。

２．ガルバリウム鋼板葺

材種：カラーガルバリウム鋼板　JIS G 3322　厚さ 0.4mm
唐草：W450、アングル雪止め：亜鉛鍍金仕上

9 左官工事

① 概　要

外壁：下見板の内側になる壁面は、中塗仕上。下見板の上部は漆喰仕上。
内壁：漆喰仕上、一部中塗仕上。

② 材　料

小　舞　　長さ２m以上の良質よし
小舞縄　　機械藁縄、径５mm以内のもの
荒壁土　　粘性のある山土で、15mmのふるいを通過するもの。
中塗土　　荒壁土を水漉したもの、または５mm程度のふるいを通過する程度のもの。
粘性が強い場合は、川砂を適量混合する。

藁すさ　　荒壁用は長さ３～５cmに切ったもの。中塗用は長さ１～２cmの揉すさ、
色壁仕上げ用には長さ１cm程度の微塵すさを用いる。
すさ(下地用漆喰)　マニラすさとする。叩いてよくほぐしたものを使用する。
すさ(漆喰上塗)　　すさ、または南京袋等を解し煮沸して水に晒した晒しすさを用いる。
の　り　　北海道産角又（銀杏草）またはこれに準ずるもの
砂　　川砂とする。色壁仕上げ用には、仕上げ用の微塵砂を使用する。

消石灰　　JISA6902(左官用消石灰)適合品
貝　灰　　貝殻を原料とした消石灰
その他　　髭子、布連、寒冷紗等

③ 調　合

材料の調合比を以下に示す。ただし、数値はあくまで目安であり、土の質や気温、湿度によって適宜加減を行うこととし、監督員等の承認を得ること。

荒壁土　　山土1m3に長さ３～５cmに切った稲藁5～10kgを混ぜ合わせ、６ヶ月以上寝かせる。寝かせている間は表面を乾燥させないよう保水する。その後適当な時期に切り藁を足して切り返しを行い、さらに寝かせる。この作業を２、３回行う。混ぜ込む切り藁の延数量は20kg/m3以上とする。
中塗土　　篩漉土1m3、川砂0.7～1m3、もみすさ12kg、水適量

漆喰(下・上塗用)　既調合漆喰

④ 工　法

小舞掻　　既存小舞に習い、縦・横120～150m/m間隔に組み小舞縄で千鳥に掻き付ける。
荒壁付　　荒壁土を下地小舞面に鏝なでして付け、十分に乾燥させる。この間80%以上水分が乾燥した時点で裏返しを行い十分乾燥させる。標準塗厚20～24mm。

斑直し　　荒壁乾燥後、荒壁土を用いて斑直しを行う。標準塗厚10～15mm。
中　塗　　斑直し後、壁の塗り厚に合わせて木部に朱墨で墨打ちし、中塗土を用いて定規摺りを行い、木鏝で平滑に仕上げる。
散切れや亀裂がないよう留意する。標準塗厚６～10mm。

10 板金工事

① 板　金

イ　概　要
・軒天、鼻隠し、破風、棟木・母屋小口は板金包みである既存の板金包みは劣化が進んでおり、一部の軒天を除き再利用不可である為、新規材にて施工する。
ロ　解体
・本舎軒天(Ｒ部)は解体済。
・鼻隠し、破風、棟木・母屋小口は屋根解体時に取り外す。
解体時に各詳細図を写真・図面にて記録する。
・板金の状態が良いものは再利用を検討する。
ハ　各部詳細
・本舎軒天(Ｒ部)－亜鉛鉄板(平板)T0.5mmを既存と同様に鉤加工を行った後、取付ける。
取り置いた材から状態の良い20%程度を使用する。
・下屋軒天(平部)鼻隠し・破風・木口－下屋解体時に丁寧に取外し再利用に努める。
加工は既存と同様とする。再利用の可否は監督職員に確認のこと。

11 塗装工事

① 塗　装

イ　概　要
・塗装の範囲は板金を施工した範囲、及び外部下見板、内部板壁、土台部の防腐塗装と古色塗。
ロ　各部詳細
・板金施工部の塗装
再利用木材－水洗いの後、素地ごしらえＣ種、錆止め塗装Ｂ種耐候性ＤＰ。
新　規　材－錆止め塗装Ｂ種、耐候性ＤＰ。
・木部塗装
下　見　板－木材保護塗料ＷＰ、Ａ種・下塗り・上塗り２回
板　　壁－木材保護塗料ＷＰ、Ａ種・下塗り・上塗り２回
土　　台－キシラデコール同等品(無色)
古　色　塗－新規材で継木、添木をする部分で監督職員と協議の上範囲を確認し松煙+焼酎で調色したものを使用する。施工前に試作を行うこと。

12 建具工事

① 概　要

各建具の状況を把握し、修理内容の確認を行う。建てこみの際は、柱、敷居、鴨居との隙間が大きくならないように注意し、場合によっては方立等で対処する。

② 板戸

イ　材　料
杉　赤身　小節　板目取り　乾燥材
釘は洋釘(和釘を使用している場合は巻頭)

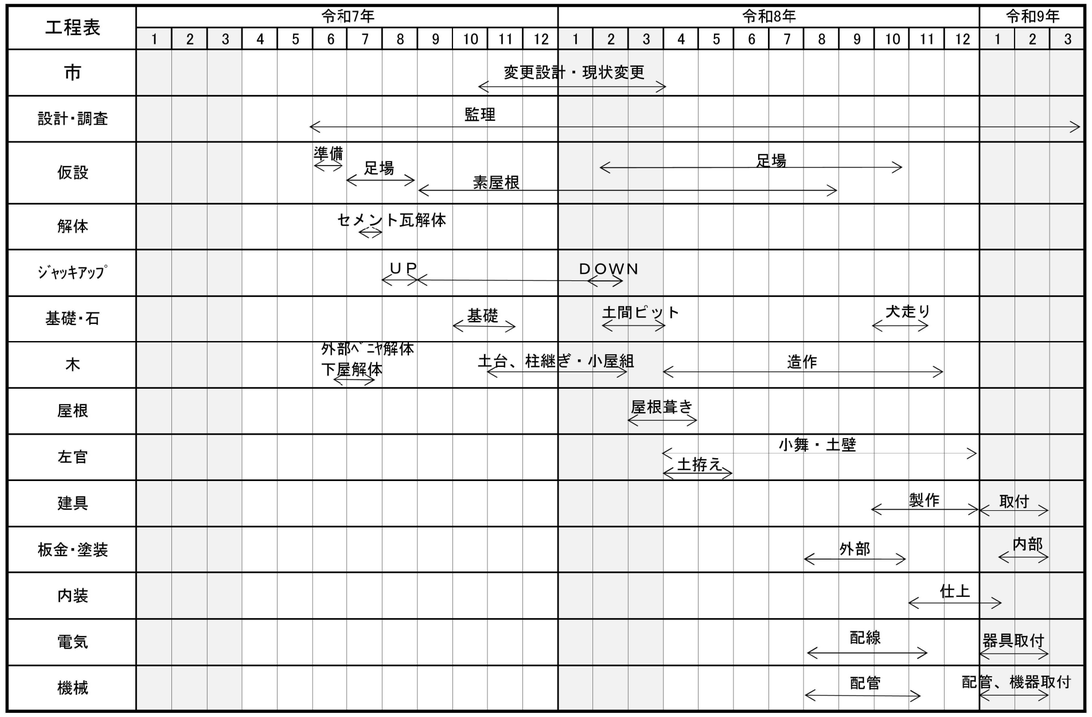
ロ　工　法
表面加工は台鉋とし、框は二枚ホゾ・割楔とする。竪框の召し合わせは合決りとする。板は框に欠き込み・板決りに納め、板戸は板傍を樋部倉矧、板は横桟に釘打ちに止める。

ハ　新規作成の建具枠はクリア塗装を行う。

③ 建て込み

全ての建具は滑らかに動くように調整を行う。建て込みに際しては、建物本体各部に損傷を与えないよう十分な養生をして施工する。

13 雑 工 事	① 金具工事	イ　概　要 建物各所に用いられる金物は、状態を確認の上、腐蝕等がある場合は取替えとする。 ロ　材　料 鉄製　　黒色防錆塗装仕上(耐候性塗料) ハ　工　法 原則として既存の形状とする。
	② 防蟻土壌処理	イ　概　要 地盤面に防蟻土壌処理を施す。 ロ　薬　剤 日本シロアリ対策協会認定薬剤 ハ　工　法 面状散布法による。散布量は使用する薬剤の仕様による。
	③ 修理銘板 修理銘札	イ　概　要 主屋に工事概要を陰刻した修理銘版を、それぞれ取り付ける。 ロ　仕　様 修理銘板　伸銅磨板、約30cm×60cm×1.5mm、約1,000文字を腐蝕仕上 修理銘札　伸銅磨板、約18cm×2.5cm×1.5mm、約30文字を腐蝕仕上
	④ 焼き印製作	イ　概　要 補足木材の見え隠れの位置に修理年号を烙印するため焼印を製作する。焼印は、以下を標準とする。 ロ　材　料・寸　法 鋳鉄製、幅２cm×長９cm、木製握り手付
	⑤ 設備機器用基礎	イ　概　要 空調機室外機用のコンクリート基礎を要所に設ける。 ロ　仕　様 コンクリート：Ⅰ類　18-15-20　普通ポルトランドセメント 鉄　筋：（D13以下）SD295A、（D19）SD345　　仕　上：打放し仕上Ｂ種



特記：

株式会社 伝統建築研究所
宮城県知事登録　第23410297号　一級建築士事務所
一級建築士　№254986
代表取締役　高橋直子

検図：
設計：
担当：

工事名：史跡松ヶ岡開墾場貯桑土蔵保存修理工事

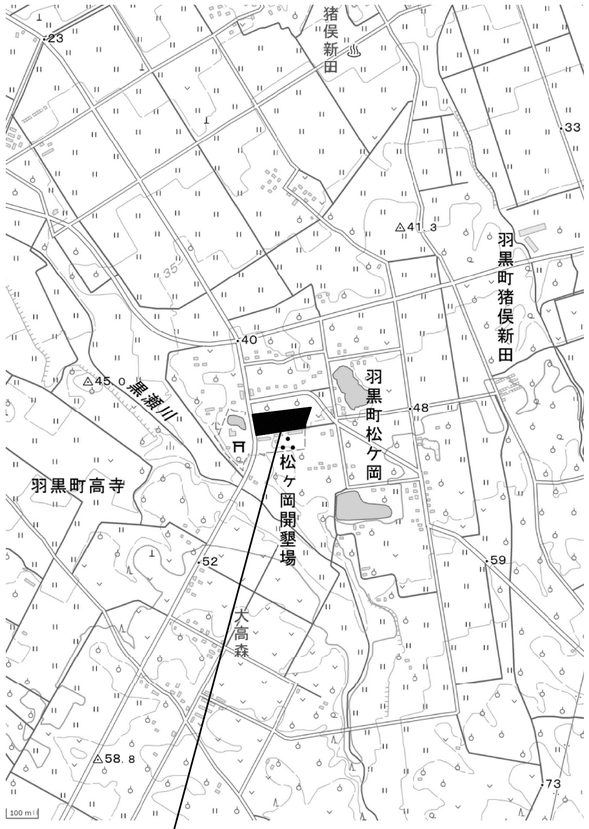
図面名：特記仕様書３

縮尺：NON

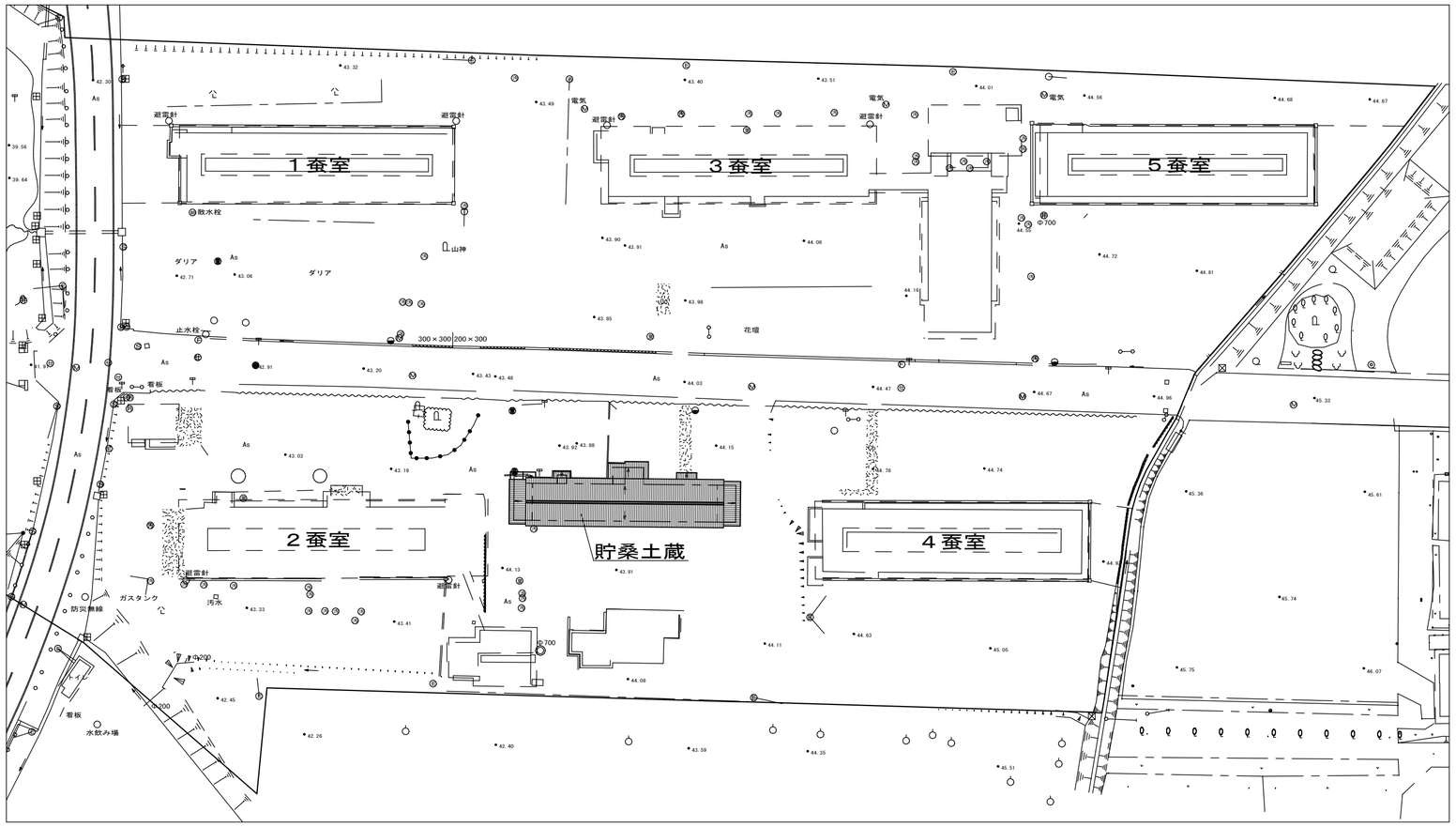
設計年月日：

図面番号：０３

区分：



山形県鶴岡市羽黒町松ヶ岡25



配置図　S=1/600

特記：	株式会社 伝統建築研究所 宮城県知事登録　第23410297号　一級建築士事務所	一級建築士　№254986 代表取締役　高橋直子	検図： 設計： 担当：	工事名： 史跡松ヶ岡開墾場貯桑土蔵保存修理工事	図面名： 案内図・位置図 縮尺：1/600	図面番号： ０４ 設計年月日： 区分：

外 部 仕 上 表 ： 現況材再使用・取変え部材は新材加工

	仕 様		
基 礎	半解体前	柱下のみ玉石基礎（φ300程度）	
	半解体後	同上	
	修理後	柱下のみ玉石基礎、柱間は〇間石・土による叩き締め	
軸 部	半解体前	土台：栗、柱：杉、桁：杉	
	半解体後	同上	
	修理後	同上（取替材他は詳細図参照）	
外 壁	半解体前	下見板（杉）、上部土壁下地+モルタル壁+塗装	
	半解体後	養生用ｺﾝﾊﾟﾈ貼	
	修理後	下見板（杉）、上部土壁下地漆喰仕上	
軒 裏	半解体前	鉄板+白塗装仕上	
	半解体後	（取外し）	
	修理後	鉄板+白塗装仕上	
屋 根（本舎）	半解体前	ｾﾒﾝﾄ瓦、ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞ貼	
	半解体後	同上	
	修理後	同上	
屋 根（下屋）	半解体前	ｾﾒﾝﾄ瓦、杉板葺下地	
	半解体後	同上	
	修理後	同上	
屋根（庇）	半解体前	ｾﾒﾝﾄ瓦、杉皮、ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞ貼	
	半解体後	同上	
	修理後	同上	
軒先・破風	半解体前	鉄板包み+白塗装仕上	
	半解体後	同上	
	修理後	同上	
建 具	半解体前	建具表による	
	半解体後	同上	
	修理後	同上	
外 壁（西側地下階段）	半解体前	波ﾄﾀﾝ	
	半解体後	養生用ｺﾝﾊﾟﾈ貼	
	修理後	下見板貼	

内 部 仕 上 表 ： 現況材再使用・取変え部材は新材加工

※部屋名は修理工事後の呼称とし、（ ）は半解体前の部屋名を記す。

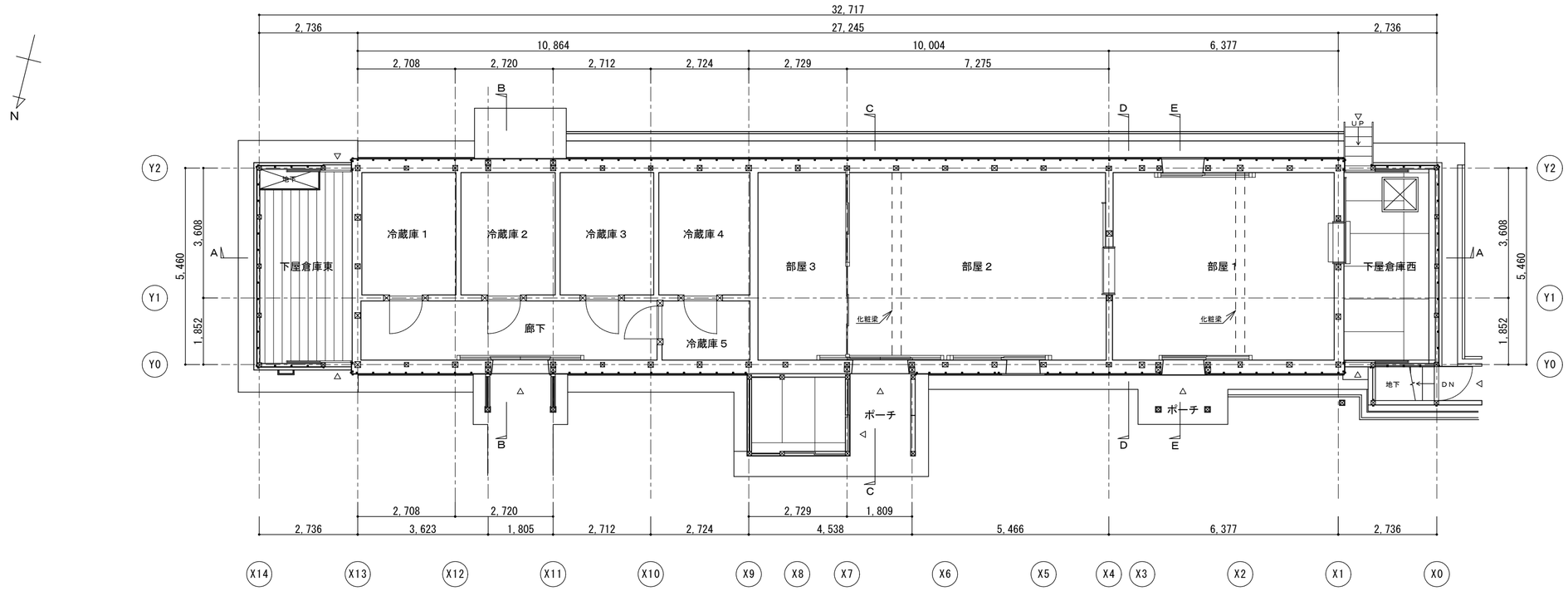
部屋名	仕 様				
		床／下地	壁	天井	巾木
体験室２（部屋１）	半解体前			木格子天井+鉄板	木製
	半解体後	玉石敷詰め状態	外部土壁	格天井（格子のみ有）	
	修理後	土間ｺﾝ金鏝仕上/栗板貼	内部土壁、漆喰仕上	格天井（再利用）	ﾓﾙﾀﾙ立上り
体験室１（部屋２）	半解体前	ﾋﾞﾆｰﾙｼｰﾄ/構造用合板	漆喰（一部塗装）薄塗ﾓﾙﾀﾙ+土壁T6程	棹縁天井、板+塗装	木製
	半解体後	玉石敷詰め状態	外部土壁	なし	
	修理後	土間ｺﾝｸﾘｰﾄ金鏝仕上	内部土壁、漆喰仕上+板壁	棹縁天井	ﾓﾙﾀﾙ立上り
展示④（部屋２・３）	半解体前	ﾋﾞﾆｰﾙｼｰﾄ/構造用合板	部屋２部分同上・石こうﾎﾞｰﾄﾞ貼	部屋２部分同上・石こうﾎﾞｰﾄﾞ貼	木製
	半解体後	玉石敷詰め状態	外部土壁	なし	
	修理後	土間ｺﾝｸﾘｰﾄ金鏝仕上	内部土壁、漆喰仕上	棹縁天井	ﾓﾙﾀﾙ立上り
用具室（部屋３）	半解体前	ﾋﾞﾆｰﾙｼｰﾄ/ﾍﾞﾆﾔ板	石こうﾎﾞｰﾄﾞ貼	石こうﾎﾞｰﾄﾞ貼	木製
	半解体後	玉石敷詰め状態	外部土壁	なし	
	修理後	土間ｺﾝｸﾘｰﾄ金鏝仕上	内部土壁漆喰仕上+石膏ﾎﾞｰﾄﾞ+漆喰仕上	棹縁天井	ﾓﾙﾀﾙ立上り
展示③（冷蔵庫４）	半解体前	ｺﾝｸﾘｰﾄﾓﾙﾀﾙ金鏝仕上/捨てｺﾝ、砕石	ｺﾝｸﾘｰﾄﾓﾙﾀﾙ仕上	ｺﾝｸﾘｰﾄﾓﾙﾀﾙ仕上	
	半解体後	玉石敷詰め状態	１面外部土壁３面なし	なし	
	修理後	土間ｺﾝ金鏝仕上	新規間仕切部壁+木摺り下地+ﾓﾙﾀﾙ壁	木摺り下地+ﾓﾙﾀﾙ天井	ﾓﾙﾀﾙ立上り
展示①・②（冷蔵庫１・２３・５・廊下）	半解体前	ｺﾝｸﾘｰﾄﾓﾙﾀﾙ金鏝仕上/捨てｺﾝ、砕石	ｺﾝｸﾘｰﾄﾓﾙﾀﾙ仕上	ｺﾝｸﾘｰﾄﾓﾙﾀﾙ仕上	
	半解体後	玉石敷詰め状態	外部土壁。	なし	
	修理後	土間ｺﾝ金鏝仕上、一部高床、栗板貼	外部土壁の中塗仕上/展示③側のみ木摺り下地+ﾓﾙﾀﾙ仕上	なし	ﾓﾙﾀﾙ立上り
下屋倉庫東１Ｆ（同上）	半解体前	木板/根太、大引き	主屋/外壁側：漆喰仕上/ﾓﾙﾀﾙ薄塗、砂漆喰塗	なし	
	半解体後	根太、大引き	外部土壁	なし	
	修理後	木下地+栗板床	土壁漆喰仕上	なし	ﾓﾙﾀﾙ立上り
東側地下（同上）	半解体前	ｺﾝｸﾘｰﾄﾓﾙﾀﾙ金鏝仕上	主屋/外壁側：ｺﾝｸﾘｰﾄﾓﾙﾀﾙ金鏝仕上/ｺﾝｸﾘｰﾄﾓﾙﾀﾙ仕上	根太天井	
	半解体後	ｺﾝｸﾘｰﾄﾓﾙﾀﾙ金鏝仕上	主屋/外壁側：ｺﾝｸﾘｰﾄﾓﾙﾀﾙ金鏝仕上/ｺﾝｸﾘｰﾄﾓﾙﾀﾙ仕上	なし	
	修理後	ｺﾝｸﾘｰﾄﾓﾙﾀﾙ金鏝仕上	主屋/外壁側：ｺﾝｸﾘｰﾄﾓﾙﾀﾙ金鏝仕上/ｺﾝｸﾘｰﾄﾓﾙﾀﾙ仕上	なし	ﾓﾙﾀﾙ立上り
下屋倉庫西１Ｆ（同上）	半解体前	ｺﾝｸﾘｰﾄ下地+合板貼	主屋/外壁側：漆喰仕上/ﾓﾙﾀﾙ薄塗、砂漆喰塗	なし	
	半解体後	ｺﾝｸﾘｰﾄﾓﾙﾀﾙ金鏝仕上	外部土壁	なし	
	修理後	木下地+栗板貼	土壁漆喰仕上	なし	ﾓﾙﾀﾙ立上り
西側地下（同上）	半解体前	ｺﾝｸﾘｰﾄﾓﾙﾀﾙ金鏝仕上	主屋/外壁側：ｺﾝｸﾘｰﾄﾓﾙﾀﾙ金鏝仕上/ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ積+ﾓﾙﾀﾙ仕上	ｺﾝｸﾘｰﾄﾓﾙﾀﾙ仕上	
	半解体後	ｺﾝｸﾘｰﾄﾓﾙﾀﾙ金鏝仕上	主屋/外壁側：ｺﾝｸﾘｰﾄﾓﾙﾀﾙ金鏝仕上/ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ積+ﾓﾙﾀﾙ仕上	なし	
	修理後	ｺﾝｸﾘｰﾄﾓﾙﾀﾙ金鏝仕上	主屋/外壁側：ｺﾝｸﾘｰﾄﾓﾙﾀﾙ金鏝仕上/ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ積+ﾓﾙﾀﾙ仕上	なし	ﾓﾙﾀﾙ立上り
西側地下階段（同上）	半解体前	ｺﾝｸﾘｰﾄﾓﾙﾀﾙ金鏝仕上	ｺﾝｸﾘｰﾄﾓﾙﾀﾙ金鏝仕上/板貼	なし	
	半解体後	ｺﾝｸﾘｰﾄﾓﾙﾀﾙ金鏝仕上	ｺﾝｸﾘｰﾄﾓﾙﾀﾙ金鏝仕上/板貼	なし	
	修理後	ｺﾝｸﾘｰﾄﾓﾙﾀﾙ金鏝仕上	ｺﾝｸﾘｰﾄﾓﾙﾀﾙ金鏝仕上/板貼	なし	ﾓﾙﾀﾙ立上り

株式会社 伝統建築研究所
宮城県知事登録 第23410297号 一級建築士事務所
一級建築士 №254986
代表取締役 高橋直子

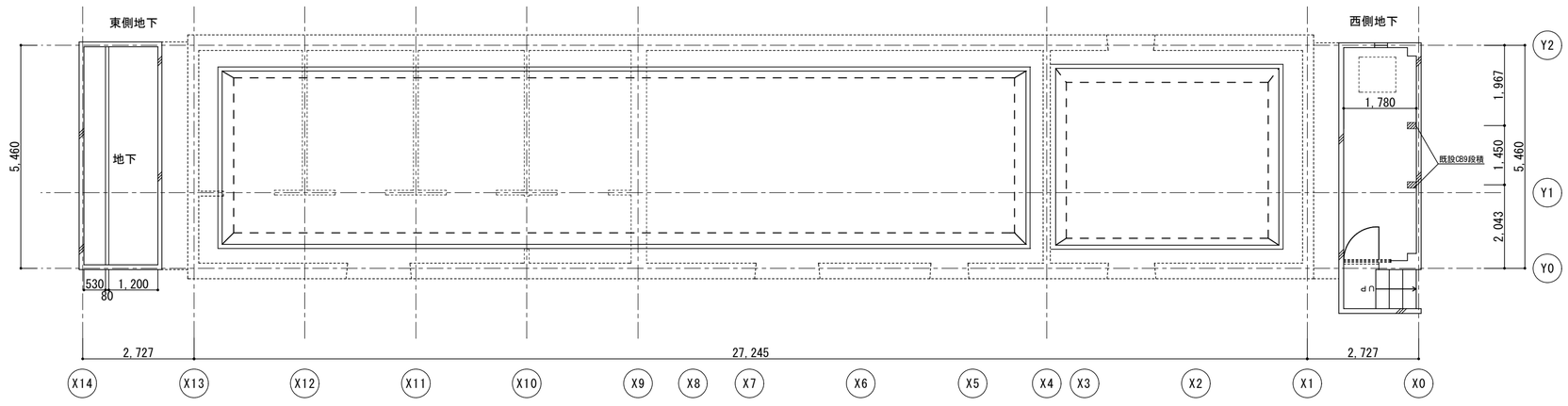
検図：
設計：
担当：

工事名：史跡松ヶ岡開墾場貯桑土蔵保存修理工事

図面名：仕上表
図面番号：05
縮尺：NON
設計年月日：
区分：

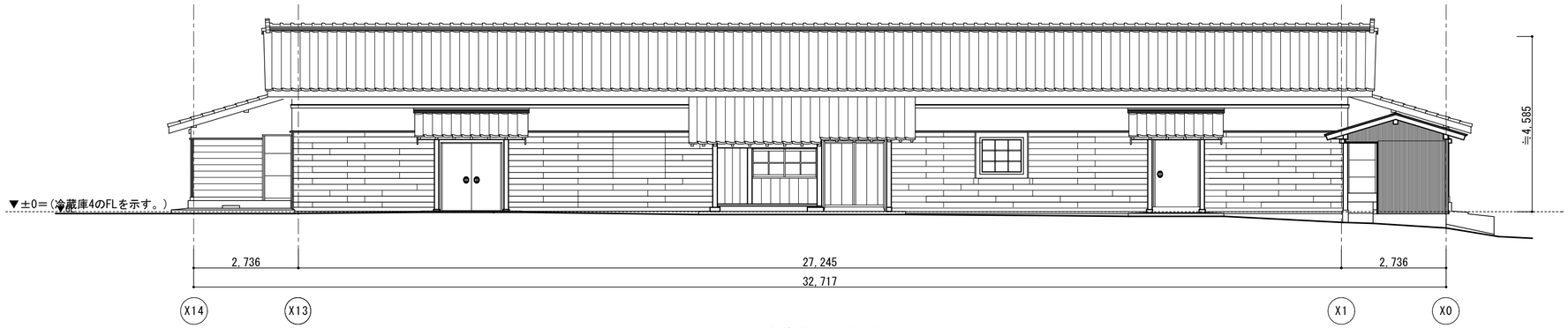


半解体前　１階平面図

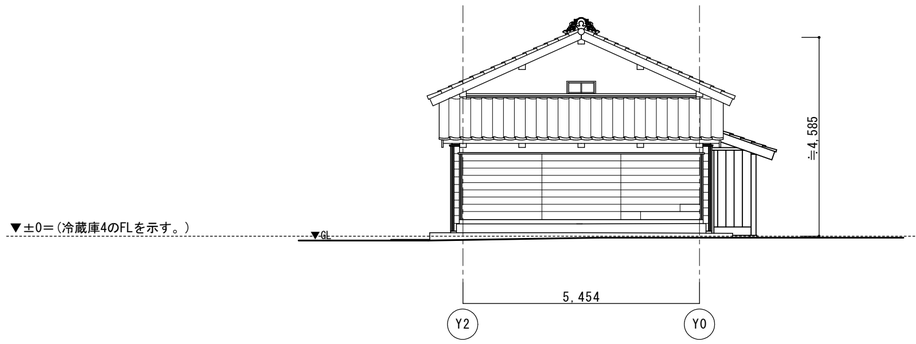


半解体前　地階平面図

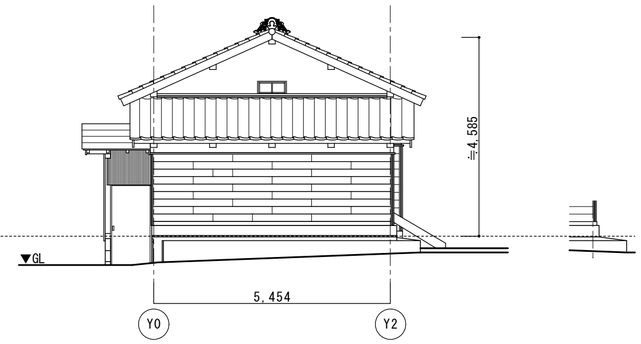
特記：	株式会社 伝統建築研究所 宮城県知事登録　第23410297号　一級建築士事務所	一級建築士　№254986 代表取締役　高橋直子	検図： 設計： 担当：	工事名： 史跡松ヶ岡開墾場貯桑土蔵保存修理工事	図面名： 半解体前平面図 縮尺：1/100　設計年月日：	図面番号： ０６ 区分：



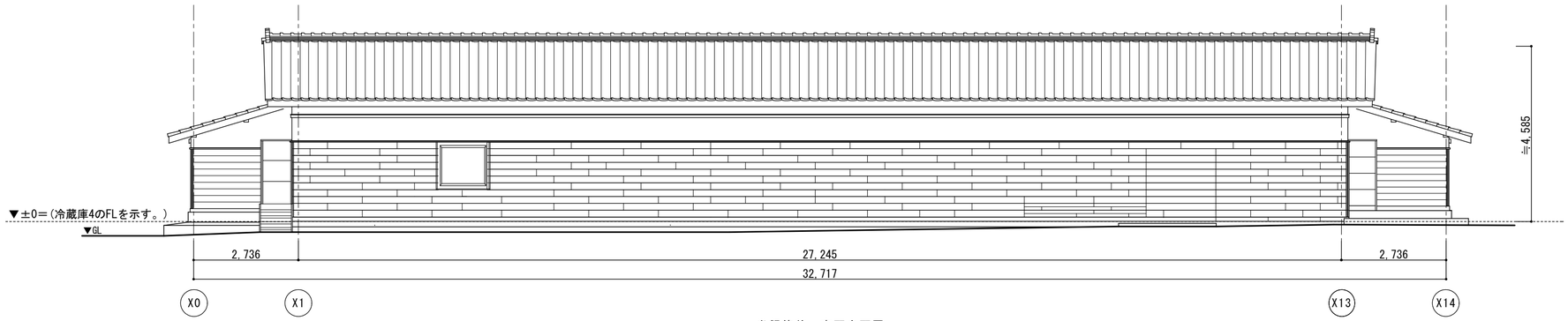
半解体前　北面立面図



半解体前　東面立面図

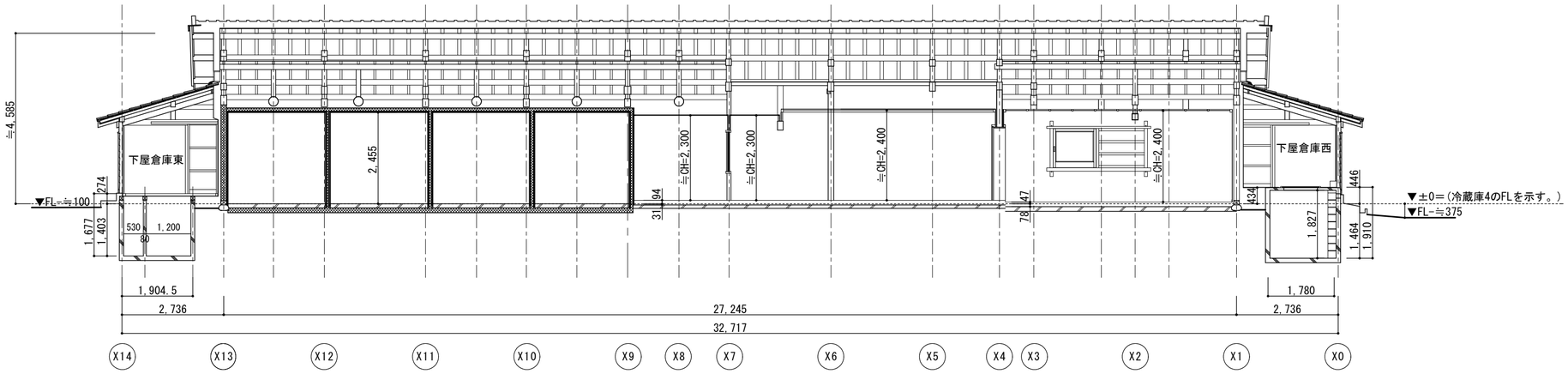


半解体前　西面立面図

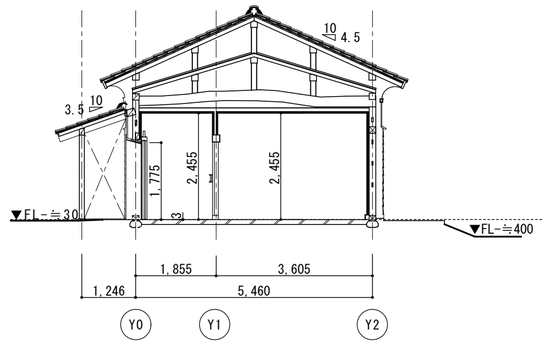


半解体前　南面立面図

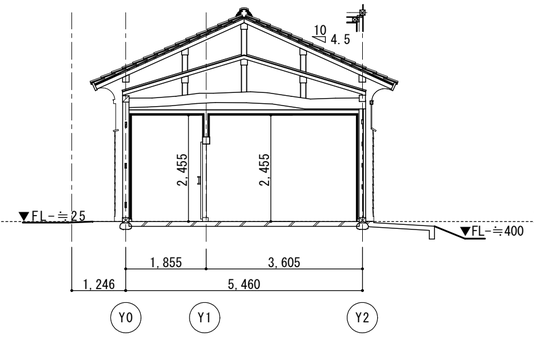
特記：	株式会社 伝統建築研究所 宮城県知事登録　第23410297号　一級建築士事務所	一級建築士　№254986 代表取締役　高橋直子	検図： 設計： 担当：	工事名： 史跡松ヶ岡開墾場貯桑土蔵保存修理工事	図面名： 半解体前　立面図 縮尺：1/100	図面番号：07 設計年月日： 区分：



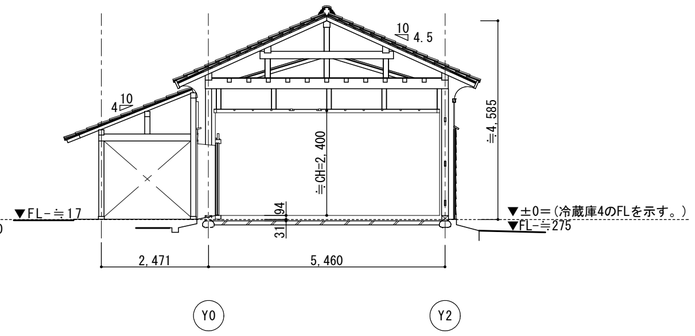
半解体前　Ａ－Ａ断面図



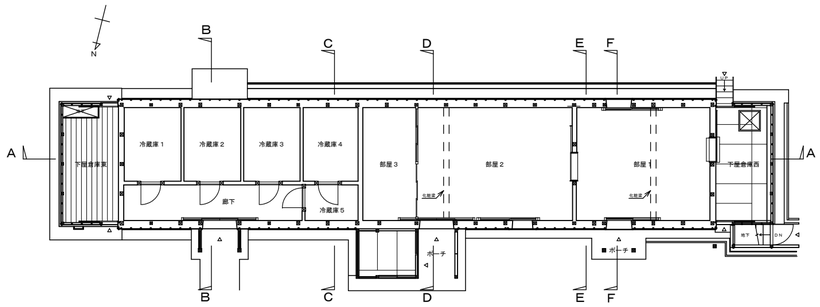
半解体前　Ｂ－Ｂ断面図

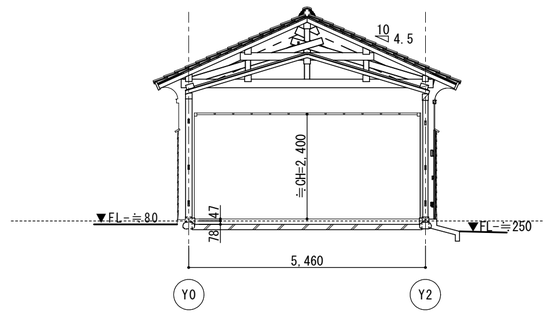


半解体前　Ｃ－Ｃ断面図

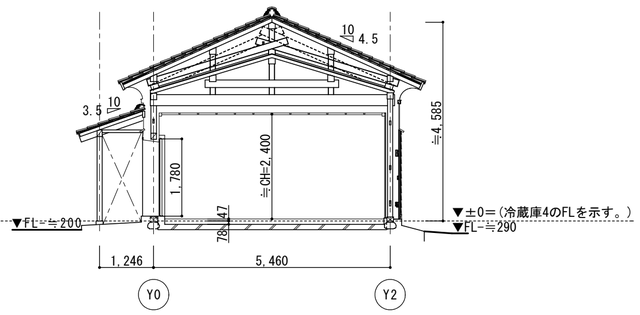


半解体前　Ｄ－Ｄ断面図



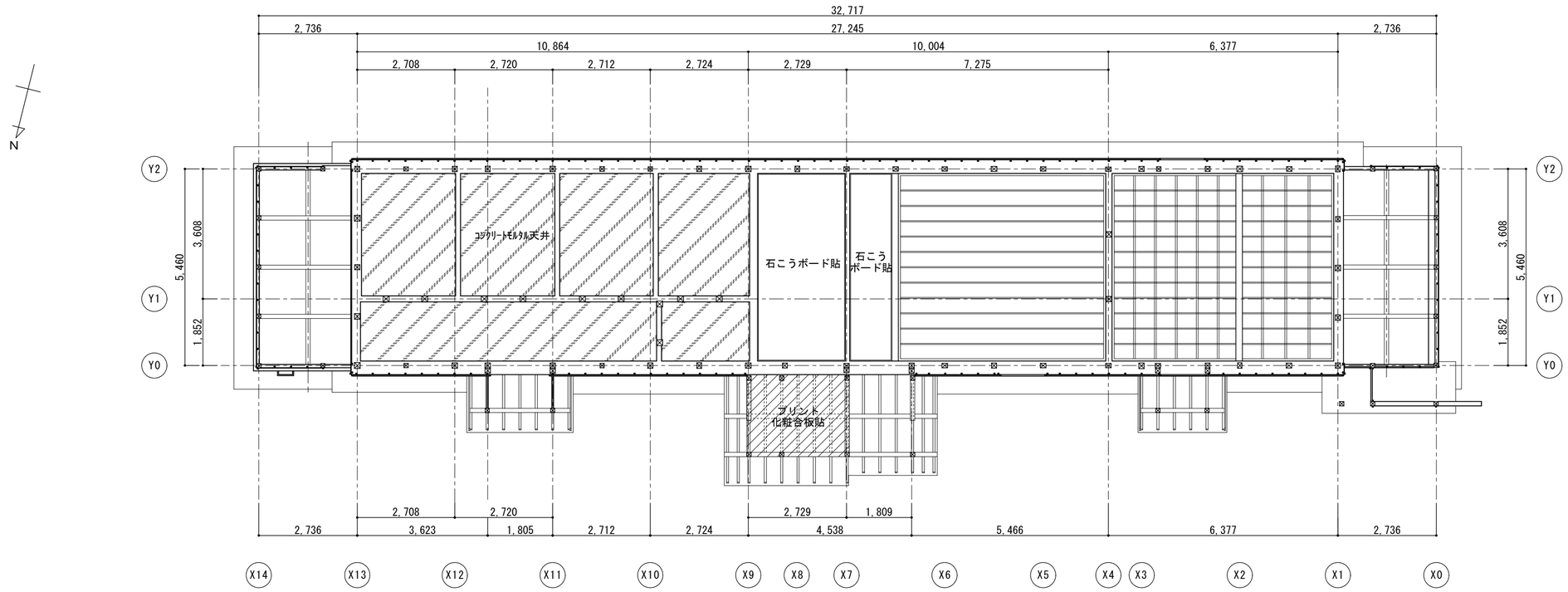


半解体前　Ｅ－Ｅ断面図

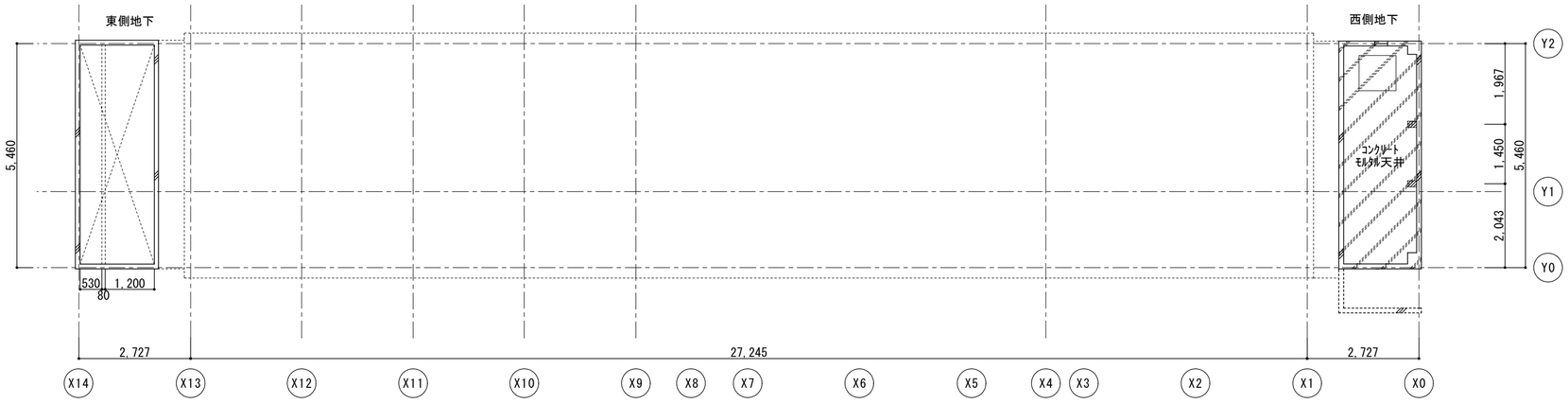


半解体前　Ｆ－Ｆ断面図

特記：	株式会社 伝統建築研究所 宮城県知事登録　第23410297号　一級建築士事務所	一級建築士　№254986 代表取締役　髙橋直子	検図： 設計： 担当：	工事名： 史跡松ヶ岡開墾場貯桑土蔵保存修理工事	図面名： 半解体前　断面図	図面番号： ０８
					縮尺：1/100　設計年月日：	区分：

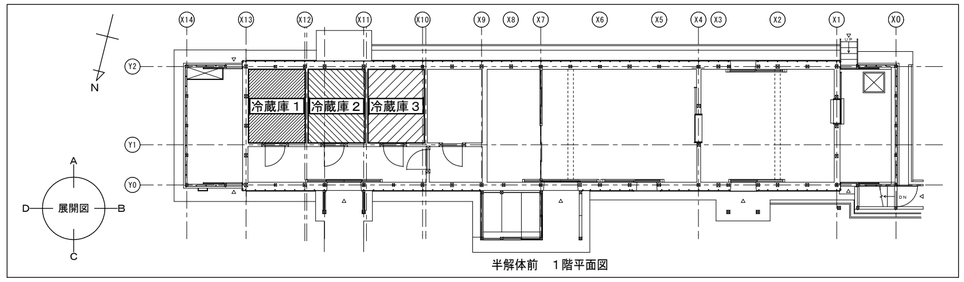


半解体前　１階天井伏図

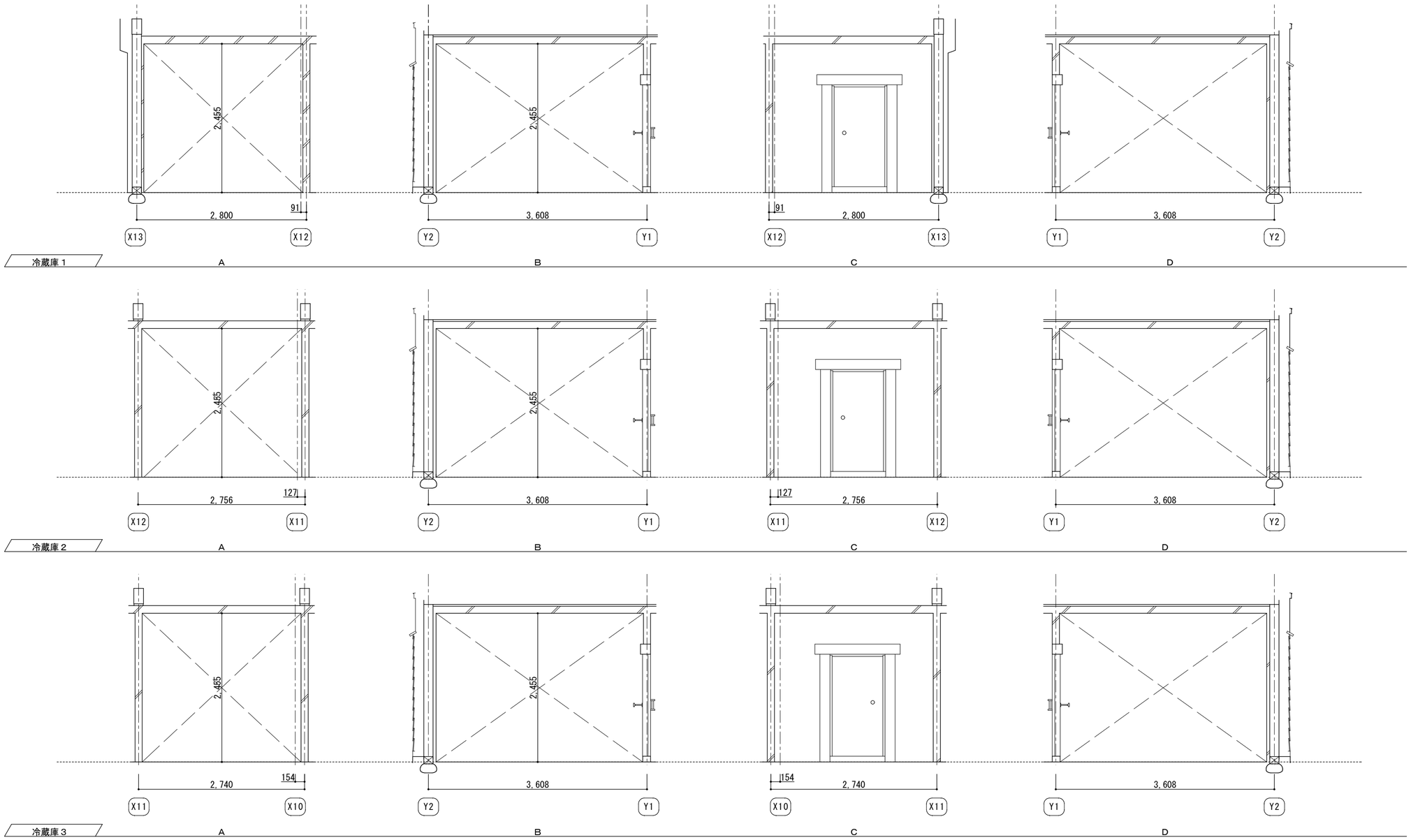


半解体前　地階天井伏図

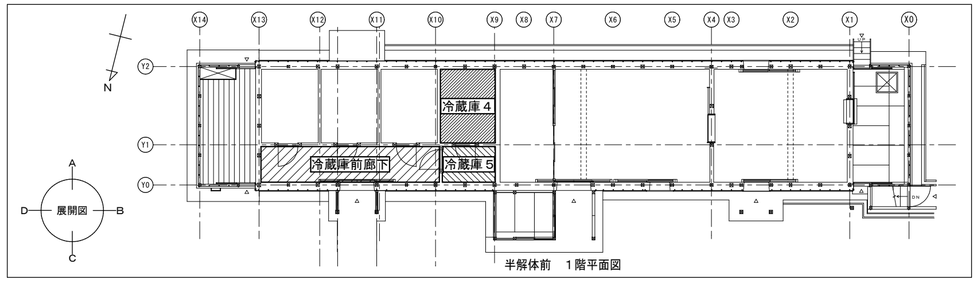
特記：	株式会社 伝統建築研究所 宮城県知事登録　第23410297号　一級建築士事務所	一級建築士　№254986 代表取締役　高橋直子	検図： 設計： 担当：	工事名： 史跡松ヶ岡開墾場貯桑土蔵保存修理工事	図面名： 半解体前　天井伏図 縮尺：1/100　設計年月日：	図面番号： ０９ 区分：

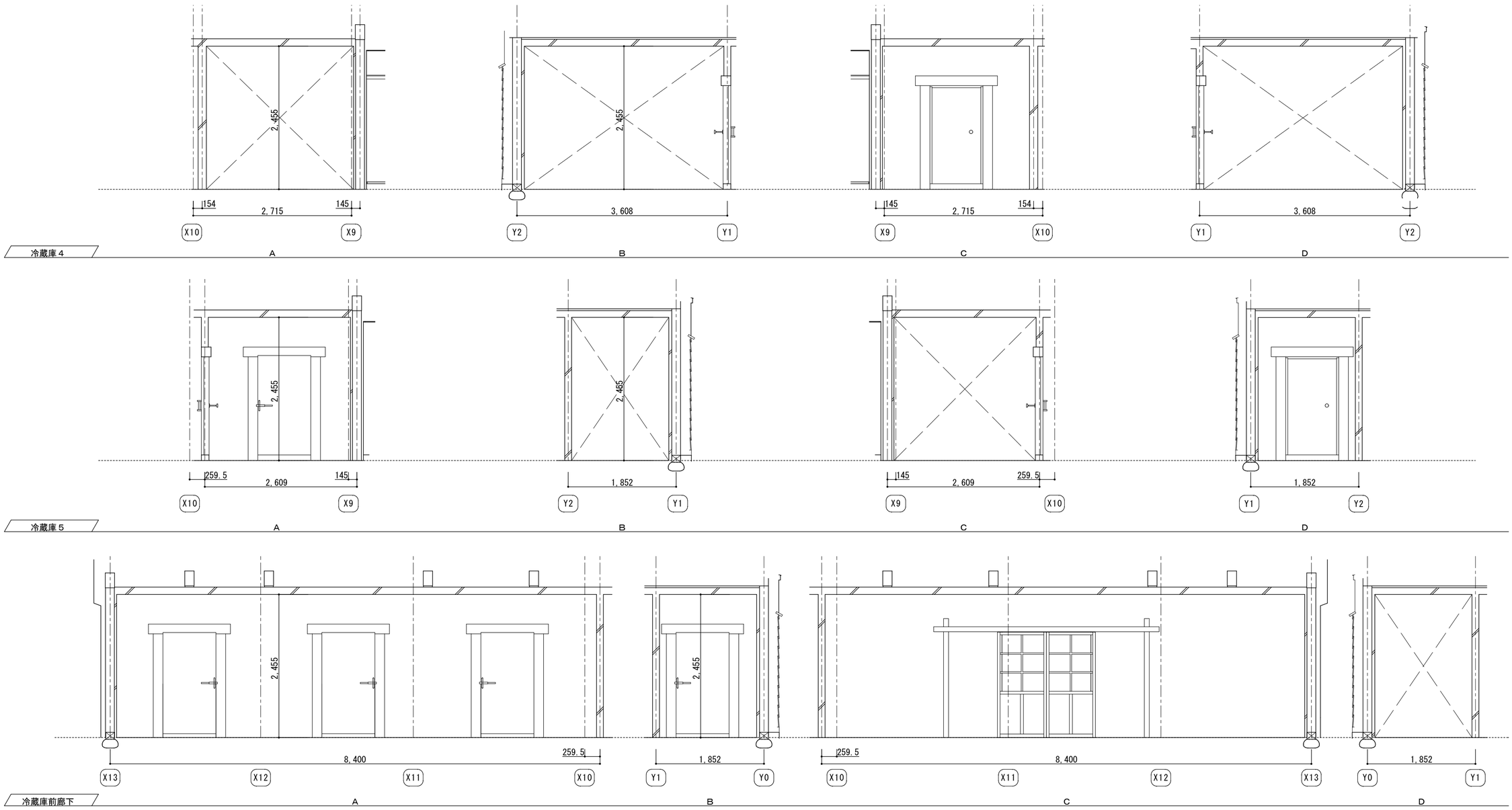


半解体前　１階平面図

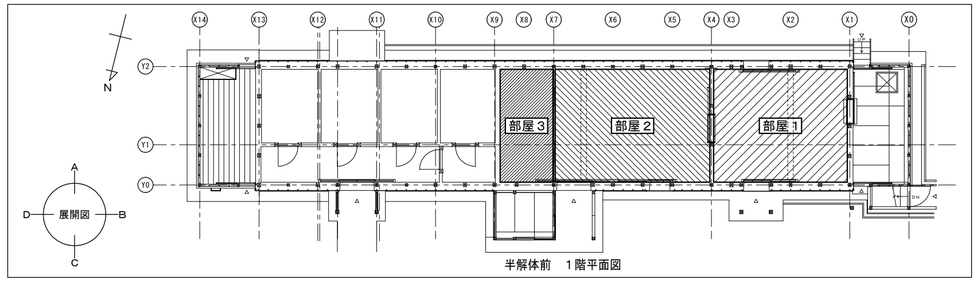


特記：	株式会社 伝統建築研究所 宮城県知事登録　第23410297号　一級建築士事務所	一級建築士　№254986 代表取締役　高橋直子	検図： 設計： 担当：	工事名： 史跡松ヶ岡開墾場貯桑土蔵保存修理工事	図面名： 半解体前展開図１（冷蔵庫１・２・３） 縮尺：1/50　設計年月日：	図面番号： １０ 区分：

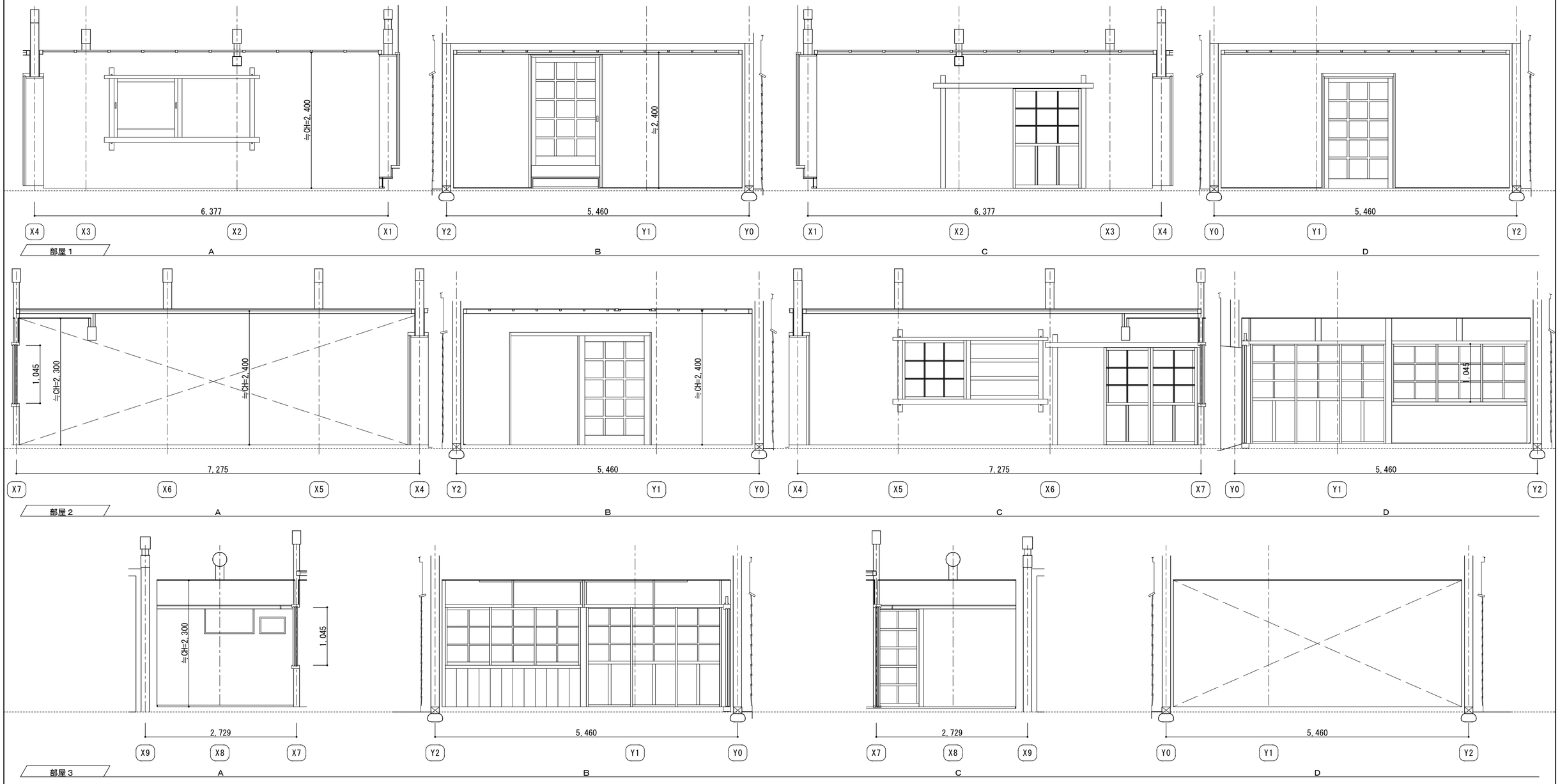




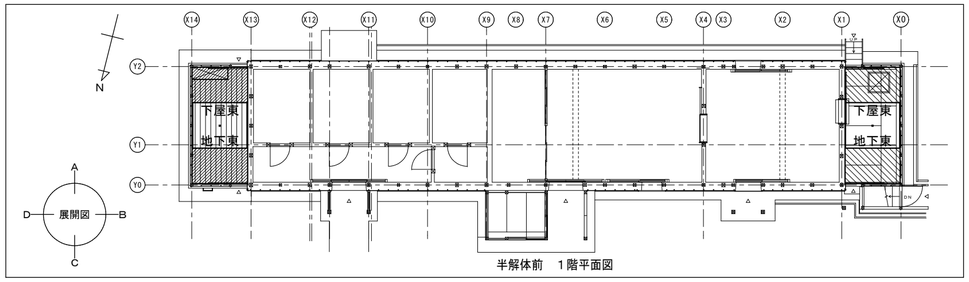
特記：	株式会社 伝統建築研究所 宮城県知事登録　第23410297号　一級建築士事務所	一級建築士　№254986 代表取締役　高橋直子	検図： 設計： 担当：	工事名： 史跡松ヶ岡開墾場貯桑土蔵保存修理工事	図面名： 半解体前展開図２（冷蔵庫4･5･廊下） 縮尺：1/50	図面番号：１１ 設計年月日： 区分：



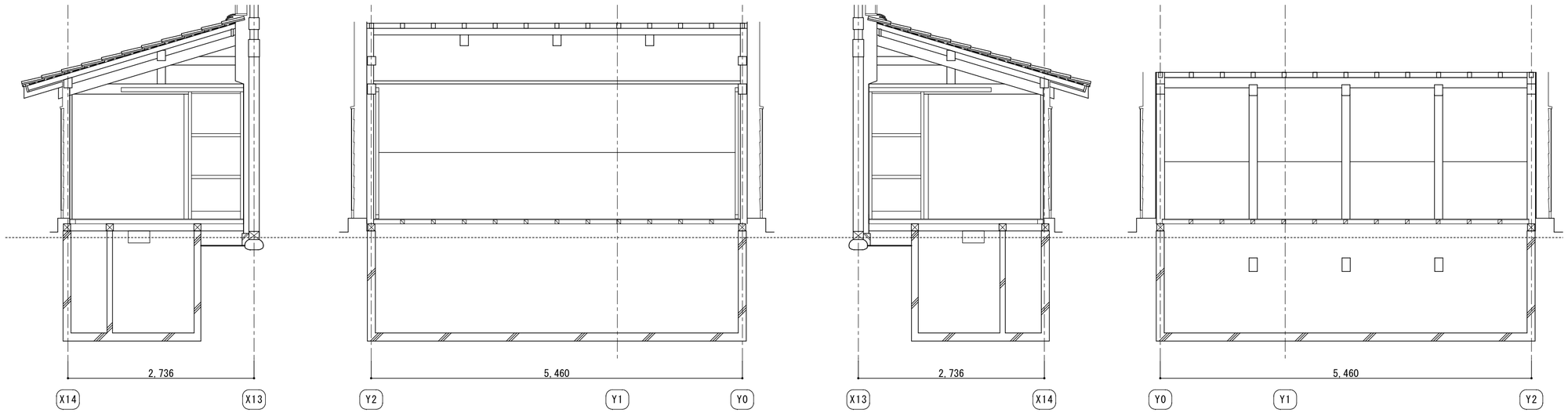
半解体前　1階平面図



特記：	株式会社 伝統建築研究所 宮城県知事登録　第23410297号　一級建築士事務所	一級建築士　№254986 代表取締役　高橋直子	検図： 設計： 担当：	工事名： 史跡松ヶ岡開墾場貯桑土蔵保存修理工事	図面名： 半解体前展開図３（部屋１・２・３） 縮尺：1/50　設計年月日：	図面番号： １２ 区分：

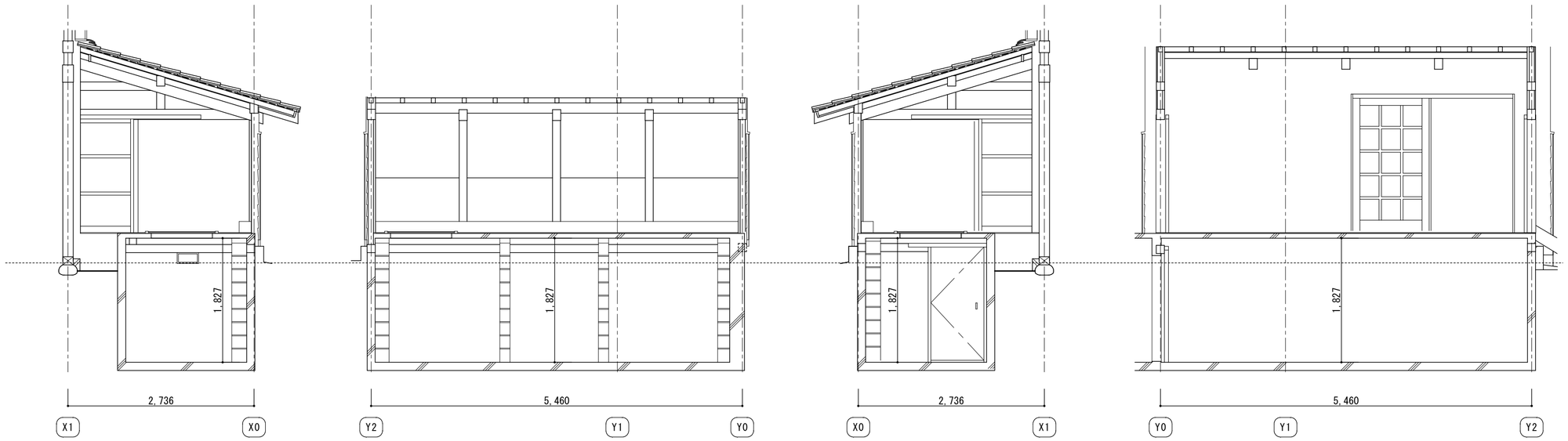


半解体前　1階平面図



下屋倉庫東+地下

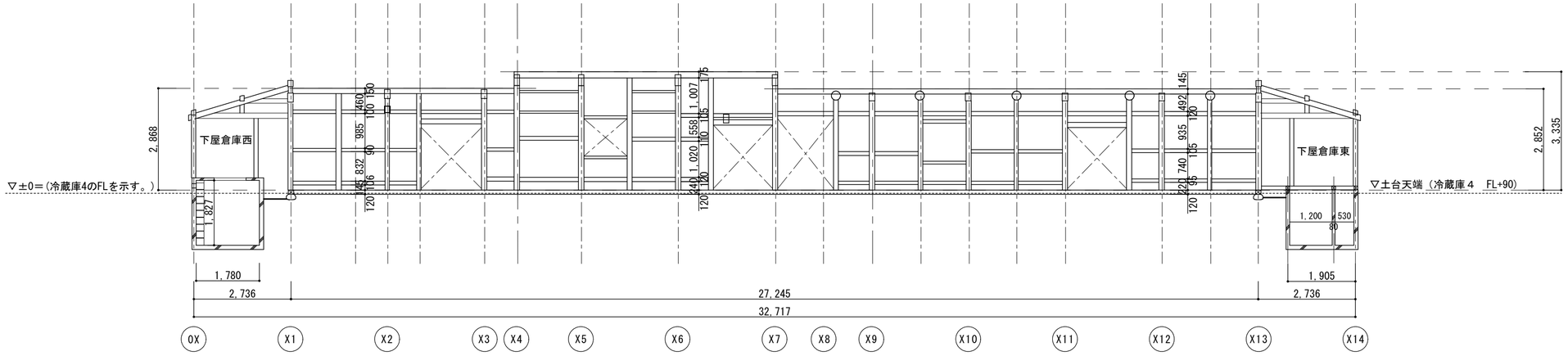
A　B　C　D



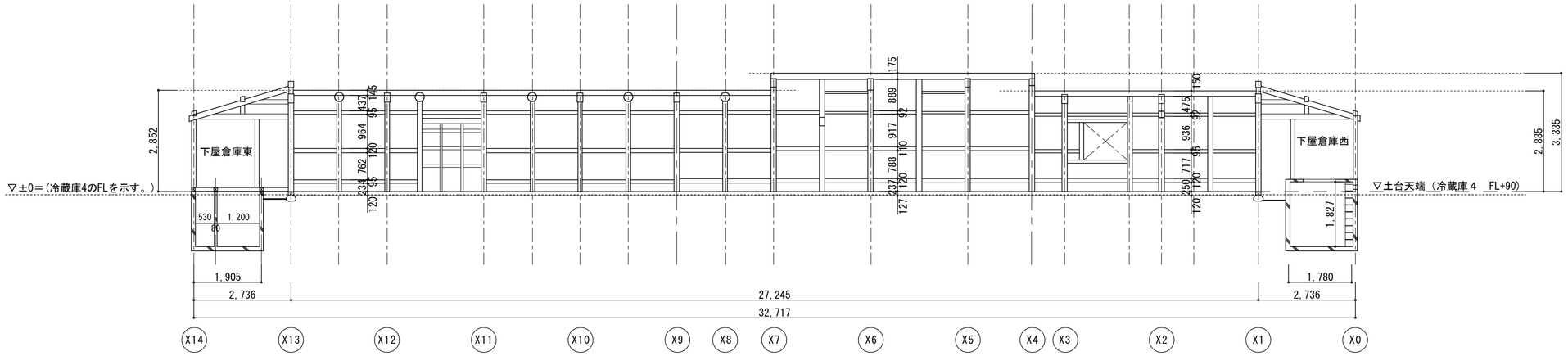
下屋倉庫西+地下

A　B　C　D

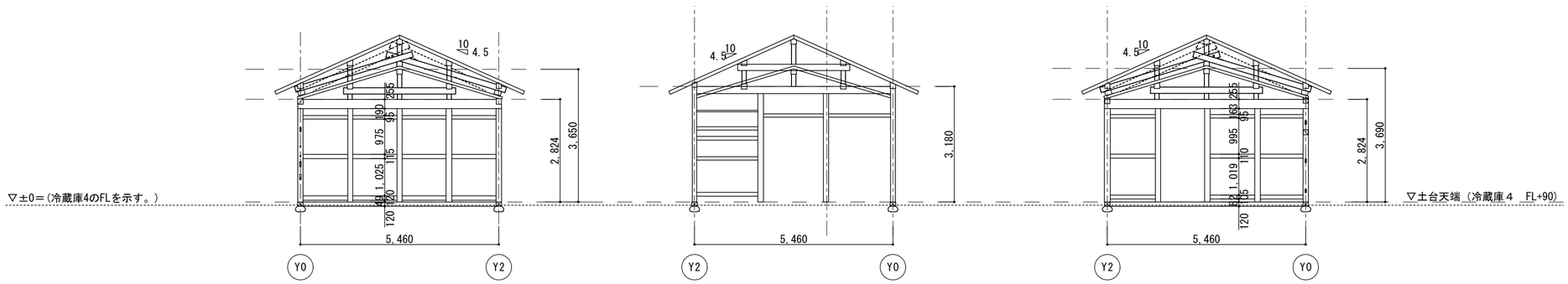
特記：	株式会社 伝統建築研究所 宮城県知事登録　第23410297号　一級建築士事務所	一級建築士　№254986 代表取締役　髙橋直子	検図： 設計： 担当：	工事名： 史跡松ヶ岡開墾場貯桑土蔵保存修理工事	図面名： 半解体前展開図４（下屋東西･地下） 縮尺：1/50　設計年月日：	図面番号： １３ 区分：



Ｙ0通り軸組図

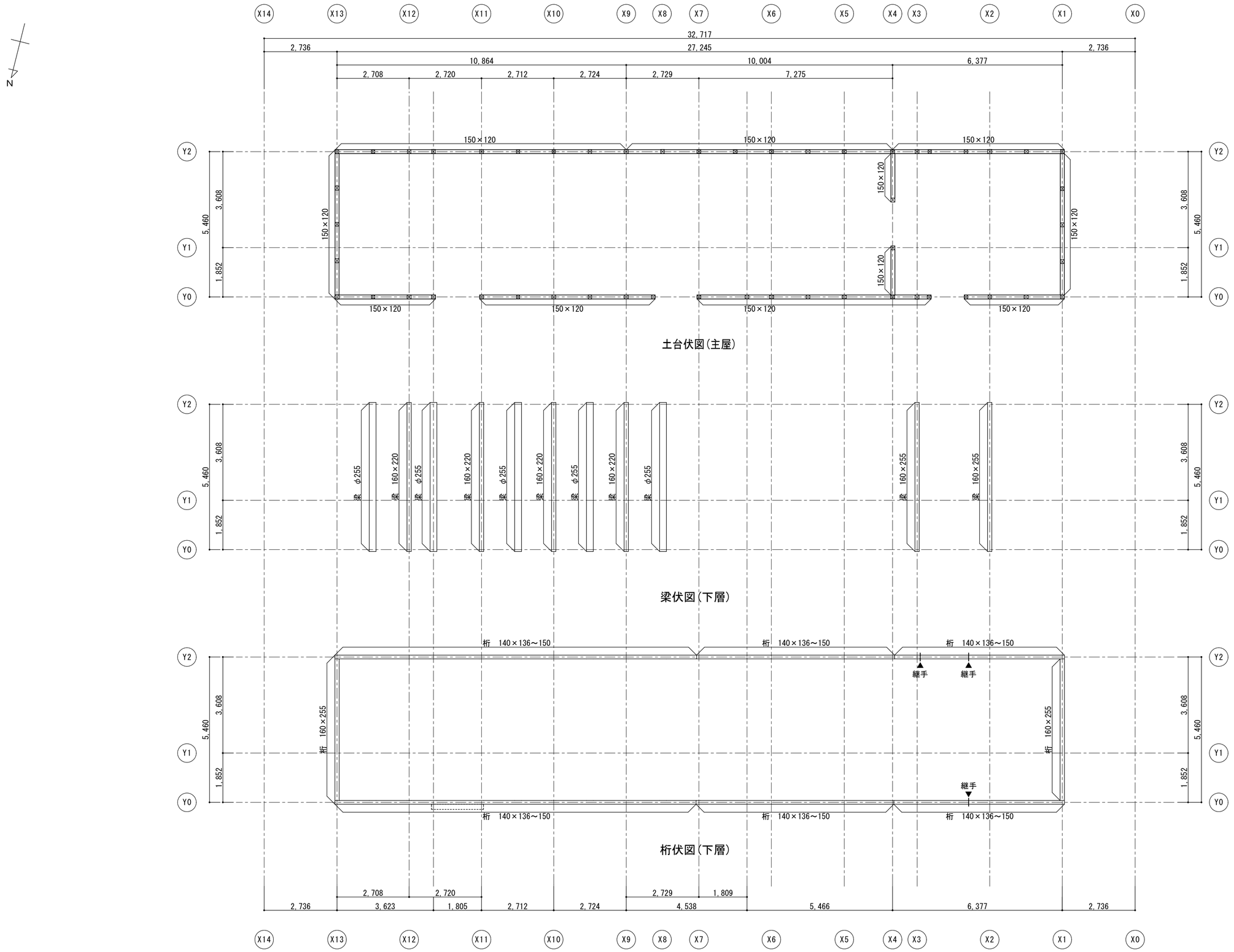


Ｙ2通り軸組図



Ｘ13通り軸組図　　Ｘ4通り軸組図　　Ｘ1通り軸組図

特記：	株式会社 伝統建築研究所 宮城県知事登録　第23410297号　一級建築士事務所	一級建築士　№254986 代表取締役　高橋直子	検図： 設計： 担当：	工事名： 史跡松ヶ岡開墾場貯桑土蔵保存修理工事	図面名： 軸 組 図 縮尺：1/100　設計年月日：	図面番号： １４ 区分：



特記：

株式会社 伝統建築研究所

宮城県知事登録　第23410297号　一級建築士事務所

一級建築士　№254986

代表取締役　高橋直子

検図：

設計：

担当：

工事名：史跡松ヶ岡開墾場貯桑土蔵保存修理工事

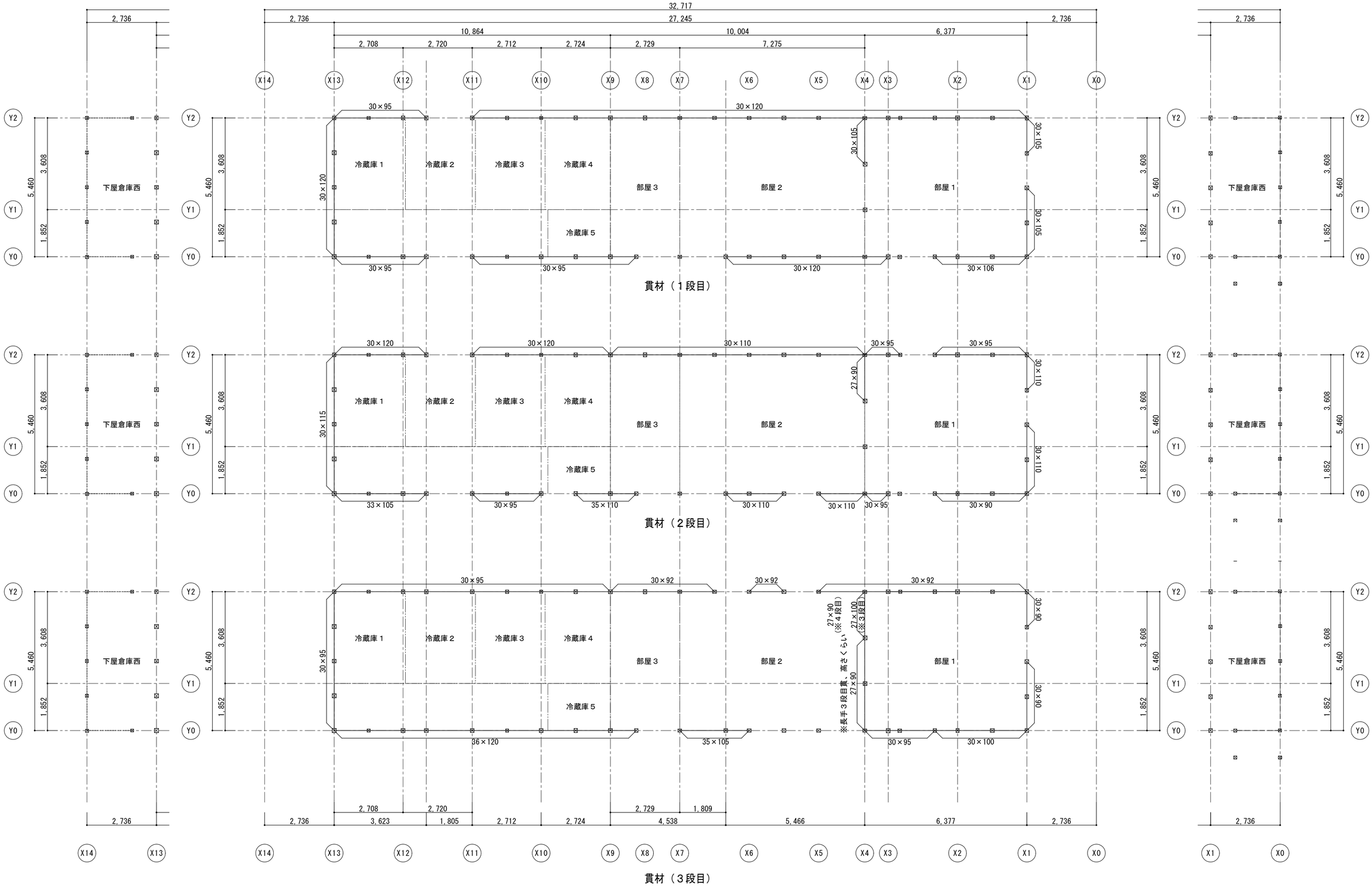
図面名：土台・梁・桁伏図（主屋・下層）

縮尺：1/100

設計年月日：

図面番号：15

区分：



特記：

株式会社 伝統建築研究所

宮城県知事登録　第23410297号　一級建築士事務所

一級建築士　№254986

代表取締役　高橋直子

検図：

設計：

担当：

工事名：史跡松ヶ岡開墾場貯桑土蔵保存修理工事

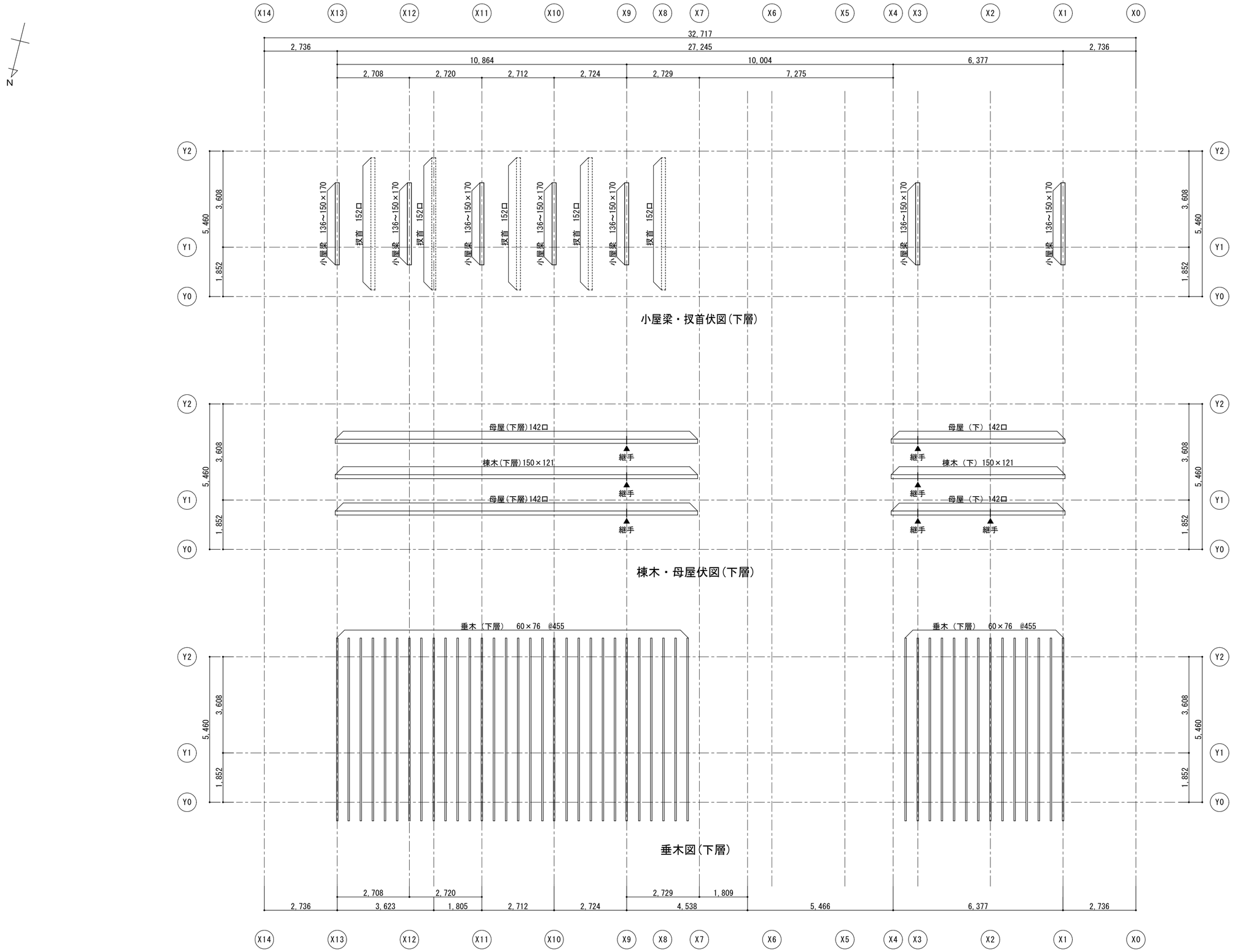
図面名：貫伏図

縮尺：1/100

設計年月日：

図面番号：１６

区分：



特記：

株式会社 伝統建築研究所

宮城県知事登録 第23410297号 一級建築士事務所

一級建築士 №254986

代表取締役 髙橋直子

検図：

設計：

担当：

工事名：

史跡松ヶ岡開墾場貯桑土蔵保存修理工事

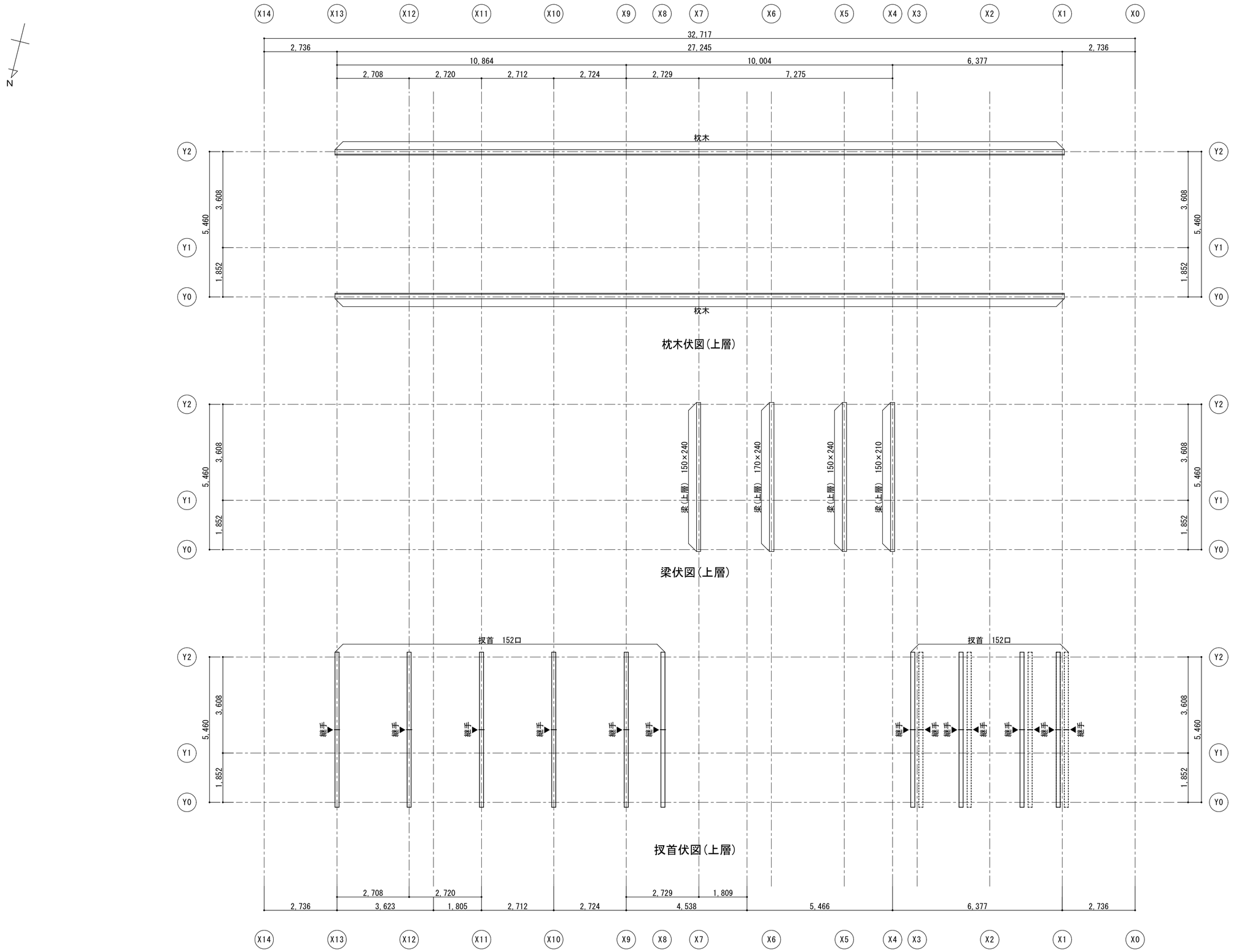
図面名： 小屋梁・扠首・母屋 棟木・垂木伏図（主屋・下層）

図面番号： 17

縮尺： 1/100

設計年月日：

区分：



特記：

株式会社 伝統建築研究所
宮城県知事登録　第23410297号　一級建築士事務所

一級建築士　№254986
代表取締役　高橋直子

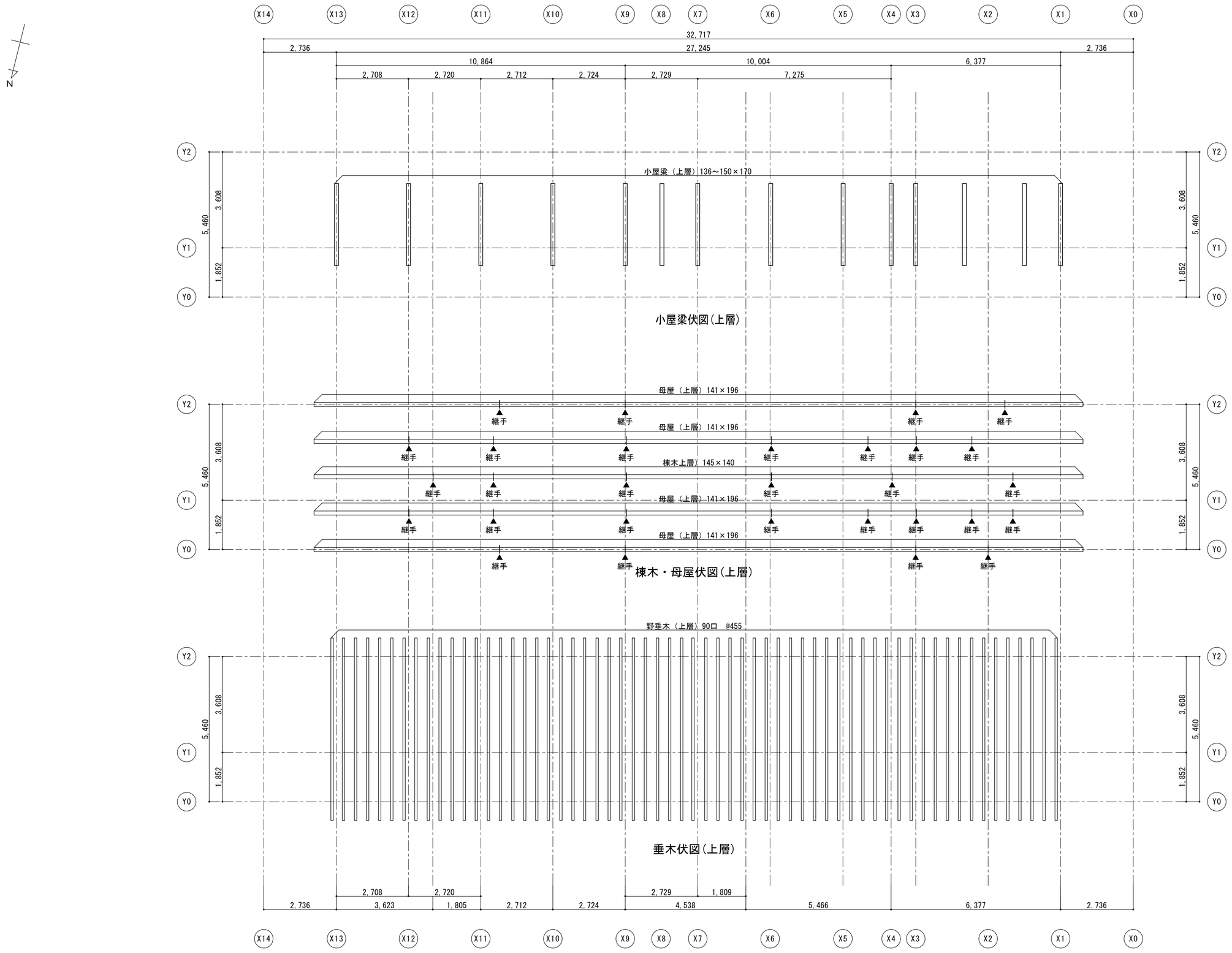
検図：
設計：
担当：

工事名：
史跡松ヶ岡開墾場貯桑土蔵保存修理工事

図面名：
枕木・梁・扠首伏図（主屋・上層）

縮尺：1/100
設計年月日：

図面番号：18
区分：



特記：

株式会社 伝統建築研究所
宮城県知事登録 第23410297号 一級建築士事務所

一級建築士 №254986
代表取締役 高橋直子

検図：
設計：
担当：

工事名：
史跡松ヶ岡開墾場貯桑土蔵保存修理工事

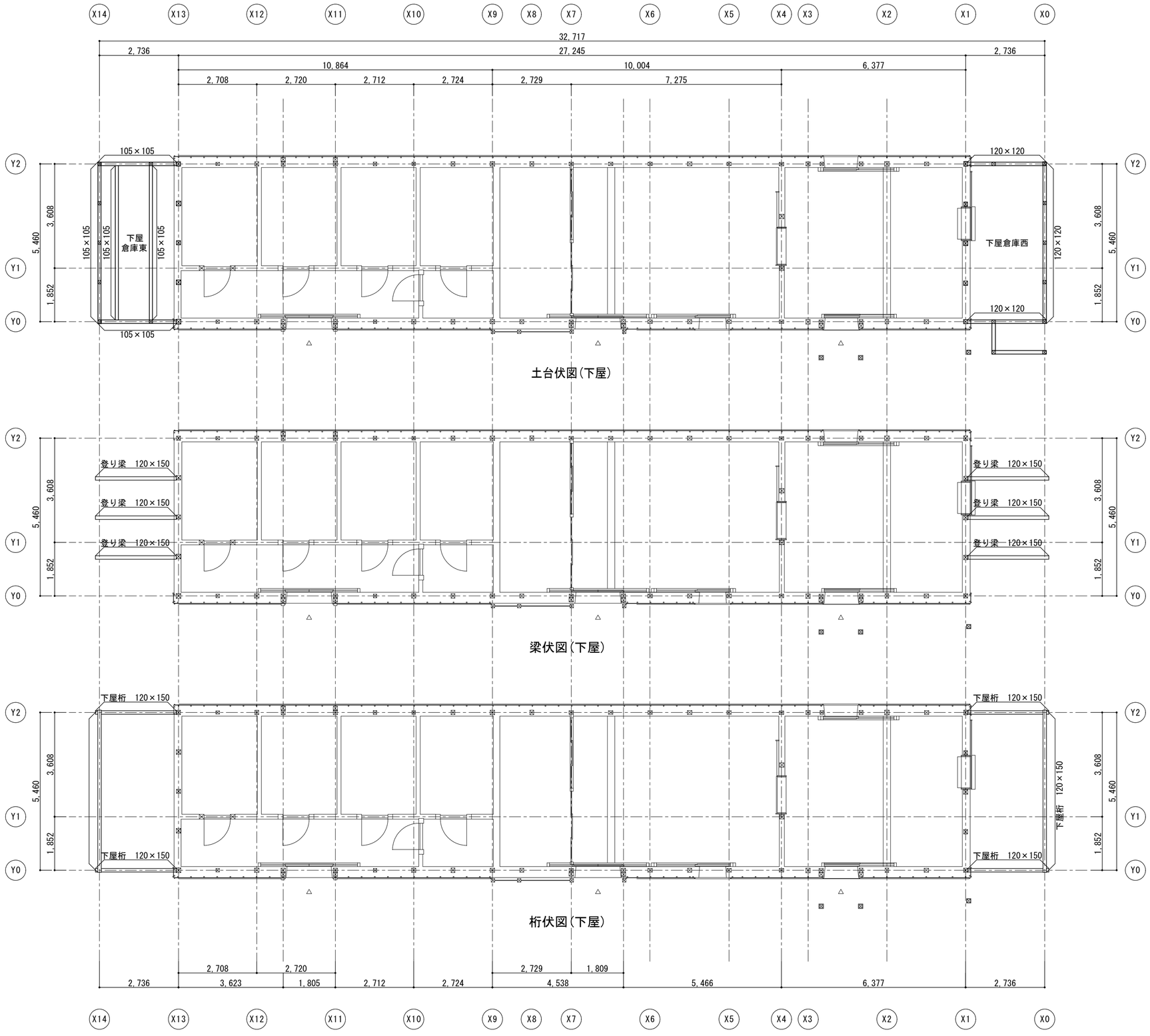
図面名：
小屋梁・棟木・母屋
垂木伏図（主屋・上層）

図面番号：
19

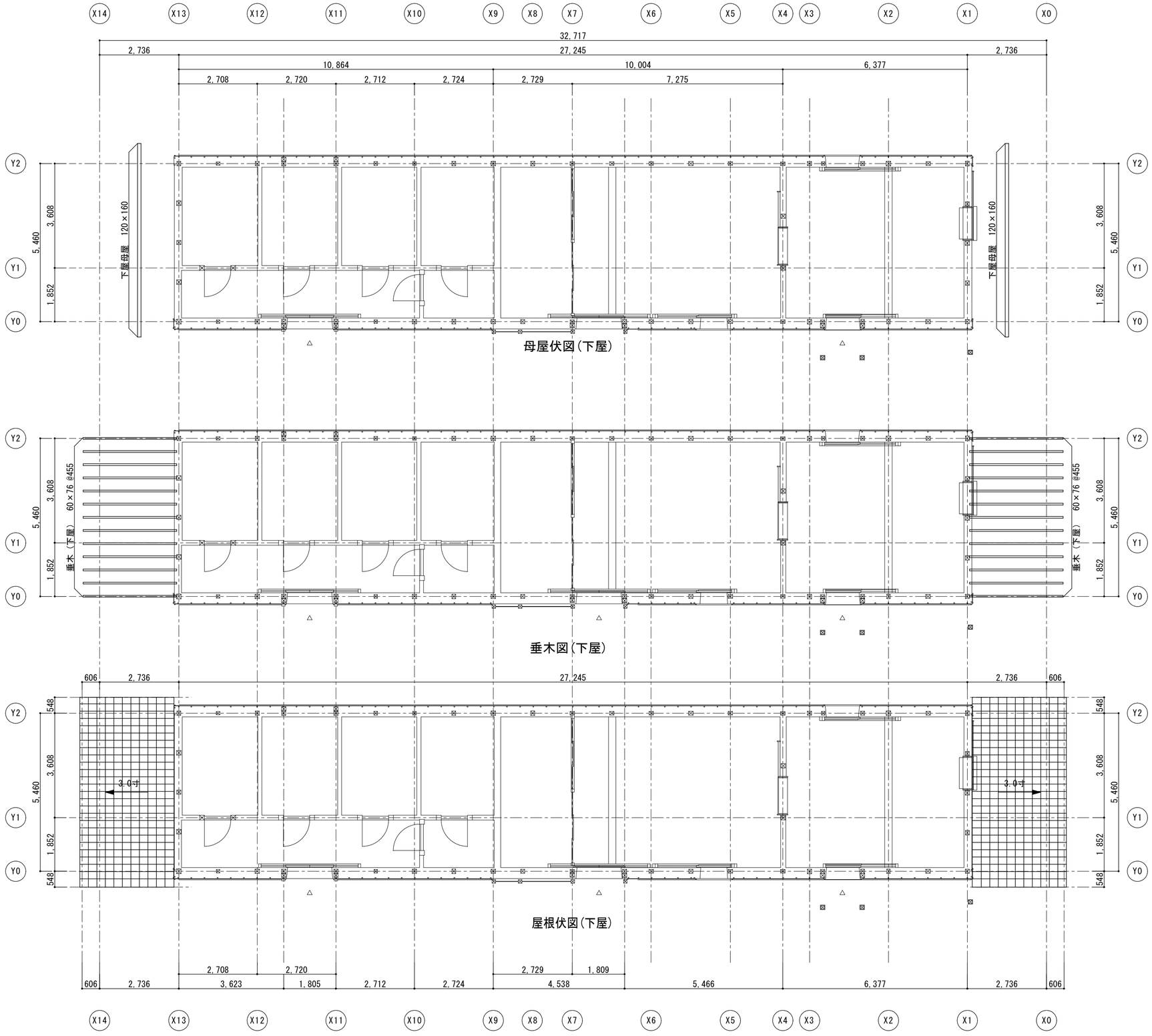
縮尺：
1/100

設計年月日：

区分：



特記：	株式会社 伝統建築研究所 宮城県知事登録　第23410297号　一級建築士事務所	一級建築士　№254986 代表取締役　髙橋直子	検図： 設計： 担当：	工事名： 史跡松ヶ岡開墾場貯桑土蔵保存修理工事	図面名： 土台・梁・桁伏図（下屋）	図面番号： ２０
					縮尺：1/100　設計年月日：	区分：



特記：

株式会社 伝統建築研究所

宮城県知事登録　第23410297号　一級建築士事務所

一級建築士　№254986

代表取締役　高橋直子

検図：

設計：

担当：

工事名：史跡松ヶ岡開墾場貯桑土蔵保存修理工事

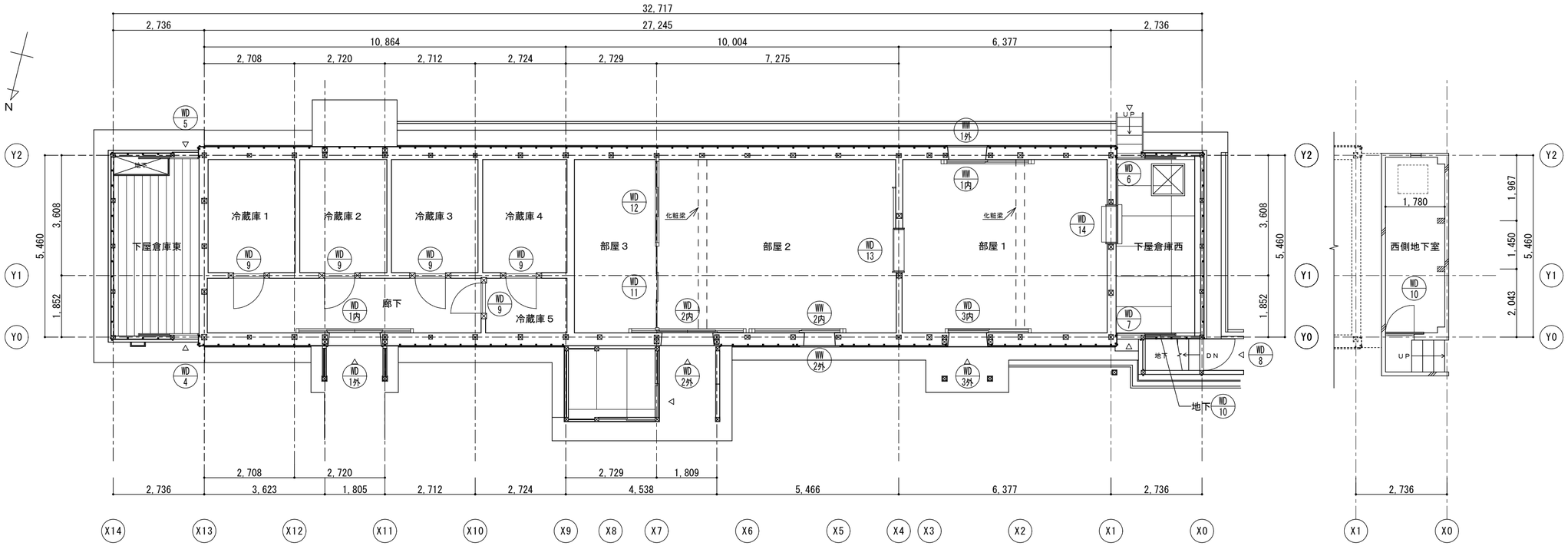
図面名：母屋・棟木・垂木・屋根伏図（下屋）

図面番号：21

縮尺：1/100

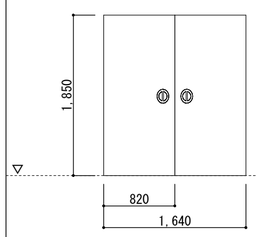
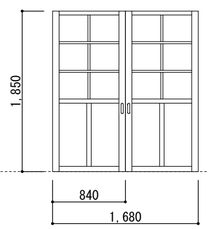
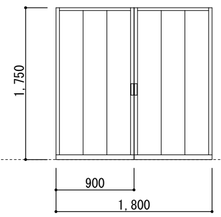
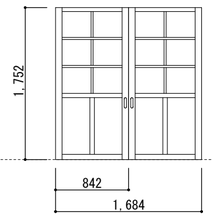
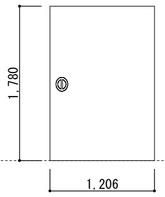
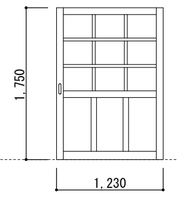
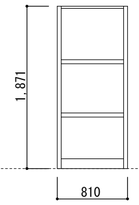
設計年月日：

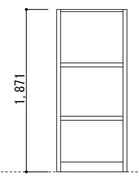
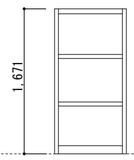
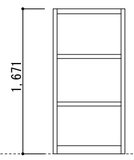
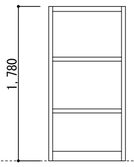
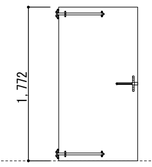
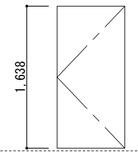
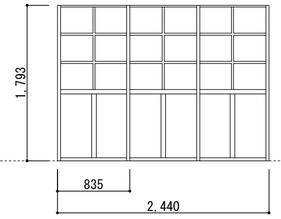
区分：

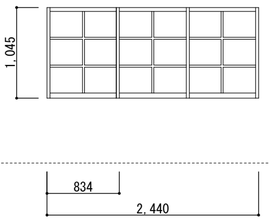
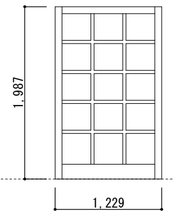
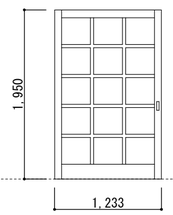
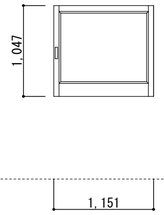
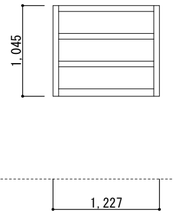
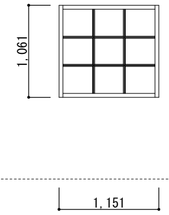
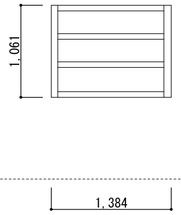


半解体前　１階平面図

特記：	株式会社 伝統建築研究所 宮城県知事登録　第23410297号　一級建築士事務所	一級建築士　№254986 代表取締役　高橋直子	検図： 設計： 担当：	工事名： 史跡松ヶ岡開墾場貯桑土蔵保存修理工事	図面名： 半解体前　建具キープラン図 縮尺：1/100	図面番号： ２２ 設計年月日： 区分：

記号	WD 1外 引き分け戸（大戸）	WD 1内 引き分けガラス戸（腰付き）	WD 2外 引き分け板戸	WD 2内 引き分けガラス戸（腰付き）	WD 3外 片引き戸（大戸）	WD 3内 片引きガラス戸（腰付き）	WD 4 片引き板戸
箇所	1	1	1	1	1	1	2
見込	52	35	34？	34？	52	34	45
姿図							
使用場所	外部～冷蔵庫前廊下	外部～冷蔵庫前廊下	外部～部屋２	外部～部屋２	外部～部屋１	外部～部屋１	外部～下屋倉庫東（北側）
仕上					ベニヤ板張　T=2.0		
付属金物							
ガラス					なし		
備考							

記号	WD 5 片引き板戸	WD 6 片引き板戸	WD 7 片引き板戸	WD 8 片開き板戸	WD 9 外開き扉	WD 10 外開き扉	WD 11 ３枚引き分けガラス戸
箇所	2	2	2	1	5	1	1
見込	45	45	45		132	60	52
姿図							
使用場所	外部～下屋倉庫東（南側）	外部～下屋倉庫西（南側）	外部～下屋倉庫西（北側）	外部～西地下階段	冷蔵庫前廊下～冷蔵庫、冷蔵庫４～冷蔵庫５	西地下階段～西地下室	部屋２～部屋３
仕上							
付属金物							
ガラス							
備考							

記号	WD 12 ３枚引き分けガラス窓	WD 13 片引きガラス戸	WD 14 片引きガラス戸	WW 1内 片引き窓	WW 1外 片引き塗ごめ窓	WW 2内 片引き格子窓	WW 2外 片引き塗ごめ窓
箇所	1	1	1	1	1	1	1
見込	35	35	35	15	24	15	24
姿図							
使用場所	部屋２～部屋３	部屋１～部屋２	部屋１～下屋倉庫西	外部～部屋１	外部～部屋１	外部～部屋２	外部～部屋２
仕上							
付属金物							
ガラス							
備考							

特記：

株式会社 伝統建築研究所

宮城県知事登録　第23410297号　一級建築士事務所

一級建築士　№254986

代表取締役　高橋直子

検図：

設計：

担当：

工事名：史跡松ヶ岡開墾場貯桑土蔵保存修理工事

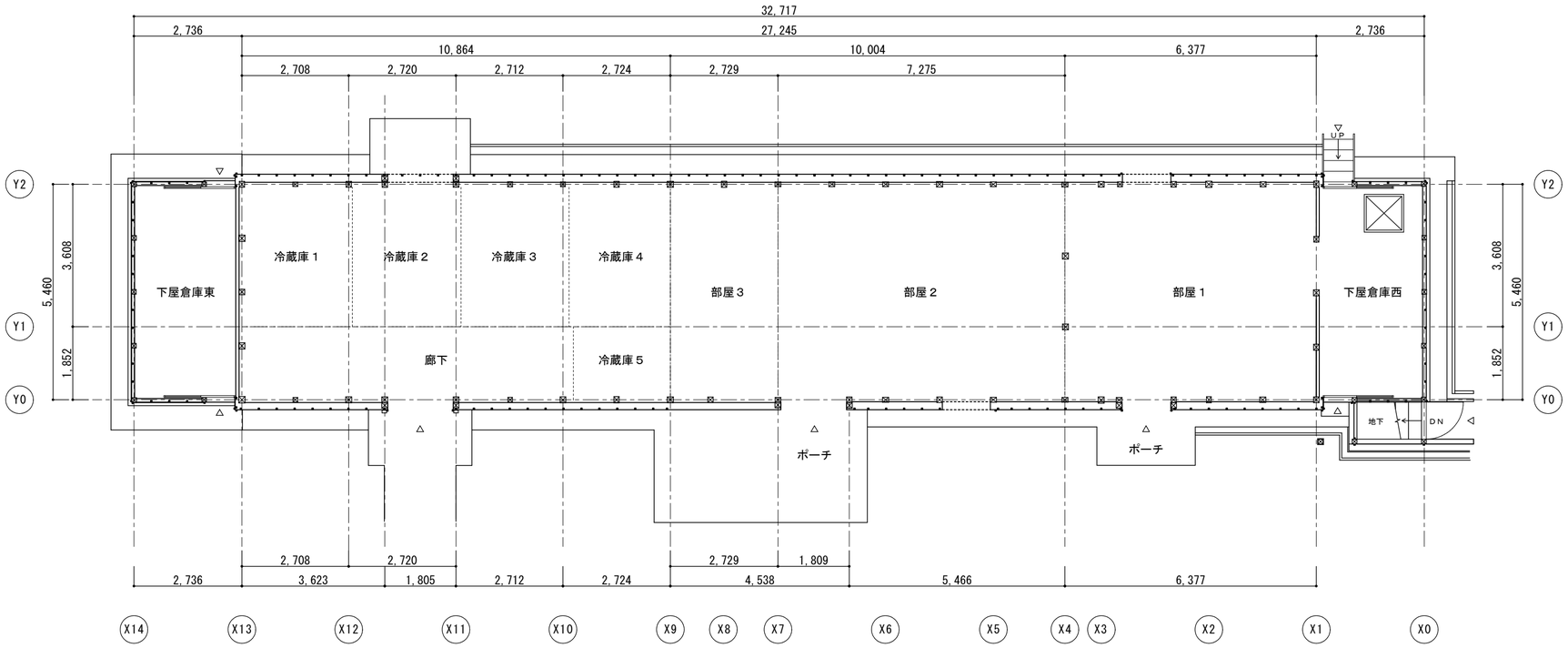
図面名：半解体前　建具表

図面番号：２３

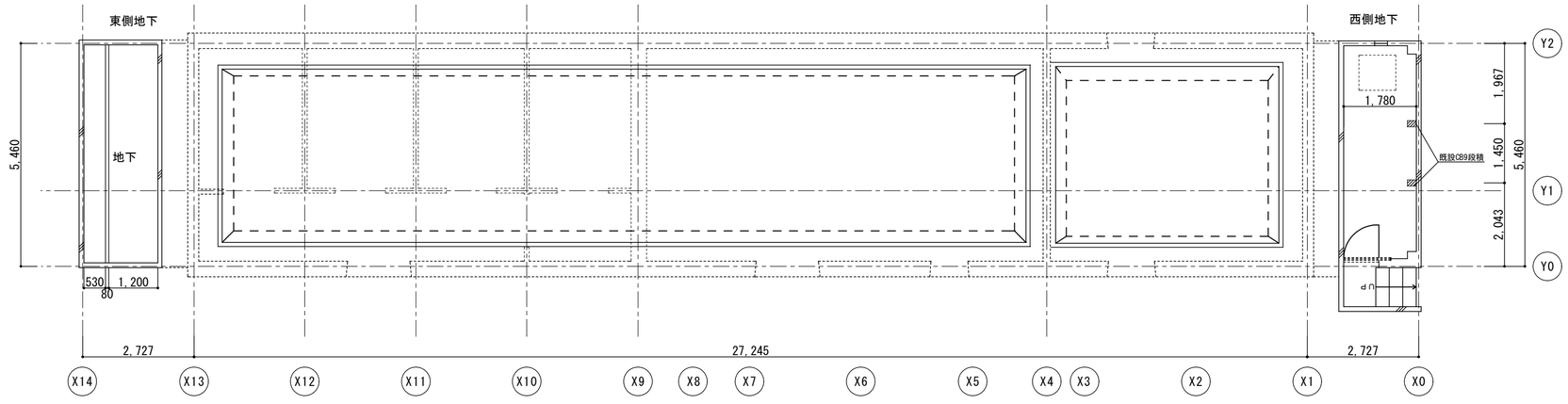
縮尺：1/50

設計年月日：

区分：



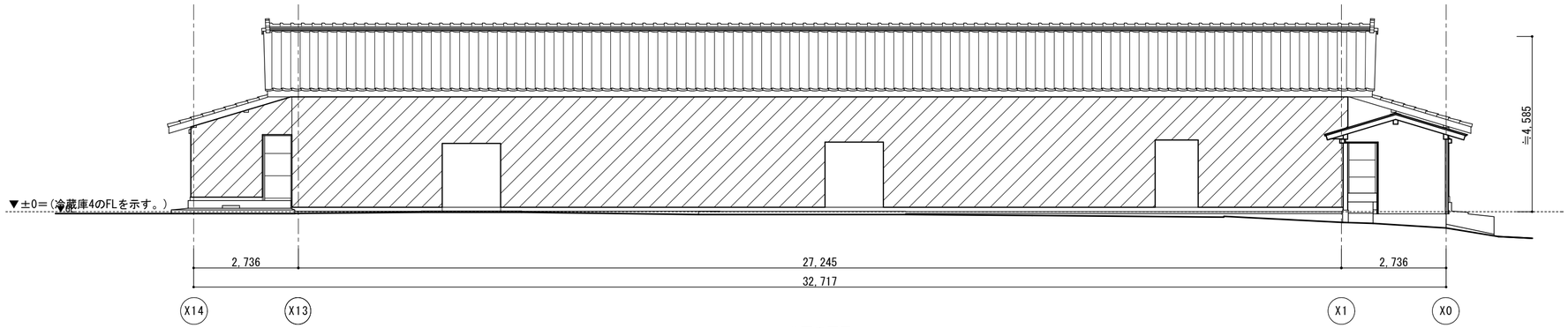
１階平面図



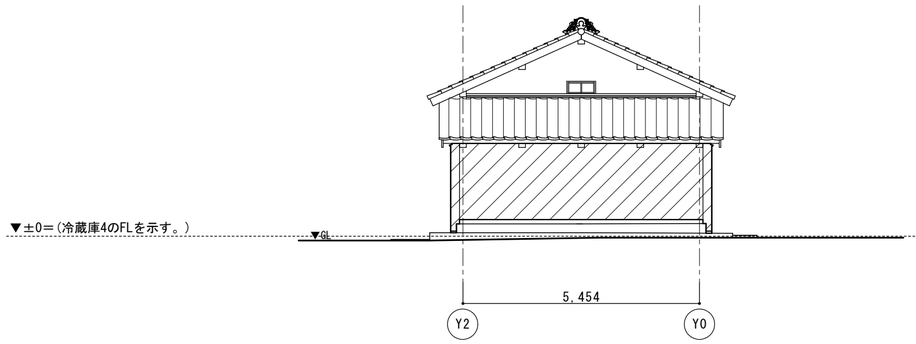
地階平面図

特記：	株式会社 伝統建築研究所 宮城県知事登録　第23410297号　一級建築士事務所	一級建築士　№254986 代表取締役　高橋直子	検図： 設計： 担当：	工事名： 史跡松ヶ岡開墾場貯桑土蔵保存修理工事	図面名： 半解体後平面図 縮尺：1/100　設計年月日：	図面番号： ２４ 区分：

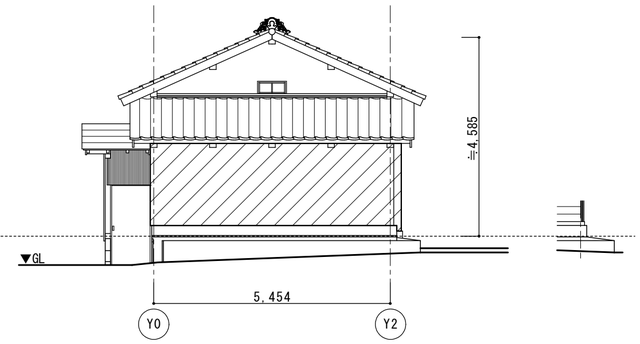
外壁養生材



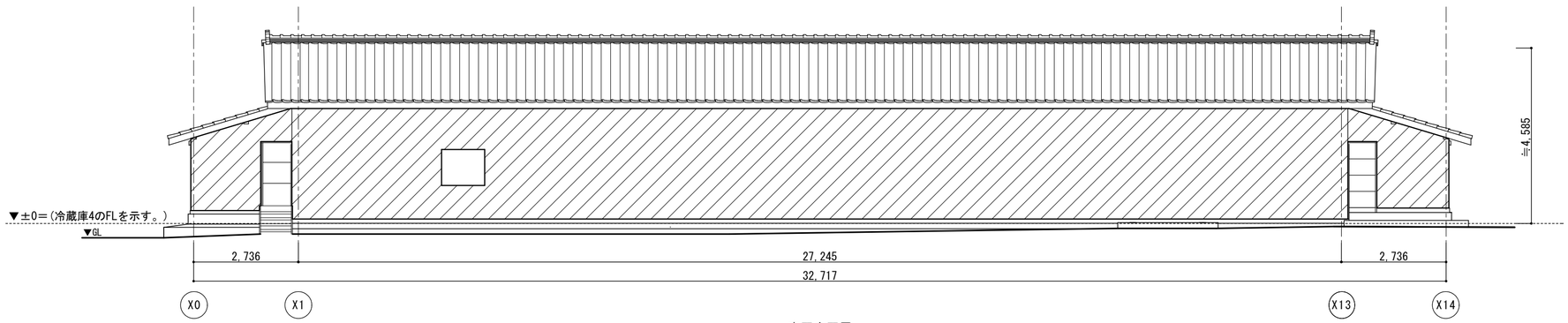
北面立面図



東面立面図

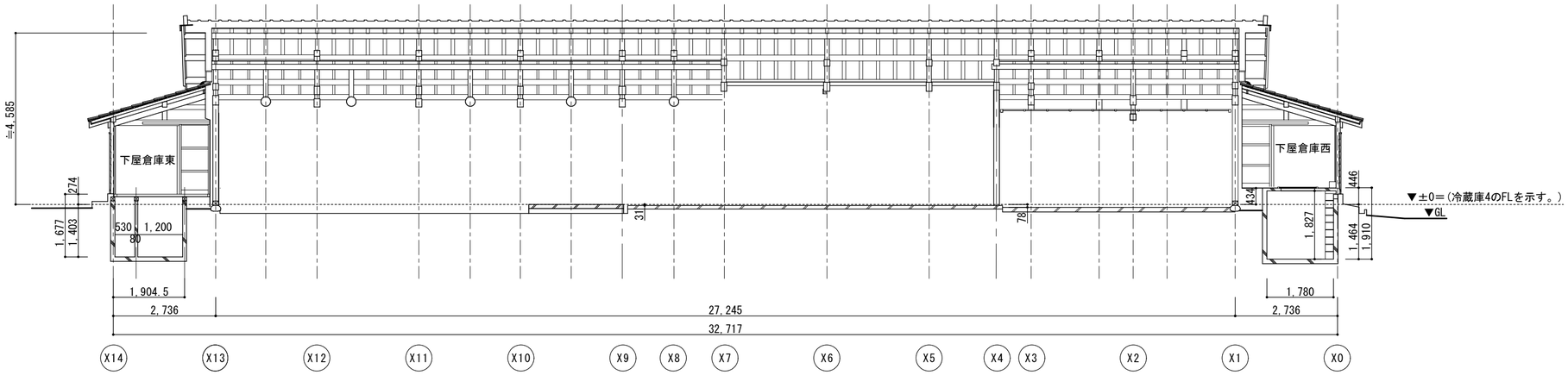


西面立面図

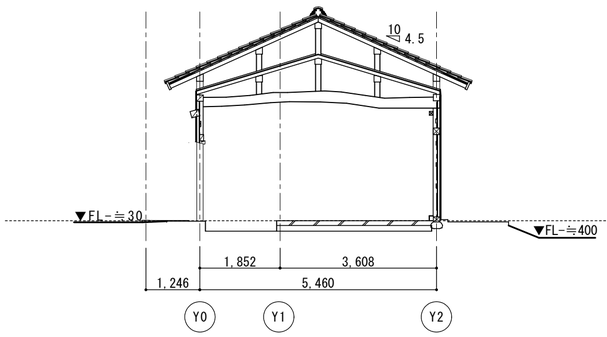


南面立面図

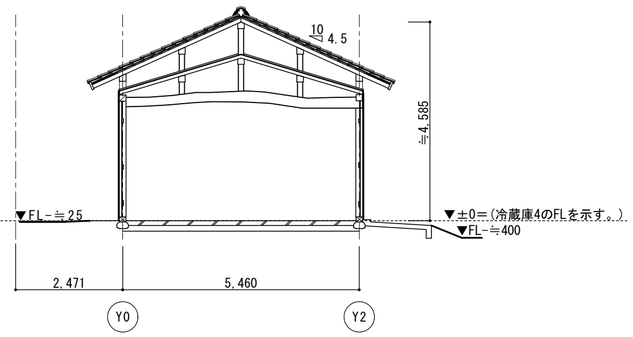
特記：	株式会社 伝統建築研究所 宮城県知事登録　第23410297号　一級建築士事務所	一級建築士　№254986 代表取締役　高橋直子	検図： 設計： 担当：	工事名： 史跡松ヶ岡開墾場貯桑土蔵保存修理工事	図面名： 半解体後　立面図 縮尺：1/100	図面番号： ２５ 設計年月日： 区分：



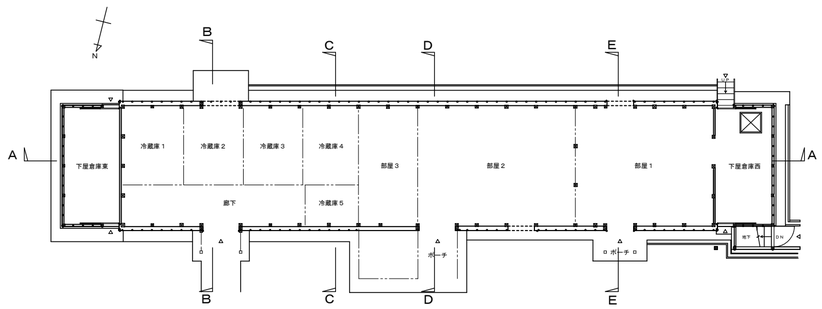
A－A断面図

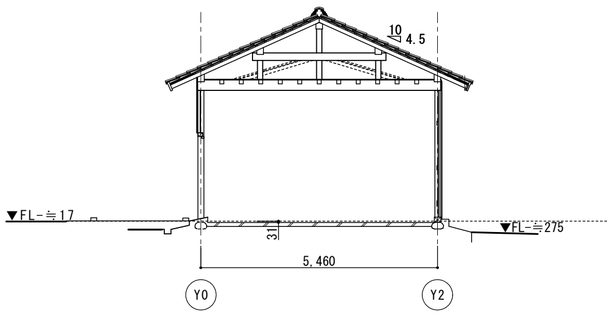


B－B断面図

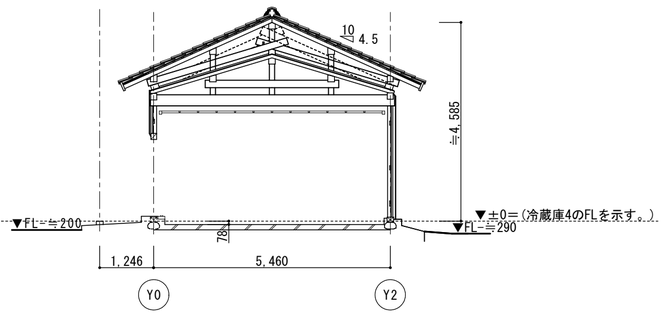


C－C断面図



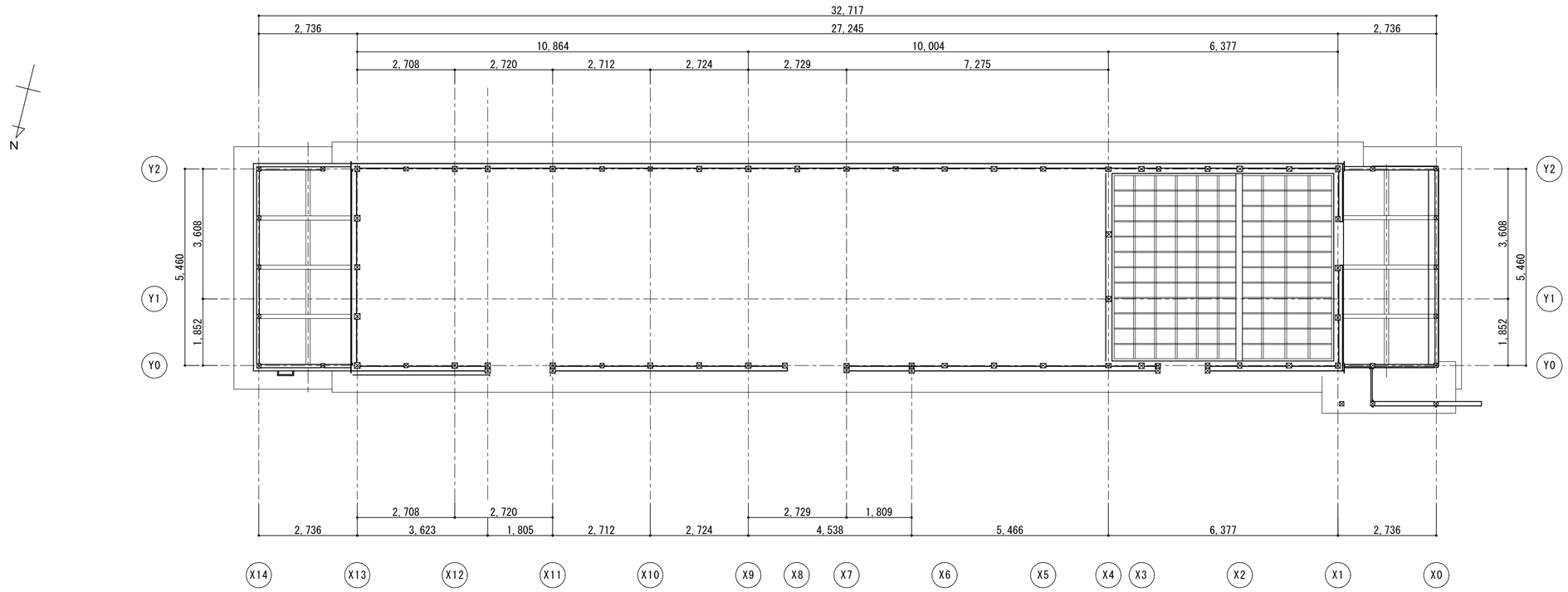


D－D断面図

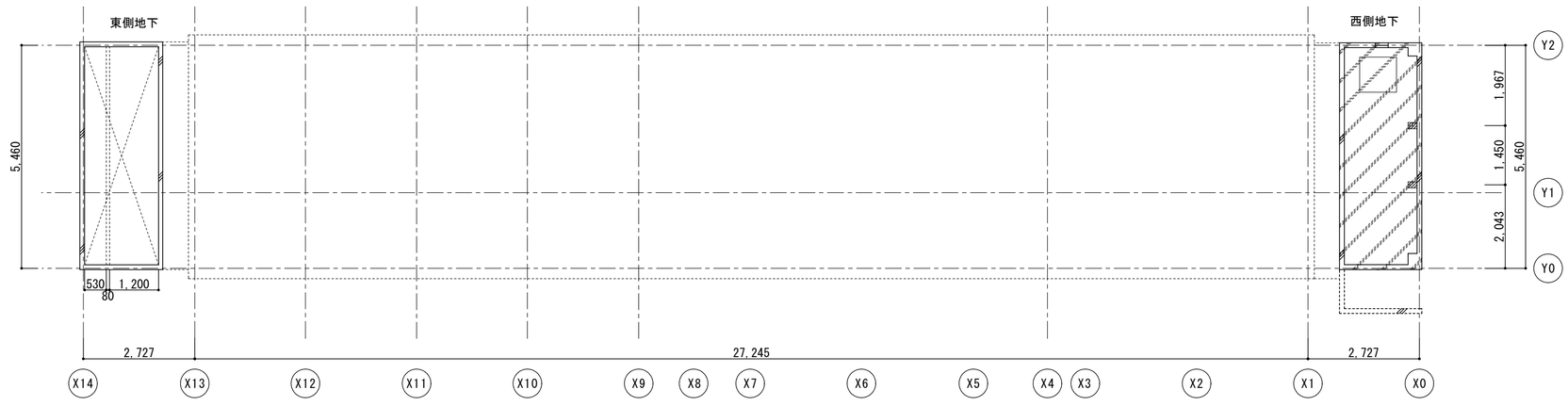


E－E断面図

特記：	株式会社 伝統建築研究所 宮城県知事登録　第23410297号　一級建築士事務所	一級建築士　№254986 代表取締役　高橋直子	検図： 設計： 担当：	工事名： 史跡松ヶ岡開墾場貯桑土蔵保存修理工事	図面名： 半解体後　断面図 縮尺：1/100　設計年月日：	図面番号： ２６ 区分：



半解体前　１階天井伏図



半解体前　地階天井伏図

特記：	株式会社 伝統建築研究所 宮城県知事登録　第23410297号　一級建築士事務所	一級建築士　№254986 代表取締役　高橋直子	検図： 設計： 担当：	工事名： 史跡松ヶ岡開墾場貯桑土蔵保存修理工事	図面名： 半解体後　天井伏図 縮尺：1/100　設計年月日：	図面番号： ２７ 区分：

○工事概要（各種工事図による）

①解体工事

・外壁養生の構造用合板を解体する。
・下屋部の全解体。部材は番付をﾀｯｶｰで取付け、伏図を作成の後、保管する。
・セメント瓦の全解体を行う。基本的に鬼は既存再利用、その他状態の良い物は保存する。
　瓦の解体時は、シート養生などで雨を防ぐ事。
・解体に当たっては詳細な調査を行い、監督職員等に状況報告し指示を受ける事。

②仮設工事

・解体工事の際に使用した共通仮設を継続して使用する。
・①の解体工事終了後、素屋根を施工する。その際、後の揚家の仮設材搬入やセットに支障のないよう
　十分協議を行う事。

③素屋根工事

・足場及び鉄管を使用して素屋根を建てる。屋根は波板鉄板と3割を明取り用のﾌﾟﾗｽﾁｯｸ板とする。
・外周は養生シート張りとする。
・積雪時を考慮し、適宜補強を行う。

④揚家工事

・揚家に際し鋼材を挿入する箇所の土壁を部分的に解体撤去する。
・建物全体を１m程度ｼﾞｬｯｷｱｯﾌﾟをする。

⑤基礎工事

・本舎部分に防蟻処理を行う。
・土台を解体した後、礎石とその周辺を清掃する。礎石は沈下やずれが著しい場合を除き動かさない事。
・礎石間は土台が載る部分の高さまで、型枠を用いて土をたたき締める。
・東側下屋部の地上部の基礎で欠けや割れの著しい部分を解体し、既存部との接合金物を打設後、新しく
　コンクリート基礎を施工する。

⑥木工事

・木材は原則として既存と同様の材種、材寸を使用する事。
・本舎の土台は全て新規材に取替える。柱、貫、梁、母屋、棟木、垂木などの腐朽が進んでいる
　箇所は、取替・継木・添え木で修理する。
・本舎の野地板、桟木、広小舞、破風も腐朽が進んでいる範囲を取り換える（木工事図参照）
・解体した下屋は、部材の修繕を行った後建て方を行う。
・解体している庇は、2カ所(北面の西側と東側）は修繕を行った後建て方。復元を行う2カ所
　（北面中央と南面）は新規材にて建てる。
　庇材に転用できる材があった場合は、再利用しても可。監督員等と協議を行う。
・新たに設ける床組、間仕切り壁、天井に関しても、本舎の修繕と同様の仕様で施工する事。
・古色塗は灰汁を使用した方法でサンプルで確認した後に施工する。

⑦屋根工事

・原則として材の状態がいいものは再利用し、施工範囲は数量によって検討する。
・既存の鬼瓦は、補修を行って再利用する。
・下地は杉皮を使用している箇所は再利用。欠損部は補充の上再利用する。
・杉皮が撤去されている範囲は下地をアスファルトルーフィングで施工する。

⑧左官工事

・解体していない外部土壁は揚家の際に一部解体を行うが、極力温存する事。
・外部土壁の撤去を行った部分は小舞修理の上、荒壁塗・斑直しを行う。それ以外の部分は
　壁の補修後、中塗り仕上を行う。外部は下見板壁上部を漆喰仕上げとする。
・内部土壁は取り外した小舞を使用して修繕後、再取り付けを行う。その後、荒壁・斑直し・中塗・
　漆喰仕上げを行う。
・下屋部は新規竹小舞、荒壁、斑直し、中塗りを施し、漆喰仕上げとする。
・妻壁は既存漆喰を撤去し、中塗り補修の後、漆喰仕上げとする。
・開口部廻りは中塗り、漆喰仕上げとする。場合によっては砂漆喰を用いる。

⑨板金工事

・解体した軒裏の板金の状態の良い物を整形後、再利用とする。
・鼻隠し、破風、母屋・棟木木口、下屋軒天の板金も、解体前と同様の形状として新規材で施工する。

⑩塗装工事

・板金部に塗装する場合、錆止め及びSOP(白）とする。
・木部に塗装する場合、新規材に古色塗を施す（木工事にて）・。

⑪建具工事

・取り外した既存建具の修理、再取り付け。
・新規建具は、取り外したが使用しない建具の再利用を含め、既存建具と同様の仕様とする。

⑫その他工事

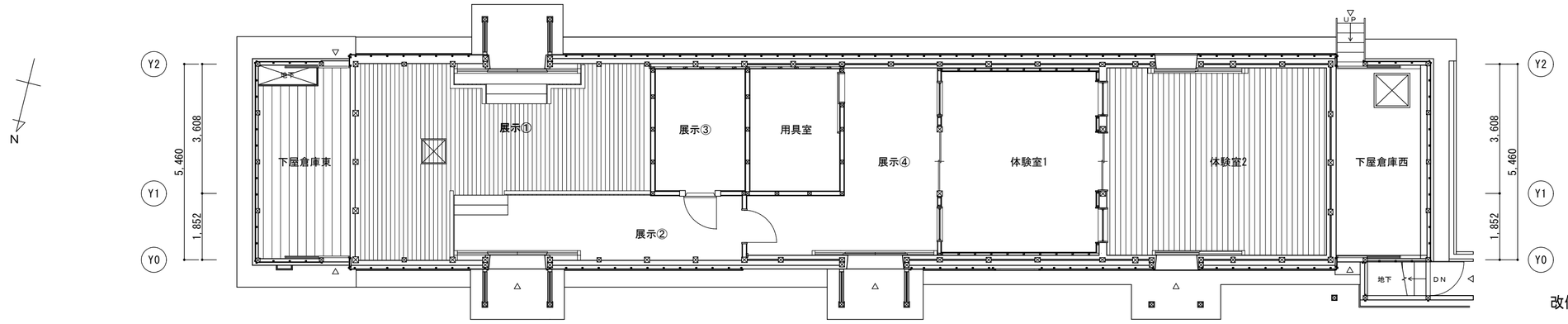
・利活用に応じ、栗の板床や展示用壁の施工を行う。
・地下遺構の土間コンクリートの展示のためのピット工事を行う。

⑬設備工事

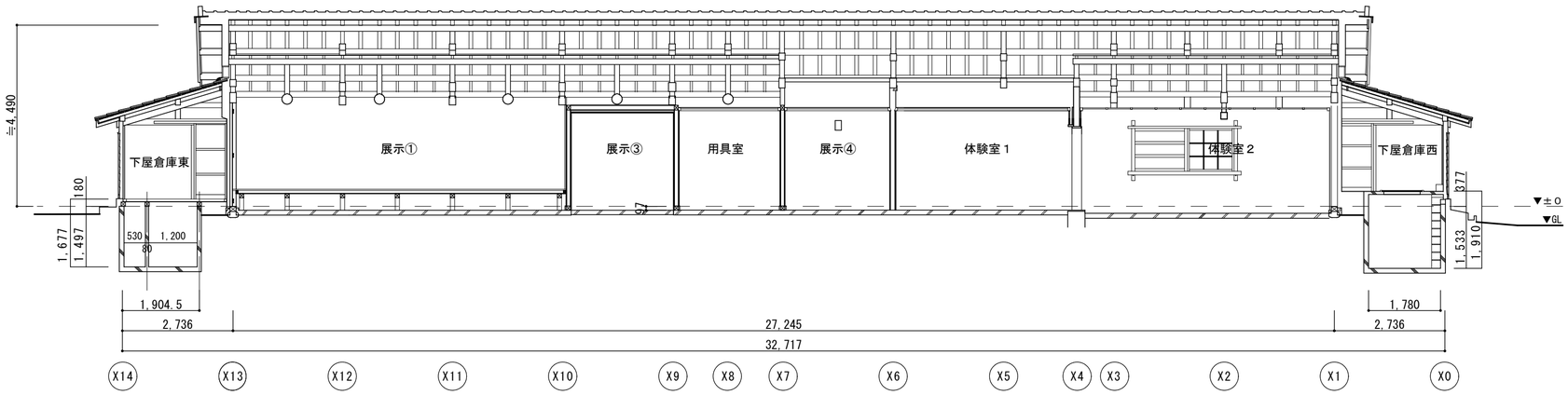
・空調設備、換気設備の設置
・手洗い器の設置
・電気設備として照明器具、コンセント、配電盤、消防設備の設置

⑭外構工事

・犬走及び雨落ちのコンクリートに見られるひび割れをモルタルにて補修する。

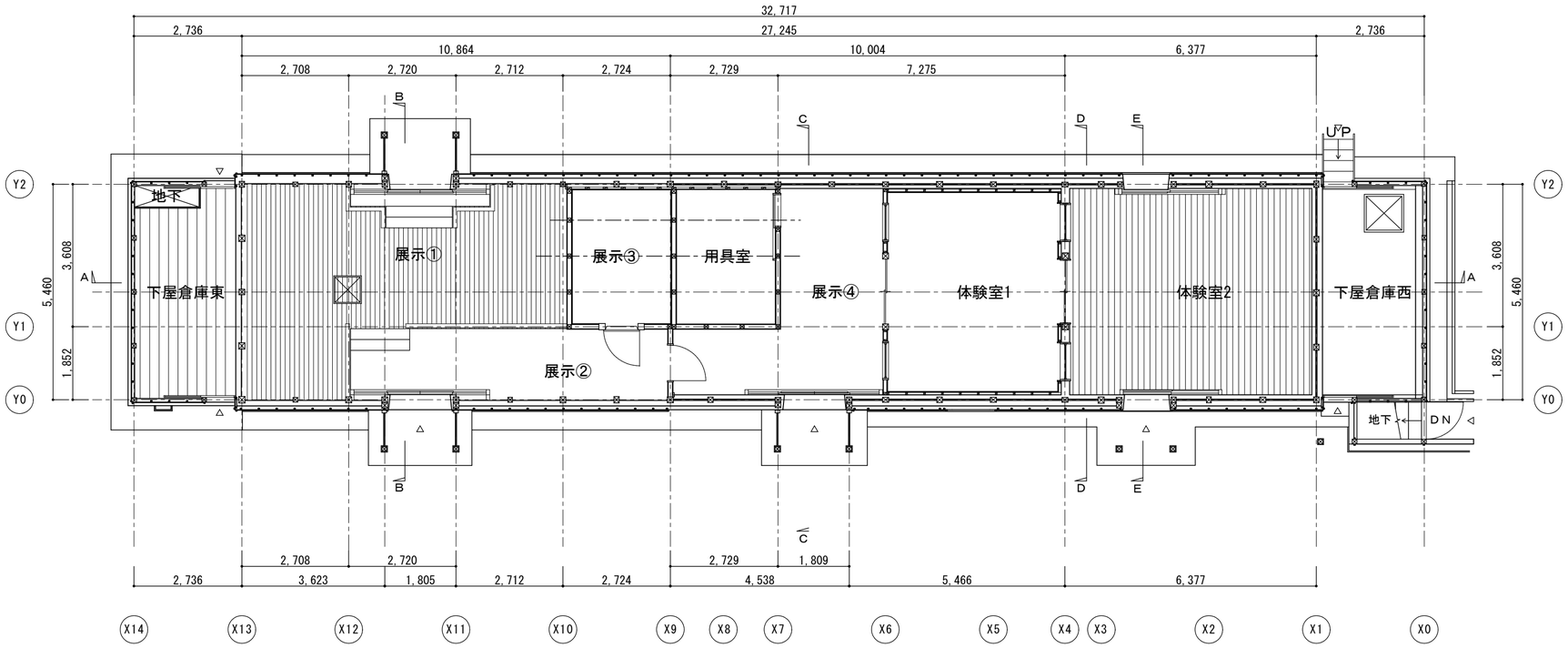


改修１階平面図

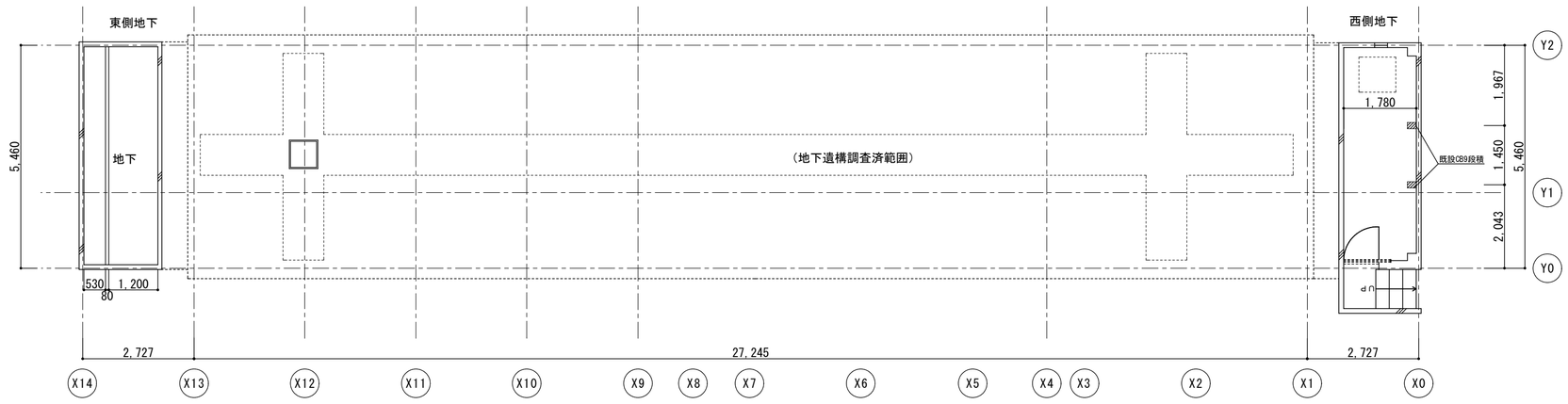


改修桁行断面図

特記：	株式会社 伝統建築研究所 宮城県知事登録　第23410297号　一級建築士事務所	一級建築士　№254986 代表取締役　高橋直子	検図： 設計： 担当：	工事名： 史跡松ヶ岡開墾場貯桑土蔵保存修理工事	図面名：改修工事概要 縮尺：1/100　設計年月日：	図面番号：２８ 区分：

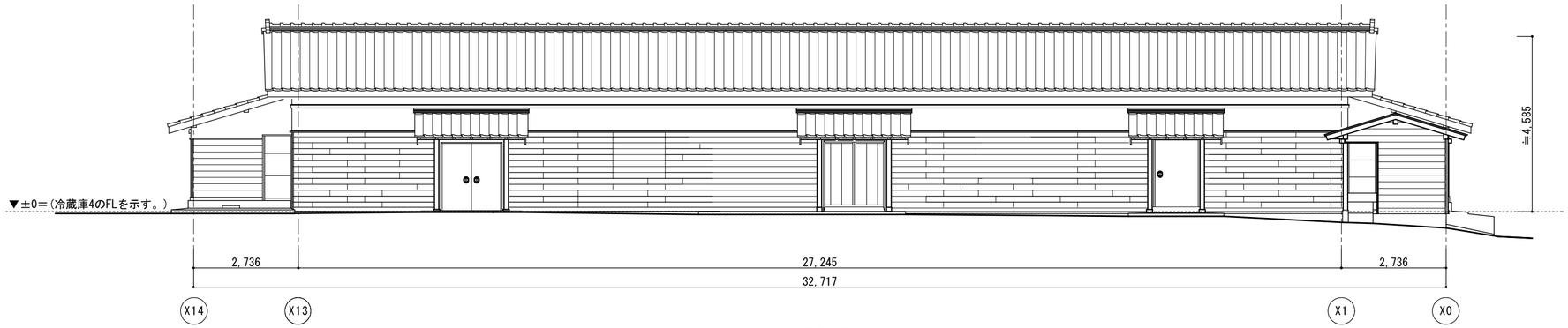


改修１階平面図

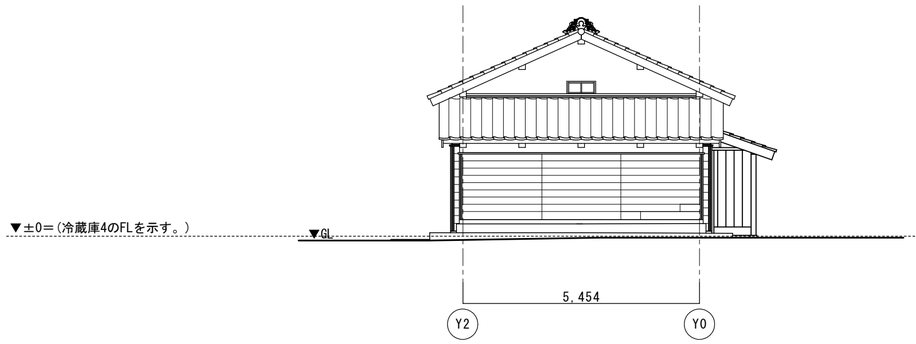


改修地階平面図

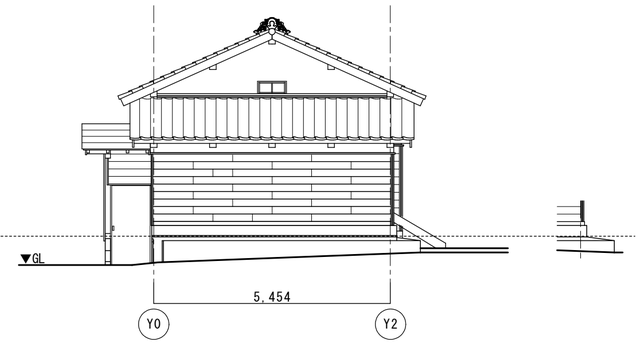
特記：	株式会社 伝統建築研究所 宮城県知事登録　第23410297号　一級建築士事務所	一級建築士　№254986 代表取締役　高橋直子	検図： 設計： 担当：	工事名： 史跡松ヶ岡開墾場貯桑土蔵保存修理工事	図面名： 改修平面図 縮尺：1/100　設計年月日：	図面番号： ２９ 区分：



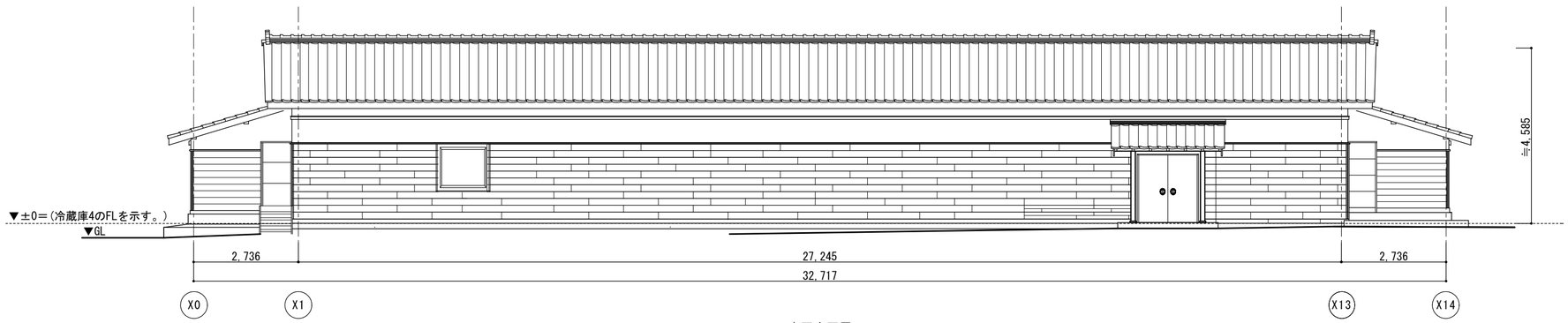
北面立面図



東面立面図

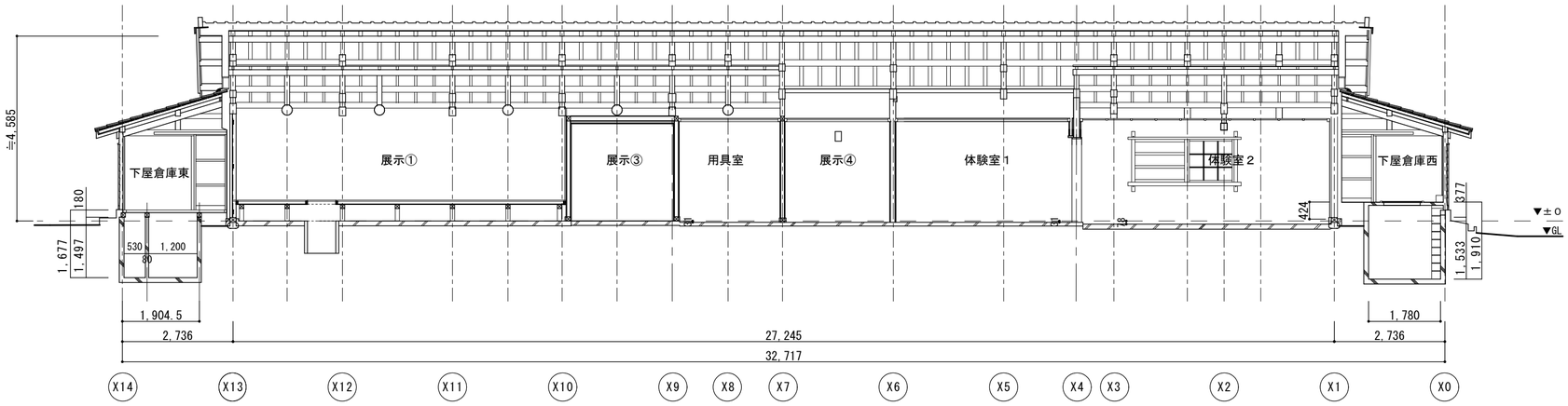


西面立面図

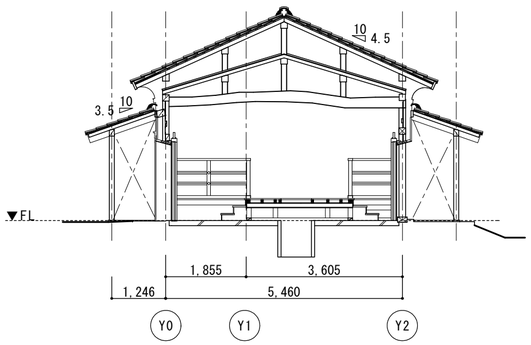


南面立面図

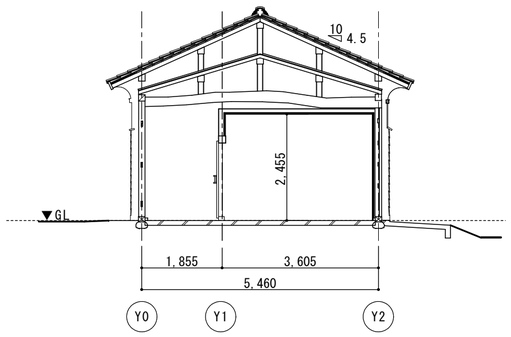
特記：	株式会社 伝統建築研究所 宮城県知事登録　第23410297号　一級建築士事務所	一級建築士　№254986 代表取締役　高橋直子	検図： 設計： 担当：	工事名： 史跡松ヶ岡開墾場貯桑土蔵保存修理工事	図面名： 改修立面図 縮尺：1/100　設計年月日：	図面番号： ３０ 区分：



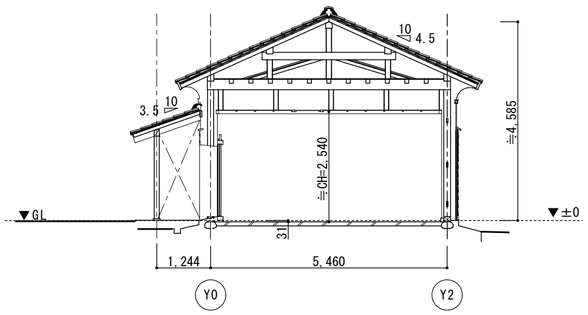
A－A断面図



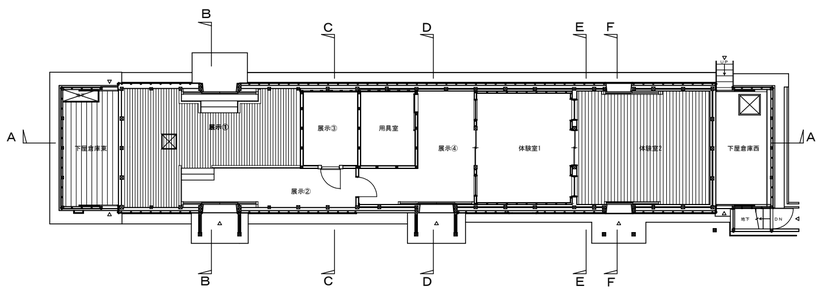
B－B断面図

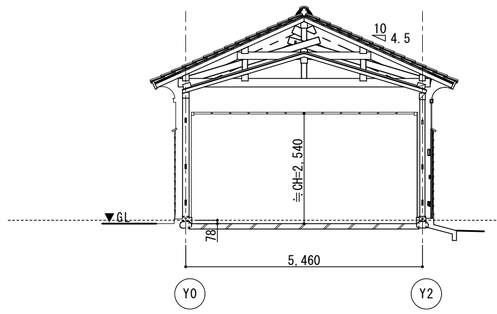


C－C断面図

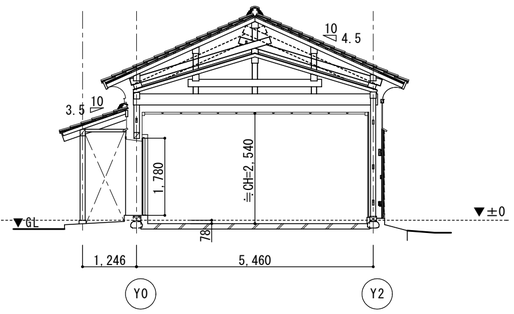


D－D断面図



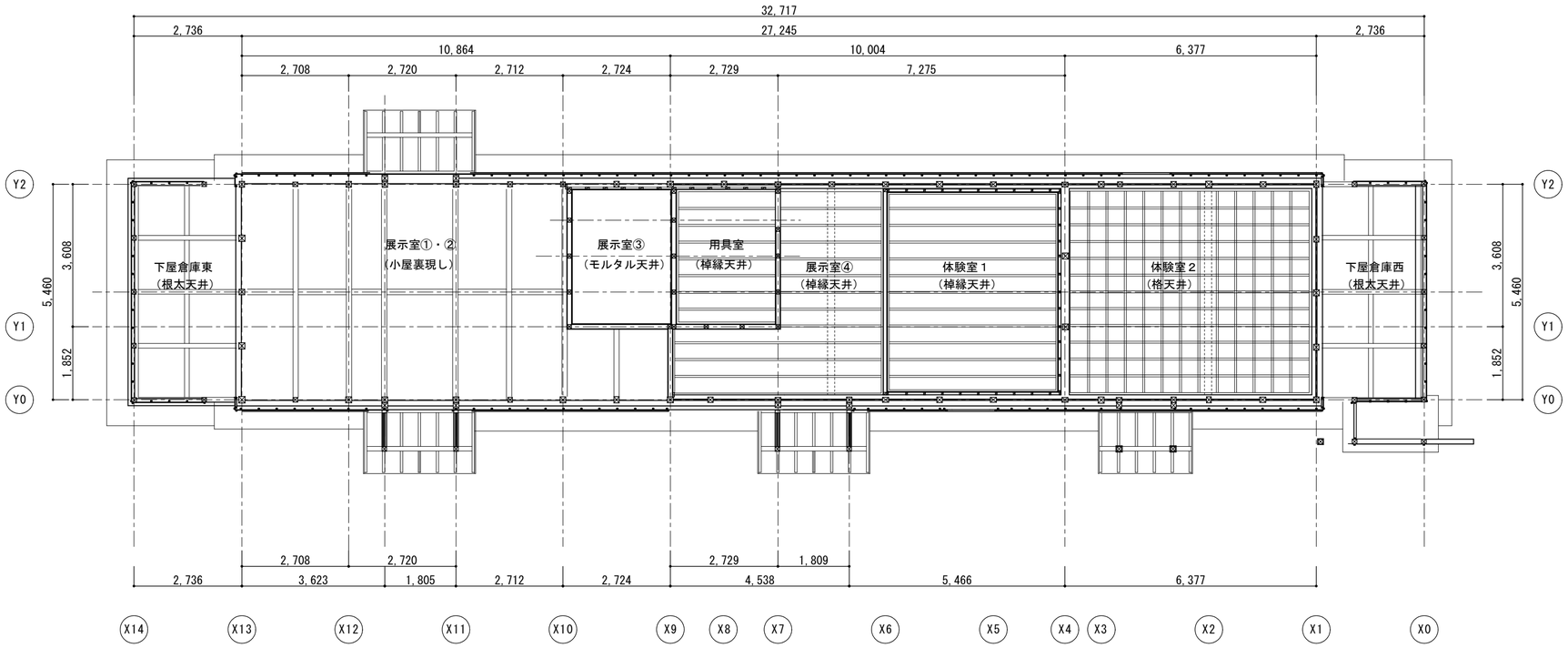


E－E断面図

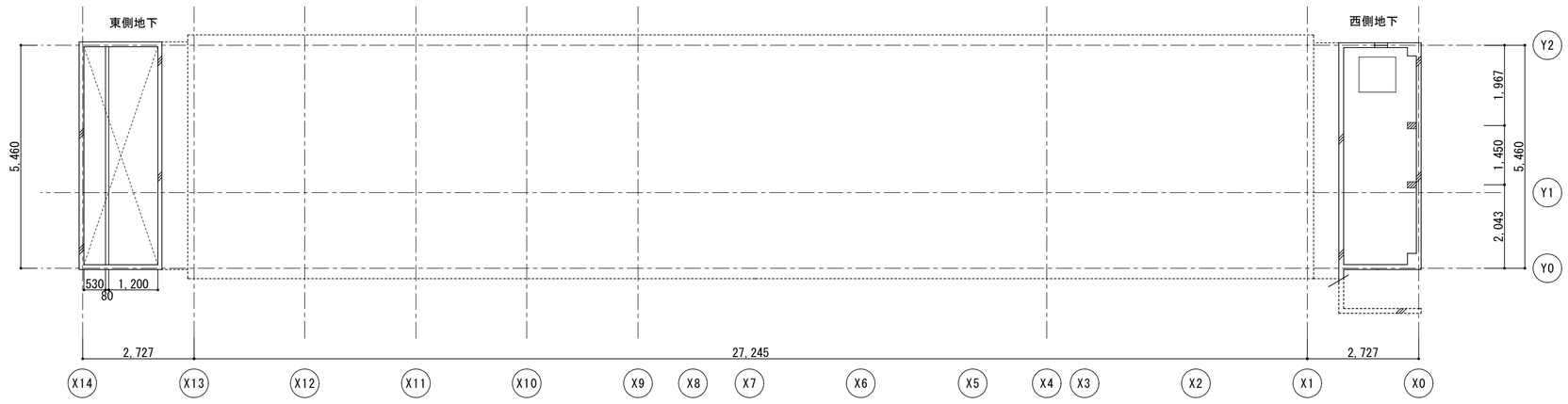


F－F断面図

特記：	株式会社 伝統建築研究所 宮城県知事登録　第23410297号　一級建築士事務所	一級建築士　№254986 代表取締役　高橋直子	検図： 設計： 担当：	工事名： 史跡松ヶ岡開墾場貯桑土蔵保存修理工事	図面名： 改修断面図 縮尺：1/100	図面番号： 31 設計年月日： 区分：

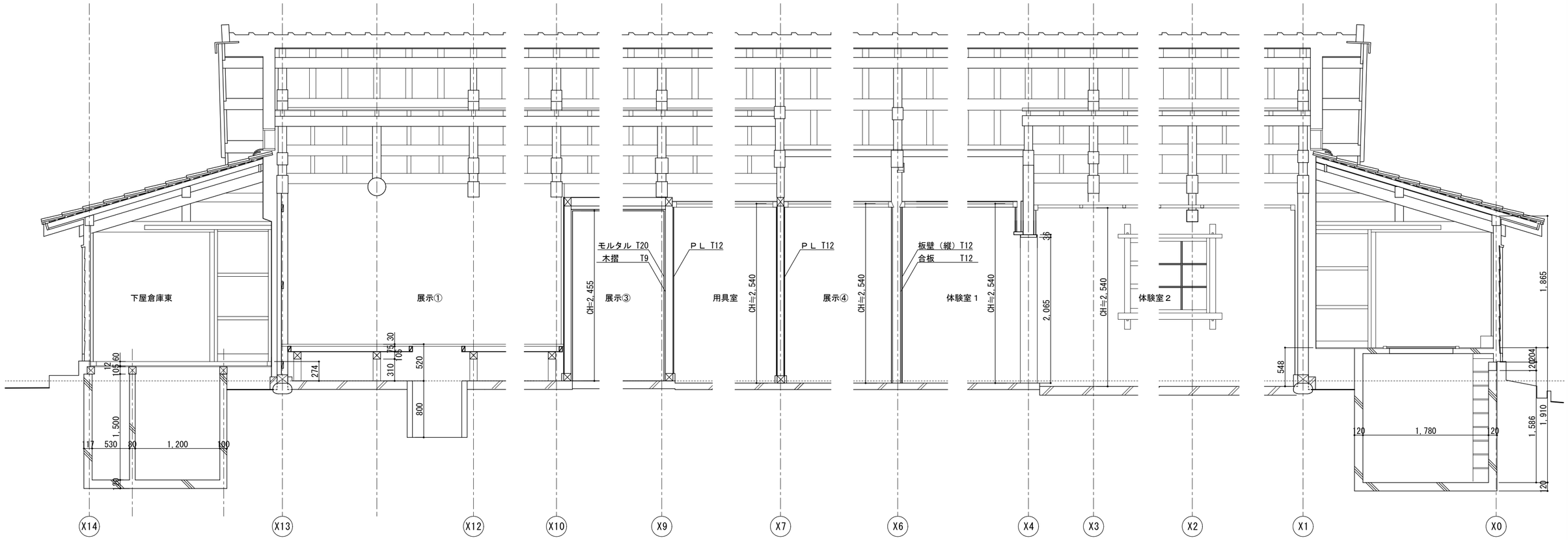


改修１階天井伏図

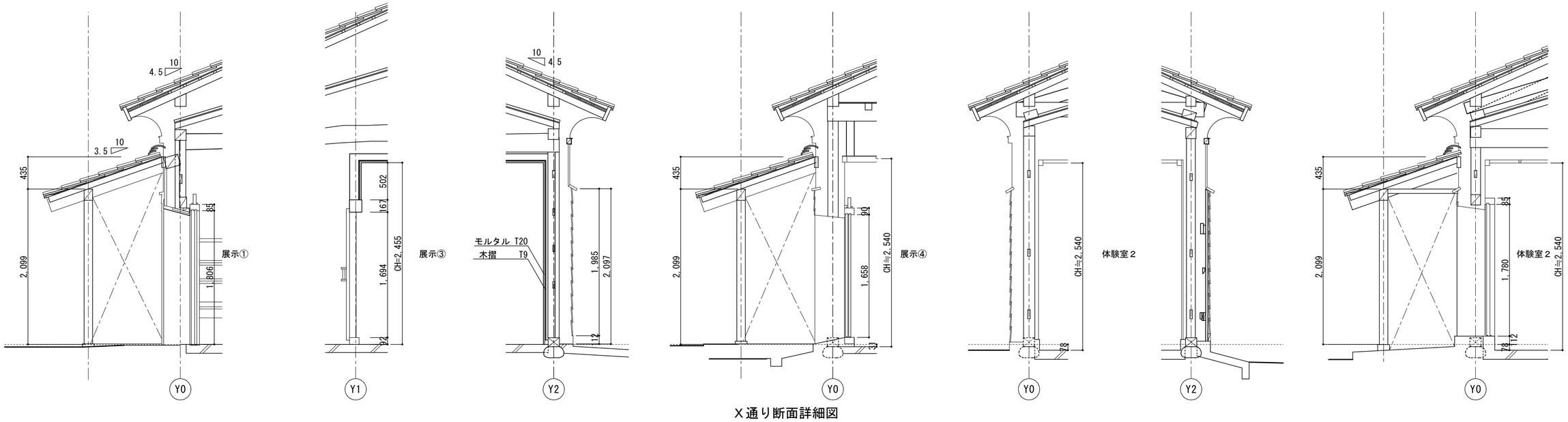


改修地階天井伏図

特記：	株式会社 伝統建築研究所 宮城県知事登録　第23410297号　一級建築士事務所	一級建築士　№254986 代表取締役　高橋直子	検図： 設計： 担当：	工事名： 史跡松ヶ岡開墾場貯桑土蔵保存修理工事	図面名： 改修天井伏図 縮尺：1/100　設計年月日：	図面番号： ３２ 区分：

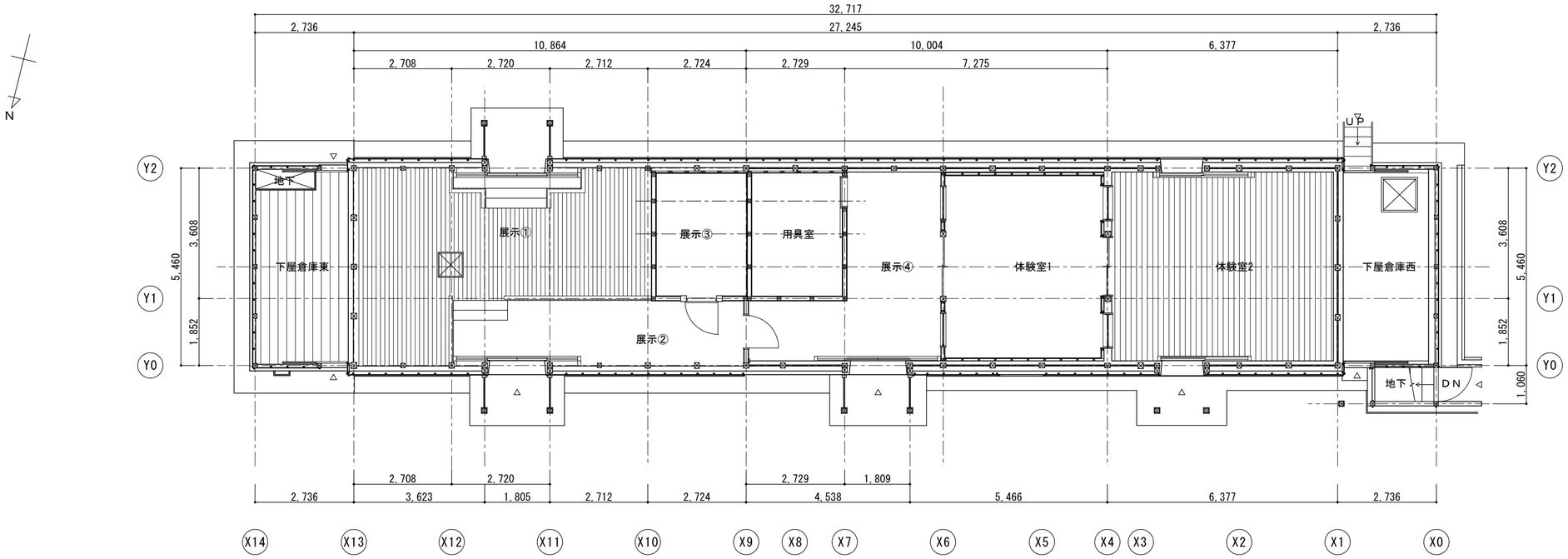


Ｙ通り断面詳細図

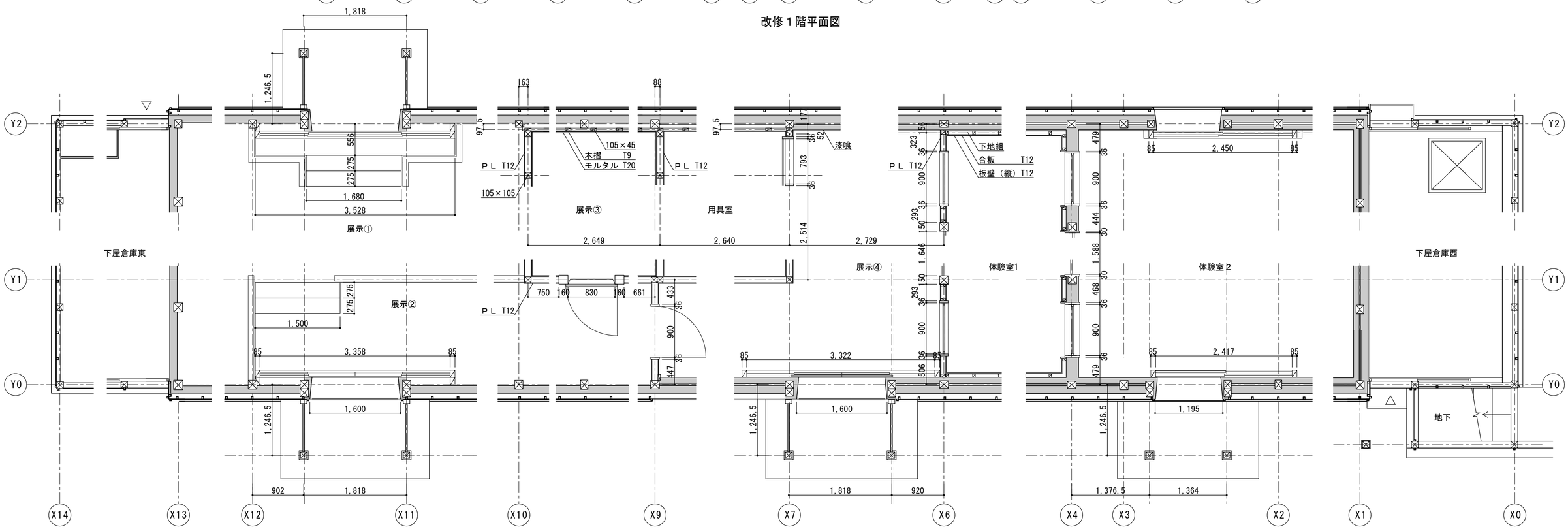


Ｘ通り断面詳細図

特記：	株式会社 伝統建築研究所 宮城県知事登録 第23410297号 一級建築士事務所	一級建築士 №254986 代表取締役 高橋直子	検図： 設計： 担当：	工事名： 史跡松ヶ岡開墾場貯桑土蔵保存修理工事	図面名： 改修 断面詳細図 縮尺：1/40 設計年月日：	図面番号： ３３ 区分：

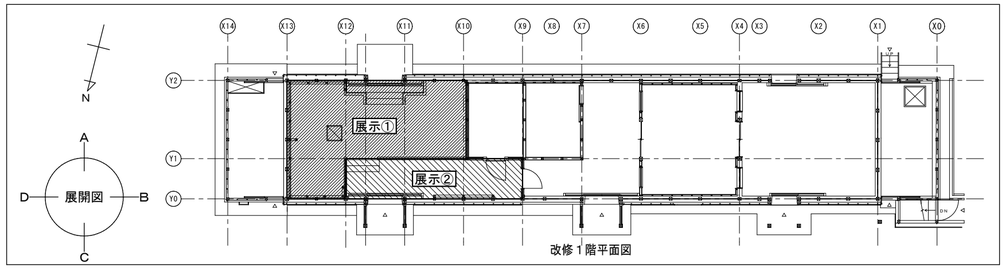


改修１階平面図

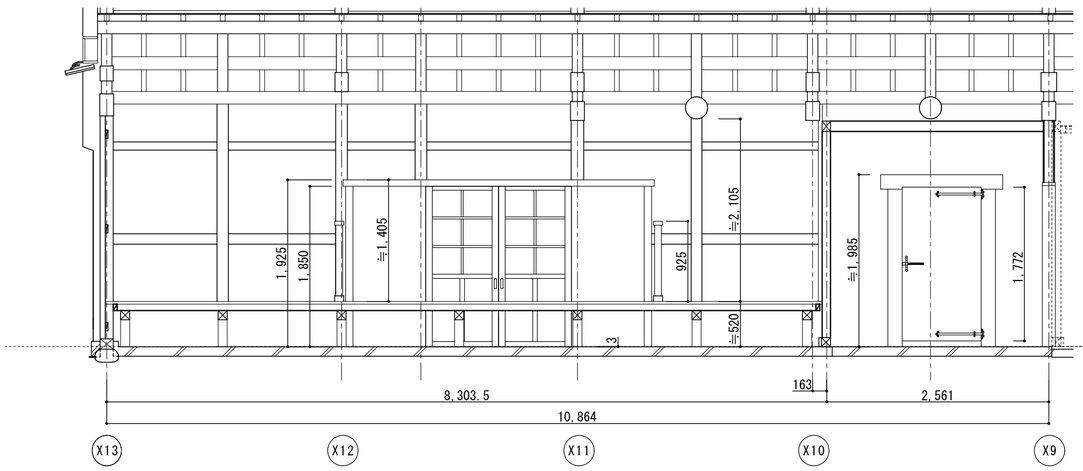


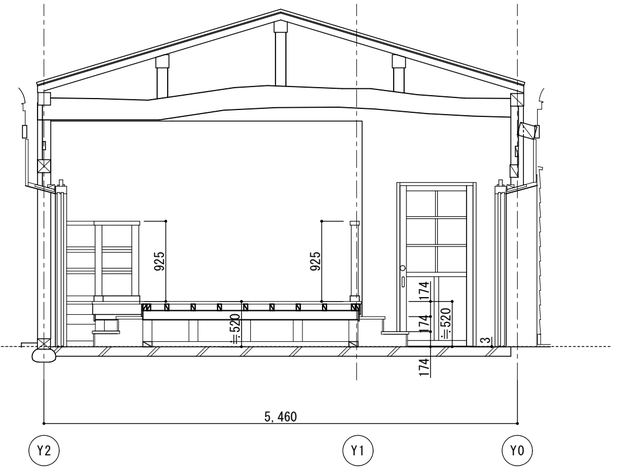
改修１階平面詳細図

特記：	株式会社 伝統建築研究所 宮城県知事登録 第23410297号 一級建築士事務所	一級建築士 №254986 代表取締役 高橋直子	検図： 設計： 担当：	工事名： 史跡松ヶ岡開墾場貯桑土蔵保存修理工事	図面名： 改修平面詳細図 縮尺：1/100, 1/50	図面番号：34 設計年月日： 区分：



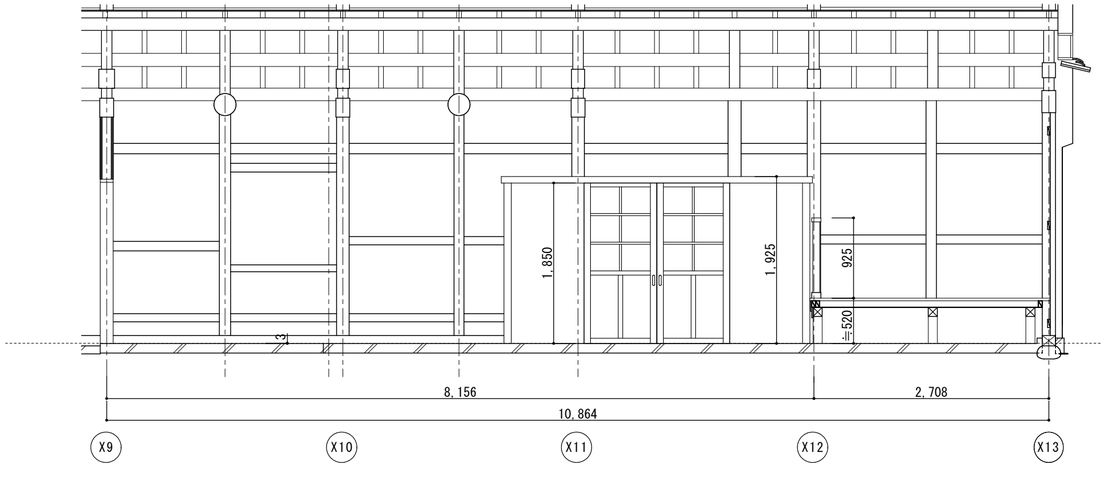
改修１階平面図

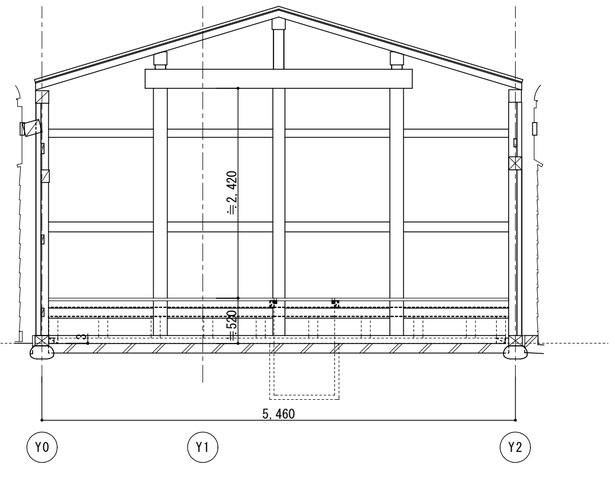




展示①・展示②

A　　B

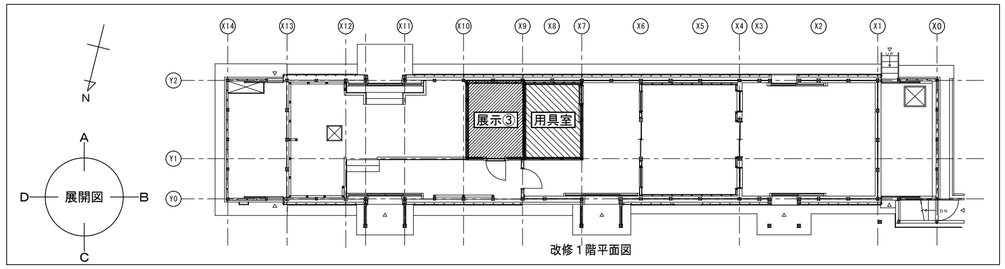


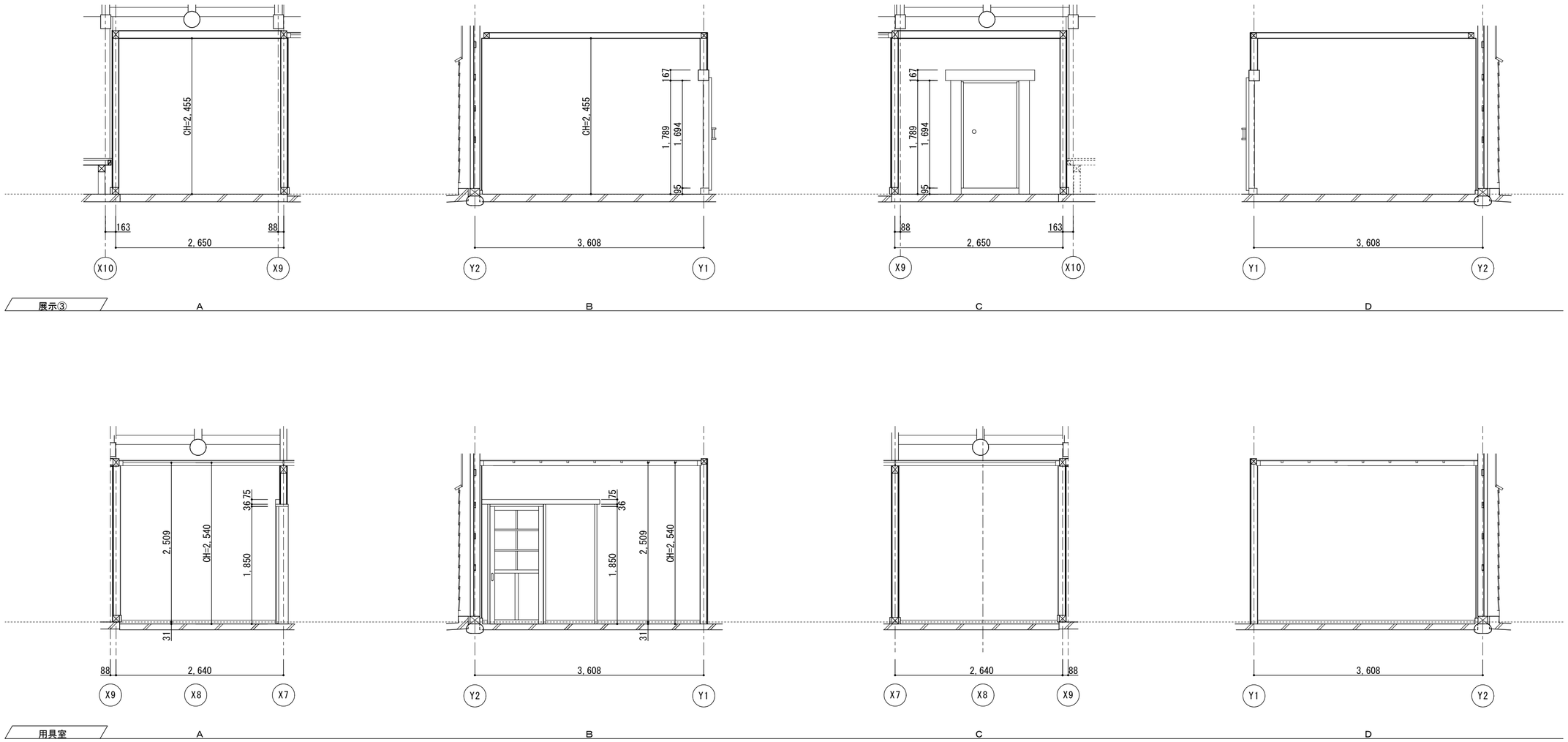


展示①・展示②

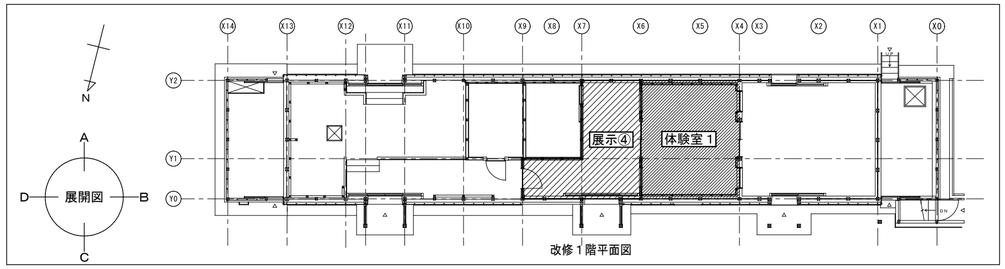
C　　D

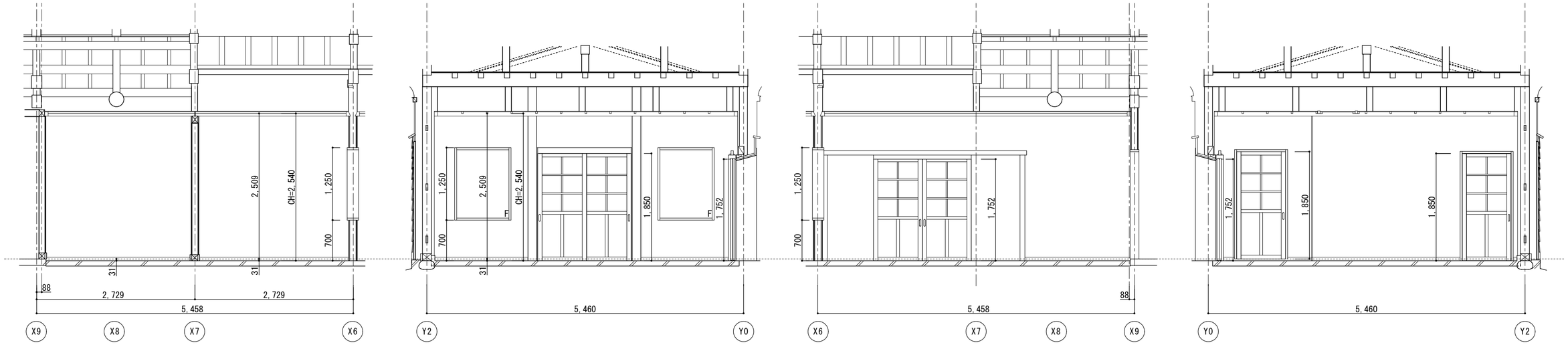
特記：	株式会社 伝統建築研究所 宮城県知事登録　第23410297号　一級建築士事務所	一級建築士　№254986 代表取締役　高橋直子	検図： 設計： 担当：	工事名： 史跡松ヶ岡開墾場貯桑土蔵保存修理工事	図面名： 改修　展開図１　展示①・②	図面番号： ３５
					縮尺：1/50　設計年月日：	区分：



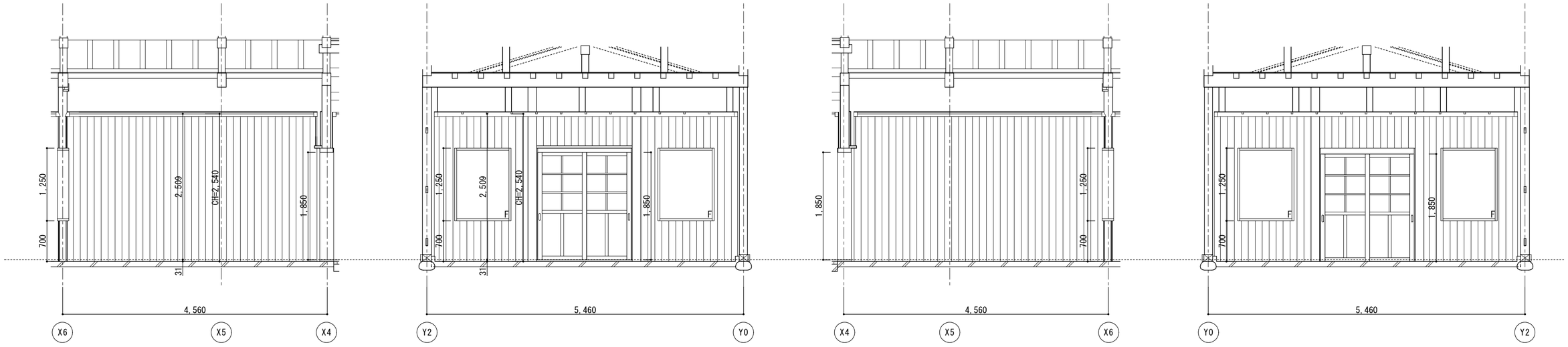


特記：	株式会社 伝統建築研究所 宮城県知事登録　第23410297号　一級建築士事務所	一級建築士　№254986 代表取締役　高橋直子	検図： 設計： 担当：	工事名： 史跡松ヶ岡開墾場貯桑土蔵保存修理工事	図面名： 改修　展開図２　展示③・用具室 縮尺：1/50　設計年月日：	図面番号： ３６ 区分：



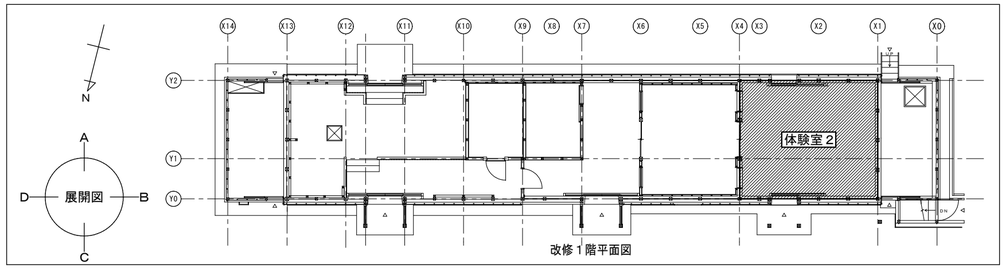


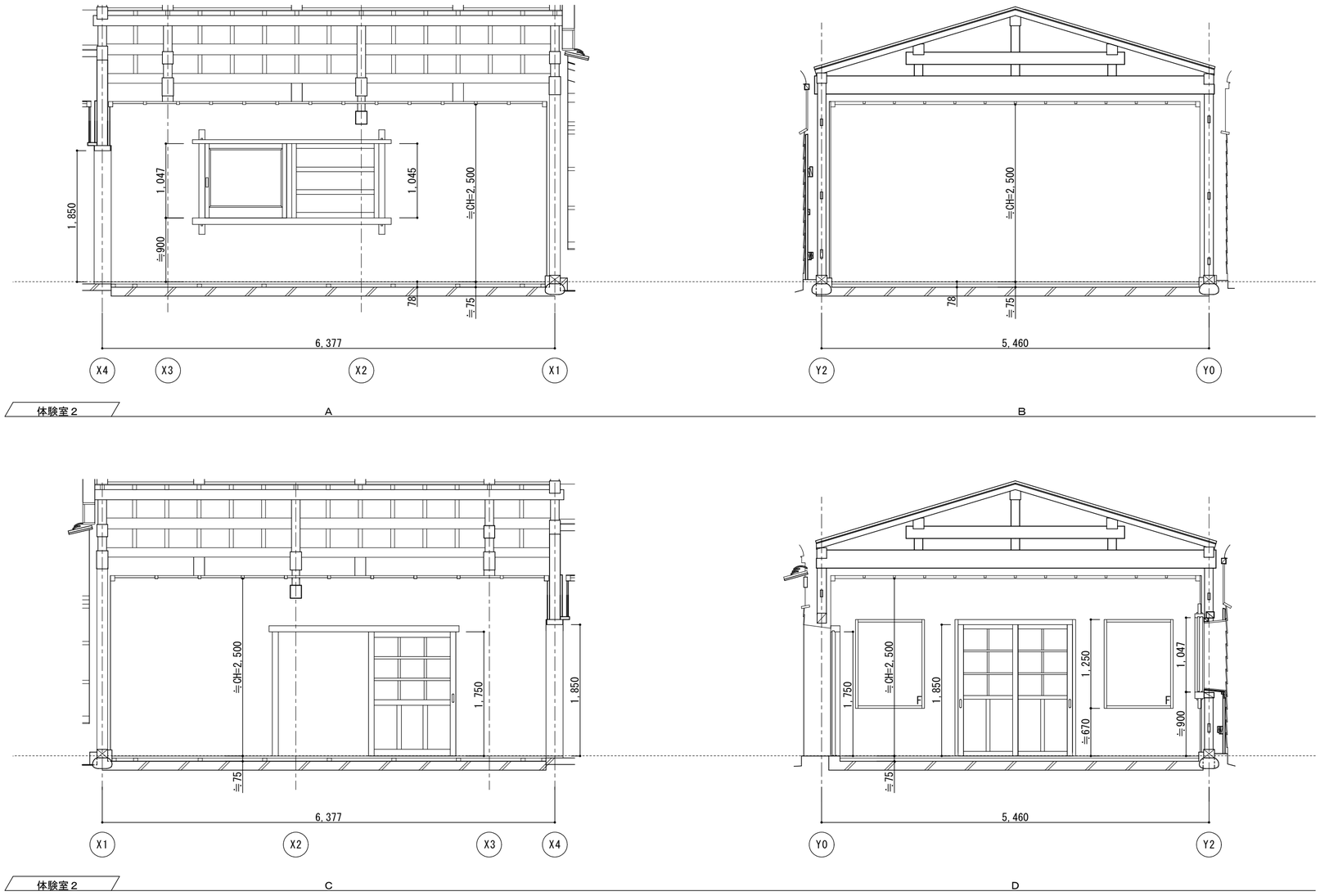
展示④



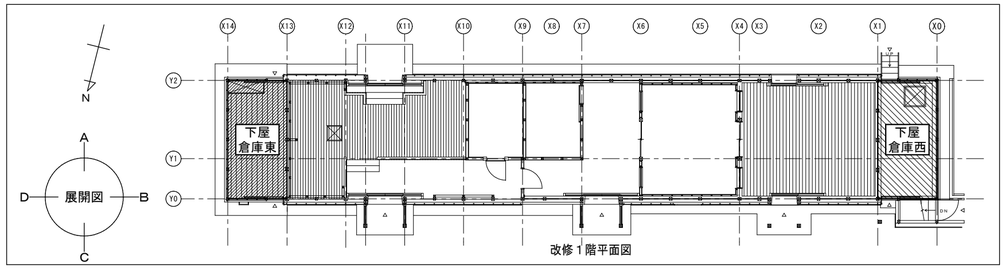
体験室１

特記：	株式会社 伝統建築研究所 宮城県知事登録　第23410297号　一級建築士事務所	一級建築士　№254986 代表取締役　高橋直子	検図： 設計： 担当：	工事名： 史跡松ヶ岡開墾場貯桑土蔵保存修理工事	図面名： 改修　展開図３　展示④・体験室1 縮尺：1/50　設計年月日：	図面番号： ３７ 区分：

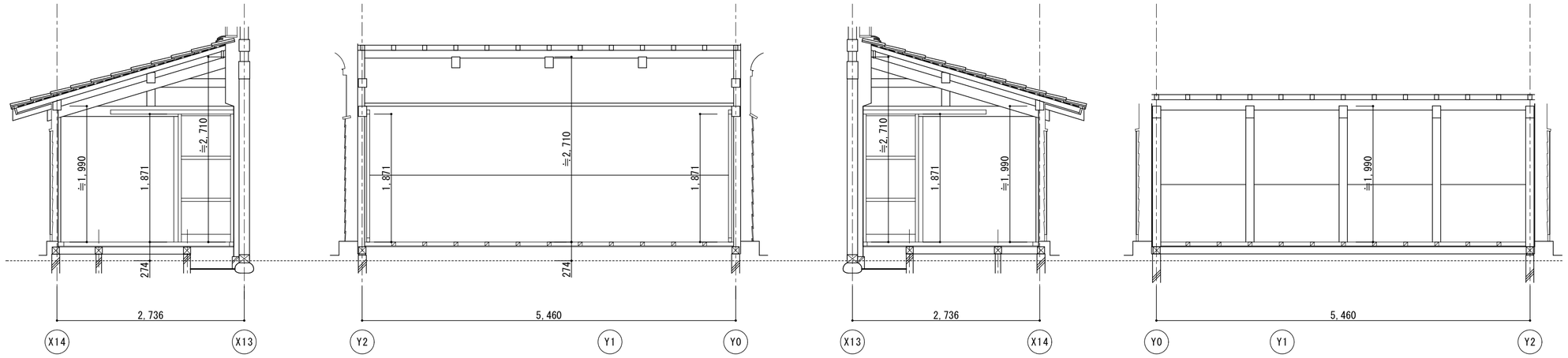




特記：	株式会社 伝統建築研究所 宮城県知事登録　第23410297号　一級建築士事務所	一級建築士　№254986 代表取締役　高橋直子	検図： 設計： 担当：	工事名： 史跡松ヶ岡開墾場貯桑土蔵保存修理工事	図面名： 改修　展開図４　体験室２ 縮尺：1/50　設計年月日：	図面番号： ３８ 区分：

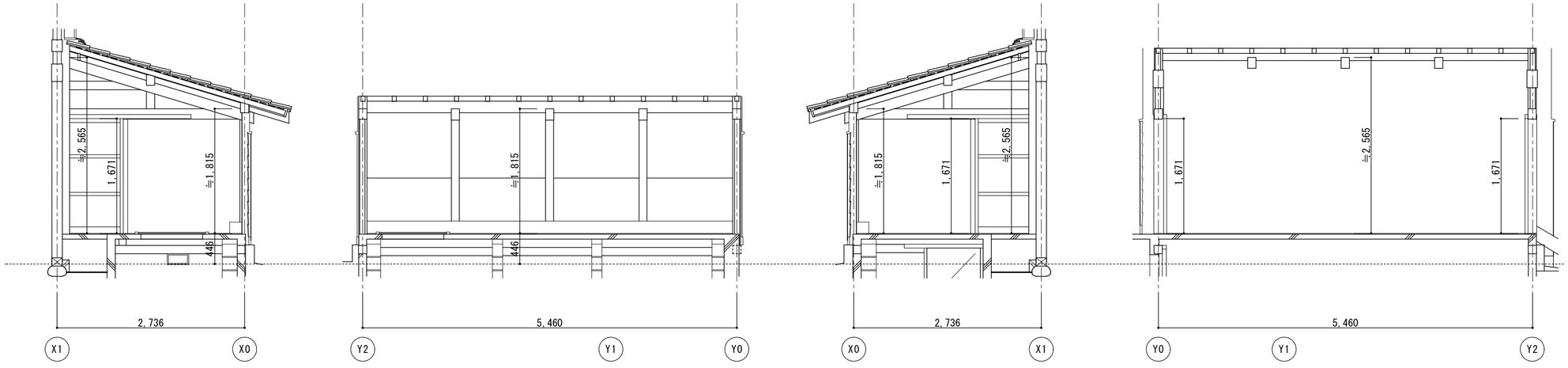


改修１階平面図



下屋倉庫東

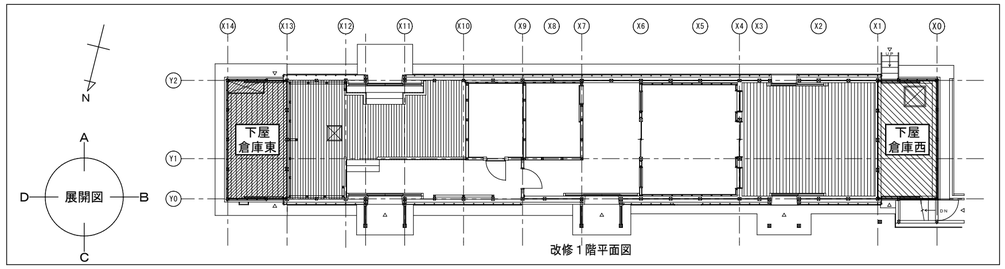
A　B　C　D

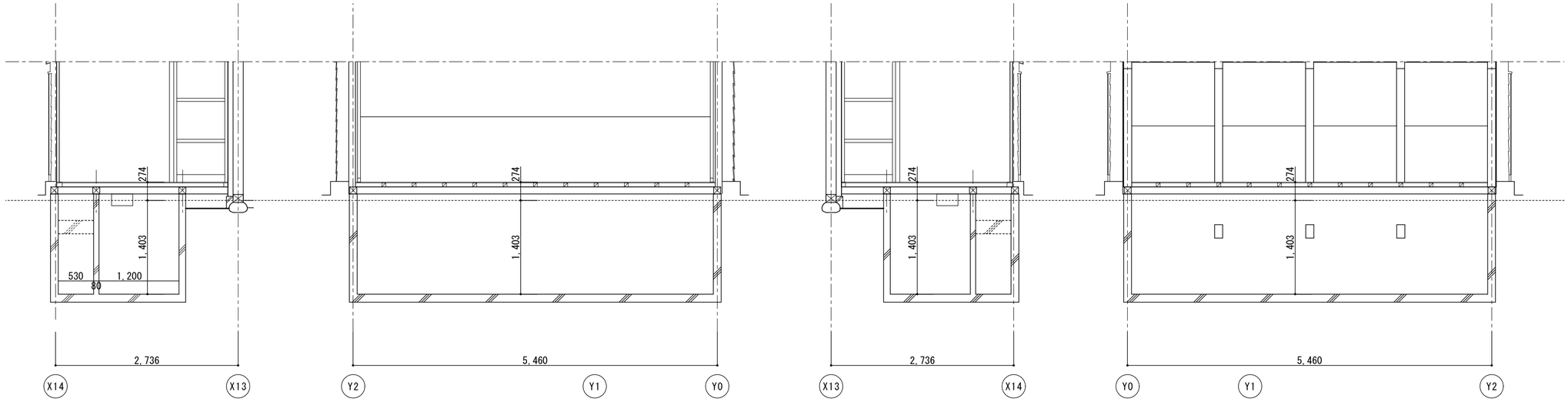


下屋倉庫西

A　B　C　D

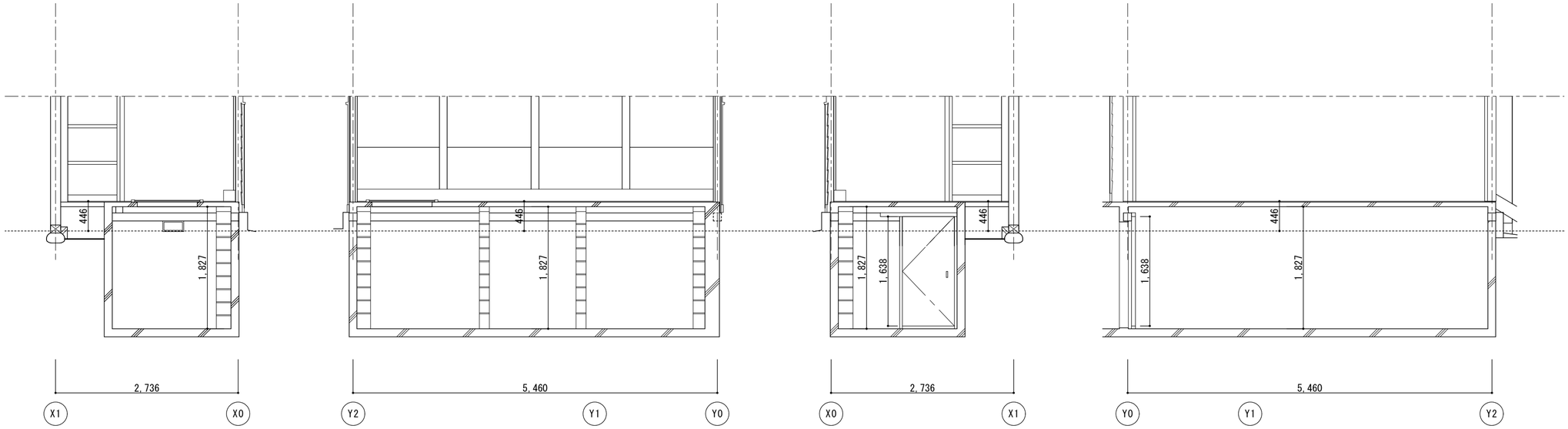
特記：	株式会社 伝統建築研究所 宮城県知事登録　第23410297号　一級建築士事務所	一級建築士　№254986 代表取締役　高橋直子	検図： 設計： 担当：	工事名： 史跡松ヶ岡開墾場貯桑土蔵保存修理工事	図面名： 改修　展開図５　東西下屋１階 縮尺：1/50　設計年月日：	図面番号： ３９ 区分：

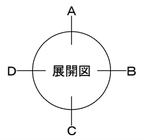




下屋倉庫東

A　B　C　D





下屋倉庫西

A　B　C　D

特記：	株式会社 伝統建築研究所 宮城県知事登録　第23410297号　一級建築士事務所	一級建築士　№254986 代表取締役　髙橋直子	検図： 設計： 担当：	工事名： 史跡松ヶ岡開墾場貯桑土蔵保存修理工事	図面名： 改修　展開図６　東西下屋地下 縮尺：1/50　設計年月日：	図面番号： ４０ 区分：

○仮設計画概要

《仕様》

存置されている仮設は以下の通り。

工事終了後、いずれも解体撤去を行う

・既存仮囲い　　：フラットパネル　H2000

（フェンス間のズレ止めはフェンス根元+上部を木材60×45程度で緊結する。）

・既存転倒防止補強　：仮囲いに単管パイプ組、

基礎土台はH鋼(200×200×8×12)を設置する。

・既存進入口　　：キャスターゲート　H2.0m　W3.6m　2カ所

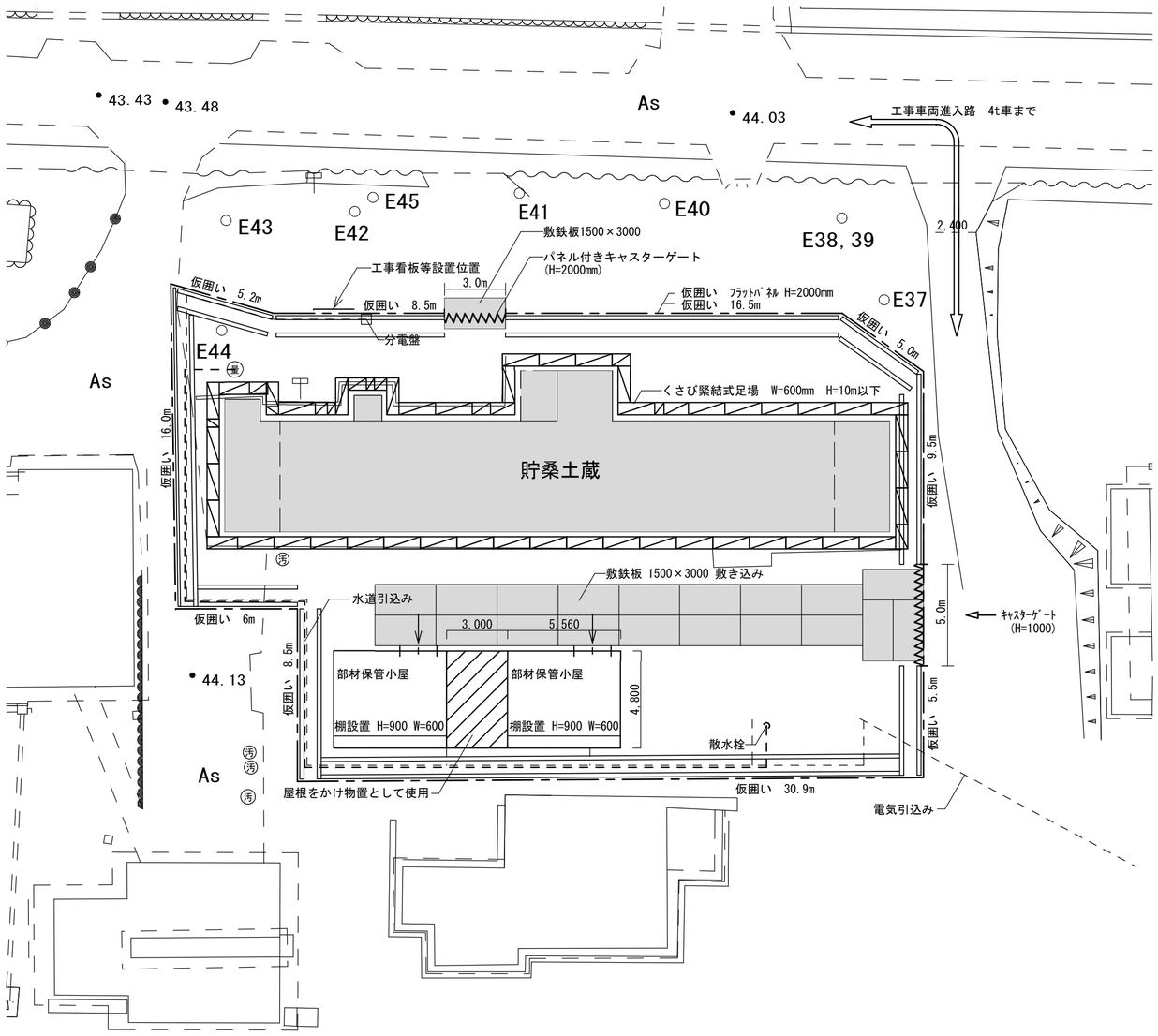
※史跡内建造物のため、地盤面の掘削や杭打ちは禁止する。

・既存部材保管小屋　：4.8M×5.5M程度のコンテナハウス２棟設置。

—足元にブロック1～2段積

内部に棚設置。（壁面一面に１段の棚。奥行600mm程度）

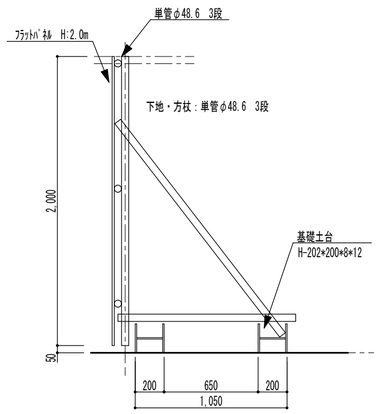
※遺構面に仮設材を設置する場合は、遺構を傷つけないようにし、シートを敷くこと。（PPYシート同等品）



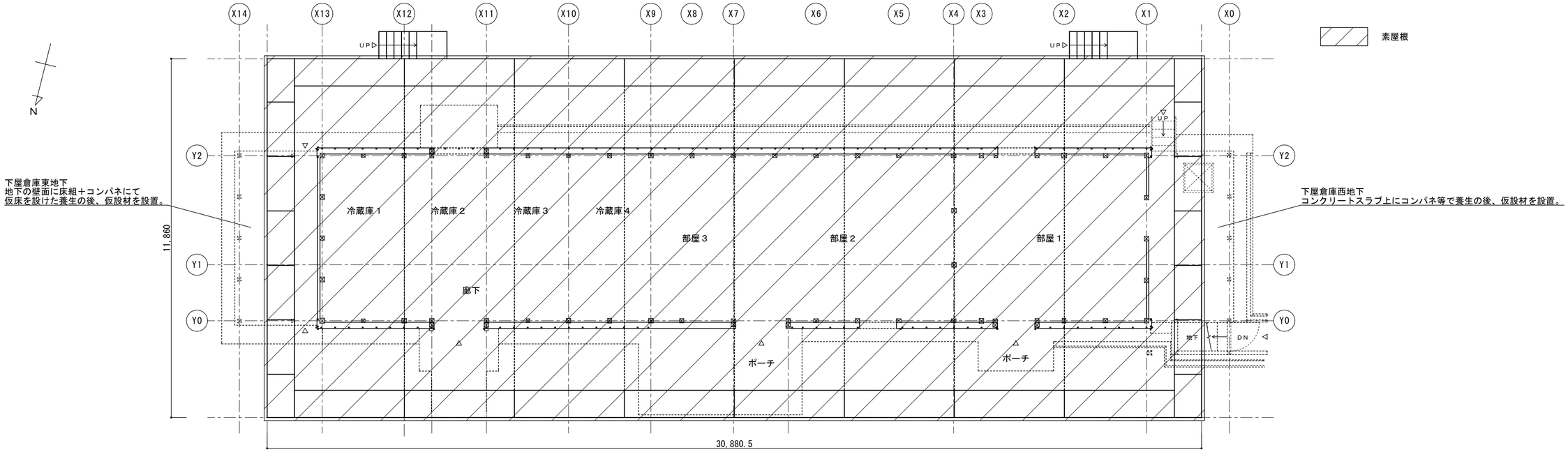
<敷地内樹木>

番号	樹種
E37	サクラ
E38	サクラ
E39	サクラ
E40	サクラ
E41	サクラ
E42	サクラ
E43	サクラ
E44	サクラ
E45	サクラ(切株)

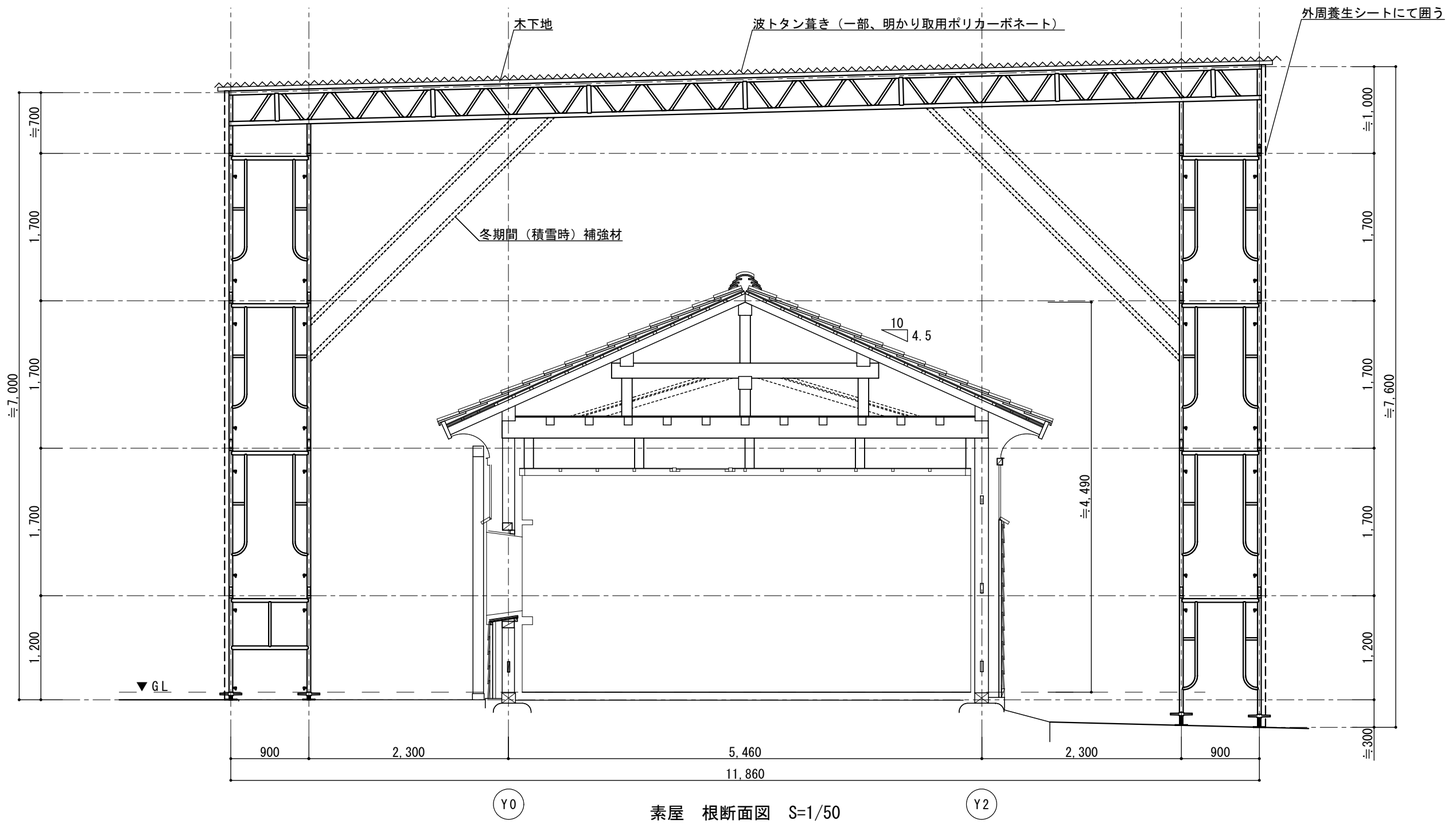
仮囲い詳細図（参考）S:1／30



特記：	株式会社 伝統建築研究所 宮城県知事登録　第23410297号　一級建築士事務所	一級建築士　№254986 代表取締役　高橋直子	検図： 設計： 担当：	工事名： 史跡松ヶ岡開墾場貯桑土蔵保存修理工事	図面名：（参考）仮設計画図　配置 縮尺：1/200・1/30	図面番号：41 設計年月日： 区分：

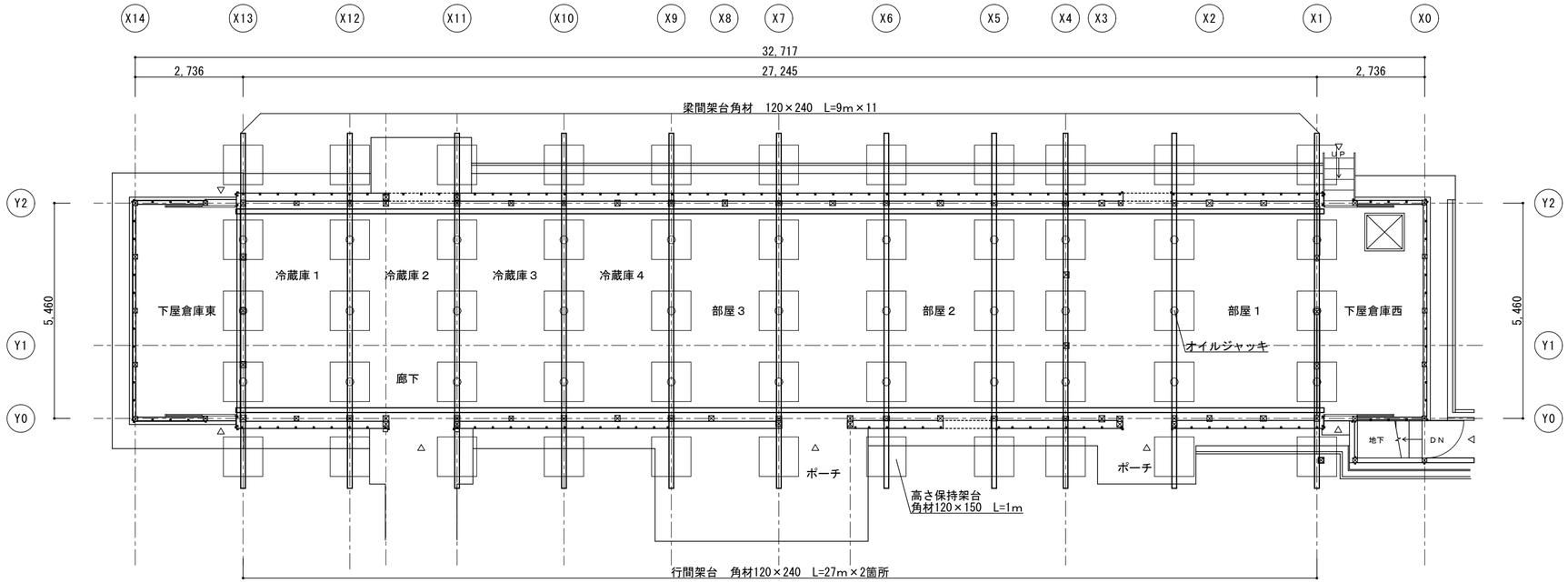


素屋根　平面図　S=1/100

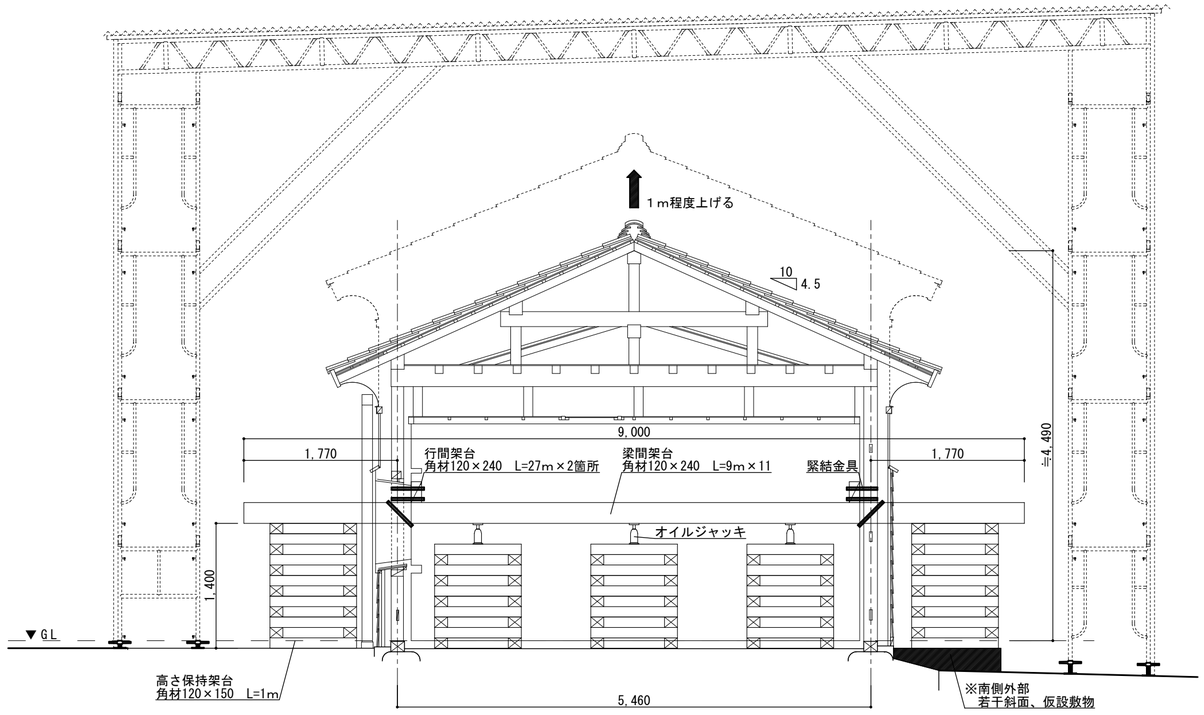


素屋　根断面図　S=1/50

特記：	株式会社 伝統建築研究所 宮城県知事登録　第23410297号　一級建築士事務所	一級建築士　№254986 代表取締役　高橋直子	検図： 設計： 担当：	工事名： 史跡松ヶ岡開墾場貯桑土蔵保存修理工事	図面名： 仮設計画図　素屋根 縮尺：1/50,1/100　設計年月日：	図面番号： ４２ 区分：



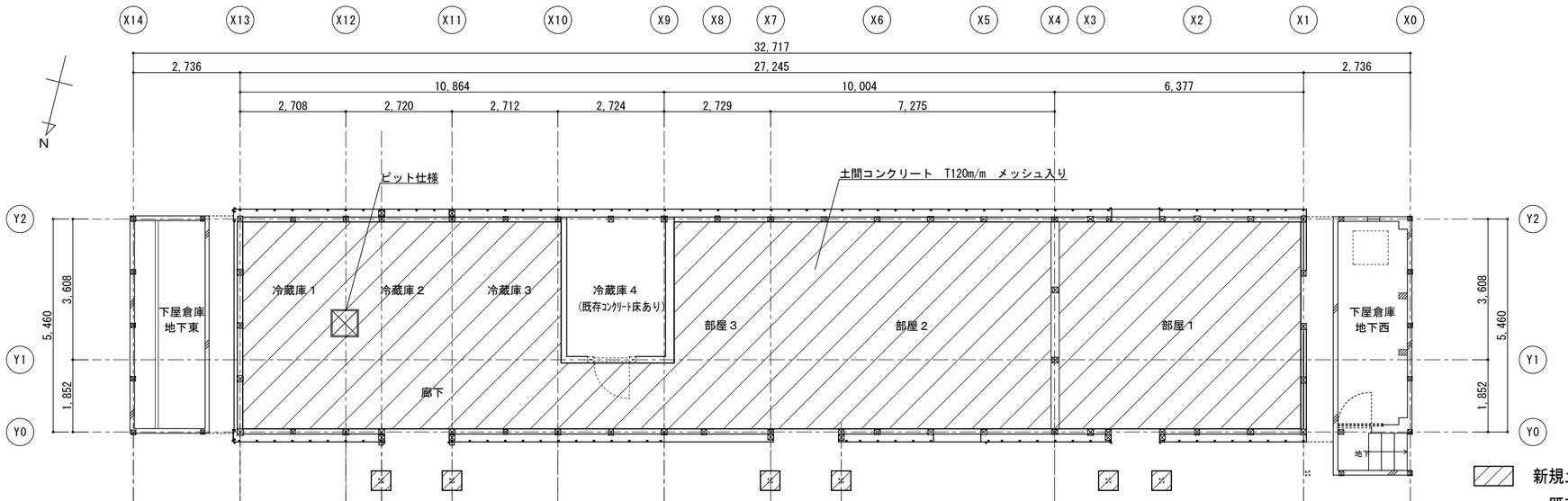
平面図　S=1/100



※GL＋1.4mの位置に架台設置　高さ保持架台角材12段
　ここから1m程度揚家　架台19段

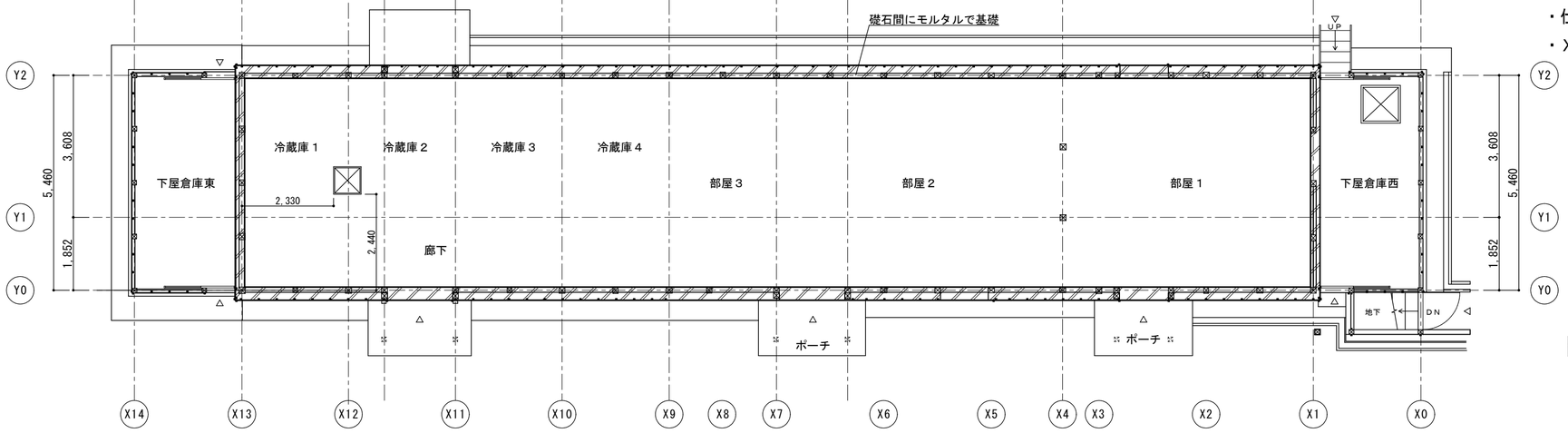
揚家工事断面図　S=1/50

特記：	株式会社 伝統建築研究所 宮城県知事登録　第23410297号　一級建築士事務所	一級建築士　№254986 代表取締役　高橋直子	検図： 設計： 担当：	工事名： 史跡松ヶ岡開墾場貯桑土蔵保存修理工事	図面名： 揚家工事図	図面番号： 43
					縮尺： 1/50,1/100	設計年月日： 区分：



新規土間コンクリート T120m/m 打設範囲

・既存玉石上にビニルフィルムT0.15を敷き込み、不陸調整用砕石を充填。
・土間コンクリートはワイヤーメッシュφ3.2m/m 100角を敷き込み。
・仕上は金鏝仕上。
・Ｘ４通りの既存ｺﾝｸﾘｰﾄ立ち上りは、開口部に当る範囲を斫って納める。

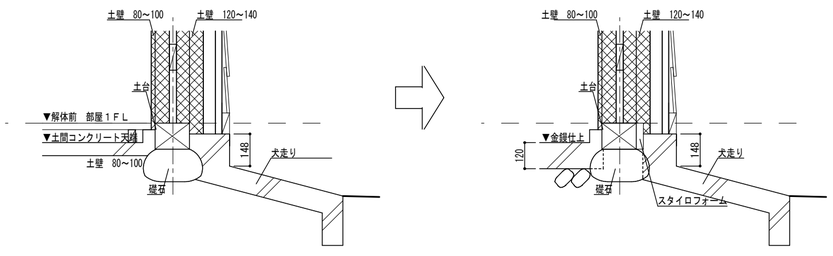


礎石間の修理範囲

・土台の礎石間の土、コンクリートガラを取り除き清掃する。
・ガタついた礎石を据え直す。
・礎石間にコンクリート基礎を設ける。

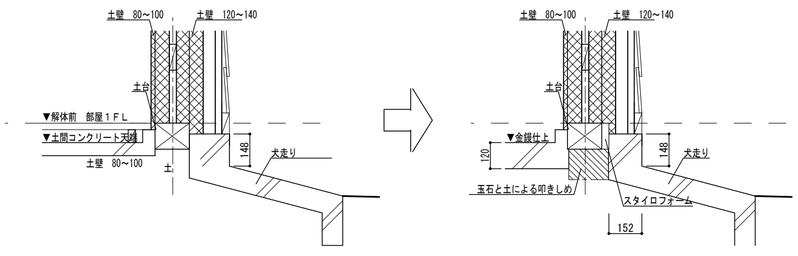
S:1/20

改修前の既存図(礎石有の箇所)　　改修詳細図（礎石有の箇所）



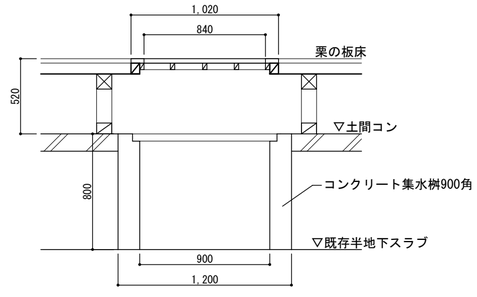
S:1/20

改修前の既存図(礎石無しの箇所)　　改修詳細図（礎石無しの範囲）

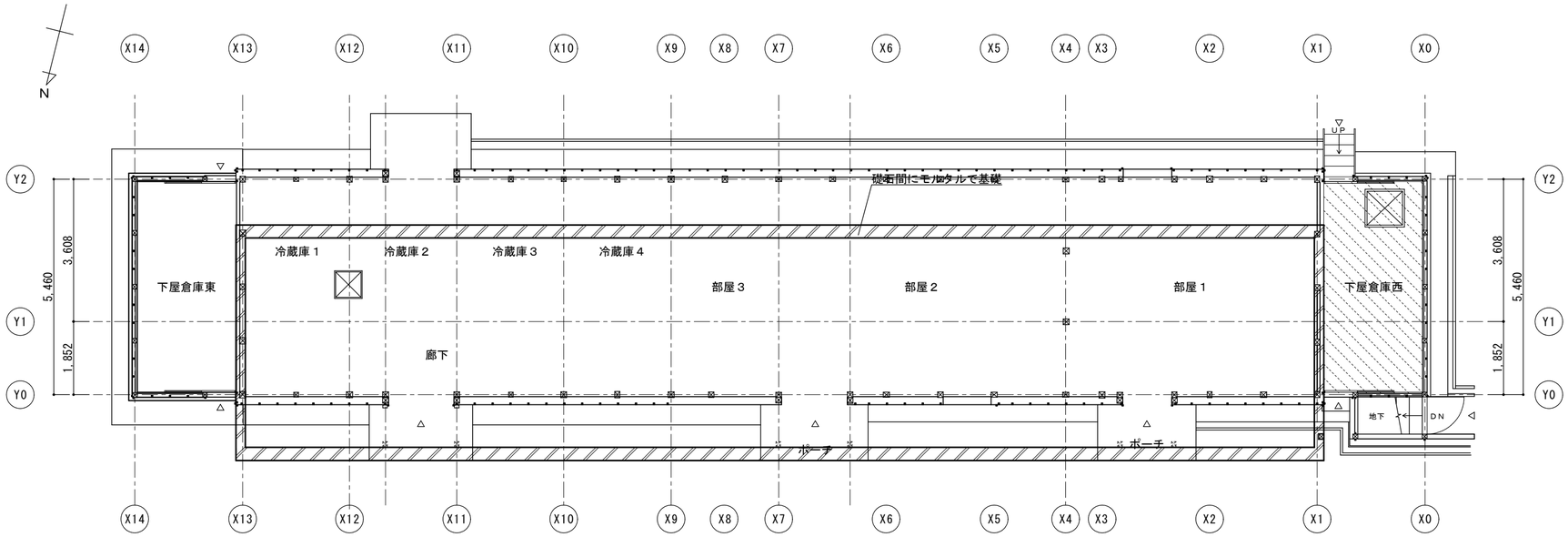


S:1/30

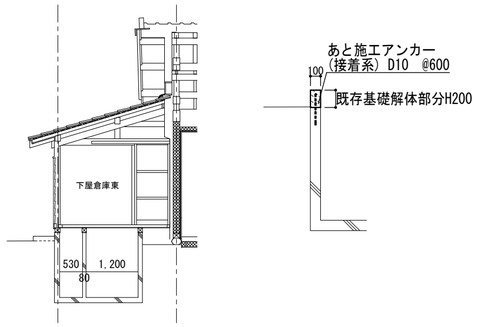
半地下スラブ遺構展示



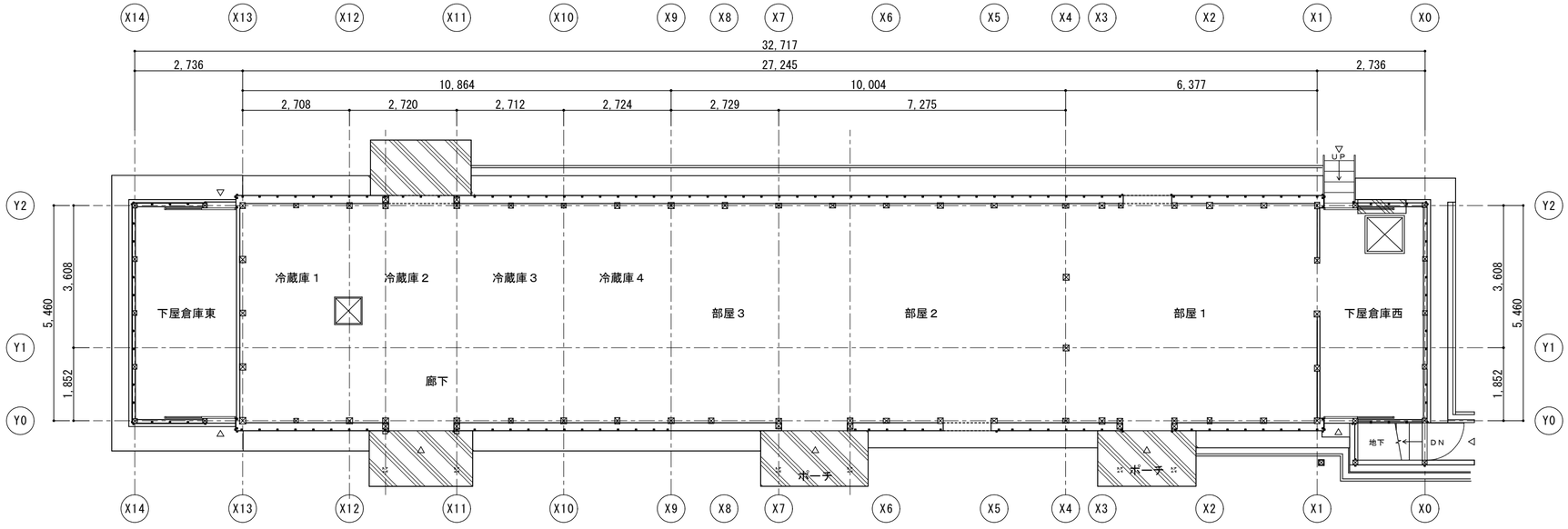
特記：	株式会社 伝統建築研究所 宮城県知事登録 第23410297号 一級建築士事務所	一級建築士 №254986 代表取締役 高橋直子	検図： 設計： 担当：	工事名： 史跡松ヶ岡開墾場貯桑土蔵保存修理工事	図面名： 基礎改修範囲図１ 縮尺：1/100 設計年月日：	図面番号： ４４ 区分：

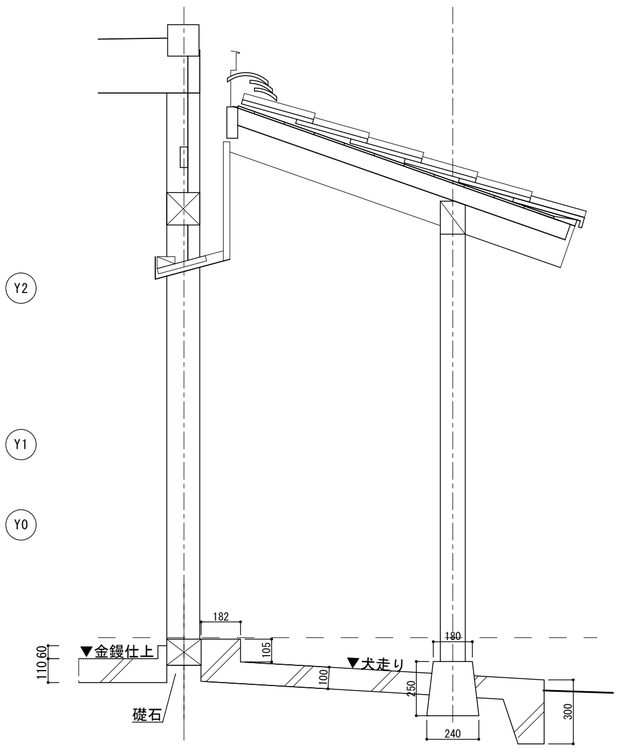


東側下屋基礎　修理範囲
・コンクリート壁の地上部を解体し、再施工する。



既存コンクリートスラブのヒビ割れ補修範囲
（コンクリートスラブ上部に木床組を設ける。）





庇部基礎修理範囲
・土間コンクリートは解体撤去。
・新規土間コンクリート及び、柱脚束石（現場打ち）設置。

庇土間ｺﾝｸﾘｰﾄ:D10　ﾀﾃﾖｺ@200

特記：	株式会社 伝統建築研究所 宮城県知事登録　第23410297号　一級建築士事務所	一級建築士　№254986 代表取締役　高橋直子	検図： 設計： 担当：	工事名： 史跡松ヶ岡開墾場貯桑土蔵保存修理工事	図面名： 基礎改修図２		図面番号： ４５
					縮尺： 1/100	設計年月日：	区分：

土台改修範囲
・土台改修

新規土台設置範囲

根継　150口　L=600～800×21本
・

埋木（添木T30～50）×5本
・

根継　L=2000×1本
・

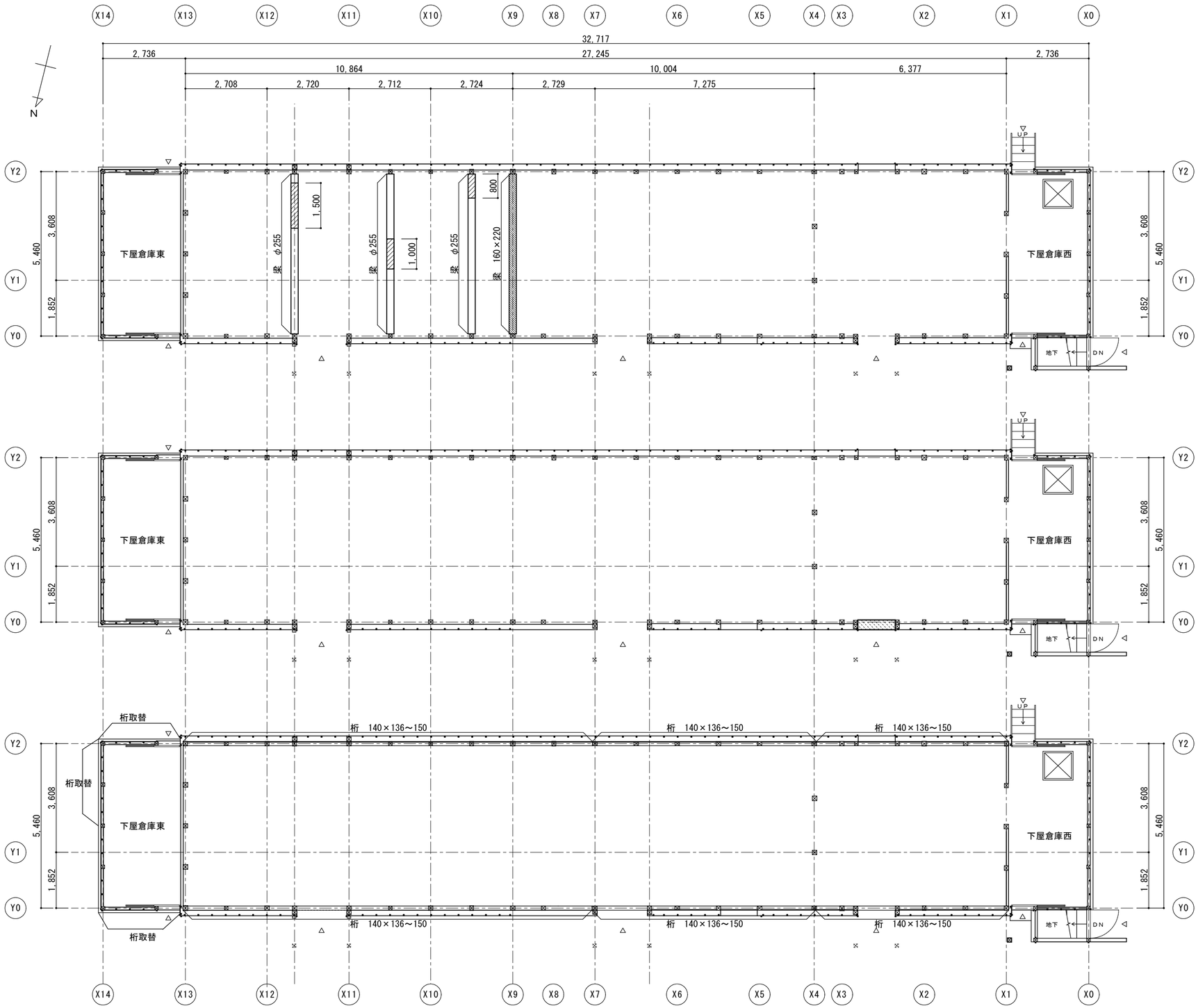
下屋柱　120口（取替え）×2本
・

下屋柱　根継×5本
・

※柱根継にホゾ加工を施す。

貫材　取替え箇所

特記：	株式会社 伝統建築研究所 宮城県知事登録　第23410297号　一級建築士事務所	一級建築士　№254986 代表取締役　高橋直子	検図： 設計： 担当：	工事名： 史跡松ヶ岡開墾場貯桑土蔵保存修理工事	図面名： 木工事範囲図 1 縮尺：1/100　設計年月日：	図面番号： 46 区分：



梁下端添木

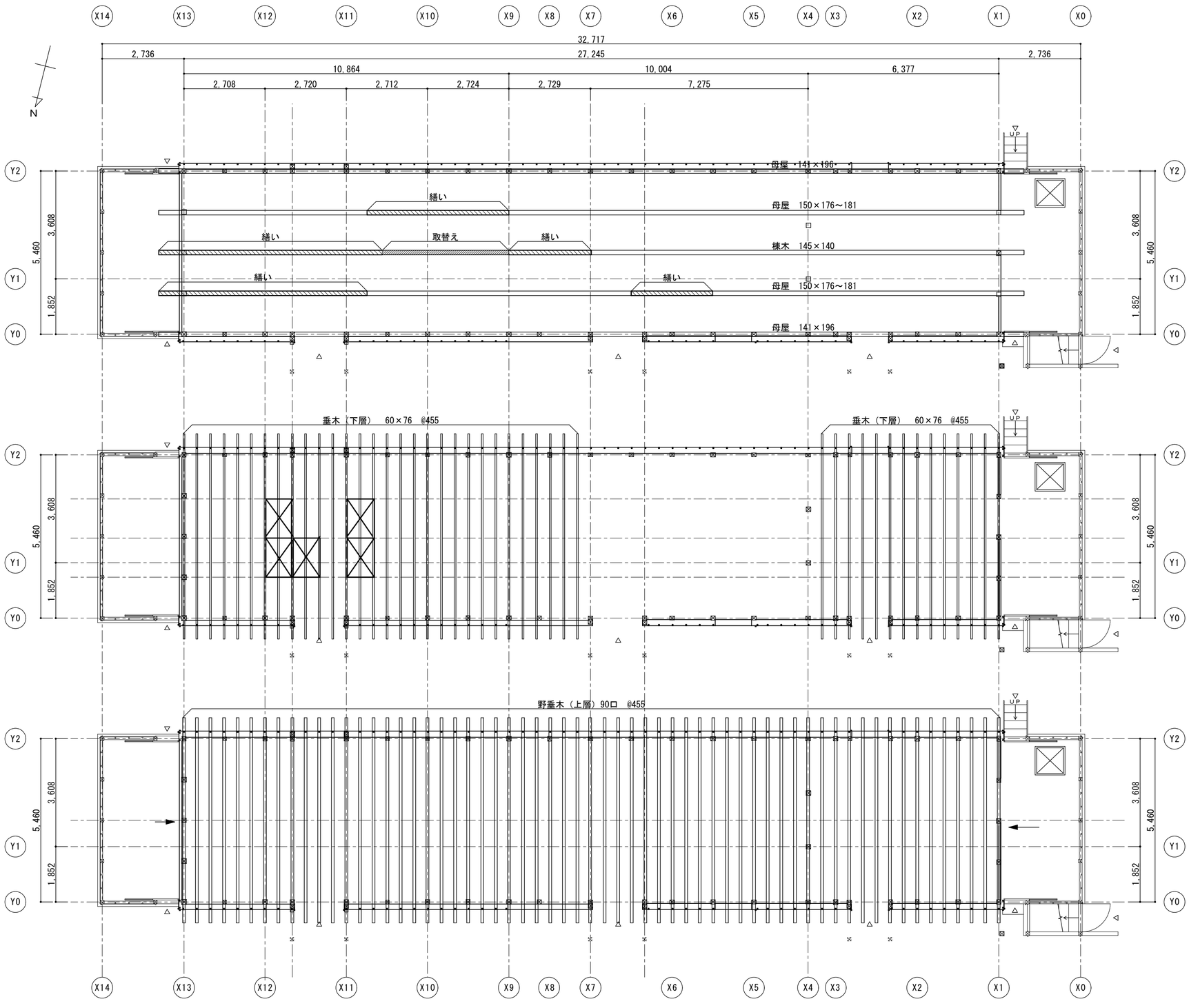
・梁の下端が腐朽している箇所は
梁下端を30～50m/m欠き取り添木をする。

梁交換

まぐさ補修

桁取替：150×120×2700×3本

特記：	株式会社 伝統建築研究所 宮城県知事登録　第23410297号　一級建築士事務所	一級建築士　№254986 代表取締役　高橋直子	検図： 設計： 担当：	工事名： 史跡松ヶ岡開墾場貯桑土蔵保存修理工事	図面名： 木工事図 2		図面番号： 47
					縮尺： 1/100	設計年月日：	区分：



繕い

取替

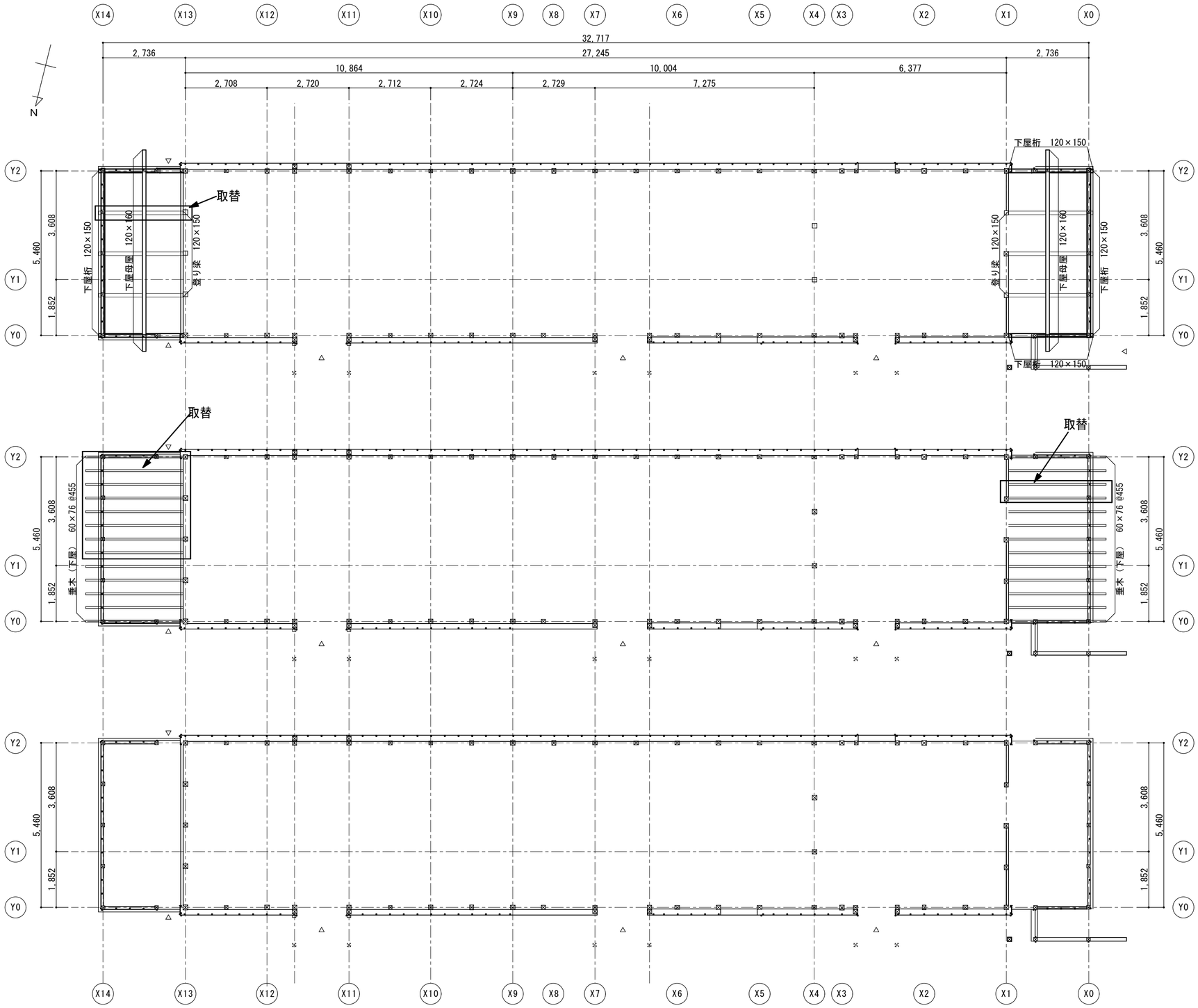
化粧野地板欠損部　新規板張り

・垂木は全数の25%の取替
　75×60×3700　38本取替
　75×60×2000　３本取替
　75×60×3700　30本繕い

・野地板（本舎）は全数の50%の取替
・野地板（下屋）は全数の50%の取替（杉皮葺）
・桟木　全数の25%取替　45×30×3000　80本取替
・裏甲（広小舞）　全数取替　120×45
・上り裏甲（広小舞）　全数取替　120×45

← 妻面開口部　約670×280の枠補修　2カ所

特記：	株式会社 伝統建築研究所 宮城県知事登録　第23410297号　一級建築士事務所	一級建築士　№254986 代表取締役　高橋直子	検図： 設計： 担当：	工事名： 史跡松ヶ岡開墾場貯桑土蔵保存修理工事	図面名： 木工事図３		図面番号： ４８
					縮尺： 1/100	設計年月日：	区分：



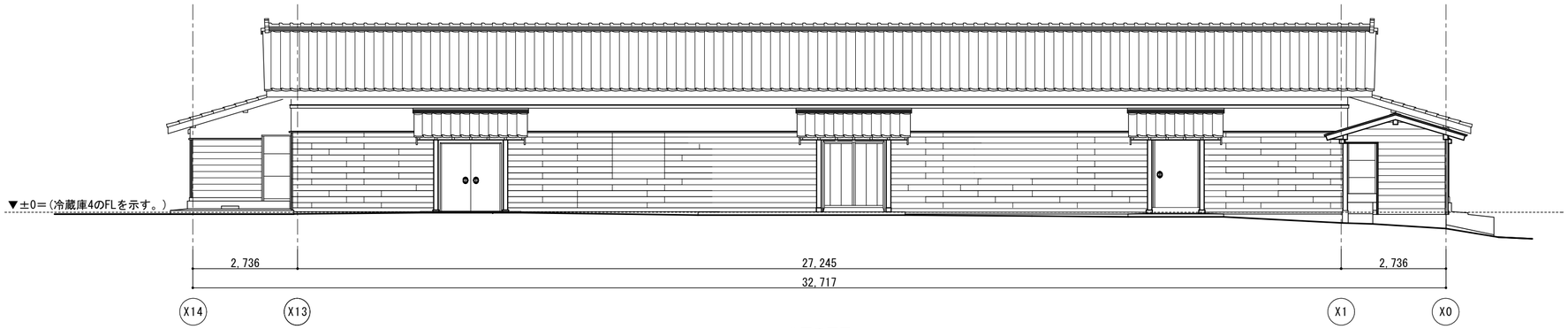
梁の取替

垂木の取替

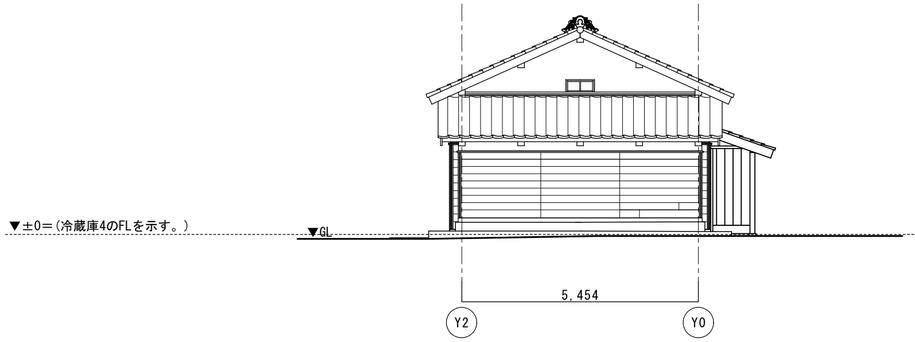
・下屋裏甲（広小舞）　全数取替　120×30

・下屋上り裏甲（広小舞）　全数取替　120×30

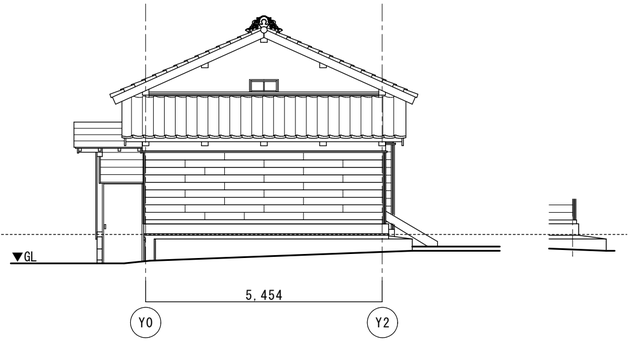
特記：	株式会社 伝統建築研究所 宮城県知事登録　第23410297号　一級建築士事務所	一級建築士　№254986 代表取締役　高橋直子	検図： 設計： 担当：	工事名： 史跡松ヶ岡開墾場貯桑土蔵保存修理工事	図面名： 木工事図４ 縮尺：1/100　設計年月日：	図面番号： ４９ 区分：



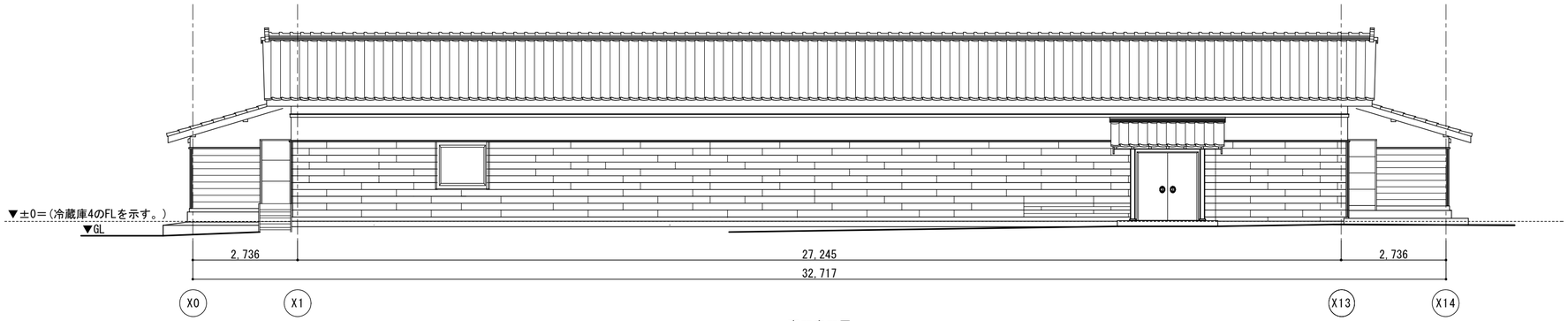
北面立面図



東面立面図



西面立面図

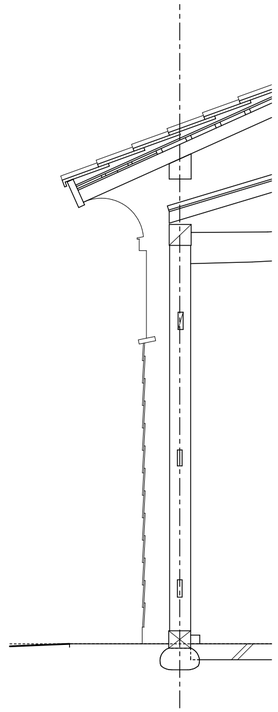


南面立面図

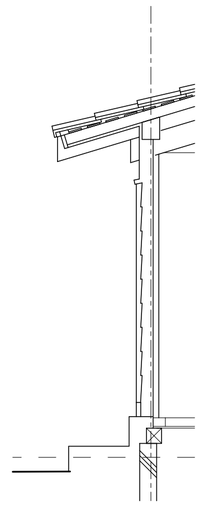
・(本舎) 下見板：既存下見板の1/3を再利用（釘じまいの後）
　下見板2/3は新規材使用
　杉材　1820×150×12
・(本舎) 下見板上水切り板：全数を新規材　杉材　100×45
・(本舎) 下見板下水切り板：全数を新規材　杉材　120×27
・(本舎) 下見板下地横胴縁：既存下見板の80%を取替
　杉材　75×30　4段
・(本舎) 下見板下地縦胴縁：既存下見板の80%を取替
　杉材　30×30　@455

・(下屋) 下見板：既存下見板の1/3を再利用（釘じまいの後）
　下見板2/3は新規材使用
　杉材　1820×150×12
・(本舎) 下見板上水切り板：全数を新規材　杉材　100×45
・(本舎) 下見板下水切り板：全数を新規材　杉材　120×27
・(本舎) 下見板下地横胴縁：既存下見板の80%を取替
　杉材　75×30　３段
・(本舎) 下見板下地縦胴縁：既存下見板の80%を取替
　杉材　30×30　@455

＜本舎の下見板　S:1/30＞

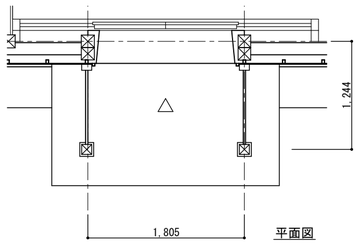


＜下屋の下見板　S:1/30＞

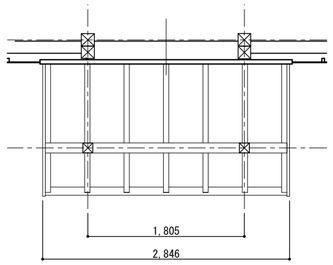


特記：	株式会社 伝統建築研究所 宮城県知事登録　第23410297号　一級建築士事務所	一級建築士　№254986 代表取締役　髙橋直子	検図： 設計： 担当：	工事名： 史跡松ヶ岡開墾場貯桑土蔵保存修理工事	図面名：木工事図５ 縮尺：1/100	図面番号：５０ 設計年月日： 区分：

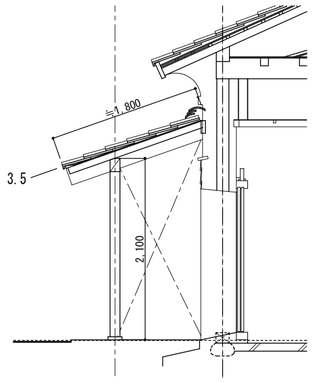
＜庇　詳細図＞　S:1/50



平面図



天井伏図



断面図

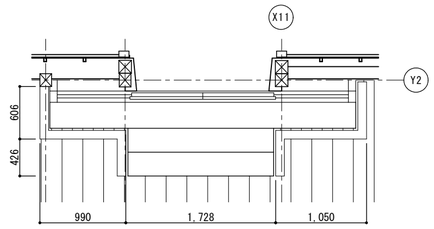
庇部材（北面東・北面中央、南面）

柱：2100×115□
桁：2800×150×115
垂木受：2800×145×50
垂木：1800×75×60
破風：1800×190×30
広小舞：2800×105×30
登り裏甲：1800×105×30

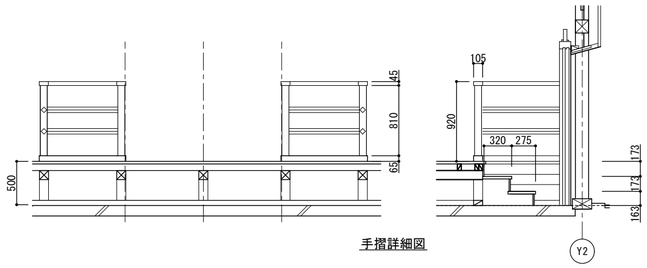
庇部材（北面西）

柱：2100×115□
桁：2300×150×115
垂木受：2300×145×50
垂木：1800×75×60
破風：1800×190×30
広小舞：3800×105×30
登り裏甲：1800×105×30

＜床組・階段・手摺　詳細図＞　S:1/50



階段平面図



手摺詳細図

床部材

土台：105×75
大引き：3000×105×105
根太：3000×75×60
床板：建材 T30
床束：500×105×105

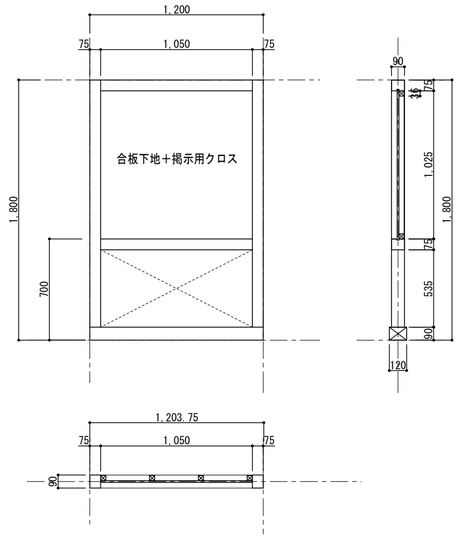
階段部材

段板：1700×300×36
蹴上：1700×200×30
ささら桁：800×500×36

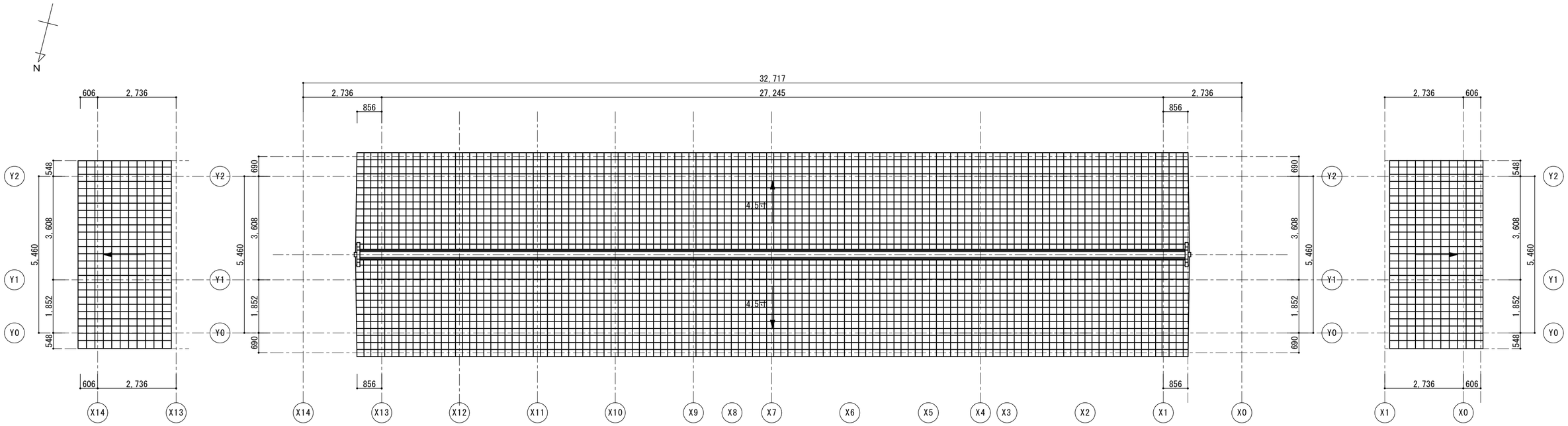
手摺部材

手摺：105×45
手摺下：105×60
手摺束：900×90×90
手摺桟：1200×50×50

＜展示壁　詳細図＞　S:1/30



特記：	株式会社 伝統建築研究所 宮城県知事登録　第23410297号　一級建築士事務所	一級建築士　№254986 代表取締役　高橋直子	検図： 設計： 担当：	工事名： 史跡松ヶ岡開墾場貯桑土蔵保存修理工事	図面名：木工事図6 縮尺：1/50　設計年月日： 区分：	図面番号：51



現況屋根伏図　S=1/100

１．セメント瓦葺　　セメント瓦

イ　解体

・既存セメント瓦は全て取り外す。

・材の状態が良い物は、再利用をする為取り置きする。(監督職員に確認を行う。)
再生利用材と展示用材以外は廃棄する。

・下地材は２０１０年の改修時に一部野地板から交換されているが、昭和１６年の
セメント瓦への葺き替え時の下地が残っている可能性がある為、丁寧に解体し
状況を写真、図に取ると共に、監督職員に報告する事。

ロ　セメント瓦

・既存セメント瓦と同等の外形寸法であることが望ましいが生産状況により若干の
変更が必要な場合がある為、監督、職人と協議を行うこと。

・原則として、瓦の割付け、棟の形状等は既存と同様とする。

・再利用する際は再利用できる瓦の枚数を確認し、庇や下屋を中心に使用範囲を
検討する。再利用材は、銅線で下地と緊結のこと。

・鬼瓦の修繕：水洗いをして表面の汚れを取り、プライマーにて下塗りを行い
ウレタン系の塗料を２回以上行う。鬼瓦を修繕する前に解体した瓦にて試作品を
作り確認すること。

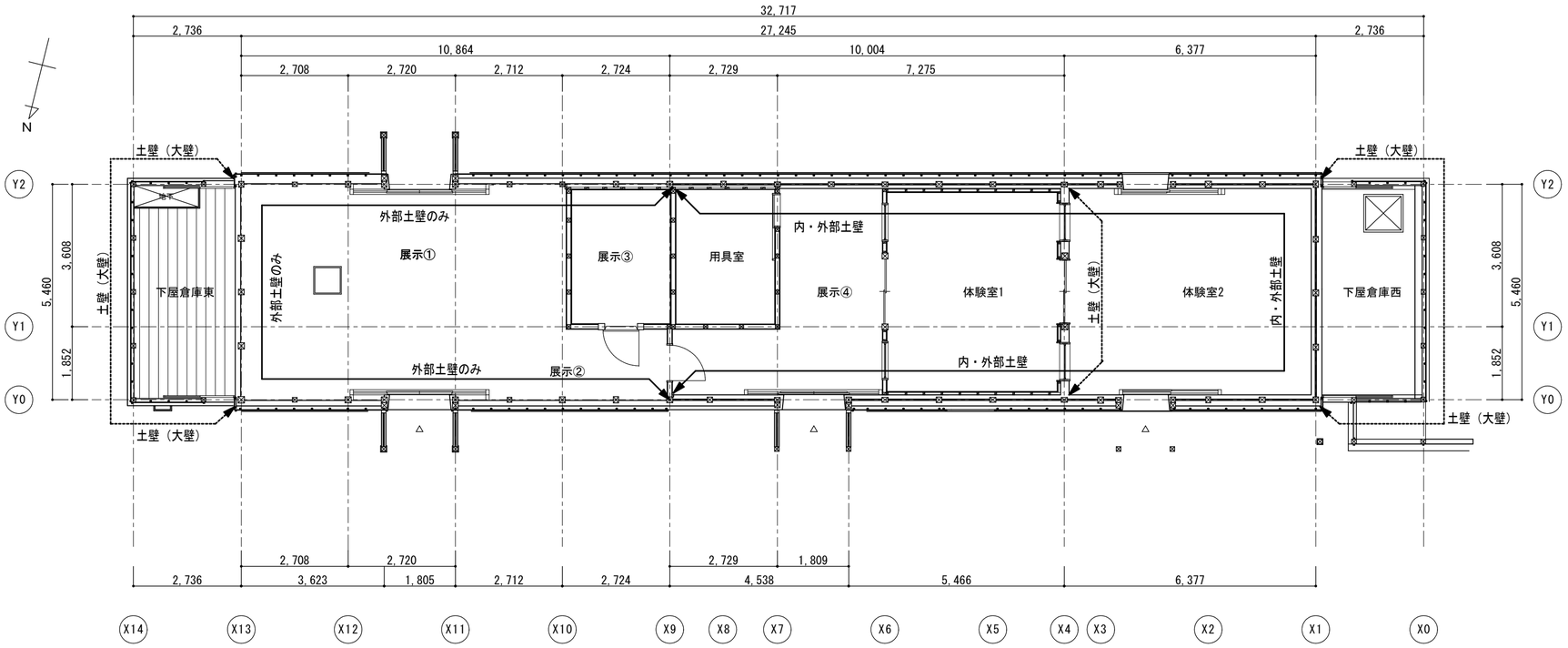
ハ　下地

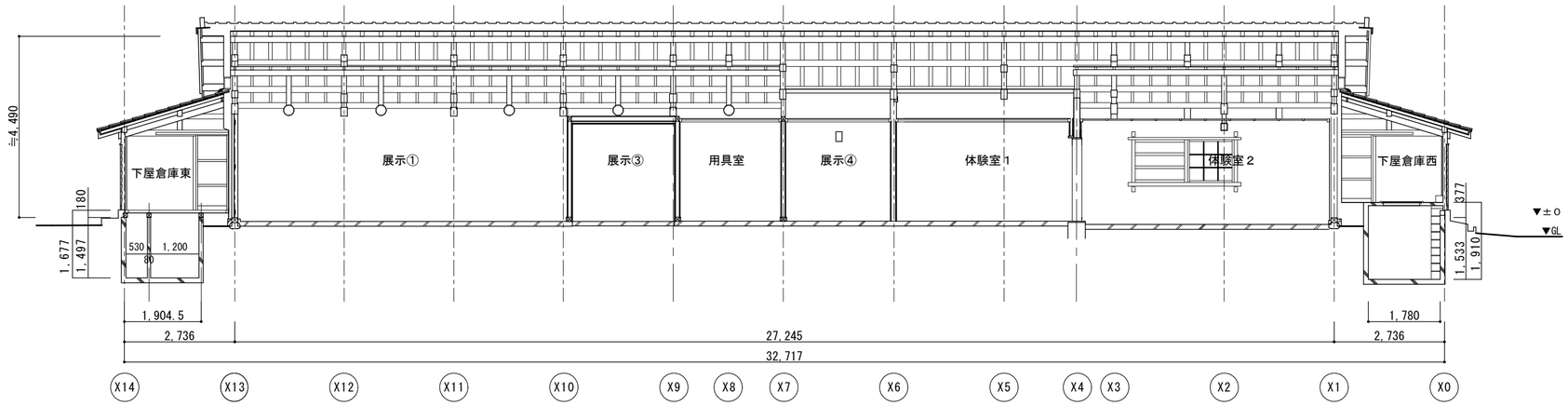
・既存屋根下地状況によるが、杉皮が残っている場合は原則として存置する。
その上に、新規野地板を葺き、アスファルトルーフィング下地を設ける。

・西側下屋は解体時に既存杉皮下地を取り置きし、再利用する。不足分は補充する。

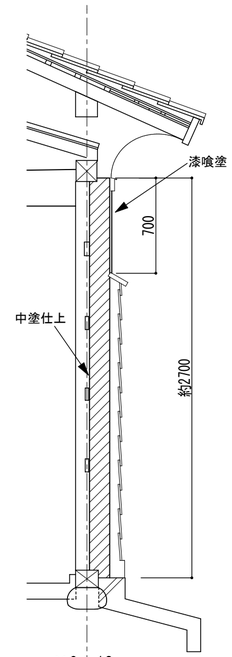
２．ガルバリウム
鋼板葺　　材種：カラーガルバリウム鋼板　JIS G 3322　厚さ 0.4mm
唐草：W450、アングル雪止め：亜鉛鍍金仕上

特記：	株式会社 伝統建築研究所 宮城県知事登録　第23410297号　一級建築士事務所	一級建築士　№254986 代表取締役　高橋直子	検図： 設計： 担当：	工事名： 史跡松ヶ岡開墾場貯桑土蔵保存修理工事	図面名：屋根工事図 縮尺：1/100　設計年月日：	図面番号：５２ 区分：

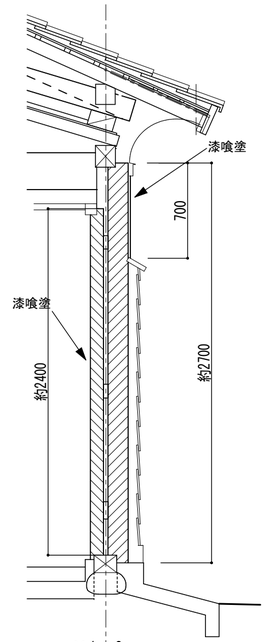




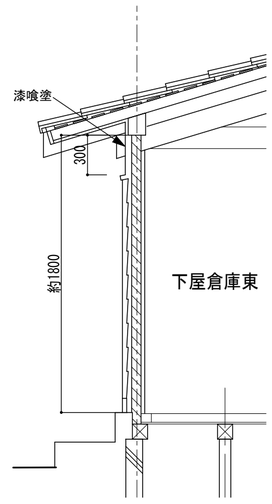
A－A断面図



X9～13
外部土壁のみ
・外部土壁厚さ約140㎜

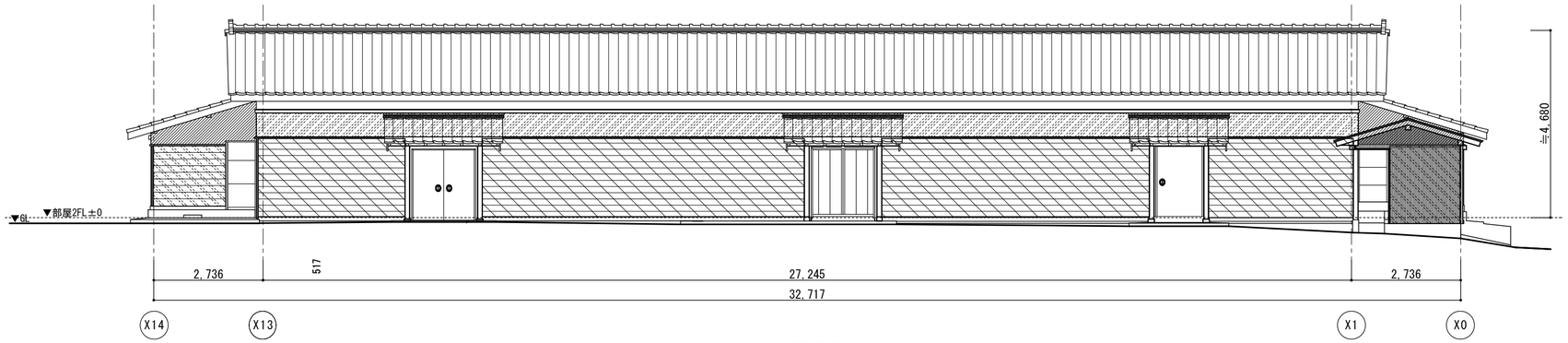


X1～9
外部・内部土壁
・外部土壁厚さ約140㎜
・内部土壁厚さ約90㎜

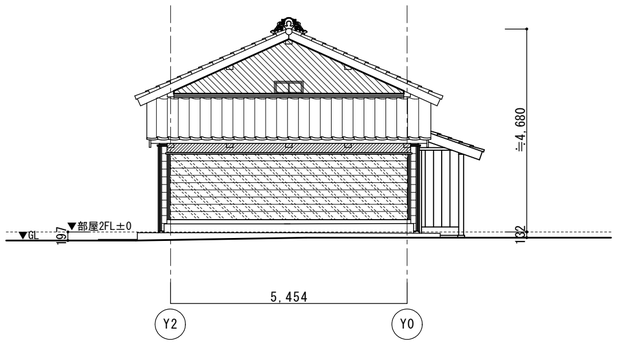


X14
外部土壁のみ
・土壁厚さ約65㎜

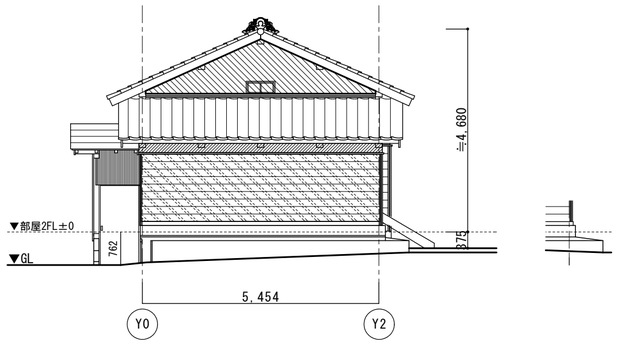
特記：	株式会社 伝統建築研究所 宮城県知事登録　第23410297号　一級建築士事務所	一級建築士　№254986 代表取締役　高橋直子	検図： 設計： 担当：	工事名： 史跡松ヶ岡開墾場貯桑土蔵保存修理工事	図面名： 左官工事図 1		図面番号： 53
					縮尺： 1/100	設計年月日：	区分：



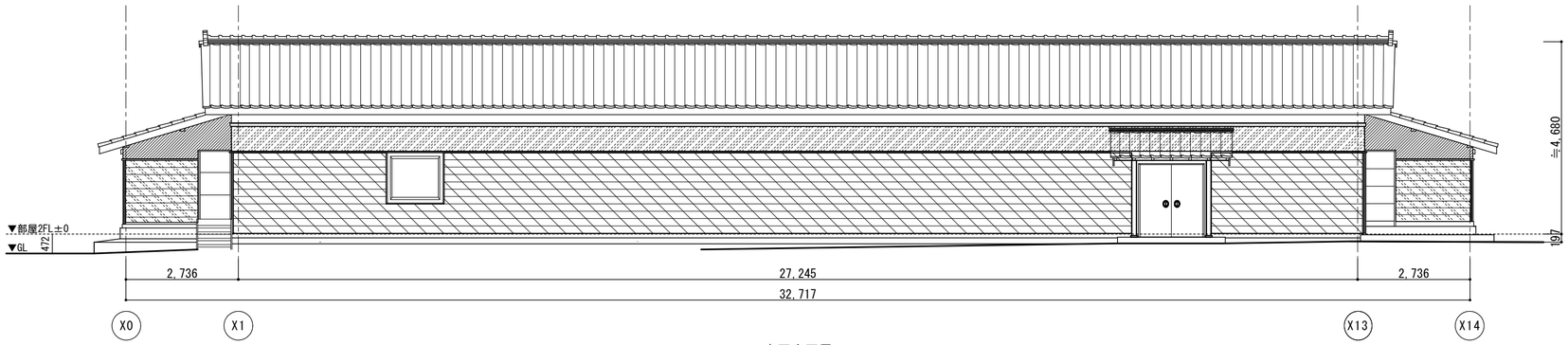
北面立面図



東面立面図



西面立面図



南面立面図

本舎・外壁上部
中塗り下地補修後、中塗り、漆喰仕上

下屋・妻壁
中塗り下地補修後、中塗り、漆喰仕上

本舎・外壁下見板の下
中塗り下地補修後、中塗り仕上

下屋・外壁下見板の下
中塗り下地補修後、中塗り仕上

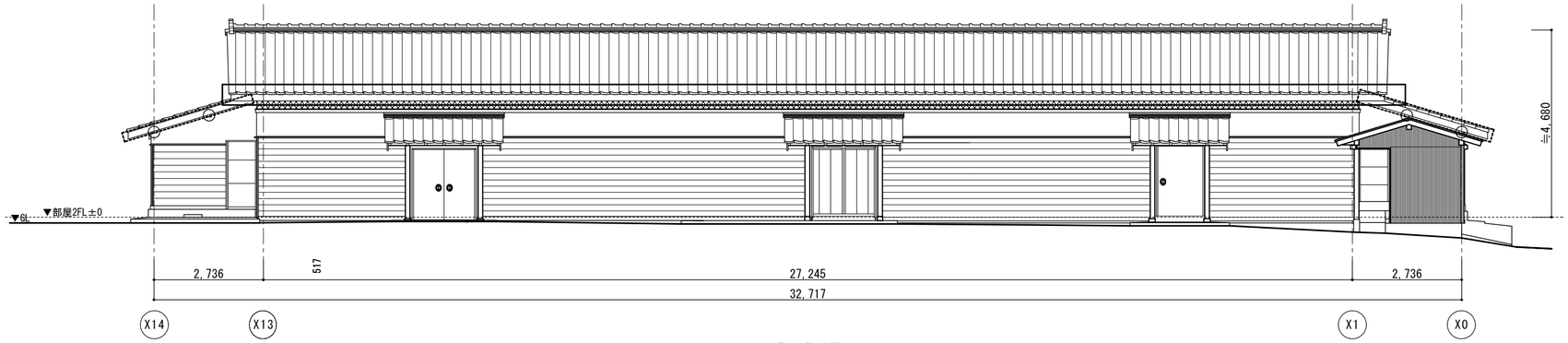
妻壁
既存漆喰撤去
中塗り下地補修後、中塗り、漆喰仕上

特記：	株式会社 伝統建築研究所 宮城県知事登録　第23410297号　一級建築士事務所	一級建築士　№254986 代表取締役　高橋直子	検図： 設計： 担当：	工事名： 史跡松ヶ岡開墾場貯桑土蔵保存修理工事	図面名： 左官工事図２ 縮尺：1/100	図面番号：５４ 設計年月日： 区分：

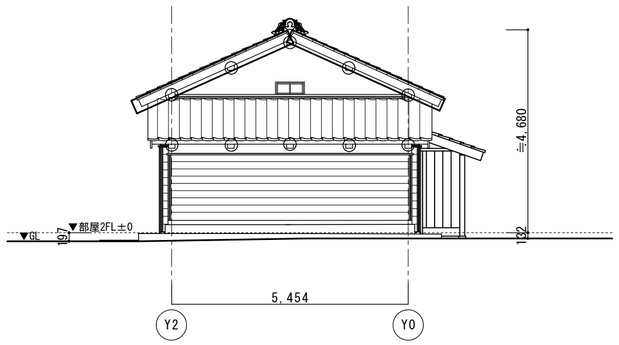
軒天用板金：亜鉛鉄板Ｔ0.5㎜、再利用材20%、新規材80%
・再利用鉄板は歪みを直し、ハゼ部分を確認して再利用とする

木口板金包

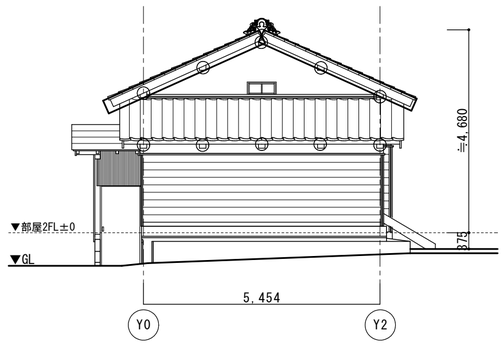
鼻隠し・破風板金：鉄板Ｔ〇㎜、新規材100%



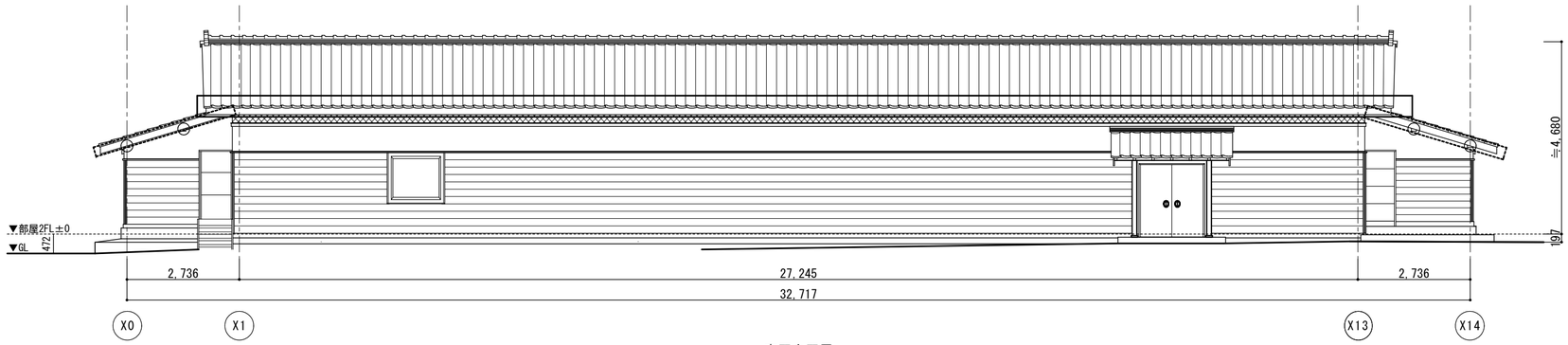
北面立面図



東面立面図

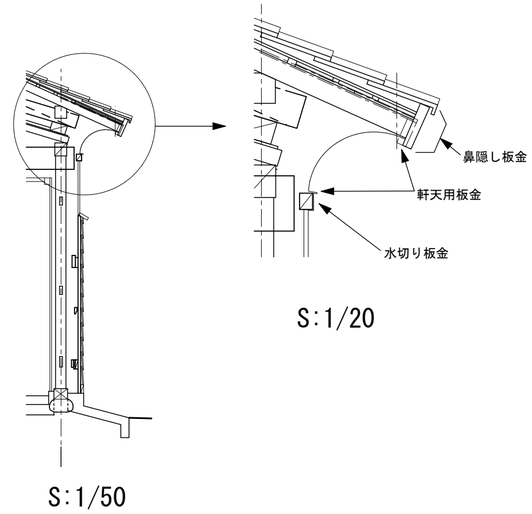


西面立面図

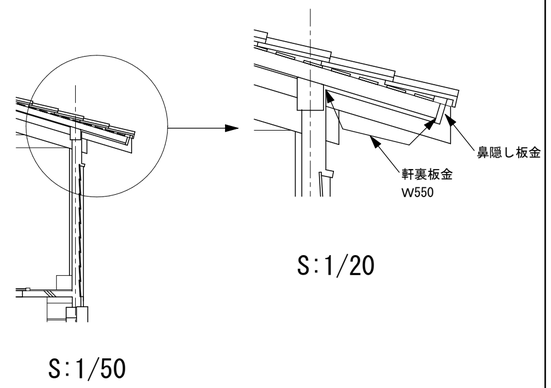


南面立面図

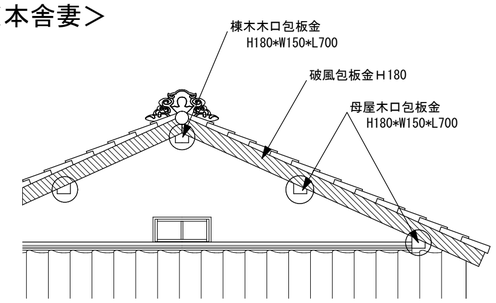
<本舎>



<下屋>



<本舎妻>



S:1/50

特記：	株式会社 伝統建築研究所 宮城県知事登録　第23410297号　一級建築士事務所	一級建築士　№254986 代表取締役　高橋直子	検図： 設計： 担当：	工事名： 史跡松ヶ岡開墾場貯桑土蔵保存修理工事	図面名： 板金工事図 縮尺：1/100, 1/30　設計年月日：	図面番号： ５５ 区分：

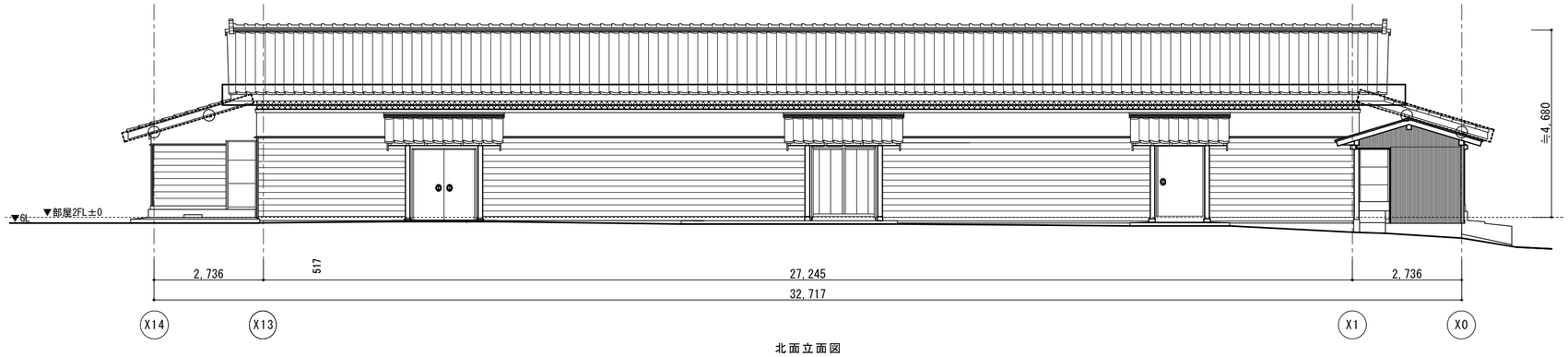
（再利用）軒天用板金部分の塗装：水洗い、素地こしらえＣ種、錆止め塗装Ｂ種、耐候性ＤＰ
（新規材）軒天用板金部分の塗装：錆止め塗装Ｂ種、耐候性ＤＰ

鼻隠し・破風板金：耐候性ＤＰ

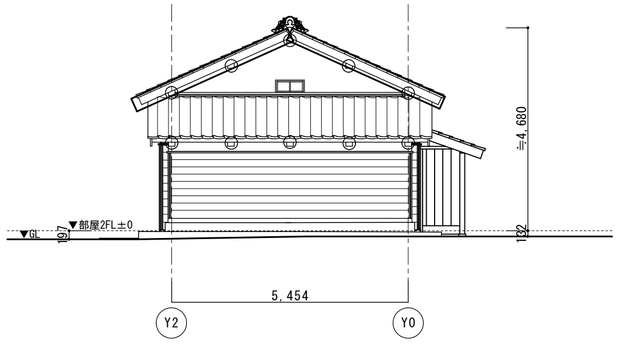
木口板金包：長さ800、3面、耐候性ＤＰ

※木部塗装

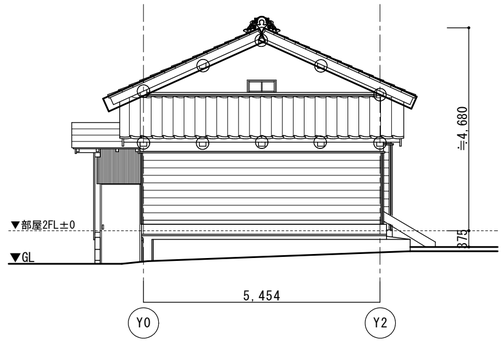
・下見板塗装：木材保護塗料ＷＰ　A種－下塗・上塗2回
・体験室１板壁塗装：木材保護塗料ＷＰ　A種－下塗・上塗2回
・展示室①階段塗装：木材保護塗料ＷＰ　A種－下塗・上塗2回
・土台：キシラデコール同等品塗装
・古色塗：特記仕様書（木工事）参照



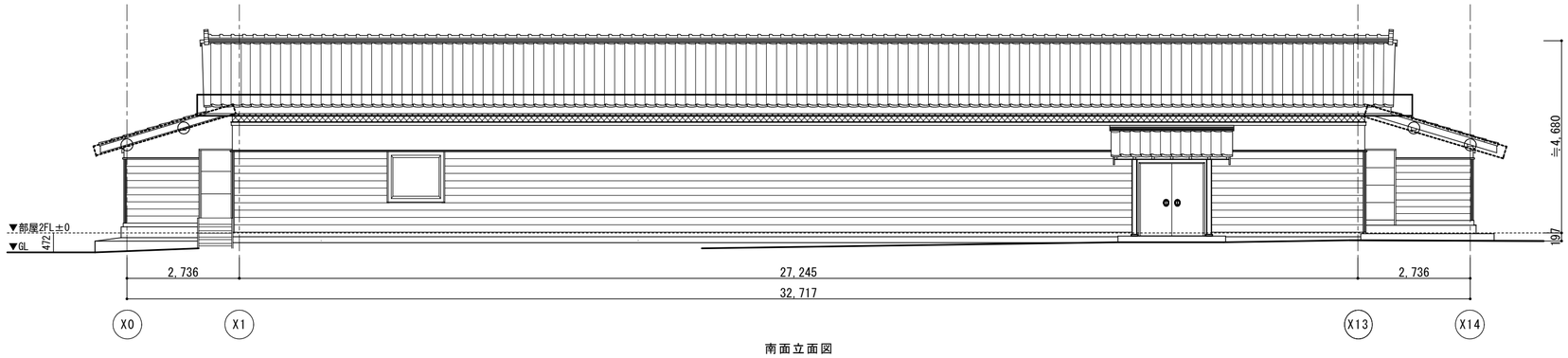
北面立面図



東面立面図

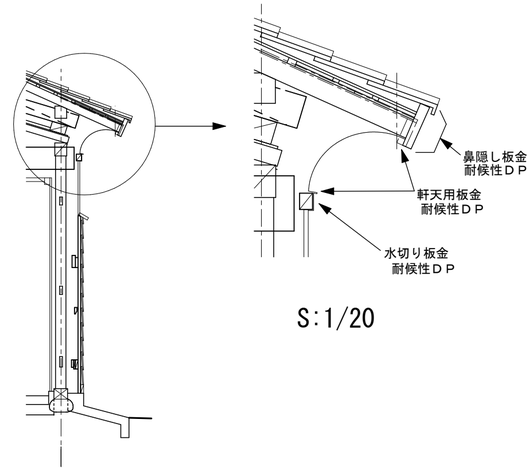


西面立面図



南面立面図

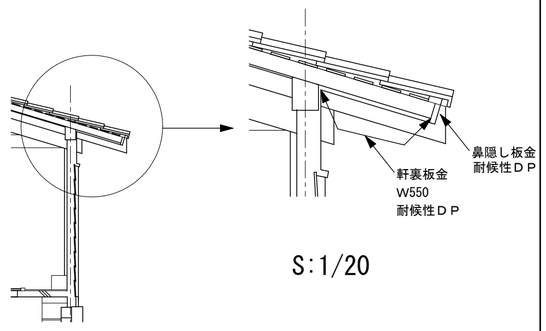
＜本舎＞



S:1/20

S:1/50

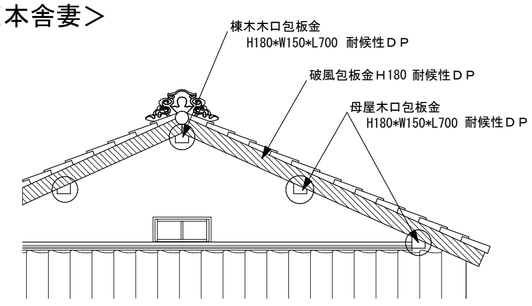
＜下屋＞



S:1/20

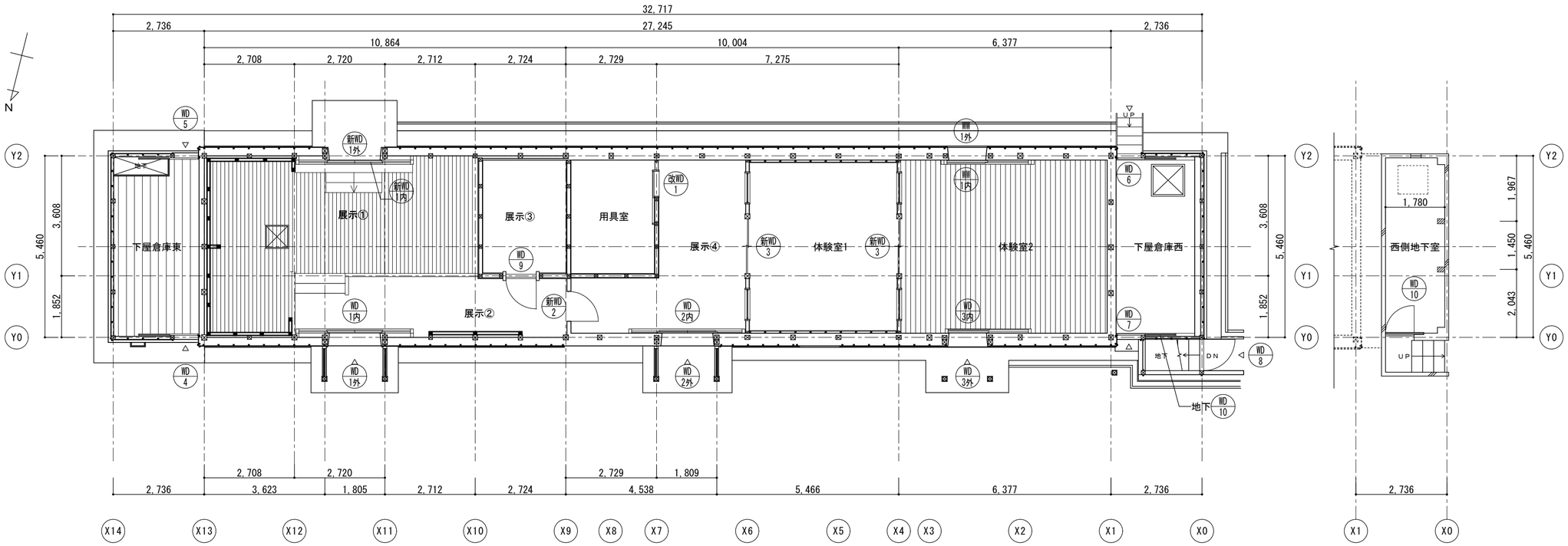
S:1/50

＜本舎妻＞



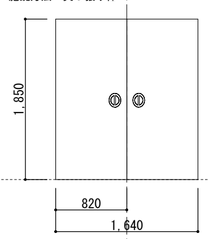
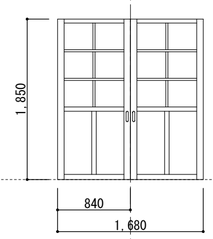
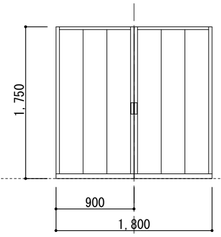
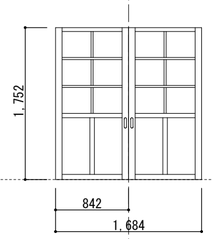
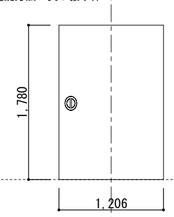
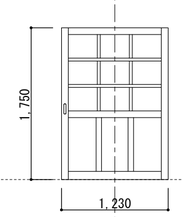
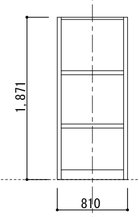
S:1/50

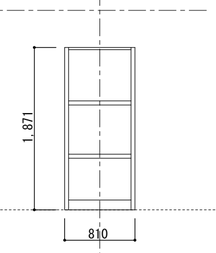
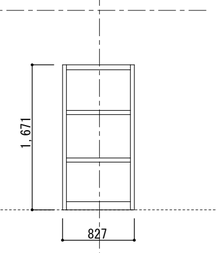
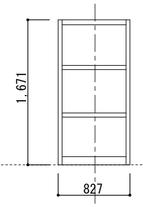
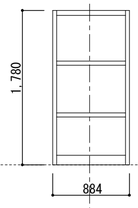
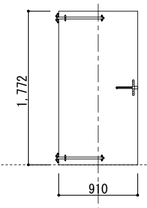
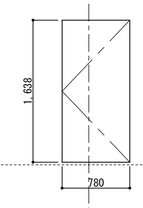
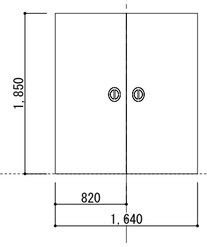
特記：	株式会社 伝統建築研究所 宮城県知事登録　第23410297号　一級建築士事務所	一級建築士　№254986 代表取締役　高橋直子	検図： 設計： 担当：	工事名： 史跡松ヶ岡開墾場貯桑土蔵保存修理工事	図面名： 塗装工事図	図面番号： ５６
					縮尺： 1/100, 1/30	設計年月日： 区分：

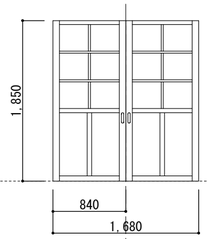
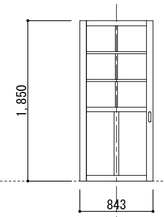
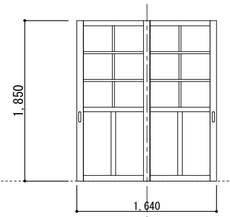
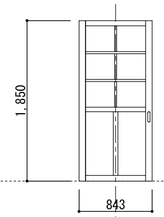
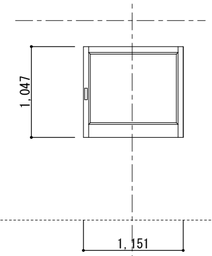
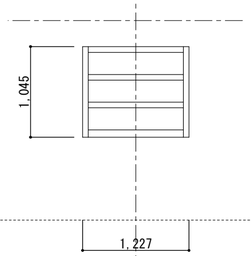


改修１階平面図

特記：	株式会社 伝統建築研究所 宮城県知事登録　第23410297号　一級建築士事務所	一級建築士　№254986 代表取締役　高橋直子	検図： 設計： 担当：	工事名： 史跡松ヶ岡開墾場貯桑土蔵保存修理工事	図面名： 改修建具キープラン図 縮尺：1/100　設計年月日：	図面番号： ５７ 区分：

記号	WD 1外 引き分け戸（大戸）	WD 1内 引き分けガラス戸（腰付き）	WD 2外 引き分け板戸	WD 2内 引き分けガラス戸（腰付き）	WD 3外 片引き戸（大戸）	WD 3内 片引きガラス戸（腰付き）	WD 4 片引き板戸
	箇所 1 / 見込 52	箇所 1 / 見込 35	箇所 1 / 見込 34？	箇所 1 / 見込 34？	箇所 1 / 見込 52	箇所 1 / 見込 34	箇所 1 / 見込 34
姿図	修理：枠ー再利用 ベニヤ下地＋羽目板T9mm、白塗装 下框ー取替 戸車ー交換 引手ー錆落とし後、錆止め塗装 施錠方法ー突っ張り棒 	修理：水洗いの後、再塗装 	修理：水洗いの後、再塗装 	修理：水洗いの後、再塗装 戸車ー交換 	修理：枠ー再利用 ベニヤ下地＋羽目板T9mm、白塗装 下框ー取替 戸車ー交換 引手ー錆落とし後、錆止め塗装 施錠方法ー突っ張り棒 	修理：水洗いの後、再塗装 戸車ー交換 	修理：水洗いの後、再塗装 戸車ー交換 下框ー交換 外部板金ー交換 
使用場所	外部～展示②	外部～展示②	外部～展示④	外部～展示④	外部～体験室２	外部～体験室２	外部～下屋倉庫東（北側）
仕上							
付属金物	ステンレス　角レール取替		ｽﾃﾝﾚｽ角ﾚｰﾙ取替、ｼﾘﾝﾀﾞｰ錠（ＦＮ錠）、鴨居下金物		ステンレス　角レール取替		ステンレス　角レール取替、南京錠（同一キー）
ガラス					なし		
備考							

記号	WD 5 片引き板戸	WD 6 片引き板戸	WD 7 片引き板戸	WD 8 片開き板戸	WD 9 外開き扉	WD 10 外開き扉	新WD 1外 引き分け戸（大戸）
	箇所 2 / 見込 45	箇所 2 / 見込 45	箇所 2 / 見込 45	箇所 / 見込	箇所 1 / 見込 132	箇所 / 見込	箇所 1 / 見込 52
姿図	修理：水洗いの後、再塗装 戸車ー交換 上・下框ー交換 外部板金ー交換 	修理：水洗いの後、再塗装 戸車ー交換 上・下框ー交換 外部板金ー交換 	修理：水洗いの後、再塗装 戸車ー交換 上・下框ー交換 外部板金ー交換 	修理：水洗いの後、再塗装 丁番ｰｽﾃﾝﾚｽ交換 上・下框ー交換 外部板金ー交換 	修理：４周ピンチブロック コーチボルト6本にて取付 	修理：水洗いの後、再塗装 丁番ｰｽﾃﾝﾚｽ交換 上・下框ー交換 外部板金ー交換 	修理：枠ー再利用 ベニヤ下地＋羽目板T9mm、白塗装 下框ー取替 戸車ー交換 引手ー錆落とし後、錆止め塗装 施錠方法ー突っ張り棒 
使用場所	外部～下屋倉庫東（南側）	外部～下屋倉庫西（南側）	外部～下屋倉庫西（北側）	外部～西地下階段	展示②～展示③	西地下階段～西地下室	外部～展示①
仕上							
付属金物	ステンレス　角レール取替		ステンレス　角レール取替、南京錠（同一キー）	南京錠（同一キー）		南京錠（同一キー）	ステンレス　角レール取替
ガラス							
備考							

記号	新WD 1内 引き分けガラス戸（腰付き）	新WD 2 外開きガラス戸	新WD 3 引違ガラス戸（腰付き）	改WD 1 片引きガラス戸（腰付き）	WW 1内 片引き窓	WW 1外 片引き塗ごめ窓	
	箇所 1 / 見込 35	箇所 1 / 見込 35	箇所 2 / 見込 35	箇所 1 / 見込 35	箇所 / 見込	箇所 / 見込	箇所 / 見込
姿図					修理：清掃 建入調整 	修理：清掃 戸車ー交換 	
使用場所	外部～展示①	展示②～展示④	展示④～体験室１、体験室１～体験室２	展示④～用具室	外部～体験室２	外部～体験室２	
仕上	杉、木材保護塗料	杉、木材保護塗料	杉、木材保護塗料	杉、木材保護塗料			
付属金物	真鍮引手、ｽﾃﾝﾚｽ角ﾚｰﾙ	真鍮引手、ｽﾃﾝﾚｽ角ﾚｰﾙ	真鍮引手、ｽﾃﾝﾚｽ角ﾚｰﾙ	真鍮引手、ｽﾃﾝﾚｽ角ﾚｰﾙ			
ガラス	透明ガラス	透明ガラス	透明ガラス	透明ガラス			
備考							

特記：

株式会社 伝統建築研究所
宮城県知事登録　第23410297号　一級建築士事務所
一級建築士　№254986
代表取締役　高橋直子

検図：
設計：
担当：

工事名：史跡松ヶ岡開墾場貯桑土蔵保存修理工事

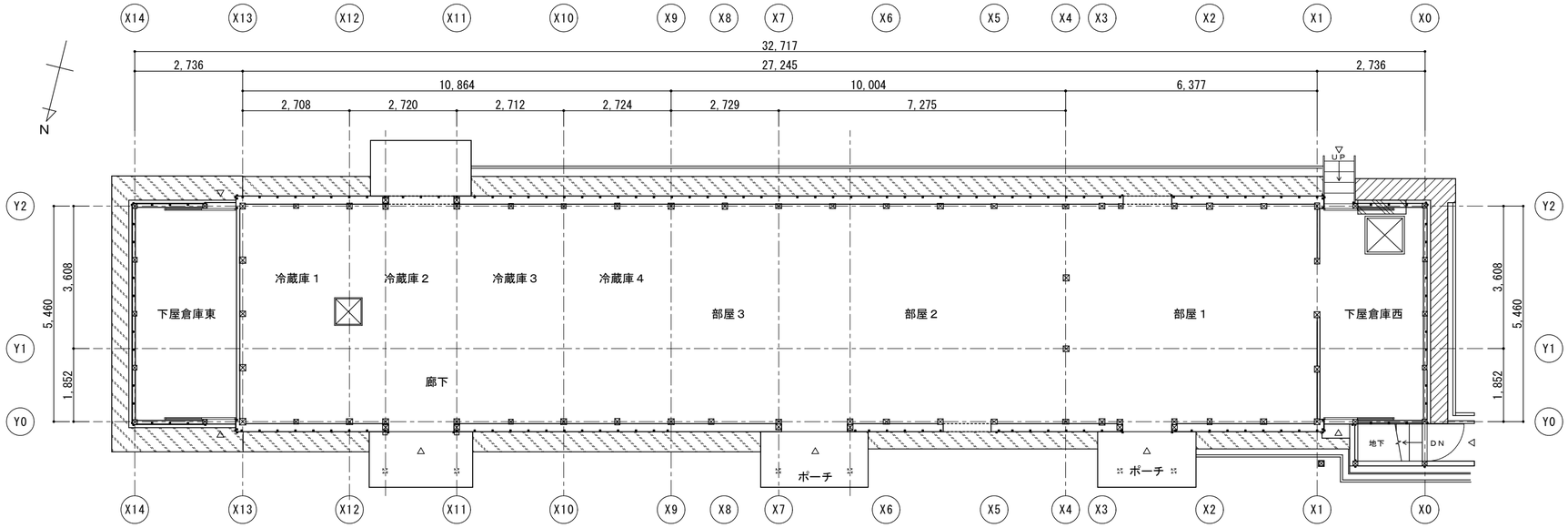
図面名：改修　建具表

縮尺：1/50

設計年月日：

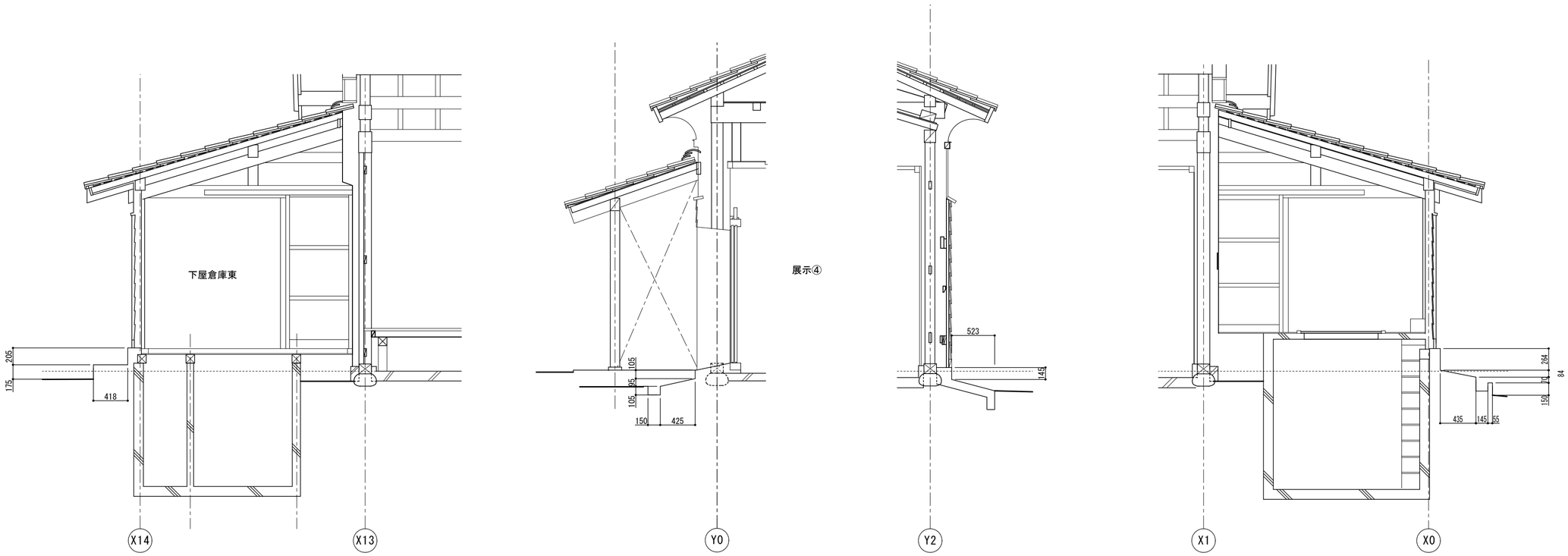
図面番号：58

区分：



犬走修理範囲
・既存犬走にモルタルT50程度の重ね補修
・既存雨落ち整備

犬走＋雨落ち修理範囲
・犬走はひび割れをモルタルにて補修
・雨落ち整備、基礎補修。



展示④

特記：	株式会社 伝統建築研究所 宮城県知事登録　第23410297号　一級建築士事務所	一級建築士　№254986 代表取締役　高橋直子	検図： 設計： 担当：	工事名： 史跡松ヶ岡開墾場貯桑土蔵保存修理工事	図面名： 外構工事 縮尺：1/100　設計年月日：	図面番号： ５９ 区分：

工　事　仕　様　書　（電気）

Ⅰ．工事概要

１.工 事 名　史跡松ヶ岡開墾場貯桑土蔵保存修理工事

２.工事場所　山形県鶴岡市羽黒町松ケ岡字松ケ岡28

３.建築概要

建　築　物　（区　分）	構造種別	階数	延べ面積　㎡	防対項目	備　　考
史跡松ヶ岡開墾場	木造	1			

４.工事種目（本工事の工事種目は●印とする。）

名	称	新設	改修	備　　考
受変電設備	受変電設備	○	○	
		○	○	
電力設備	電灯動力幹線設備	○		
	電灯設備	●	○	
	動力設備	●	○	
	雷保護設備	○	○	
	電熱設備	○	○	
		○	○	
電力貯蔵設備	直流電源装置	○	○	
	交流無停電電源装置	○	○	
発電設備	自家発電設備	○	○	
	太陽光発電設備	○	○	
		○	○	
情報・通信設備	構内交換設備	●	○	
	構内情報通信網設備	○	○	
	情報表示設備	○	○	
	映像音響設備	○	○	
	拡声設備	○	○	
	誘導支援設備	○	○	
	テレビ共同受信設備	○	○	
	監視カメラ設備	○	○	
	防犯・入退室管理設備	○	○	
	自動火災報知設備	●	○	
	中央監視制御設備	○	○	
		○	○	
		○	○	

Ⅱ．工事仕様

１.共通事項　本工事は、鶴岡市契約規則及び鶴岡市建設工事請負契約約款により執行する。
また本工事は国土交通省大臣官房官庁営繕部監修、公共建築工事標準仕様書・公共建築改修工事
標準仕様書・公共建築設備工事標準図（電気設備工事編）及び関係規則、条例に準拠して施工する。

種目	項　目	特　記　事　項
一般事項	申請手続きの代行	監督職員の承諾を受けて代行する。その費用は受注者の負担とする。
	工事関係書類	「提出書類及び注意事項等一覧」及び監督職員の指示による。
	機材の品質等	使用する資機材はメーカーリスト及び納入仕様書を作成し工事着手前に監督職員の承諾を得る。メーカー選定にあたっては設備機材等品質性能評価名簿（公共建築協会）と同等品以上とする。
	事故報告	災害及び事故が発生した場合は、人命及び工事現場の安全確保を優先したうえで直ちに経緯を監督職員に報告すること。また発生から１～２週間後をめどに事故報告書及び関係資料を監督職員に提出すること。
	電気保安技術者	● 配置しない　○ 配置する
	完成図書	● 製本　○ ファイル綴じ（A4版）
	発生材の処理等	（1）発注者に引き渡しを要するもの ● なし　○ あり（　　）
		（2）特別管理産業廃棄物 ○ 廃油（引火性）　○ 廃酸(PH2.0以下)　○ 廃ｱﾙｶﾘ(PH12.5以上)　○ 廃石綿（飛散性） ○
		（3）石綿含有廃棄物（非飛散性） 該当材料：
		（4）特殊な廃棄物 ○ フロン（冷凍機器等）　○ ハロン（消火設備）　○ 水銀使用製品産業廃棄物 ○ 六フッ化硫黄ガス（ガス絶縁開閉機器）　○ 放射線源（イオン化式感知器） ○
		（5）建設発生土 ● 工事内再利用　（ ● 場内敷き均し　○ 　　） ○ 他工事再利用　（ ○ 　　 運搬距離 　　km ） ○ 搬出先未定　受注後、受注者と協議のうえ発注者が搬出先を指示する。 なお搬出等に要する費用は設計変更にて対応する。 当初設計運搬距離　　km ）
共通事項	電気工作物	● 一般用　○ 自家用（電気主任技術者：○ 専任　○ 東北電気保安協会　○　　）
	受変電設備	○ キュービクル（ ○ 屋内型　○ 屋外型 ）○ 指定色塗装　○ 既存改修　○ 開放形 ○「標準仕様書」仕様　○ メーカー仕様
	盤類	● 鋼板製　○ ステンレス製　○ 樹脂製　○ 指定色塗装　○ 既存改修 ●「標準仕様書」仕様　○ メーカー仕様

共通事項

図面の保管　盤類を新設及び改修した際は、内部に単線接続図又は展開接続図等を収納する。

電線管
○ ねじなし(E)　○ 薄鋼(C)　● 厚鋼（ ○ G管　● Z管）　○ PEG管　○ 硬質ビニル管（VE）
● 合成樹脂可とう管　（ ○ CD管　● PF単層管　○ PF二層管　）　○ FEP管
● 金属線び（ ● 1種　○ 2種）　● 金属製可とう電線管（ ビニル被覆　● 有　○ 無　）

ケーブルラック　○ ZM　○ Z35　○ ZA　○ AL　○ ZT

導入線　１m以上の通線を行わない配管には導入線（樹脂被覆鉄線等）を入れる。

電線管の塗装　下記の鋼製電線管（ｽﾃﾝﾚｽ及び外面被覆が有るものを除く）は塗装を行う。
○ 屋内露出（居室、廊下）　○ 機械室　○ 電気室　○ 屋外露出

プレート
● 金属製　○ 合成樹脂製　○ ステンレス製

位置ボックス（断熱）
● 金属製　○ 合成樹脂製
内側断熱を施す構造体のコンクリートに埋込むボックスには断熱材等を取り付ける。

ハンドホール　○ 丸型（Ｒ２Ｋ、Ｒ８Ｋ）　○ 角型（Ｓ２Ｋ、Ｓ８Ｋ）
ケーブルは、要所、引込口及び引出口近くのハンドホール内で余裕をもたせること。

支持材　屋外、ピット内及び多湿箇所の支持材はステンレス製又は溶融亜鉛めっきとする。

埋設深度

一般敷地	車両通路	
GL-450mm以上	GL-900mm以上	

必要な箇所は保護を行う。

サンドクッション　土中埋設配管は周囲100mm以上のサンドクッション（砕砂又は山砂）で埋戻し、水締めを行う。

地中埋設標　○ コンクリート製（国土交通省仕様）　○ 鉄製鋲（舗装面用）

埋設標識シート　地中配線には、標識シート（２倍長）を管頂と地表面のほぼ中間に布設する。

スリーブ

	つば付き鋼管	塩化ﾋﾞﾆﾙ製（VU）	紙製	鋼板製	SGP管(白)
地中部分で水密を要する	●				
地中部分で水密を要しない		●			
柱,梁以外で開口補強が不要かつスリーブ径200φ以下			●	●	●
防火区画			●	●	●
その他		●		●	●

つば付き鋼管のつばは50mm以上の鋼板、厚さ3.2mm以上とし全周溶接とする。
上記以外のスリーブ材を使用する場合は監督職員の承諾を得ること。

耐震施工　機器、電線管、ｹｰﾌﾞﾙﾗｯｸ等は地震力により転倒、落下、横ずれ等を防ぐため堅固に据付を行う。
計算及び施工方法は次に掲げる事項以外はすべて「建築設備耐震設計・施工指針（2014年版）」による。施工方法については耐震計算書等を提出し監督職員の承諾を受けること。
（1）耐震安全性の施設分類　○ 特定施設　● 一般施設
（2）設計用標準震度(K_S)

設置場所	耐震安全性の分類			
	特定の施設		一般の施設	
	重要機器	一般機器	重要機器	一般機器
上層階、屋上及び搭屋	2.0（2.0）	1.5（2.0）	1.5（2.0）	1.0（1.5）
中間階	1.5（1.5）	1.0（1.5）	1.0（1.5）	0.6（1.0）
1階及び地下階	1.0（1.0）	0.6（1.0）	0.6（1.0）	0.4（0.6）

注）（ ）内の数値は防振支持の機器の場合に適用する。
（3）設計用水平震度（K_H）　$K_H = Z \cdot K_S$　（ 地域係数Z ＝ 0.9 ）
（4）重量が100kg以下の軽量な機器（標準仕様書の適用を受けるものは除く）の据付・取付については、上記指針によらず取付下地を施工したうえで、機器メーカーの指定する方法等で確実に行うものとする。
（5）横引き配管等の支持は地震力に耐えるように標準仕様書及び標準図（電力30）により行う。
（6）重要機器：

インサート　鋼製とし、断熱材打ち込み部分については断熱材用インサートを使用する。

あと施工ｱﾝｶｰ試験　○ 性能確認試験（目視、接触、打音）　○ 施工後確認試験（引張試験）

既存ｲﾝｻｰﾄ及びｱﾝｶｰ　○ 使用する　（ ○ 確認試験（引張試験））

はつり工事　はつり作業を行う場合は埋設配管等に損傷を与えないよう、電磁波レーダー方式による調査のうえ行う。

接地工事　接地極は図面に特記がない場合は下記のとおりとする。接地極の埋設位置には、近くの適切な箇所に接地極埋設標を設ける。ただし電柱及び屋外灯の接地極は除く。

適用	種類	記号	接地抵抗	接地極
○	A種	E_A	10Ω以下	EB（14φ×1500L）× 3連 ～ 2組
○	B種	E_B	150/I_1Ω以下	EB（14φ×1500L）× 2
○	C種	E_C	10Ω以下	EB（14φ×1500L）× 3連 ～ 2組
●	D種	E_D	100Ω以下	EB（14φ×1500L）× 1
○	高圧避雷器	E_{LH}	10Ω以下	EB（14φ×1500L）× 3連 ～ 2組
○	MDF(通信SPD)用	E_{A1}	10Ω以下	EB（14φ×1500L）× 3連 ～ 2組
○	TEL保安器用	E_{L1}	100Ω以下	EB（14φ×1500L）× 1
○	測定用補助接地極	E_0	—	EB（10φ×1500L）× 1
○				

○ 受変電設備

電圧　高圧（ 3φ3W6.6kV ）　低圧（ ○ 3φ4W240/415V　○ 1φ3W100/200V　○ 3φ3W200V ）

主遮断器の形式（遮断電流）　○ 高圧交流遮断器（CB形）　○ 限流ヒューズ及び高圧負荷開閉器（ PF・S形）
○ 12.5kA　○ 8kA

交流遮断器　○ 手動ばね操作方式　○ 電動ばね操作方式　○ 電磁操作方式

引込用負荷開閉器　地絡保護装置（ ○ 方向性　○ 無方向性）　○ 変圧器内臓　○ 避雷器内臓

変圧器　○ 油入　○ モールド　※トップランナー方式2014適合品

進相コンデンサ　○ 高圧（ ○ 油入　○ モールド　※温度種別Ｂ ）　○ 低圧（LCユニット）

直列リアクトル　○ 高圧（ ○ 油入　○ モールド　※温度種別Ｂ ）　○ 6%　○ 13%

消火器　○ 本工事　○ 別途工事（　　）

○ 電力貯蔵設備

直流電源装置　○ 非常照明用　○ 受変電設備制御電源用　○消防設備稼働用　○

交流無停電電源装置　○ 業務用パソコン用　○ サーバー用　○ ネットワーク機器用　○
○ 容量：　　kVA
（給電方式）　○ 常時ｲﾝﾊﾞｰﾀ給電方式　○ ﾗｲﾝｲﾝﾀﾗｸﾃｨﾌﾞ方式　○ 常時商用給電方式

鉛蓄電池　○ ｸﾗｯﾄﾞ式（CS形）　○ ﾍﾞｰｽﾄ式（ ○ PS形　○ MSE形　○ HSE形 ）

アルカリ蓄電池　○ ﾎﾟｹｯﾄ式（AMP・AMHP・AHP形）　○ 焼結式（AHS・AHHS形）　○ 焼結式ｼｰﾙ形（AHHE形）

● 電灯設備

電気方式（幹線）　○ 1φ3W 100/200V　○ 1φ2W 100V　○ 3φ4W 240/415V
（分岐）　● 1φ2W 100V　○ 1φ2W 200V　○ 1φ2W 240V

ｽｲｯﾁ　● ﾀﾝﾌﾞﾗｽｲｯﾁ（ ● ﾈｰﾑ付　○ ﾈｰﾑ無 ）　○ ﾜｲﾄﾞ形（ ○ ﾈｰﾑ付　○ ﾈｰﾑ無 ）
○ ﾘﾓｺﾝｽｲｯﾁ（ ○ 2線式　○ ﾌﾙ2線式 ）　○ 人感ｾﾝｻ（ ○ 天井　○ 壁付）
● ﾊﾟｲﾛｯﾄｽｲｯﾁ（ ○ 0.5A　● 4A ）　○ ﾈｵﾝﾙｽｲｯﾁ

ﾌﾛｱｺﾝｾﾝﾄ　● 収納型　○ 上下可動型　○ ｺﾝｸﾘｰﾄ埋込　○ 二重床用

非常照明　○ 電源内蔵形　○ 電源別置形

誘導灯用信号装置　○ 設置する　○ 設置しない

照明器具の取付　照明器具はスラブその他の構造体より吊りボルト等で支持する。
なおダウンライト器具の取付は標準図（電力22）による。
埋込形照明器具は断熱施工可能型の器具を除き、断熱材等により放熱を妨げることのないように取付ける。

● 動力設備

電気方式　● 3φ3W 200V　○ 3φ3W 415V

機器の接続　電動機などへの接続は本工事とする。

電極及び配線　○ 本工事　○ 別途工事（　　）

○ 雷保護設備

規格　○ JIS A 4201-2003　○ JIS A 4201-1992

保護レベル　○ レベルⅠ　○ レベルⅡ　○ レベルⅢ　○ レベルⅣ

受雷部　○ 突針　○ 水平導体　○ メッシュ導体　○ 構造体利用

避雷導線　○ 引き下げ導線　○ 構造体利用　○ 試験用接続端子箱

接地極　○ A型接地極　（ ○ 板状接地極　○ 垂直接地極　○ 放射状接地極 ）
○ B型接地極　（ ○ 環状接地極　○ 網状接地極　○ 基礎接地極　）
○ 構造体利用接地極

内部雷保護　○ 電力用SPD　（ ○ クラスⅠ　○ クラスⅡ　○ クラスⅢ ）　○ 接地用SPD
○ 通信用SPD　（ ○ 電話　○ テレビ　○ 火災報知　○ 情報　○ 　　）

○ 発電設備

発電機　三相３線式　電圧　　V　定格出力　　kVA　○ 普通型　○ 長時間型

原動機
（始動方式）　○ ディーゼル　○ ガスエンジン　○ ガスタービン　○ マイクロガスタービン
（冷却方式）　○ 電気始動方式　○ 空気始動方式
（燃料）　○ 水冷方式　○ 空冷方式　○ ラジエータ冷却方式
○ 灯油　○ A重油　○ 軽油　○ LPガス　○ 都市ガス

太陽光発電装置　系統連系（ ○ 有　○ 無 ）　自立運転（ ○ 有　○ 無 ）　蓄電池（ ○ 有　○ 無 ）
太陽電池アレイ公称出力　　kW
パワーコンディショナ定格出力　　kW　○ 3φ3W200V　○ 1φ3W100/200V　○ 1φ2W100V

発電回路コンセント　非常時に使用可能である表示を行い、コンセントの色は赤色とする。

● 構内交換設備

工事範囲　○ 交換機　○ 電話機　● 配管　● 配線

引込局線　回線数：　1　回線　回線種別：　○ アナログ　○ ISDN　● IP

交換装置　○ デジタルPBX　○ IP-PBX　○ VoIPサーバ
局線：　　回線　内線：　　回線

通信コネクタ　● モジュラーコネクタ　○ ノズルプレート　○ ブランクプレート

○ 構内情報通信網設備

工事範囲　○ ﾙｰﾀ　○ ｽｲｯﾁ　○ ｱｸｾｽﾎﾟｲﾝﾄ　○ 配管　○ 配線

UTPケーブル　○ Cat5e UTP　○ Cat6 UTP　○ Cat6A UTP　○ Cat6A F/UTP

有線LAN　（規格）　○ 100BASE-TX,FX　○ 1000BASE-T,SX,TX　○ 10GBASE-T,SR,LR,ER,LX4

無線LAN　（規格）　○ IEEE802.11a/g/b/n　○ IEEE802.11ac　○ IEEE802.11ax

試験　○ 伝送品質測定試験(DAC)　○ ｴｲﾘｱﾝｸﾛｽﾄｰｸ試験　○ PoE性能測定　○ ﾊﾟｹｯﾄ試験
※ 情報表示設備、監視カメラ設備等のUTPｹｰﾌﾞﾙはﾒｰｶｰ規格の試験方法とする。

○ 情報表示設備

時刻表示装置　○ 親時計（ ○ 電波補正　○ FM補正 ）　○ 電源装置　○ ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑﾀｲﾏｰ　○ 電子式ﾁｬｲﾑ
○ 子時計（ ○ ｱﾅﾛｸﾞ　○ ﾃﾞｼﾞﾀﾙ ）

ﾏﾙﾁﾗｲﾝ装置　○ 情報表示盤　（ ○ LED式　○ 液晶式　○ 鋼板製　○ ｽﾃﾝﾚｽ製 ）

出退表示装置　○ 出退表示盤　（ ○ LED式　○ 液晶式　○ 鋼板製　○ 合成樹脂製 ）

○ 映像音響設備

増幅器　○ Lo形増幅器　　W　○ Lo形スピーカ

マイク　○ マイクロホン　○ ワイヤレスマイク　（ ○ 電波式　○ 赤外線式 ）

プロジェクタ　○ 天井吊り下げ形　○ 床置き形　○ 壁付形　○ 前面投映式　○ 背面投映式

その他　○ CDプレーヤー　○ オーディオレコーダー　○ Blu-ray/DVDレコーダー
○ カラーモニター　○ ヘッドエンド

○ 拡声設備

用途　○ 一般用　○ 非常放送用　○ 一般・非常併用

増幅器　○ Hi形増幅器　　W　○ Hi形スピーカ

マイク　○ マイクロホン　○ ワイヤレスマイク　（ ○ 電波式　○ 赤外線式 ）
○ リモコンマイク

その他　○ CDプレーヤー　○ アナウンスレコーダ　○ AMアンテナ　○ FMアンテナ

○ 誘導支援設備

インターホン　○ 内線用　（ ○ 相互式　○ 親子式 ）
○ テレビインターホン　○ 外部受付用インターホン　○ 障がい者用インターホン

トイレ等呼出装置（器具配置）　○ 呼出表示器　（ ○ 通話機能 ）　○ 呼出表示灯　○ 呼出釦　○ 復旧釦
呼出釦等の配置は高齢者・障がい者配慮設計指針（JIS S 0026）に準じる。

○ テレビ共同受信設備

受信方法　○ アンテナ　○ ケーブルテレビ

テレビアンテナ　○ UHFアンテナ　（ ○ AU-1　○AU-2　○ 一般標準品 ）
○ BS・110°CSアンテナ　（ ○ CSBSA-　　○ SHA-　　○ 一般標準品 ）
○ アンテナマスト　（ ○ 壁面取付形　○ 自立形 ）

機器　○ 増幅器　○ 分岐器　○ 分配器

直列ユニット　○ 一端子形　○ 二端子形

○ 監視カメラ設備

伝送方式　○ アナログ伝送方式　○ ネットワーク伝送方式　○ デジタル同軸伝送方式

カメラ　○ 屋外用　○ 屋内用　○ ハウジング形　○ ドーム形　○ 旋回装置

（電源）　○ AC100V　○ AC24V　○ PoE給電

モニタ装置　○ 液晶ディスプレイ　○ 　　

録画装置　○ デジタルレコーダ　○ 録画サーバ

○ 防犯・入退室管理設備

工事範囲　○ 配管　○ 配線　○ 機器

センサ　○ 赤外線ｾﾝｻ　○ ﾊﾞｯｸﾌﾞｻﾝｻ　○ ｶﾞﾗｽ破壊ｾﾝｻ　○ ﾏｸﾞﾈｯﾄｾﾝｻ

認識部　○ 磁気ｶｰﾄﾞﾘｰﾀﾞ　○ 暗証番号　○ ICｶｰﾄﾞﾘｰﾀﾞ　○ ﾊﾞｲｵﾒﾄﾘｯｸｽ照合装置

制御装置　○ 制御装置　○ 電気錠　○ 電気錠遠隔制御器

● 自動火災報知設備

受信機　○ P型　　級　　回線　（ ○ 壁掛形　○ 自立形 ）
○ R型　　AD　　系統　（ ○ 壁掛形　○ 自立形 ）
● 単独盤　○ 複合盤

（複合盤回線内訳）

	火災	防排煙	ガス漏れ	警報	
回線数	回線	回線	回線	回線	回線

副受信機　○ 無　○ 有（　　回線）

非常ベル　● 有　○ 無（非常放送連動）

機器収容箱　○ 専用形（ ○ 埋込形　○ 露出形 ）　○ 消火栓箱組込

区域表示板　○ 受信機地図表示　○ アクリル製　○ 紙製

自動閉鎖装置　○ 連動制御器（ ○ 単独（　　回線）　○ 複合 ）
○ 自動閉鎖装置（ ○ 防火戸用　○ 防火シャッタ用　○ 防煙ダンパ用 ）
○ 自動開放装置（ ○ 排煙窓用　○ 排煙ダンパー用 ）

非常警報装置　● 非常ベル　○ 非常放送設備　（ ○ 緊急地震放送 ）

ガス漏れ警報装置　○ 受信機（ ○ 単独（　　回線）　○ 複合 ）　○ 都市ガス　○ LPガス

消火器　● 本工事　○ 別途工事（　　）

○ 中央監視制御設備

監視制御対象　○ 受変電設備　○ 電灯動力設備　○ 昇降機設備　○ 発電設備　○ 火災報知設備

分類　○ 警報盤　○ 簡易型監視制御装置　○ 監視制御装置

警報盤　○ 壁掛形　（ 伝送方式　：　○ 接点式　○ パルス伝送式 ）

簡易型監視制御装置　○ 監視操作装置（ ○ 壁掛形　○ ｺﾝﾊﾟｸﾄ形 ）○ 信号処理装置　○ 記録装置　○ 電源装置

監視制御装置　○ 監視操作装置　○ ｸﾞﾗﾌｨｯｸﾊﾟﾈﾙ　○ 信号処理装置（ ○ BACnet　○ 製造者標準 ）
○ 記録装置　○ 電源装置

Ⅲ．図示記号

特記のない図示記号は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修公共建築設備工事標準図　（電気設備工事編）による。

Ⅳ．特記事項

停電時は施設管理者と協議を行うこと。

特記：	株式会社伝統建築研究所 宮城県知事登録　第23410297号　一級建築士事務所	一級建築士　№254986 代表取締役　高橋直子	検図： 設計： 担当：	工事名：史跡松ヶ岡開墾場貯桑土蔵保存修理工事	図面名：工事仕様書 縮尺：1/100　設計年月日：	図面番号：E-０１ 区分：

凡例

記号	名称	備考
◪	電灯分電盤	
MMA ⊏	1種金属線ぴ　A型	
MMB ⊏	1種金属線ぴ　B型	
⊠ WP 333	P.BOX（300×300×300）	SUS製
● FS	ファンスイッチ	機械設備支給品
● L	タンブラスイッチ 1P15Ax1	確認表示灯付
⏚ E D	接地極	

註記

1.特記なき配管配線は、下記による。

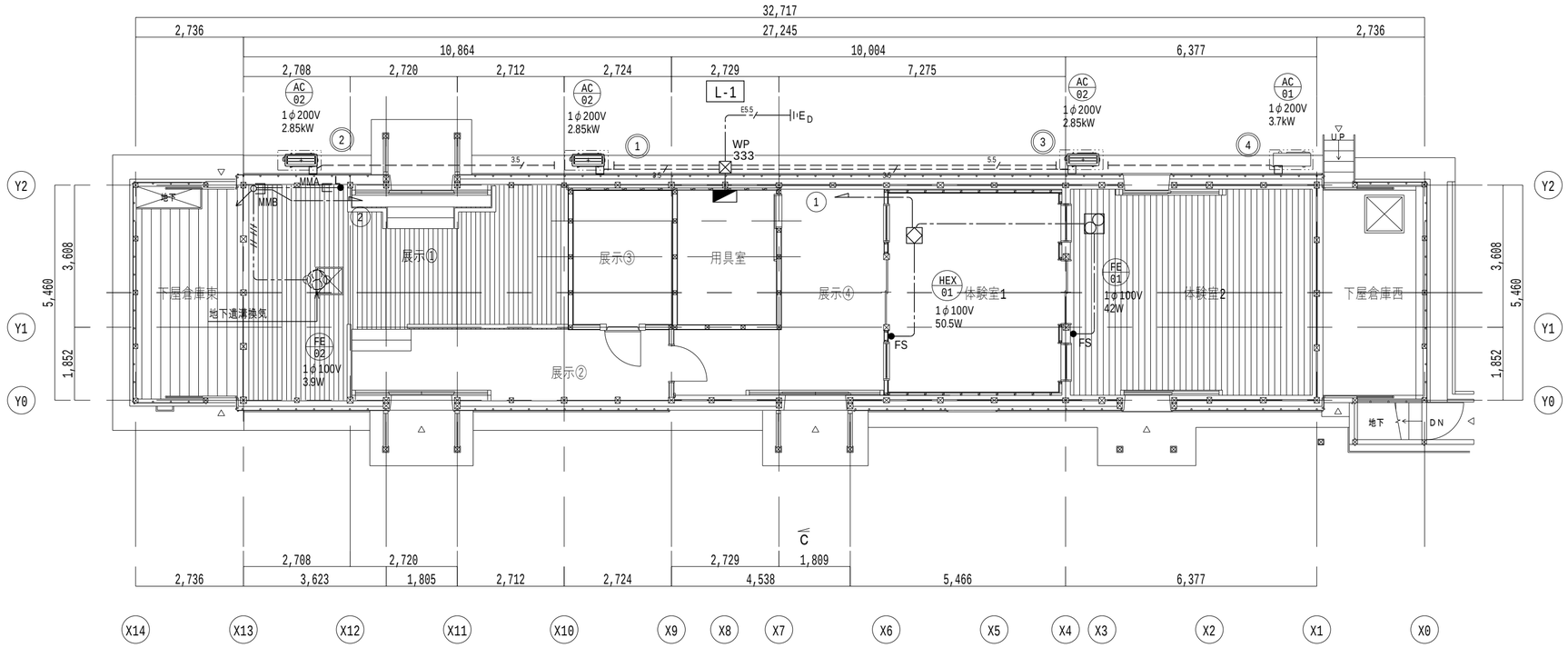
3.5	EM-CE3.5-3C	保護配管(G28)(F24)	
5.5	EM-CE5.5-3C	保護配管(G28)(F30)	
	EM-EEF2.0-3C	保護配管(PF22)	
E5.5	EM-IE5.5	保護配管(VE16)	
	天井ころがし配線（直天上部分サドル止め）		
	床ころがし配線		露出配管配線

2.壁内引下げ部・壁貫通部はPF管にて保護すること。

3.外部より建屋内への貫通部は止水処理を施すこと。

4.屋内にて直天上部分の配線は木造部分にサドル止めとする。

5.屋外露出配管配線はG管を使用すること。



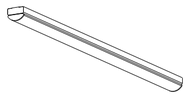
改修１階平面図

特記：	株式会社 伝統建築研究所 宮城県知事登録　第23410297号　一級建築士事務所	一級建築士　№254986 代表取締役　高橋直子	検図： 設計： 担当：	工事名： 史跡松ヶ岡開墾場貯桑土蔵保存修理工事	図面名： 空調・換気設備　平面図		図面番号： E-02
					縮尺： 1/100	設計年月日：	区分：

※器具の形状及び寸法は参考とする。
※照明器具の消費電力はJIS C 8105-3の測定方法による。

A1N　ＬＥＤ天井直付照明

公共型番：LSS1-4-30LN

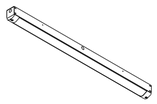


LED（昼白色）
本体：鋼板　白
LEDバー：ポリカーボネート　乳白
定格電圧：AC100V～242V
消費電力：22VA以下
器具光束：3,000 lm以上

（製造者標準品）

A2N　ＬＥＤ天井直付照明

公共型番：LSS1MP/RP-4-46LN

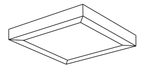


LED（昼白色）
本体：鋼板　白
LEDバー：ポリカーボネート　乳白
定格電圧：AC100V～242V
消費電力：35VA以下
器具光束：4,600 lm以上

（製造者標準品）

SP-1　ＬＥＤ天井直付照明

参考型番：LEKT40P043N-LD9



消費電力：35.0W
器具光束：４，２５０ｌｍ
Ｈｆコンパクト形蛍光灯ＦＨＰ２３形高出力形４灯相当
相関色温度：５０００Ｋ　平均演色評価数（Ｒａ）：８３
器具サイズ：□４０４×高さ５０
本体：鋼板　白
光源ユニットカバー：ポリカーボネート　乳白
定格電圧：ＡＣ１００Ｖ～２４２Ｖ
一体形スクエア直付□４００
調光型

（製造者標準品）

SP-2　ＬＥＤスポットライト

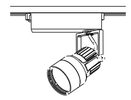
参考型番：OG254703

本体：黒
消費電力：11.0W
巾φ88 長152
防雨型　調光器不可

（製造者標準品）

SP-3　ＬＥＤスポットライト

参考型番：XS412618

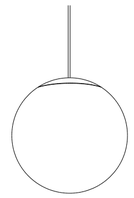


本体：黒
消費電力：22.0W
LED 22W 5000K
レール取付専用

（製造者標準品）

SP-4　ＬＥＤペンダントライト

参考型番：OP252593NR



消費電力：22.0W
5000K
巾φ400 高400 全高1,209-2,009
引掛シーリング

（製造者標準品）

XC　ＬＥＤ避難口誘導灯

公共型番：SH1-FBF20-C

（製造者標準品）

特記：

株式会社伝統建築研究所
宮城県知事登録　第23410297号　一級建築士事務所

一級建築士　№254986
代表取締役　高橋直子

検図：
設計：
担当：

工事名：史跡松ヶ岡開墾場貯桑土蔵保存修理工事

図面名：照明器具姿図
縮尺：N/S
設計年月日：
図面番号：E-03
区分：

凡例

記号	名称	備考
	電灯分電盤	
	タンブラスイッチ　1P15Ax1	
	タンブラスイッチ　1P15Ax2	
	タンブラスイッチ　1P15Ax4	
H	タンブラスイッチ　1P15Ax1	位置表示灯付
	調光器	入切スイッチ付
A	自動点滅器	
WP	P.BOX（SS100ｘ100ｘ100）	防水SUS製
	引掛けシーリング	露出アウトレットボックス取付
LD1	ライティングレール（1m）	黒色
LD2	ライティングレール（2m）	黒色
LD2+LD3	ライティングレール（2m+3m）	黒色
MMA	1種金属線ぴ　A型	
MMC	1種金属線ぴ　C型	
J	ジョイントボックス	

註記

1.特記なき配管配線は、下記による。

	EM-EEF1.6-2C	保護配管（PF16)(E19)(G16)
	EM-EEF1.6-3C	保護配管（PF22)(E25)(G22)
	EM-EEF2.0-3C	保護配管（PF22)(E25)(G22)
	EM-EEF1.6-2Cx2	保護配管（PF22)(E25)(G22)
	EM-EEF1.6-2C+3C	保護配管（PF28)(E31)(G28)

——-——-	天井ころがし配線（直天上部分サドル止め）
----------	露出配管配線

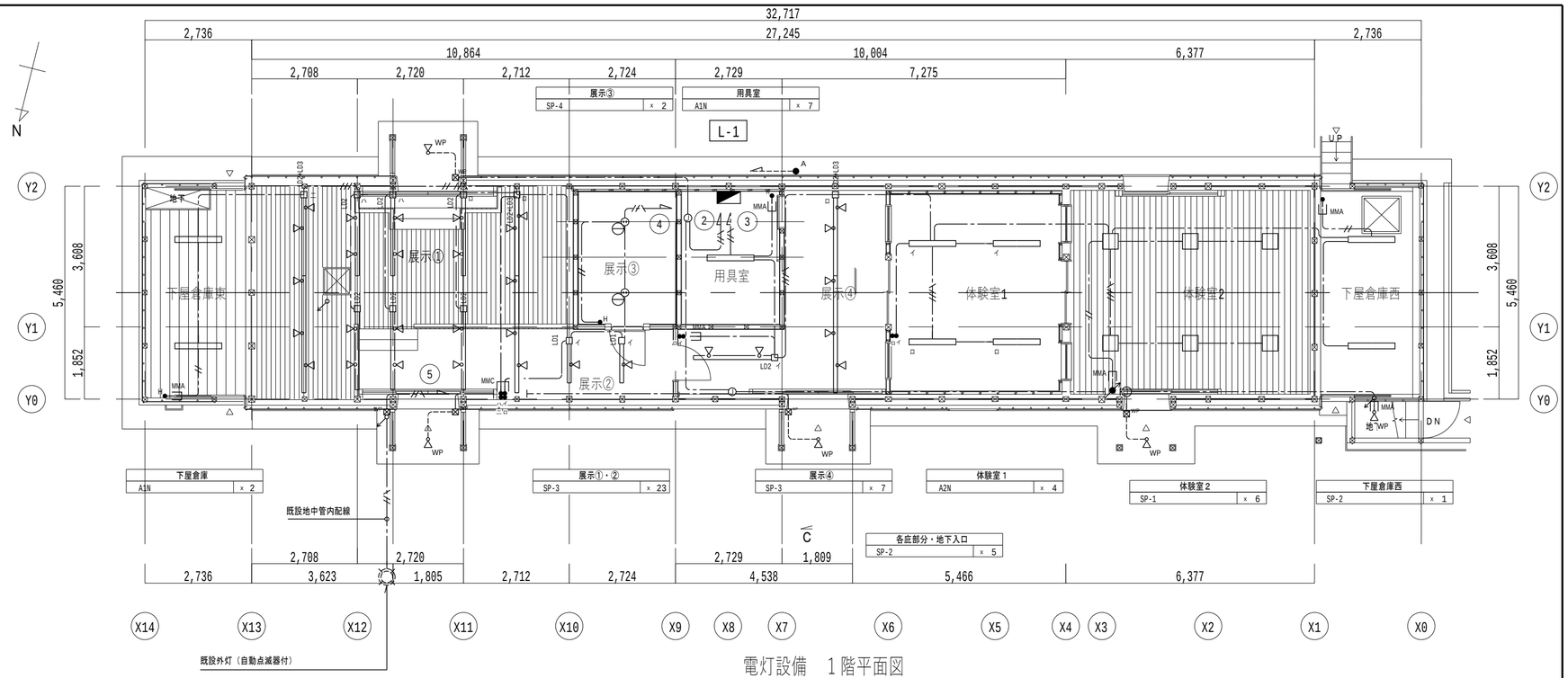
2.壁内引下げ部・壁貫通部はPF管にて保護すること。

3.防火区画を貫通する配管配線は、国土交通大臣認定工法による貫通処理を施すこと。

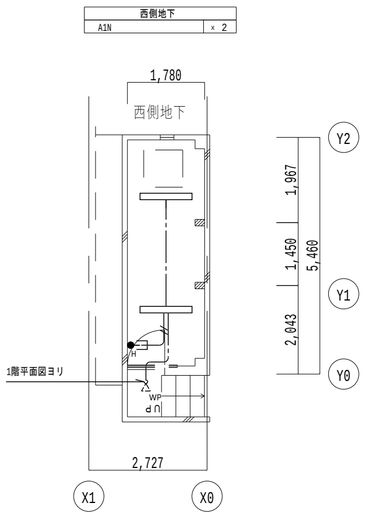
4.外部より建屋内への貫通部は止水処理を施すこと。

5.屋外露出配管配線はG管を使用すること。

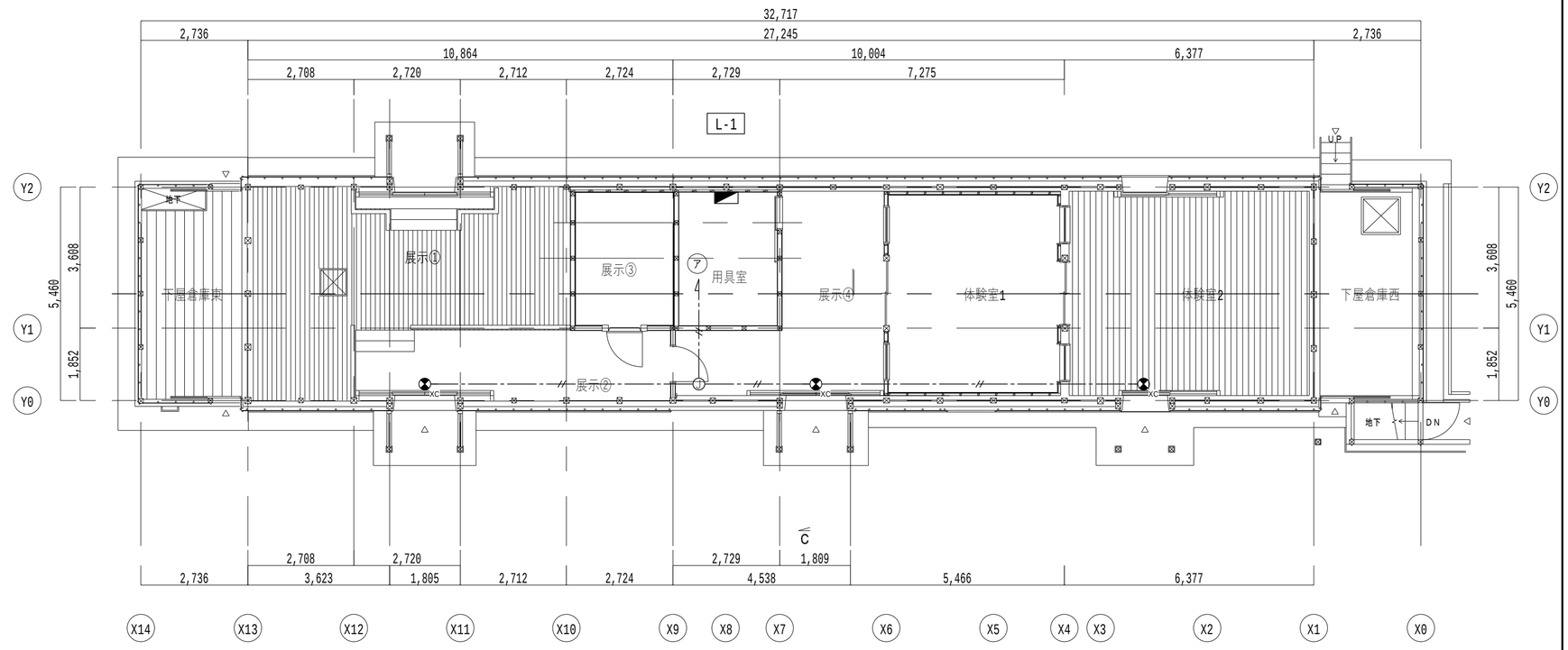
6.照明器具の凡例は「E-03　照明器具表」による。



電灯設備　1階平面図



地階平面図



防災照明設備　1階平面図

特記：	株式会社伝統建築研究所 宮城県知事登録　第23410297号　一級建築士事務所	一級建築士　№254986 代表取締役　高橋直子	検図： 設計： 担当：	工事名： 史跡松ヶ岡開墾場貯桑土蔵保存修理工事	図面名：電灯設備　平面図 縮尺：1/100	設計年月日：	図面番号：E-04 区分：

凡例

記号	名称	備考
	電灯分電盤	
	壁付コンセント　2P15AEx2	
	壁付複合コンセント　2P15AEx2	（電話アウトレット付）
	フロアコンセント　2P15AEx2	ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ：DUB2101同等品
MMA	1種金属線ぴ　A型	

註記

1.特記なき配管配線は、下記による。

———————— EM-EEF2.0-3C　　保護配管（PF22）

——-———-- 天井ころがし配線（直天上部分サドル止め）

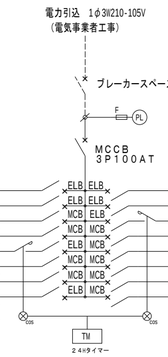
——--——--- 床ころがし配線

2.壁内引下げ部・壁貫通部はPF管にて保護すること。

3.外部より建屋内への貫通部は止水処理を施すこと。

分電盤単線結線図

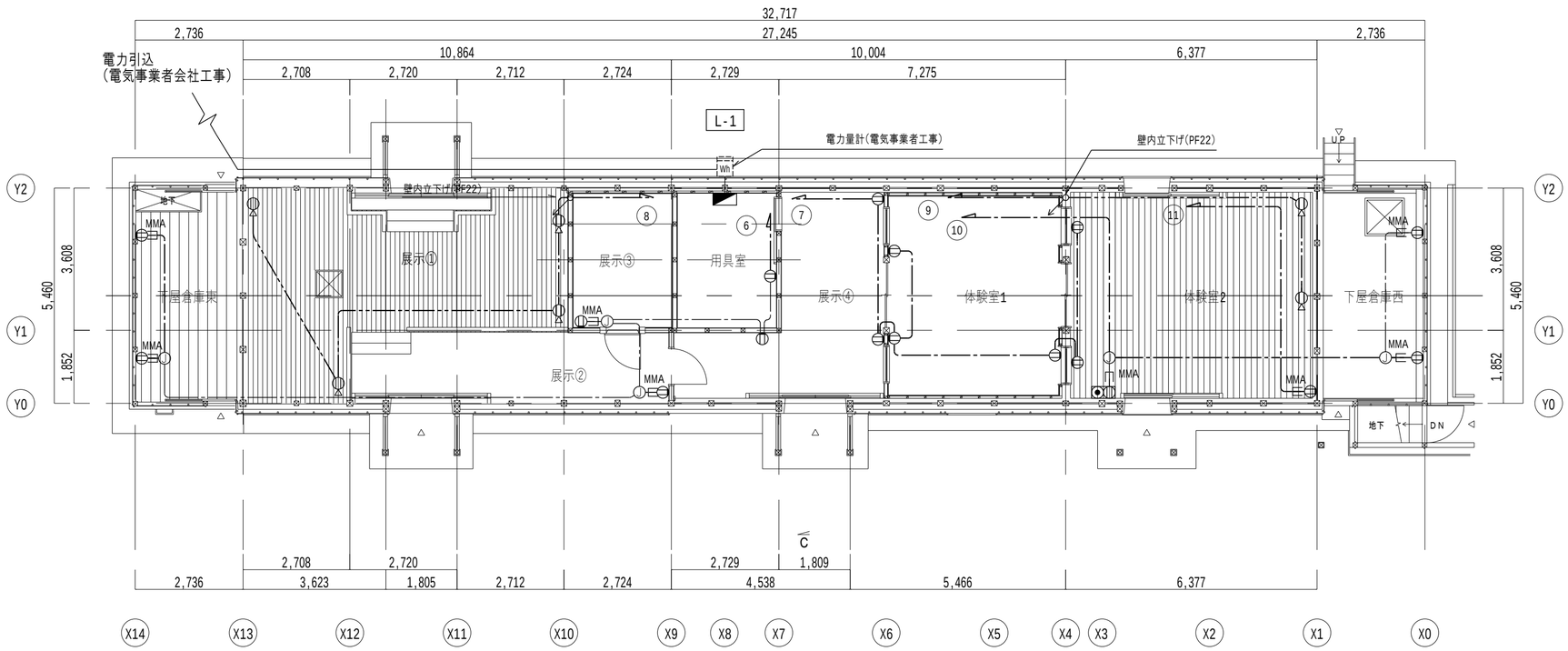
分電盤名称		L−1
キャビネット形式		T
電気方式	種　別	常用回路
	相　線	単相3線
	電　圧	100/200V
負荷容量（ＫＶＡ）		16,785
主幹器具	定格電流	100A
入線方向		上方
設置場所		用具室



備考	負荷容量（ＶＡ） コンセント	電灯	MCCB 定格電流	供給室名	回路番号
200V	２，８５０		2P20A	室外機：AC-02	①
200V	２，８５０		2P20A	室外機：AC-02	②
	１００		2P20A	ファン類	①
		４８５	2P20A	照明	③
全熱交換・ﾀｲﾏｰ制御		１２０	2P20A	外構照明	⑤
	７００		2P20A	コンセント	⑦
	２００		2P20A	コンセント	⑨
	１，１００		2P20A	コンセント	⑪
計　８，４０５					

回路番号	供給室名	MCCB 定格電流	負荷容量（ＶＡ） 電灯	コンセント	備考
②	室外機：AC-02	2P20A		２，８５０	200V
④	室外機：AC-01	2P30A		３，７００	200V
②	外灯照明	2P20A	４５		全熱交換・ﾀｲﾏｰ制御
④	照明	2P20A	４８５		
⑥	コンセント	2P20A		６００	
⑧	コンセント	2P20A		４００	
⑩	コンセント	2P20A		３００	
⑦	誘導灯	2P20A			
計　８，３８０					

分電盤　L-1



改修１階平面図

特記：	株式会社伝統建築研究所 宮城県知事登録　第23410297号　一級建築士事務所	一級建築士　№254986 代表取締役　高橋直子	検図： 設計： 担当：	工事名： 史跡松ヶ岡開墾場貯桑土蔵保存修理工事	図面名：コンセント設備　平面図 縮尺：1/100　設計年月日：	図面番号：E-05 区分：

凡　　例		
記　　号	名　　称	備　　考
	受　　信　　機	Ｐ型２級３回線
P B	機　器　収　容　箱	露出　縦型　　B P 収容
B	ベ　　ル	ＤＣ２４Ｖ　１０ｍＡ　露出型
P	表示灯付フラット発信機	Ｐ型１級
S	光電式スポット型感知器	２種　露出型
S	光電式スポット型感知器	２種　露出型(中間部・倉庫)
S	光電式スポット型感知器	２種　露出型(最上部)
	差動式スポット型感知器	２種
	差動式スポット型感知器	２種　(中間部・倉庫)
	定温式スポット型感知器	１種　７０℃　防水型
Ω	終　　端　　器	
	配　　線	
	配　　線	天井裏(中間部・倉庫)
	配　　線	天井裏(最上部)
No.	警戒区域番号	火災表示用
No.	警戒区域番号	火災表示　天井裏(中間部・倉庫)用
No.	警戒区域番号	火災表示　天井裏(最上部)用

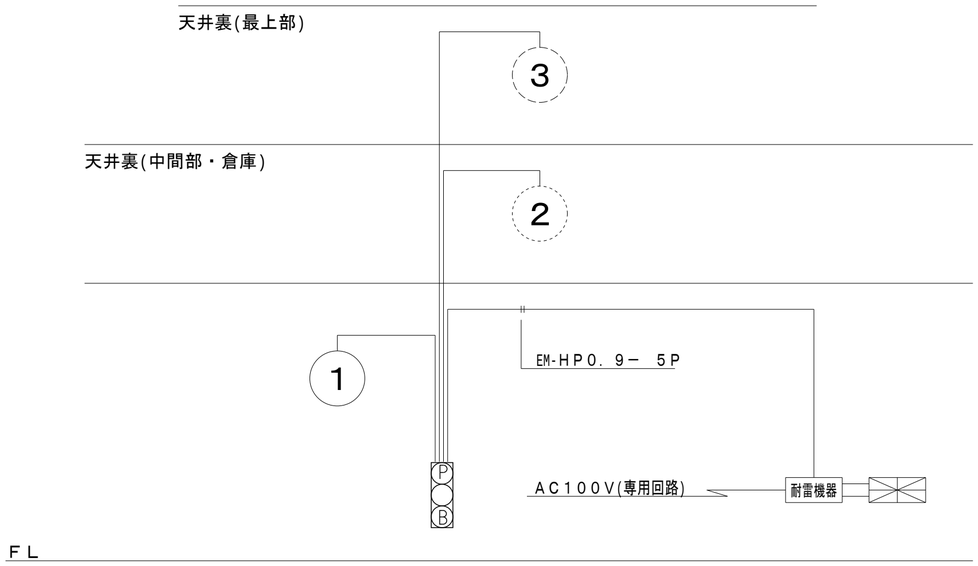
注　記

1．特記なき配線は下記とする。

EM－AE0．9－　2C　　EM－AE0．9－　4C

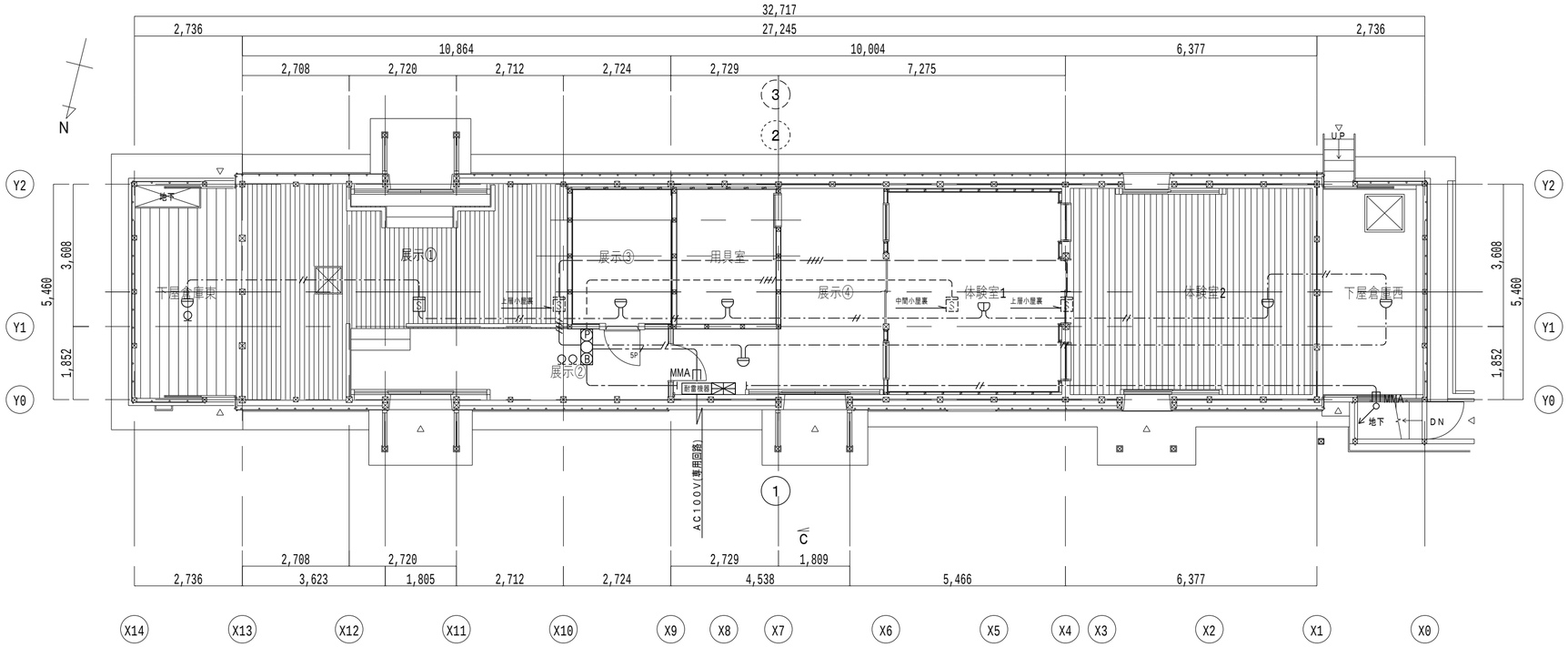
2．直天上部分の配線は木造部分にサドル止めとする。

3．火災受信機直近に耐雷機器を設置する。

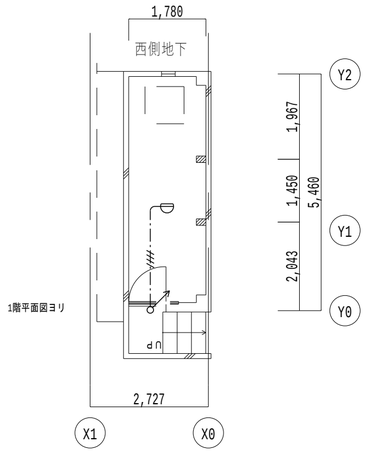


系　統　図

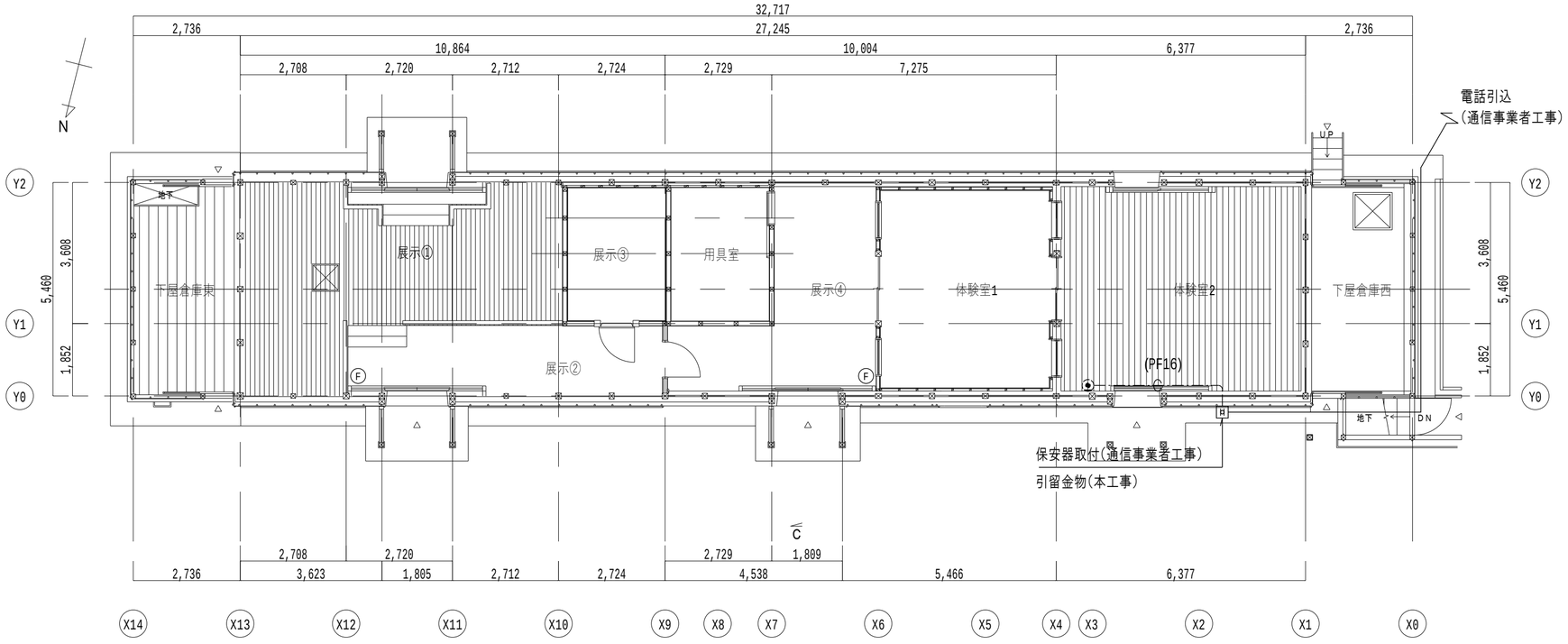
特記：	株式会社伝統建築研究所 宮城県知事登録　第23410297号　一級建築士事務所	一級建築士　№254986 代表取締役　高橋直子	検図： 設計： 担当：	工事名： 史跡松ヶ岡開墾場貯桑土蔵保存修理工事	図面名：火災報知設備　凡例表・系統図 縮尺：N/S　設計年月日： 図面番号：E-06 区分：



自動火災報知設備　1階平面図



地階平面図



消火器・電話設備　1階平面図

特記：	株式会社伝統建築研究所 宮城県知事登録　第23410297号　一級建築士事務所	一級建築士　№254986 代表取締役　高橋直子	検図： 設計： 担当：	工事名： 史跡松ヶ岡開墾場貯桑土蔵保存修理工事	図面名： 電話・火災報知設備　平面図		図面番号： E-07
					縮尺： 1/100	設計年月日：	区分：

機械設備工事特記仕様書

Ⅰ．工　事　名　称　　史跡松ヶ岡開墾場貯桑土蔵保存修理工事（機械設備）

Ⅱ．工　事　概　要

1．工　事　場　所

2．建　物　概　要

建物名称	構造	階数	延面積(m2)	防火対象物の種別	戸数・浄化槽人槽	受水槽有効容量等
史跡松ヶ岡開墾場貯桑土蔵	木造	1				

3．工　事　種　目　（⊙印を付けたものを適用する）

工事種目 ＼ 建物別及び屋外	工事種別				
⊙ 衛生器具設備	一式	一式	一式	一式	
⊙ 給水設備	一式	一式	一式	一式	一式
⊙ 排水設備	一式	一式	一式	一式	一式
⊙ 給湯設備	一式	一式	一式	一式	
・ 消火設備	一式	一式	一式	一式	一式
・ ガス設備	一式	一式	一式	一式	一式
⊙ 換気設備	一式	一式	一式	一式	
⊙ 空気調和設備	一式	一式	一式	一式	
・ 撤去工事	一式	一式			一式
排煙設備	一式	一式	一式	一式	
中水設備	一式	一式	一式	一式	一式
浄化槽設備	一式				一式
さく井設備					一式
電気設備工事※	一式				一式
建築工事※	一式				一式

※ 各工事の特記仕様書を確認のこと

4．本　工　事　設　備　概　要　（⊙印を付ける）

給排水衛生設備	給水方式	プール水源（・ 市水　・ 井水）　法的区分（・ 小規模貯水　・ 簡易　・ 専用水道） 給水方式　⊙ 水道直結方式（・直圧　・増圧）　・ 高架水槽方式　・ ポンプ直送方式　） 中水水源（・ 雑用水処理水　・ 雨水　・ 井水　） 中水給水方式　（・ 水道直結方式　・ 高架水槽方式　・ ポンプ直送方式　）
	排水方式	・ 建物内汚水と雑排水（ ・ 分流　・ 合流） ・ 重力式　・ ポンプアップ式 ⊙ 敷地外放流方式　・ 直放流（ ・ 合流式　・ 分流式）　・ 非直放流（浄化槽）
	浄化槽の形式	・ ユニット型　・ 現場施工型　・ 放流水質BOD　mg/L ・ 合併処理
	給湯設備	⊙ 局所式　・ 中央式
	消火設備の種別	・ 屋内消火栓（ ・1号・2号・易操作性1号）　・ｽﾌﾟﾘﾝｸﾗｰ　・ 連結散水　・ 連結送水 ・ 屋外消火　・ 水噴霧消火　・ 泡消火　・ 不活性ｶﾞｽ　・ﾊﾛｹﾞﾝ化物消火　・ 粉末消火
	ガスの種別	・ 都市ガス　・ 液化石油ガス　・ 簡易ガス
空気調和設備	空調方式	・ ダクト方式　・ ファンコイルユニット　・ ダクト併用方式 ⊙ パッケージ方式（ ・ マルチ式　・ 各階式　⊙ 個別式） ・ 直接暖房（ ・ 蒸気　・ 温水） ・ 温風暖房　・ 暖房専用　・ 将来冷房可能 ・ 温風暖房機　・ 空気調和機
	主要熱源機器	・ 温水　・ 蒸気 ・ 鋳鉄製ボイラ　・ 鋼製ボイラ（ ・ 立てボイラ　・ 炉筒煙管式ボイラ） ・ 温風暖房機　⊙ 空冷ヒートポンプ ・ 往復動冷凍機　・ 遠心冷凍機　・ 吸収冷凍機　・ 直だき吸収冷温水機
	全熱交換器	・ 回転形　・ 静止形　・ 全熱交換ユニット
	換気設備	⊙ 機械換気（⊙ 有　・ 無）
	排煙設備	・ 機械排煙（ ・ 有　・ 無）　・ 法規（ ・ 建基法　・ 消防法）

5．法令による区画（有の場合は、図示等による）

建築基準法	防火区画	112条区画（・有　・無）
		114条区画（・有　⊙無）
	延焼のおそれがある部分（・有　⊙無）	
	排煙区画（・有　・無）	
消防法	令8区画（・有　・無）	
	共住区画（・有　・無）	
その他の区画		

6．その他（工事内容、留意事項等）

校舎内部改造に伴う機械設備工事を行う。

Ⅲ．工　事　仕　様

1．適用仕様等

図面及び特記仕様に記載されていない事項は、以下の仕様書による。

（1）「公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編　令和４年年版）」　国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
（2）「公共建築工事標準仕様書（電気設備工事編　令和４年年版）」　国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
（3）「公共建築工事標準仕様書（建築工事編　令和４年年版）」　国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
（4）「公共建築改修工事標準仕様書（機械設備工事編　令和４年年版）」　国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
（5）「公共建築改修工事標準仕様書（電気設備工事編　令和４年年版）」　国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
（6）「公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編　令和４年年版）」　国土交通省大臣官房官庁営繕部監修

2．補足基準等

適用仕様等、図面及び特記仕様に記載されていない事項は、以下の基準、指針、要領、標準図等による。

（1）「公共建築設備工事標準図（機械設備工事編　令和４年年版）」　国土交通省大臣官房官庁営繕部設備・環境課監修
（2）「公共建築設備工事標準図（電気設備工事編　令和４年年版）」　国土交通省大臣官房官庁営繕部設備・環境課監修
（3）「建築工事標準詳細図（建築工事編　令和４年年版）」　国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課監修
（4）「機械設備工事監理指針（令和４年年版）」　国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
（5）「電気設備工事監理指針（令和４年年版）」　国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
（6）「建築工事監理指針（令和４年年版）」　国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
（7）「建築改修工事監理指針（令和４年年版）」　国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
（8）「建築設備耐震設計・施工指針（2014年版）」　国土交通省国土技術政策総合研究所監修
（9）「建築工事安全施工技術指針・同解説」　国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課監修
（10）「建設廃棄物処理指針」　厚生労働省生活衛生局
（11）「建築物解体等に係るアスベスト飛散防止対策マニュアル」　環境省大気保全局（環境省アスベスト飛散防止対策研究会）

3．現場に常備する図書等

1.適用仕様等 及び2.補足基準 のうち、当該工事に係る図書等については現場事務所に常備し、監督職員の承諾を得ること。

4．特　記　仕　様

（1）章および項目は番号に（⊙）印のついたものを適用する。
（2）特記事項のうち選択する事項は、原則として※印を選択するが、それ以外を適用する場合は　・印をつけて選択する。
（3）図面に明記なくも関係法規上・機能上・意匠上当然と認められるものは、本工事にて施工すること。

章	項目	特記事項
①一般事項	①. 発生材の処理	※18建設副産物の処理についての項を適用すること。 ※フロンの処理は、19フロン処理についての項を適用のこと。
	②. 残土処分	※構外搬出　⊙構内敷き均し
	③. 官公署への他への手続き	この工事に必要な官公署その他の関係機関への諸手続等は、これに必要な資機材、労務、及び費用を請負者の負担にて速やかにおこない、その検査に合格すること。
	④. 測定表	下記の測定表を提出する。 ⊙温度　・湿度　⊙風量　・騒音　・水圧　・排水満水　・気密　・浄化槽放流水質
	⑤. 他工事との取合い	※施工区分表による　⊙図面詳細による
	6．技能士の適用	住宅においては20戸以上、住宅以外の建物については1,500m2以上の工事に適用する。 ・配管（建築配管作業）　・建築板金（ダクト板金作業）　・熱絶縁施工（保温保冷工事作業） ・冷凍空気調和機器施工（冷凍空気調和機器施工作業）
②仮設工事	①. 監督員事務所	⊗設けない　・設ける　（　10 ㎡程度）　備品については監督員の指示による。
	②. 工事用電力・水・その他	この工事に必要な工事用電力（仮設及び試運転調整用電力を含む）、水（機能検査、消火用水及びプールの水張りを含む）及び諸手続などの費用は、すべて請負者の負担とする。
	③. 足場	⊙他工事　・本工事（詳細図による。）
	4．矢板	掘削深さ（1,500 mm以上）の掘削には矢板を使用すること。
③共通事項	①. 機材	この工事に使用する機材は、監督職員（係員）の承諾を受けること。
	②. 容量等の表示	なお、材料及び製品については、地域産材の使用に努めること。 イ）機器類の能力、容量等（電動機出力は除く）は、原則として、表示された数値以上とする。 ロ）電動機出力は、原則として、表示された出力以下の容量とする。 ハ）電動機の周波数は、60Hzとする。
	③. 耐震施工	設備機器の固定は、次に示す事項を除き、すべて「建築設備耐震設計・施工指針2014年版」による。 （1）設計用標準震度（Ks） 機器毎の耐震安全性の分類及び設置場所により以下表より求める

設置場所	耐震安全性の分類							
	・特定の施設				・一般の施設			
	重要機器	重要水槽	一般機器	一般水槽	重要機器	重要水槽	一般機器	一般水槽
上層階、屋上及び塔屋	2.0 (2.0)	2.0	1.5 (2.0)	1.5	1.5 (2.0)	1.5	1.0 (1.5)	1.0
中間階	1.5 (1.5)	1.5	1.0 (1.5)	1.0	1.0 (1.5)	1.0	0.6 (1.0)	0.6
地階及び１階	1.0 (1.0)	1.5	0.6 (1.0)	1.0	0.6 (1.0)	1.0	0.4 (0.6)	0.6

（　）書きの数値は防振機器

＊耐震安全性の分類　（・特定の施設　・一般の施設）
＊次に示す機器を、重要機器、重要水槽とし、それ以外の機器を一般機器、一般水槽とする。

＊上層階の定義は、次のとおりとする。
2～6階建の場合は最上階、7～9階建の場合は上層2階、10～12階建の場合は上層3階、13階建以上の場合は上層4階

（2）地域係数（Z）
地域係数（Z）は、1.0とする。

	4．防火区画等を貫通する配管	給水管その他の管が、建築基準法施行令第112条第15項の準耐火構造の防火区画等を貫通する場合の措置は、図5による。
	⑤ 給水管等の材質	飲料用の給水・給湯管、継手、弁類、水栓等については、鉛に関する浸出性能基準を満足すること。
	6．ライニング鋼管の継手	呼び径100以下はねじ接合、125以上はフランジ接合とする。
	⑦ 吊り及び支持等	※鋼材・ボルトナットを屋外又は多湿箇所に使用する場合は、溶融亜鉛メッキ（2種35）又は、ステンレス鋼製（SUS304）とする。
	8．埋設標識テープ	埋設深さは150mm、テープ幅は150mm以上（図1-1）とし、色については次による。 上水（青）　ガス（緑）　消火管（赤）　中水（黄色）　油（茶） その他については、監督職員（係員）の指示による。
	9．地中埋設標	※標準仕様書による。　・図示による。
	10．地中埋設及びコンクリート内の防食	コンクリート内の防食は、防食用ビニルテープ巻（1/2重ね１回巻）とする。 地中埋設は、ペトロタタム系ペーストを塗布のうえ、ペトロタタム系防食テープ1/2重ね１回巻きを行う。さらにプラスチックテープ1/2重ね１回巻きを行う。継手はペトロタタム系防食シートにより包み、プラスチックテープを巻く。
	11．コンクリート強度	イ）無筋コンクリートの配合は、1：2：4とする。 ロ）鉄筋コンクリートの設計強度は、18N/mm2 とする。
	12．はつり	既存のコンクリート床、壁等の配管貫通部の孔開けは、原則としてダイヤモンドカッターによる。
	13．ポンプ電動機の極数	・揚水ポンプ　＿極　・冷温水ポンプ　＿極　・冷却水ポンプ　極 ・水中ポンプ（・上水　・汚水）　＿極　・小形給水ポンプユニット　極
	14．電線管	※特記なき電線管は、薄鋼電線管又は同一外径のねじなし電線管とする。 ※可とう電線管は、2種金属可とう電線管とする。
	15．電線	※特記なき電線は、600Vビニル絶縁電線とする。
	16．鍵類	この工事で設置する鍵類の仕様については、監督職員（係員）の承諾を受けること。
⑥衛生器具設備	1．大便器	・和風大便器（※節水型　・一般型）　※耐火カバー（防火区画貫通部） ・洋風大便器（※節水型　・一般型　・身体障害者用）
	2．大便器洗浄方式	・節水型ＦＶ（バキュームブレーカ付）　・ロータンク　・フラッシュタンク
	3．小便器	・床置型　・壁掛型
	4．小便器洗浄方式	・自動洗浄（個別感知）（・一体型　・埋込型　・露出型）　・手動洗浄（※節水型ＦＶ）
	5．標示板	大便器は1組に1個、小便器は2組に1個とする。（※シール　・陶器製　・アクリル製）
	6．壁掛形汚物流しﾕﾆｯﾄ	給水管、給湯管、排水管、通気管　（・本ユニット内　※本ユニット外）
	7．洗面化粧台	※洗面化粧台キャビネット部材は、ホルムアルデヒト放散量が日本農林規格（JAS）で定める☆☆☆☆基準のものとする。
	⑨．水栓	※節水コマ付　・普通コマ付
	9．鏡	・普通形　・盗難防止用形　・耐食形　・盗難防止用耐食形　・身体障害者用
⑤給水設備	1．量水器	・親メーター（※貸与品　・買取り）　※計量法　検定合格品とする。 ・子メーター（・貸与品　※買取り）
	2．量水器桝	・水道事業者指定品（・貸与品　※買取り）　・国土交通省型　・その他
	③．弁類	⊙水道直結部分　JIS（⊗10K　・　） ・その他の部分　JIS（・5K　・10K ）
	4．	⊙塩ビライニング鋼管及びポリ粉体鋼管の配管に取り付ける鋳鉄製の弁はライニング弁とし、青銅製弁は管端防食継手の規定に準じた管端コアを備えたものとする。 ・鋳鉄製ストレーナーはライニングを施したものとする。 ・国土交通省型　図２による。
	5．配管材料	一般配管　・塩ビライニング鋼管（SGP−VA） ⊙塩ビライニング鋼管（SGP−VB）　・ポリ粉体鋼管（SGP−PB） ・硬質塩化ビニル管（HIVP）　・鋳鉄管（　型　種） ・ステンレス鋼管（SUS）　（・圧縮接合　・溶接接合　・拡管接合） ・架橋ポリエチレン管またはポリブデン管（さや管工法） 屋内地中配管　・塩ビライニング鋼管（SGP−VD）　・ポリ粉体鋼管（SGP−PD） ⊙硬質塩化ビニル管（HIVP） 屋外地中配管　・塩ビライニング鋼管（SGP−VD）　・ポリ粉体鋼管（SGP−PD） ⊙硬質塩化ビニル管（HIVP）　・硬質塩化ビニル管（VP） ・ポリエチレン管　1種（PE）　（・溶着接合　・金属継手接合） 厨房、浴室等のシンダー内配管　・塩ビライニング鋼管（SGP−VD）
	6．引込納付金等	※別途
	7．ポンプ基礎	・標準基礎　・防振基礎
	8．他の設備項目の適用	下記のものは、空気調和設備の当該項目を適用する。 イ）防振継手　ロ）ﾌﾚｷｼﾌﾞﾙﾞｼﾞｮｲﾝﾄ　ハ）防振吊り金物及び支持金物（ただし揚水管のみ）
	9．建物導入部配管	※標準図（・（a）　・（b）　※（c）スリークッション）による。
	⑩．管の埋設深さ	⊙一般敷地（・300 mm　・　mm）　⊙構内車両通路（・600 mm　・　mm）
	11．器具接続用管端防食管継手	※用いる（図４による。）　塩ビライニング鋼管と給水栓・銅合金製配管附属品等との接続
⑦排水設備	1．配管材料	・汚水管　・排水用鋳鉄管　・硬質塩化ビニル管(VP) ・硬質塩ビリサイクル管(RF-VP)・繊維強化モルタル被覆硬質塩化ビニル管 ・排水用ライニング鋼管
		⊙雑排水管　・配管用炭素鋼鋼管（白）　⊙硬質塩化ビニル管（VP）　・カラーVP ・硬質塩ビリサイクル管(RF-VP)　・耐熱硬質塩化ビニル管　・耐火二層管 ・排水用ライニング鋼管
		・屋外排水管・硬質塩化ビニル管（・VP　・VU） ・小口径桝立上り管・硬質塩ビリサイクル管（・RS-VU　※VU）
		⊙通気管・配管用炭素鋼鋼管（白）　⊙硬質塩化ビニル管（VP）　・カラーVP（露出部）
	2．管接合	・鋼管（・ねじ込み式　・MD継手　・　） ・排水用ライニング鋼管（・MD継手　・　）
	3．可燃材の区画処理	図５による。
	4．弁類	特記以外JIS 5K とする。
	5．床上排除口直下の曲管	排水鋳鉄管系統の床上排除口直下に取付ける管は45°２回曲りとする。
	6．コンクリート桝ふた	図面詳細による。
	7．小口径桝ふた	図面詳細による他、下記による。 ミカゲ（未舗装部）　鋳鉄（歩道部）　保護鋳鉄（車道部）（・T−8　・T-14 ）
	8．伸縮継手	ビニル製伸縮継手
	9．グリーストラップ	日本阻集器工業会の認定を受けたものとする。
	10．差込ソケット（VV）	排水流し下のビニル製排水管には差込（VV）ソケットを使用すること。
	11．満水試験継手	図示による。
⑦給湯設備	1．管類	イ）⊙ステンレス鋼管（⊙圧縮接合　・溶接接合）　・保温付ステンレス鋼管 ・耐熱塩ビライニング鋼管　・銅管　・保温付被覆銅管　・被覆断熱銅管 ・耐熱硬質塩化ビニル管(HTVP) ロ）銅管使用の場合はM管とし、電食防止継手を取付ける。
	2．器具接続用管端防食管継手	※用いる（図４による。）
	3．弁類	JIS 5K とする。ただし、特記部分はJIS 10K とする。
	4．貯湯式ガス湯沸器	オーバーフローはクロームメッキ鋼管にて最寄りの流しに開接排水する。
	5．排気筒及び煙突	ガス湯沸器用排気筒は、JIS S 3025によるSUS304（厚さ0.3mm以上）とする。
	6．保温	イ）膨張水槽の保温（・要　・不要） ロ）コンクリート埋設部（・防水麻布巻　・保温施工）
	7．湯沸器	・瞬間式　・貯湯式　⊙小型電気温水器
	8．	・ガス　・灯油　⊙電気
8 消火設備	1．消火ポンプの基礎	・標準基礎　・防振基礎
	2．フート弁・呼水槽及びサクションカバー	・要　・不要
	3．屋内消火栓弁	※減圧弁付
	4．保温	・屋内消火管（・要　※不要）　・屋外露出消火管　（※要　・不要）
	5．管類	・配管用炭素鋼鋼管(白)(屋内)　・外面被覆鋼管（・SGP−VS ・SGP−PS）
	6．消防設備士	※要
9 ガス設備	1．種類	・都市ガス（ガス種　※13A　・12A ）　・液化石油ガス
	2．管類	一般配管　・配管用炭素鋼鋼管（白）　・ガス用ステンレス製フレキシブル管 ・硬質塩ビ外面被覆鋼管　・ポリエチレン被覆鋼管 ピット内配管　硬質塩ビ外面被覆鋼管　・ポリエチレン被覆鋼管 屋外埋設配管　・ポリエチレン管JIS K 6774
	3．都市ガス	イ）ガスメーター　親メーターはガス供給事業者より借用、子メーターは買取りとする。
	4．液化石油ガス	イ）ガスメーター（・買取り　・借用）　ロ）集会装置（・別途工事　※本工事） ハ）転倒防止用の鎖（・別途工事　※本工事） ニ）ボンベ置場のコンクリート基礎（※別途工事　・本工事）
	5．ガス湯沸器の付属品	連動スイッチ（・要　・不要）
	6．ガス漏れ警報器	・本工事　・別途工事 ※ガス漏れ警報器工事は、住宅工事においては原則として行わない。
	7．施工資格	液化石油ガス設備士による施工とする。
	8．ガス栓	（財）日本エルピーガス機器検査協会、検査合格品とする。
	9．絶縁継手	※要　・不要
	10．建物導入部配管	・標準図（・（a）　・（b）　※（c）スリークッション）による。
⑩換気設備	①．ダクトの種別	⊗低圧ダクト　・高圧ダクト
	2．厨房ダクトの板厚	厨房排気ダクト（矩形ダクトに限る）の板厚は、表１による
	③．ダクトの工法・種類	イ）給気用ダクト　・アングル工法　・コーナーボルト工法（・共板　・スライドオン） ⊙スパイラルダクト　・耐火二層管工法　・VP管工法 ロ）排気用ダクト　・アングル工法　・コーナーボルト工法（・共板　・スライドオン） ⊙スパイラルダクト　・耐火二層管工法　・VP管工法
	4．ダクトの分岐方法	イ）給気用ダクト　※割込み方式　・直付け方式
11 排煙設備	1．ダクトの材質	・亜鉛鉄板製　・普通鋼板製
	2．排煙口	イ）形状　・スリット形　・パネル形　・ダンパー形 ロ）開放装置　・手動　・手動及び遠隔操作可能なもの
12 自動制御設備	1．中央監視制御	・要　・不要
	2．中央監視制御装置の構成・機能	別紙による。
	3．電源装置	・要（・本工事　・別途電気工事）　・不要
⑬空気調和設備	①．温湿度調整目標値	

	外気			室内 一般系統							
	温度 (DB)		湿度 (RH)	温度 (DB)	湿球温度 (WB)	湿度 (RH)	温度 (DB)	湿度 (RH)	温度 (DB)	湿度 (RH)	
夏季	32.6℃		57.8%	26℃	18.7℃	45%	℃	%	℃		
冬季	-2.0℃		69.2%	22℃	13.9℃	40%	℃	%	℃		

	2．電気工事の範囲	※施工区分表による。　・図面詳細による。
	③ パッケージエアコン	イ）冷媒　※HFC系（R32） ロ）冷媒管（※断熱材被覆銅管（保温厚=20mm）　・銅管） ハ）冷媒管及びドレン管の区画処理（・有（※国土交通大臣認定工法　・その他）・無） ニ）ドレン管の材質　・配管用炭素鋼鋼管（白）　・硬質塩化ビニル管（VP） ・結露防止層付塩化ビニル管　・硬質塩ビリサイクル管（RF-VP） ホ）室外機の基礎（・コンクリート基礎（別途建築工事） ヘ）※グリーン購入法適合品とする。
	④ 配管材料（ﾊﾟｯｹｰｼﾞｴｱｺﾝを除く）	イ）給水管　・塩ビライニング鋼管（・SGP-VB　・SGP-VA） ロ）冷温水管　・配管用炭素鋼鋼管（白）　・耐熱塩ビライニング鋼管 ・一般配管用ステンレス鋼鋼管 ハ）排水管　・配管用炭素鋼鋼管（白）　⊙硬質塩化ビニル管（VP）　⊙カラーVP ・結露防止層付塩化ビニル管　・硬質塩ビリサイクル管（RF-VP） ニ）冷却水管　※塩ビライニング鋼管（※SGP-VB　・　） ホ）蒸気及び油配管は配管用炭素鋼鋼管（黒）とする。 ヘ）冷媒管（・銅管　⊙断熱材被覆銅管（製造者標準品）） ト）冷媒管の区画処理（・有（※国土交通大臣認定工法　・その他）　・無） チ）膨張管、安全管及び膨張水槽よりボイラへの給水管の配管材料は、水道用亜鉛メッキ鋼管とする。
	⑤ 冷媒	※R32
	6．弁類	JIS 5K とする。ただし特記部分はJIS 10K とする。
	7．防振継手	・ベローズ形　・合成ゴム製（・合成ゴム製　・３山ベローズ形） ※長さは標準仕様書による。
	8．ﾌﾚｷｼﾌﾞﾙﾞｼﾞｮｲﾝﾄ	・ベローズ形ステンレス製　・合成ゴム製
	9．ダクト	イ）種別（※低圧ダクト　・高圧ダクト） ロ）工法・種類（・アングル工法　・コーナーボルト工法（・共板　・スライドオン） ・スパイラルダクト　・ステンレスダクト） ハ）分岐方法（※割込み方式　・直付け方式）
	10．風量測定口	標準仕様書によるほか、取付を図示された部分に取付ける。
	11．チャンバー等	イ）シーリングディフューザーには、下記の接続チャンバーを設ける。 a）ネック径が200φ以下　400×400×250H b）ネック径が200φをこえるもの　500×500×300H ロ）プリーズライン形吹出口には、下記の接続チャンバーを設ける。 a）シングル形　200×（L＋100）×300H b）ダブル形　250×（L＋100）×300H ハ）外壁に面するガラリに直接取り付けるチャンバー、ホッパーには排水弁を設ける。
	12．吹出口・吸込口の材質（シャッター共）	イ）ユニバーサル形吹出口　・鋼板製　※アルミ製 ロ）シーリングディフューザー　・鋼板製　※アルミ製 ハ）吸込口　・鋼板製　※アルミ製（外気吸込口には防虫網付とする。）
	13．防煙ダンパー	下記のものは本仕様による。 イ）操作方式　・電気式　・空気式 ロ）復帰方式　※遠隔式（※電気式　・空気式）　・手動式 ハ）温度ヒューズ（・取り付ける　・取り付けない） ニ）表示用端子（・設ける　・設けない）
	14．煙道	鋼板厚（・4.5mm　※3.2mm）
	15．保温	下記のものは本仕様による。 イ）建物内の空気抜き管の保温は、空気抜き弁までとし、仕様は温水管の項による。 ロ）空気調和機・ファンコイルユニット等の排水管の保温は、給排水衛生設備の排水管の項による。 ハ）還り風道の保温（・要　・不要）　ニ）膨張水槽の保温（・要　・不要） ホ）内貼りチャンバー等の保温（・要　・不要） ヘ）隠ぺい風道の保温でフランジ部は保温材２枚重ねとする。
	16．消音内貼り	イ）内貼りの材料及び施工法は、標準仕様書の当該事項による。 ロ）施工箇所は、図示した風道並びにチャンバー類とする。 ハ）内貼りチャンバー類の寸法表示は、外形寸法とする。
	⑰ 機器類の架台	イ）パッケージ形空気調和機（・防振ゴム　※木台　⊗転倒防止処理） ロ）ユニット形空気調和機（・標準架台　・防振架台） ハ）送風機（・標準架台　・防振架台）　ニ）ポンプ（・標準架台　・防振架台） ホ）冷凍機（・標準架台　・防振架台） ヘ）チラーユニット（・標準架台　・防振架台）
	18．機械室(配管・風道)のつり金物	・防振つり金物（・シングル　・ダブル）（・中央機械室　・各階機械室）
	19．温度計	※標準仕様書による。
	20．圧力計及び連成計	※標準仕様書による。
	21．瞬間流量計	※要（※標準仕様書による。　・図示による。）　・不要
	22．ファンコイルユニット用調節弁	・流量調節弁　・定流量弁（流量設定が可能なもの）
	23．油サービスタンク	イ）防油堤（コンクリート製）　※別途工事　・本工事 ロ）フロートスイッチの機能は、下記による。 ・給油ポンプの起動、停止　・満油警報　・減油警報 ハ）油面計（・フロート式　・ゲージ式）
	24．地下貯油槽	イ）タンク室　・設けない　・設ける（・別途工事　・本工事） ロ）計量器（・計量尺　・直読式（防水蓋スプリング付、プロテクター共）　・遠隔式） ハ）土工事　・オーブンカット　・矢板（・有　・無）　・特殊基礎（・有　・無）
	25．予備品	※ファンコイルユニット付属品　イ）運転表示ランプ　台数の1/2以上 ロ）フィルター　各型番台数の1/2以上 ※自動巻取形空気清浄用フィルター（各台1巻） ※ユニット形空気清浄器　＿＿個
	26．アワーメーター	※要（指定機器）　・不要
	27．度数計	※要（指定機器）　・不要
	28．煤煙濃度計	・設ける
	29．ばいじん量測定孔	・設ける（煙道の直接部に直径80φ以上のフランジ付とする。）　・設けない

特記：

株式会社　伝統建築研究所
宮城県知事登録　第23410297号　一級建築士事務所

一級建築士　№254986
代表取締役　高橋直子

検図：	工事名： 史跡松ヶ岡開墾場貯桑土蔵保存修理工事	図面名： 特記仕様書（１）	図面番号： M-01
設計：		縮尺： NS　設計年月日：	区分： 機械設備
担当：			

⑭ 管類保温仕様

（管類については○印を塗りつぶしたものを適用する）

給排水衛生設備（給湯系）

施工箇所	保温種別	区別 給水管	排水管	消火管	給湯管	ガス管
屋内露出	1．グラスウール　2．鉄線　3．合成樹脂製カバー保温筒					
機械室・倉庫	1．グラスウール　2．鉄線　3．アルミガラスクロス化粧原紙					
天井内・PS内・空隙壁中	1．アルミガラスクロス化粧付グラスウール保温筒　2．アルミガラスクロス粘着テープ	○			○	
床下・暗渠内	1．ポリスチレンフォーム保温筒　2．粘着テープ　3．ポリエチレンフィルム　4．着色アルミガラスクロス					
床下・暗渠内・コンクリート内	1．グラスウール保温筒　2．鉄線　3．ポリエチレンフィルム　4．着色アルミガラスクロス	○				
屋外露出・多湿箇所	1．グラスウール保温筒　2．鉄線　3．ポリエチレンフィルム　4．ステンレス鋼板					
屋外露出・多湿箇所	1．ポリスチレンフォーム保温筒　2．粘着テープ　3．ポリエチレンフィルム　4．ステンレス鋼板					
塗管塗装	1．錆止めペイント（2回）　2．調合ペイント（2回）					
白管塗装	1．エッチングプライマー（1回）　2．錆止めペイント（2回）　3．調合ペイント（2回）					

空調設備（冷温水系）（冷媒系）

施工箇所	保温種別	区別 温水管	蒸気管	冷水管・冷温水管	冷媒管	ドレン管	冷凝管
屋内露出	1．グラスウール保温筒　2．鉄線　3．ポリエチレンフィルム　4．合成樹脂製カバー						
屋内露出	1．ポリスチレンフォーム保温筒　2．粘着テープ　3．ポリエチレンフィルム　4．合成樹脂製カバー						
屋内露出	1．被覆銅管の断熱材　2．化粧ケース						
機械室・倉庫	1．グラスウール保温筒　2．鉄線　3．ポリエチレンフィルム　4．アルミガラスクロス化粧原紙						
機械室・倉庫	1．ポリスチレンフォーム保温筒　2．粘着テープ　3．ポリエチレンフィルム　4．アルミガラスクロス						
天井内・PS内・空隙壁中	1．アルミガラスクロス化粧付グラスウール保温筒　2．アルミガラスクロス粘着テープ						
天井内・PS内・空隙壁中	1．グラスウール保温筒　2．鉄線　3．ポリエチレンフィルム　4．アルミガラスクロス					○	
天井内・PS内・空隙壁中	1．ポリスチレンフォーム保温筒　2．粘着テープ　3．ポリエチレンフィルム　4．アルミガラスクロス						
床下・暗渠内・コンクリート内	1．グラスウール保温筒　2．鉄線　3．ポリエチレンフィルム　4．着色アルミガラスクロス						
床下・暗渠内・コンクリート内	1．ポリスチレンフォーム保温筒　2．粘着テープ　3．ポリエチレンフィルム　4．着色アルミガラスクロス						
屋外露出・多湿箇所	1．グラスウール保温筒　2．鉄線　3．ポリエチレンフィルム　4．・ステンレス鋼板						
屋外露出・多湿箇所	1．被覆銅管の断熱材　2．化粧ケース						
VP管塗装	1．錆止めペイント（2回）　2．調合ペイント（2回）						

排煙設備

区分	屋内露出 機械室・書庫・倉庫	屋内露出 居室・廊下	屋内隠ぺい	屋外露出 多湿箇所
矩形風道	1．鋲 2．アルミガラスクロス化粧グラスウール保温板 3．アルミガラスクロス粘着テープ	1．鋲 2．グラスウール保温板 3．着色亜鉛鉄板	1．鋲 2．アルミガラスクロス化粧グラスウール保温板 3．アルミガラスクロス粘着テープ	1．鋲 2．グラスウール保温板 3．ポリエチレンフィルム 4．鉄線 5．ステンレス鋼板
円形風道（スパイラルダクト）	1．アルミガラスクロス化粧グラスウール保温帯 2．アルミガラスクロス粘着テープ	1．グラスウール保温帯 2．鉄線 3．着色亜鉛鉄板	1．アルミガラスクロス化粧グラスウール保温帯 2．アルミガラスクロス粘着テープ	1．グラスウール保温帯 2．鉄線 3．ポリエチレンフィルム 4．鉄線 5．ステンレス鋼板

排煙設備

区分	保温種別
矩形	屋内隠ぺい　1．鋲　2．アルミガラスクロス化粧ロックウール保温板　3．アルミガラスクロス粘着テープ　4．きっ甲金網（鉄）
円形	屋内隠ぺい　1．アルミガラスクロス化粧ロックウール保温帯　2．アルミガラスクロス粘着テープ　3．きっ甲金網（鉄）
○　FE19～FE28系統排気ダクト	1．アルミガラスクロス化粧ロックウール保温帯=50m/m²　2．アルミガラスクロス粘着テープ　3．きっ甲金網（鉄）

※ ポリスチレンフォーム保温筒及びロックウール保温筒又は、保温板の使用が困難な箇所は、ロックウールカフ（ストッキング）を使用してもよい。
※ ストレーナー・弁の保温は、屋内屋外ともビスなどにより容易に着脱できる構造とすること。
※ 防火区画を貫通する管の保温は、その貫通する部分をロックウール保温材とする。
※ 蒸気管、温水管の保温は、ポリエチレンフィルムを除く。
※ スパイラルダクト（フランジ部を除く。）の保温は、グラスウール保温板32K使用してもよい。
※ ＯＡダクトが室内空調空間を経由する場合は保温すること。
※ 全熱交換器の一次側ＯＡ、ＥＡダクトは保温工事を施すこと。
※ 支持金物に鋼製の金物を使用した場合はゴム製又は樹脂製の絶縁テープ等を介して取り付ける。但し、樹脂管は除く。
※ ドレン管の保温は、排水管の項による。

15 住宅保温仕様（管類については○印を塗りつぶしたものを適用する）

給排水衛生設備（給湯系）

施工箇所	保温種別	区分 給水	排水	給湯	ガス
屋内露出（住宅内）風管	1．錆止めペイント（2回）　2．調合ペイント（2回）				
屋内露出（住宅内）自管	1．エッチングプライマー（1回）　2．錆止めペイント（2回）　3．調合ペイント（2回）				
屋内露出（住宅外）	1．エッチングプライマー（1回）　2．錆止めペイント（2回）　3．原紙　4．綿布　5．目止め　6．調合ペイント				
機械室内	1．グラスウール保温筒　2．鉄線　3．原紙　4．アルミガラスクロス				
メーターボックス内風管	1．錆止めペイント（2回）　2．調合ペイント（2回）				
メーターボックス内白管	1．エッチングプライマー（1回）　2．錆止めペイント（1回）　3．調合ペイント（2回）				
メーターボックス内	1．グラスウール保温筒　2．鉄線　3．アルミガラスクロス				
床下・暗渠内	1．ポリスチレンフォーム保温筒　2．粘着テープ　3．ポリエチレンフィルム　4．着色アルミガラスクロス				
床下・暗渠内	1．錆止めペイント（鋼管部）				
天井内・PS内	1．グラスウール保温筒　2．鉄線　3．アルミガラスクロス				
スラブ上床板間転がし	1．保温チューブ				
スラブ上床板間転がし	1．ねじ部錆止め				
洗面台内	1．エッチングプライマー（1回）　2．錆止めペイント（1回）　3．調合ペイント（2回）				
屋外露出	1．ポリスチレンフォーム保温筒　2．粘着テープ　3．ポリエチレンフィルム　4．・ステンレス鋼板・ガルバリウム鋼板				
屋外露出	1．グラスウール保温筒　2．鉄線　3．ポリエチレンフィルム　4．・ステンレス鋼板・ガルバリウム鋼板				
屋外露出風管	1．錆止めペイント（2回）　2．調合ペイント（2回）				
屋外露出白管	1．エッチングプライマー（1回）　2．錆止めペイント（1回）　3．調合ペイント（2回）				
コンクリート内	1．0.4m/m防食ビニールテープ1/2重ね1回巻き				
木造壁内	1．保温チューブ				
洗し表	1．保温チューブ				
土中埋設	1．ペーストトペトラタム系　2．ペトラタム系防食テープ　1/2重ね1回巻き				

※ 硬質塩化ビニル管及び鋳鉄管のコンクリート、地中埋設部は防食施工しない。
※ サニタリーベンド及び通気管の屋内露出部分は塗装する。
※ 屋内露出（便所）の通気管は塗装する。
※ コンクリート貫通部分には、防食処理を行う。
※ 間仕切壁（PL床除く）貫通の場合は両側にプラスチックプレート取付のこと。
※ 支持金物仕様PS内（鋼製）、屋外（SUS製）、その他（樹脂製）とする。
※ 支持金物に鋼製の金物を使用した場合はゴム製又は樹脂製の絶縁テープ等を介して取り付ける。但し、排水管は除く。
※ 雨や管ヘッダー工法におけるヘッダー管は保温を行うこと。

⑥ 建設副産物の処理について

資源の有効利用、環境負荷の低減等を図り、「資源循環型社会」を構築するため、建設副産物の発生抑制、再利用、適正処理を推進する。

現場内で発生する建設副産物の処理については、現場内において発生する品目ごとに分別保管場所を設置し集積すること。

また、「再生資源の利用の促進に関する法律」、「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」及び建設廃棄物処理指針その他関係諸法令等にこるほか、建設副産物適正処理推進要綱に従い、指定された方法により適正に処理を行うこと。

工事に際しては、工事着手時に「建設副産物処理計画書」、工事竣工時に「建設副産物処理結果報告書」（共に添付書類を含む）を提出すること。

指定副産物　（原則として再資源化施設へ持込むもの）	その他の副産物
⊙がれき類 （コンクリート塊） （アスファルト塊） ・木くず ・汚泥	⊙廃プラスチック ⊙ガラス、陶磁器くず ・廃石こうボード ⊙金属くず ・繊維くず

特別管理産業廃棄物

・廃石綿等

「建築物の解体等に係る石綿飛散防止対策マニュアル（環境庁大気保全局）」に従い、収集、運搬、処分を行う。

・廃PCB等

「電気事業法：電気関係報告規制」及び「ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法」に従い、報告書の作成・提出を行うとともに、適切に保管できるようにして施設管理者に引き渡すこと。

※参考受入場所は現場説明書による

建設副産物の処理内容（○印塗りつぶしたものを適用する。）

処　理　内　容		備　　考
現場内における分別	●	
現場内分別保管場所の設置	●	
現場内分別保管場所までの運搬	●	
分別保管場所からの積込み・運搬・処分	○	
「建設副産物の処置計画届」の作成	○	
「建設副産物の処理結果報告書」の作成	○	
「再生資源利用計画書」の作成	○	
「再生資源利用実施書」の作成	○	

17 フロン処理について

「特定製品に係るフロン類の回収及び破壊の実施の確保等に関する法律」に従い処理すること。

発注者（施設管理者）
↓ 委託確認書
工事請負業者
↓ フロン類引渡 回収・運搬・破壊費用支払 委託確認書　／　引取証明書 ↑
第１種フロン類回収業者　・・・フロン類回収・運搬
↓
フロン類破壊業者　・・・フロン類破壊処理

フロン回収証明書
引取証明書、業者登録書のコピー
引取証明書、業者登録書のコピー

※ 工事請負業者は、第１種フロン類回収業者にフロン回収処理を依頼し、回収後、引取証明書及び第１種フロン類回収業者登録書のコピーの発行を受け、竣工図書に添付のこと。
※ 家電リサイクル法（特定家庭用機器再商品化法）に該当する機器（ルームエアコン等）については、適切に処理し、管理票（家電リサイクル券）を竣工図書に添付すること。

図１－１　配管埋設参考

埋設深さH	
1	300以上
2	600以上
3	以上

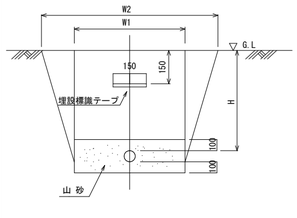


図１－２　水槽類埋設参考

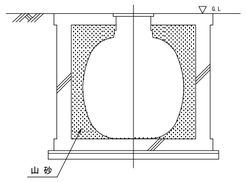
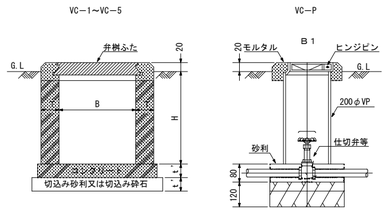


図２　弁桝



記号	弁の呼び径	B	B	T	t'	t"	ふた
ＶＣ－Ｐ	25 以下	200φ	——	——	——	——	Ｂ１
ＶＣ－１	40 以下	180x180	550	75	75	75	Ｂ１
ＶＣ－２			850	100	100	100	
ＶＣ－３	50～ 80	300x300	700	100	100	120	MHA-P300
ＶＣ－４			900				
ＶＣ－５	100～200	450x450	1,200	120	120	120	MHA-P450

注（イ）本表のBおよびH寸法は、5K仕切弁を対象とする。
（ロ）コンクリート部には、必要に応じ鉄筋を入れる。
なおコンクリート部は工場製品でもよい。
（ハ）桝底部には、必要ある場合は、水抜管を設ける。

図３－１　ドロップ桝参考図
（※副管サイズは主管サイズより１サイズ下でも可。）

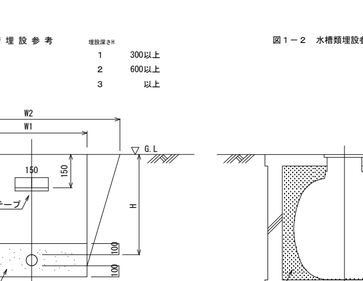
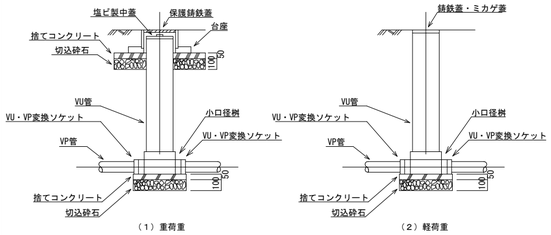


図３－２　小口径桝取付要領図

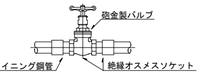


（１）重荷重　（２）軽荷重

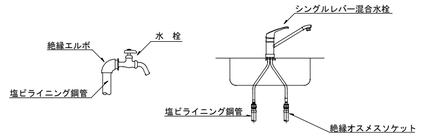
図４　異種金属接続部

異種金属接続部は、屋外埋設配管を除き電食防止のため、異種金属接続用絶縁継手を使用すること。
使用箇所例を下記に示す。

１．砲金製バルブと塩ビライニング鋼管接続部（屋内の砲金製バルブはコアなしとする。）

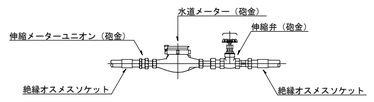


２．衛生器具（水栓類、便器、洗面器等）接続管と塩ビライニング鋼管接続部



３．マイクロエアベンド及びエアセパレーターと塩ビライニング鋼管接続部
絶縁エルボ又は絶縁オスメスソケットを使用すること。

４．水道メーター（砲金）、伸縮弁（砲金）、伸縮メーターユニオン（砲金）と塩ビライニング鋼管接続部



５．水抜きテスト弁と塩ビライニング鋼管接続部

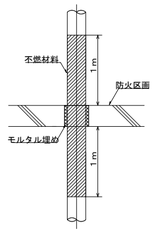
６．上記以外の異種金属接続部

図５　防火区画等貫通部措置

給水管、排水管及び通気管等が防火区画等を貫通する場合の措置は、建築基準法施行令第１２９条の２の５第１項第７号に規定されており、次のいずれかに該当すること。

１．防火区画等の貫通部分及び両側１ｍ以内を不燃材料で造ること。（右参考図参照）

２．平成１２年建設省告示第１４２２号に適合すること。（下表）
（難燃材料又は硬質塩化ビニル管(VP)を用いる場合）



用途	覆いの有無	肉厚	給水管等の外径 防火構造	３０分耐火構造	１時間耐火構造	２時間耐火構造
給水管	無し	5.5mm以上	90mm	90mm	90mm	90mm
		6.6mm以上	115mm	115mm	115mm	90mm
排水管及び排水管に付属する通気管		4.1mm以上	61mm	61mm	61mm	61mm
		5.5mm以上	90mm	90mm	90mm	61mm
		6.6mm以上	115mm	115mm	90mm	61mm
	厚さ0.5mm以上の鉄板の覆い有り	5.5mm以上	90mm	90mm	90mm	90mm
		6.6mm以上	115mm	115mm	115mm	90mm
		7.0mm以上	141mm	141mm	115mm	90mm

３．国土交通大臣の認定を受けたものであること。

例１）硬質塩ビリサイクル管(RF-VP)に防火区画貫通用テープを用いる場合（右参考図参照）

例２）耐火二層管を認定条件に従って施工する場合
（立管はすべて耐火二層管とし、横管は立管の分岐から１ｍまでを耐火二層管とし、その延長部分を硬質塩化ビニル管とした場合など）

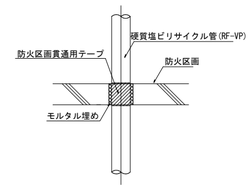


表１　厨房排気ダクトの板厚

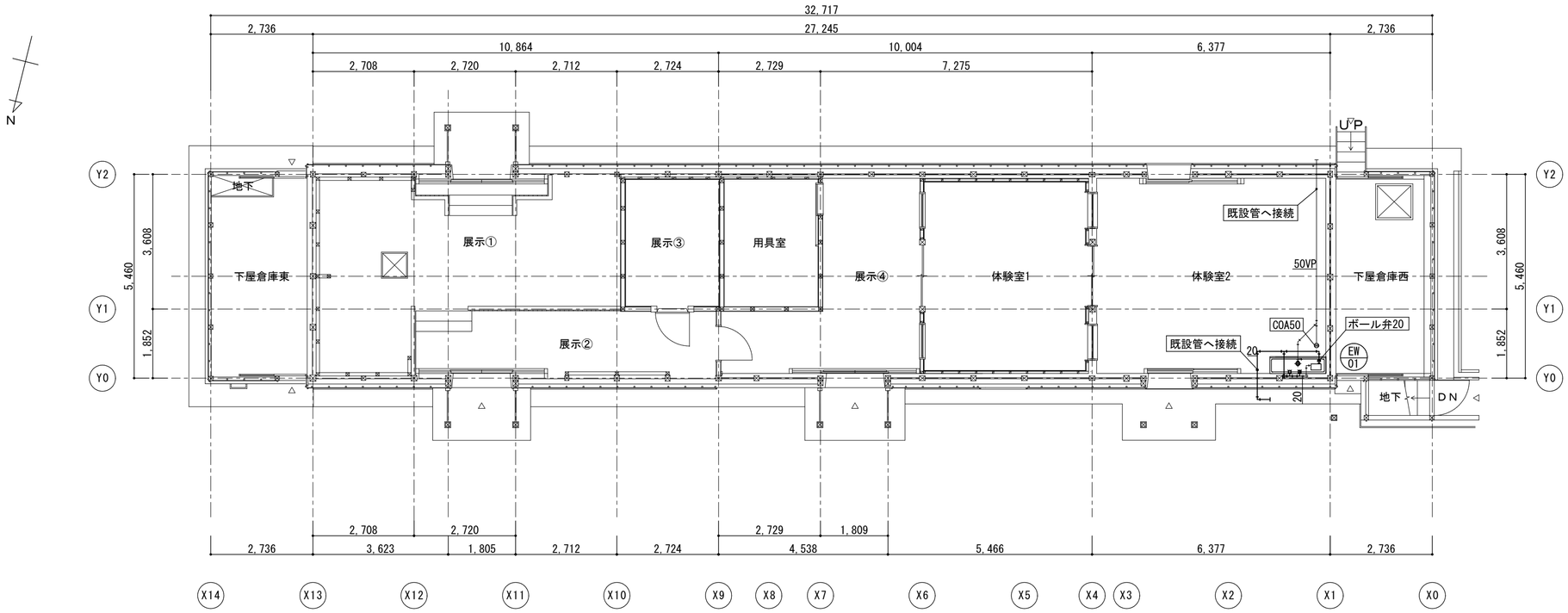
厨房排気ダクト（矩形ダクトに限る）の板厚については、以下による

〔単位：mm〕

ダクトの長辺	板厚 亜鉛鉄板	ステンレス鋼板
450以下	0.6以上	0.5以上
450を超え1,200以下	0.8以上	0.6以上
1,200を超え1,800以下	1.0以上	0.8以上
1,800を超えるもの	1.2以上	

特記：

株式会社　伝統建築研究所 宮城県知事登録　第23410297号　一級建築士事務所	一級建築士　№254986 代表取締役　高橋直子	検図： 設計： 担当：	工事名：史跡松ヶ岡開墾場貯桑土蔵保存修理工事	図面名：特記仕様書（2） 縮尺：NS　設計年月日：	図面番号：M-02 区分：機械設備



改修１階平面図

衛生器具表

器　具　名	参 考 品 番	体験室２
混合水栓	TKS05311J	1
立水栓	T130AUN13C	1

機　器　表

記　号		仕　　様	動 力 特 性			数	設 置 場 所	参 考 品 番
			相	電圧	消費電力(KW)			
EW-01	貯湯式電気温水器	屋内設置型　先止め式　貯湯量＝25L	1	100	1.1	1	体験室２	REW25A1B1KSCM
		転倒防止対策＝国土交通省告示第1447号に適合の事						

特記：

株式会社 伝統建築研究所
宮城県知事登録　第23410297号　一級建築士事務所

一級建築士　№254986
代表取締役　高橋直子

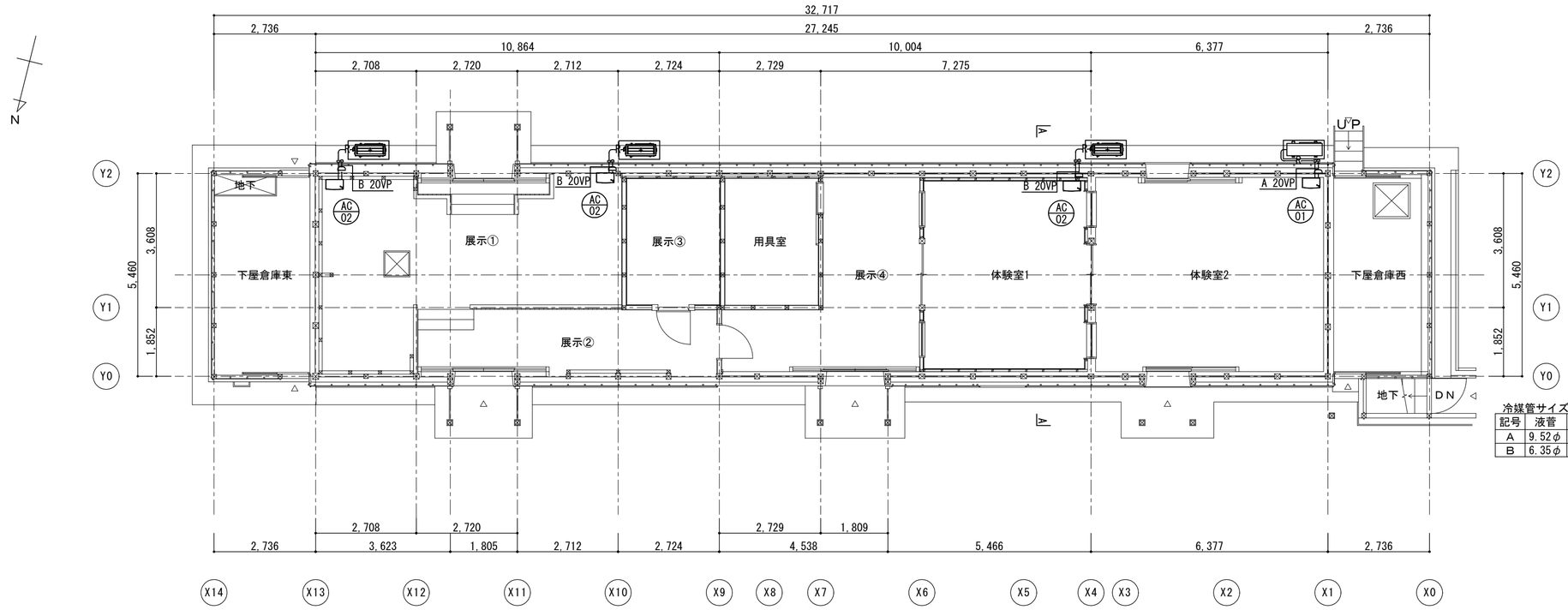
検図：
設計：
担当：

工事名：
史跡松ヶ岡開墾場貯桑土蔵保存修理工事

図面名：
給排水設備図

縮尺：1/100
設計年月日：

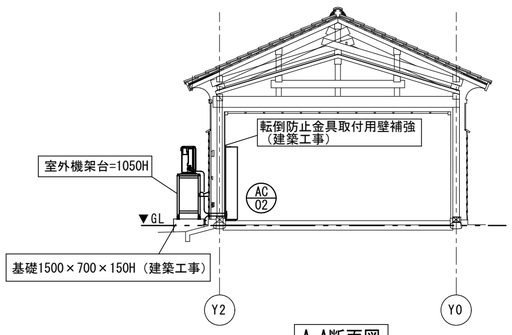
図面番号：M－03
区分：



改修１階平面図

冷媒管サイズリスト

記号	液管	ガス管
A	9.52φ	15.88φ
B	6.35φ	12.7φ



A-A断面図

機　器　表

記　号	形　式	種　別	室　　名	設置階	台　数	仕　様　表				その他の付属品	参　考　品　番
						冷房能力 (KW/H)	暖房能力 (KW/H)	電気特性			
								電源 相-電圧 (φ-V)	定格消費電力 (kW)		
AC-01	空冷ヒートポンプエアコン	床置き型	体験室２	1F	1	7.1	8.0	1-200	3.38		SSRV80CV
										室外機架台（溶融亜鉛メッキ	K-KHZ1510G
AC-02	空冷ヒートポンプエアコン	床置き型	展示①×2　体験室１×1	1F	3	5.6	6.3	1-200	2.34		SSRV63CV
										室外機架台（溶融亜鉛メッキ	K-KHZ1510G

特記：

株式会社 伝統建築研究所
宮城県知事登録　第23410297号　一級建築士事務所

一級建築士　№254986
代表取締役　高橋直子

検図：
設計：
担当：

工事名：史跡松ヶ岡開墾場貯桑土蔵保存修理工事

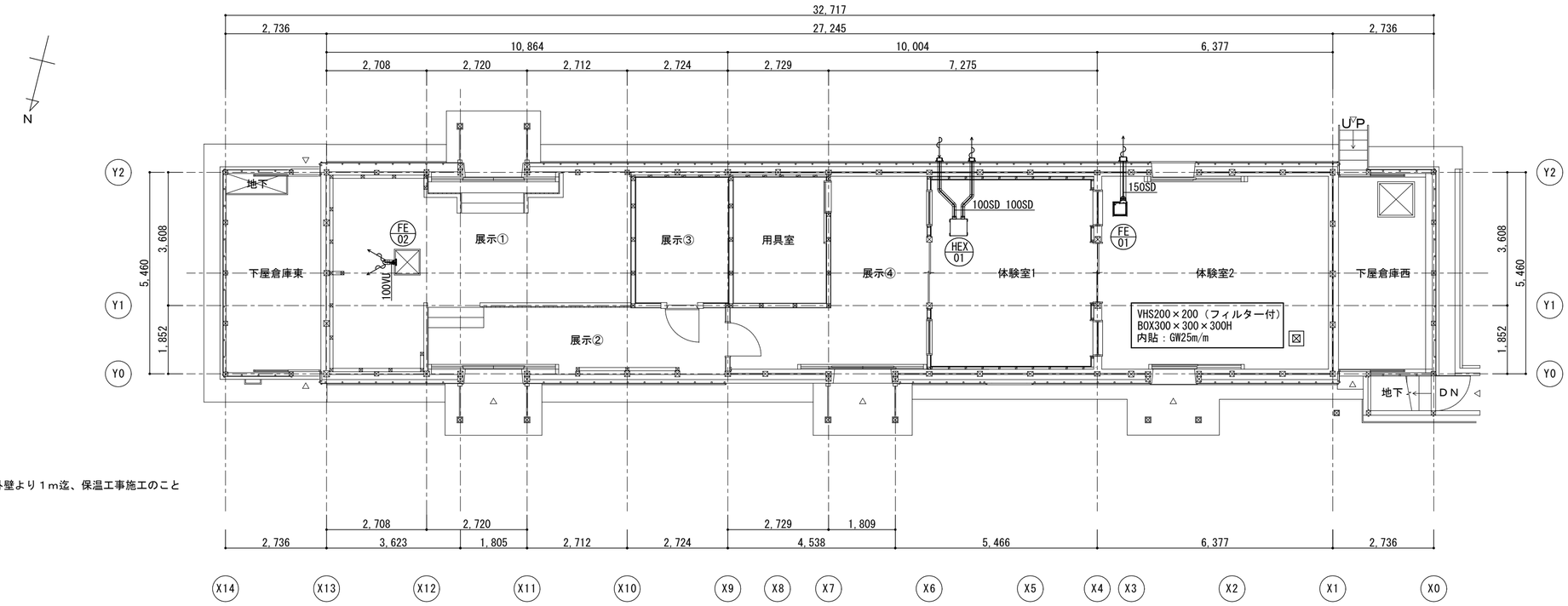
図面名：空調設備図

縮尺：1/100

設計年月日：

図面番号：M－04

区分：



※SAダクトは全て、EAダクトは外壁より１m迄、保温工事施工のこと

改修１階平面図

換気機器表

記　号		仕　　様	動力特性			台数	設　置　場　所	参　考　品　番
			相	電圧	出力(W)			
FE-01	天井扇	低騒音型　フラットインテリアタイプ　24時間換気機能付	1	100V	42.00	1	体験室２	VD-20ZLE14-FPS
		風　量＝220m3/H　100Pa						P-04SWL2
		その他標準付属品　1式						
		コントロールスイッチ：電気設備へ支給						
FE-02	パイプ用ファン	角形格子タイプ	1	100V	3.90	1	展示①	V-08PPFL8
		風　量＝40m3/H　20Pa						
		その他標準付属品　1式						
HEX-01	全熱交換器	カセット型　24時間換気機能付　電動式シャッター付	1	100V	50.50	1	体験室１	VL-250ZSD3
		風　量＝120m3/H　40Pa						P-04SWL2
		その他標準付属品　1式						
		コントロールスイッチ：電気設備へ支給						

特記：

株式会社 伝統建築研究所
宮城県知事登録　第23410297号　一級建築士事務所

一級建築士　№254986
代表取締役　高橋直子

検図：
設計：
担当：

工事名：
史跡松ヶ岡開墾場貯桑土蔵保存修理工事

図面名：換気設備図
縮尺：1/100
設計年月日：
図面番号：M－05
区分：